

地域福祉に関するアンケート調査

【報告書】

2026年（令和8年）3月

藤沢市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査実施の目的	3
2 調査設計	3
3 調査方法	3
4 回収結果	3
5 本書の見方	3
第2章 調査結果の詳細	5
1 基本属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 職業	7
(4) 同居者	8
(5) 居住地区	8
(6) 住居形態	9
2 住まいや暮らしの状況について	10
(1) 介護・介助を受けている状況	10
(1-1) 介護・介助者	11
(2) 介護・介助をしている状況	12
(2-1) 介護・介助の対象者	14
(3) 居住年数	15
(4) 現在の暮らしの経済的状況	16
(5) 現在の身体状況や家庭状況等で外出を諦めた経験	18
(5-1) 現在の身体状況や家庭状況等で外出を諦めた経験	20
3 行政や福祉サービスなどについて	24
(1) 行政や福祉サービスなどの情報入手先	24
(2) 行政や福祉サービスなどの情報入手のしやすさ	27
(3) 居住地区の市民センターの利用目的	30
(4) 居住地区の市民センター機能充実のために要望すること	33
(5) 施設や窓口の認知度	36
(6) 成年後見制度の認知度	39
(7) 自立した生活が難しくなった場合の備えとして最も不安に感じること	40
(8) 自身が亡くなった後のことで最も不安に感じること	42
(9) 成年後見制度について最も必要だと思う取組	44
4 地域やご近所との関わりについて	46
(1) 近所の方とのつき合い方	46
(1-1) つきあいがほとんどない理由	50
(2) 自分にとって望ましいと思う近所づきあい	53

(3) 居住地域の暮しやすさ	57
(4) 居住地域で気になっていること	62
5 人と人とのつながりについて	65
(1) 日ごろ気軽に会話できる人	65
(2) 孤独を感じることに	66
(2-1) 現在の孤独感に強く影響を与えたとされる出来事	71
(3) 孤立していると思われる方の試算	76
(4) 家族・親族以外で人と人とのつながりを感じる人	77
6 地域活動、ボランティア活動について	82
(1) 自治会・町内会の加入状況	82
(1-1) 自治会・町内会に加入して特に良かったこと	86
(1-2) 加入していない理由	90
(2) ボランティア活動の参加意向	94
(2-1) ボランティア活動に参加する際の動機	97
(2-2) ボランティア活動に参加する上で支障となることや問題点	98
(3) ボランティア活動の参加意欲を高めるために求めるもの	100
7 防災について	103
(1) 災害に備えている対策	103
(2) 居住地域の防災訓練への参加状況	107
(3) 災害時の避難支援の必要性	110
(4) 近隣の避難行動要支援者に協力できると思うこと	112
(5) 居住者情報を必要に応じて自治会・町内会などで共有することについて	114
8 支えあいの地域づくりについて	117
(1) 保健福祉に関することで困ったときの相談相手	117
(2) 地域に支えられていると感じること	122
(3) 居住地域の支えあいとして必要だと思う支援	126
(4) 住民の自主的な参加・協力関係を築くため、地域主体で取り組むべきこと	132
(5) 自分らしく暮らせる環境だと思うか	135
(6) 日々の生活で困っていることや悩み	136
(7) 市の取組について	141
(8) 地域住民同士が支えあう地域づくりに必要なこと	142
9 自由意見	146
(1) 地域福祉の推進に向けたご意見	146
第3章 調査票	151

第1章 調査の概要

1 調査実施の目的

藤沢市では、すべての市民の方が、地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めるため、重要な生活の基盤となる「地域福祉」に関する計画を策定している。

この計画の改定にあたり、地域福祉の現状及び地域での日頃の暮らしの変化、また、これに伴う新たな課題等を把握し、福祉施策を検討する際の基礎資料とするため、アンケート調査を実施することとした。

2 調査設計

- | | |
|--------------|------------------------------|
| (1) 調査地域 | 藤沢市全域 |
| (2) 調査対象 | 藤沢市内在住の満15歳以上の方（令和7年10月1日現在） |
| (3) 標本数 | 4,000人 |
| (4) 調査対象者の抽出 | 藤沢市住民基本台帳より無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和7年11月5日（水）～11月26日（水） |

3 調査方法

郵送配布、郵送またはインターネットによる回答
（お礼を兼ねた勧奨はがきの発送1回）

4 回収結果

- | | | | |
|-----------|--------|-------|-------|
| (1) 標本数 | 4,000人 | | |
| (2) 有効回収数 | 2,173票 | 有効回収率 | 54.3% |
| ○回答方法別 | | | |
| （郵送 | 1,440票 | 構成比 | 66.3% |
| （オンライン | 733票 | 構成比 | 33.7% |

5 本書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (3) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) 図表中では、“-”を用いていることがある。それは回答者がいないことを表している。
- (5) クロス集計の図表では、分析の軸（＝表側、年代、居住地区などの回答者の基本属性等）に無回答を表示していない。そのため、回答者の基本属性の合計が全体のnとあわない場合がある。
- (6) クロス集計の図表では、分析の軸（＝表側）で回答者数が少ないもの（30人未満を目安）は、誤差が大きくなるため、参考として図示し、分析の対象から除いている。
- (7) 分析の軸（＝表側）が対になっている項目（例 前回調査との比較など）の比較では、比率の差を中心に記述している。その表現は%ではなく、ポイントで表すこととし、小

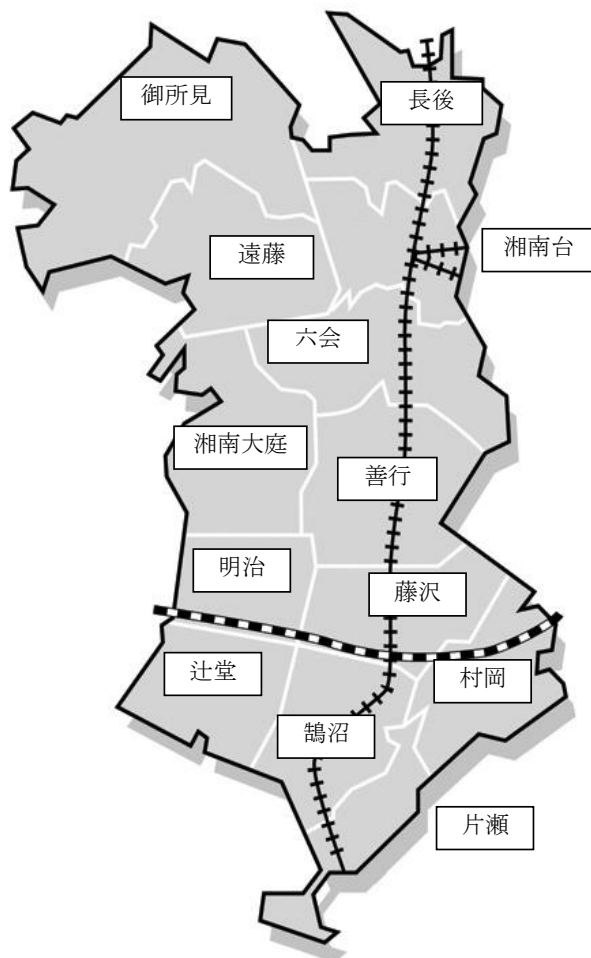
第1章 調査の概要

数点以下第2位を四捨五入している。

- (8) 本調査のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、「標本誤差」と「非標本誤差」といった誤差が生じる。「標本誤差」は確率論的に計算することが可能であるが、条件により大きさが変化する性質がある（回答者数（標本数）が少ないほど大きく、また、回答比率が50%に近いほど大きい）。そのため、比率の差は、わかりやすさの観点から統一的に±4.5ポイント差以上あるものに言及することとした。
- (9) 統計数値を記述するにあたり、ある群とある群をまとめて表現する際などで、割での表記を用いている場合がある。その際の目安は、おおむね以下のとおりとしている。また、群同士の割合の状況に応じて、○割台、○割以上、○割前後などと表現することもある。

例	表現
20.0～20.9%	2割
21.0～22.9%	2割強
23.0～26.9%	2割台半ば
27.0～28.9%	3割弱
29.0～29.9%	約3割

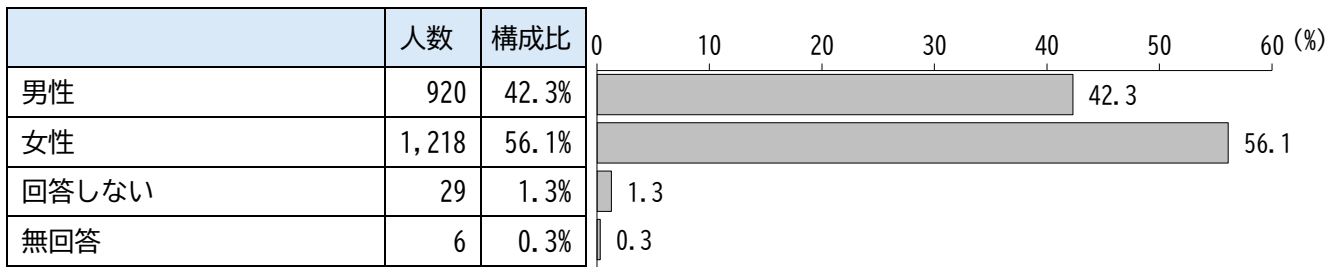
- (10) 報告書に記載されている13地区は以下の通りである。



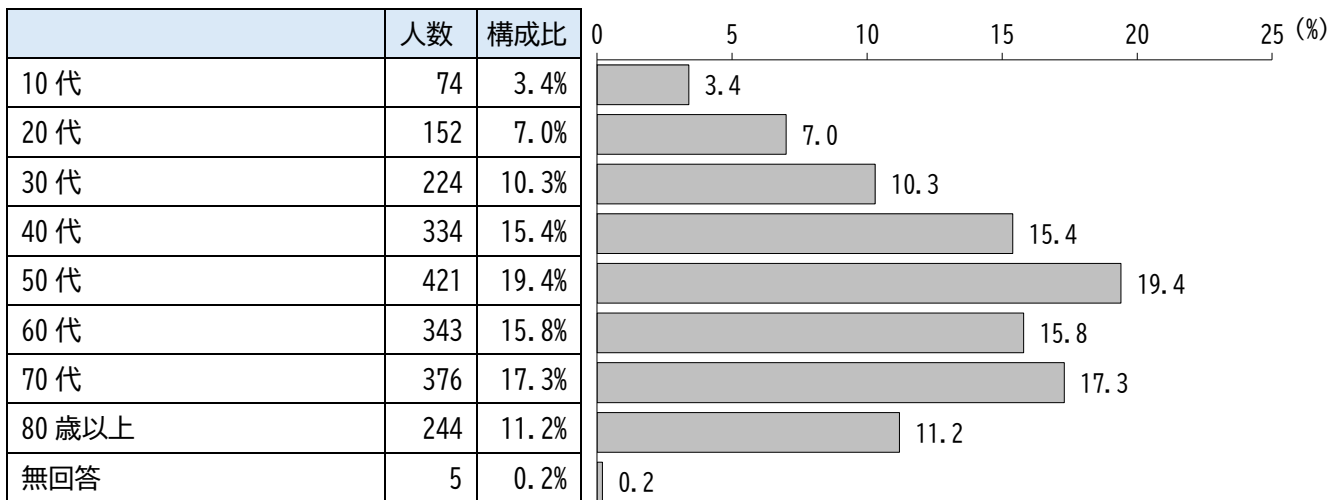
第2章 調査結果の詳細

1 基本属性

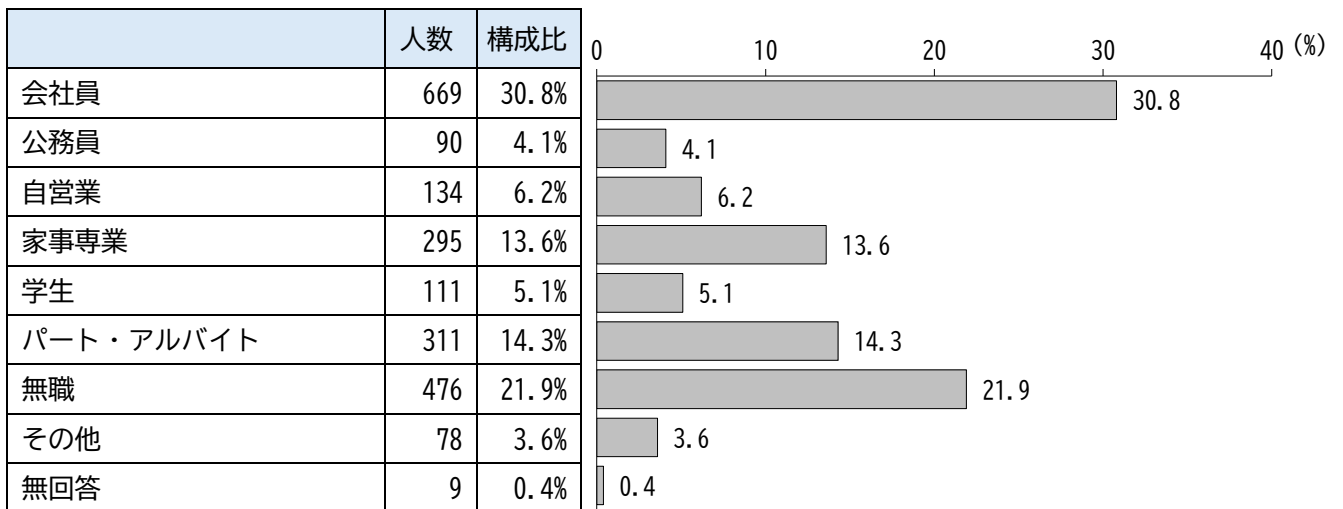
(1) 性別



(2) 年齢

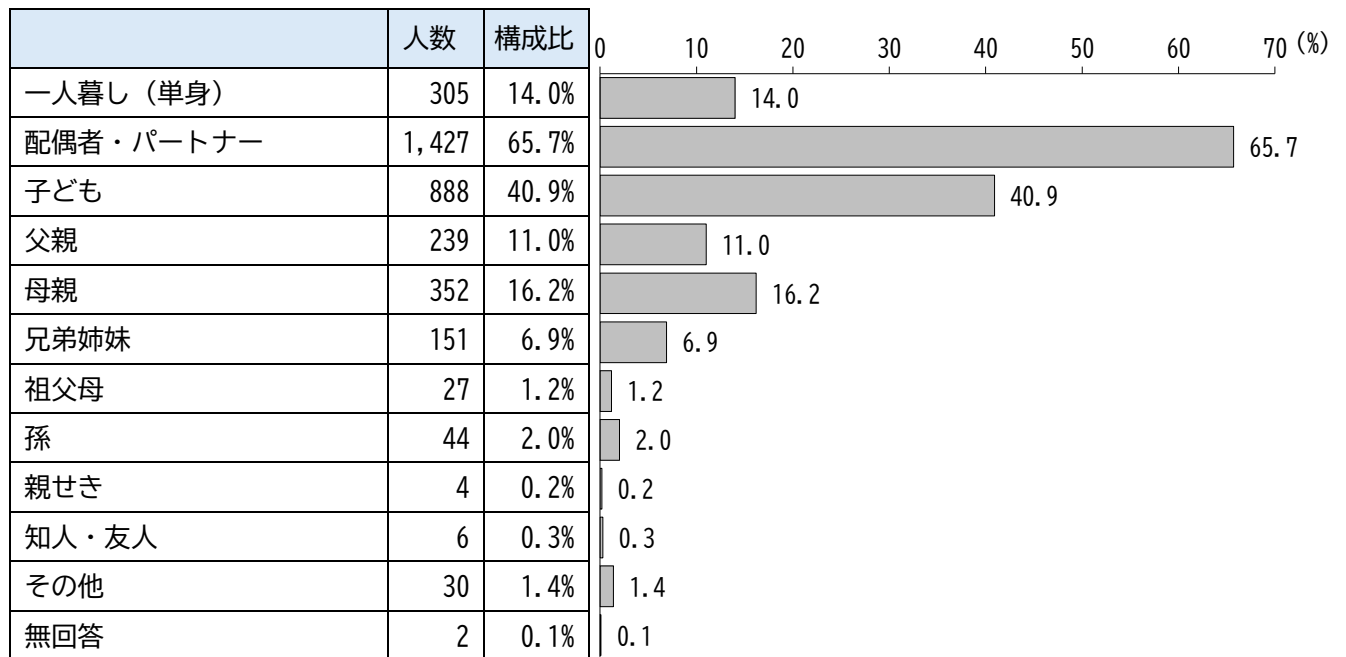


(3) 職業

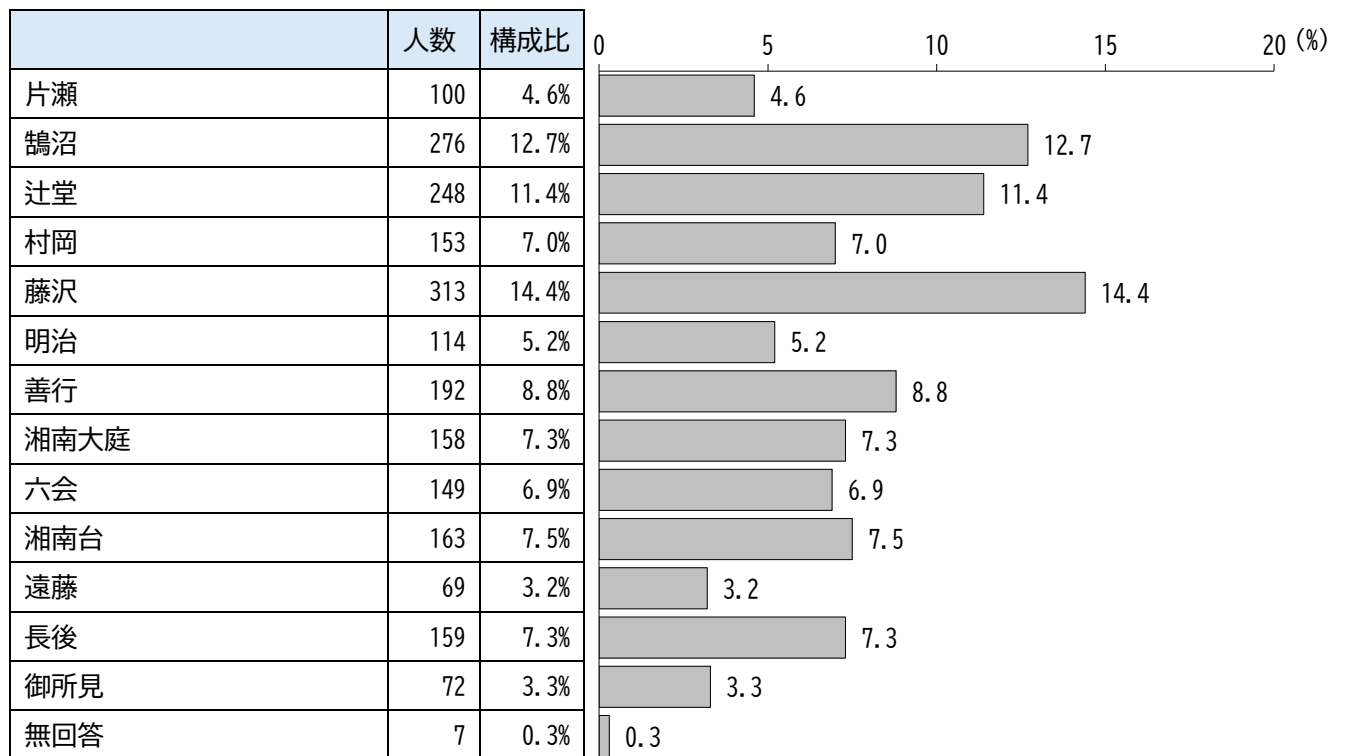


第2章 調査結果の詳細

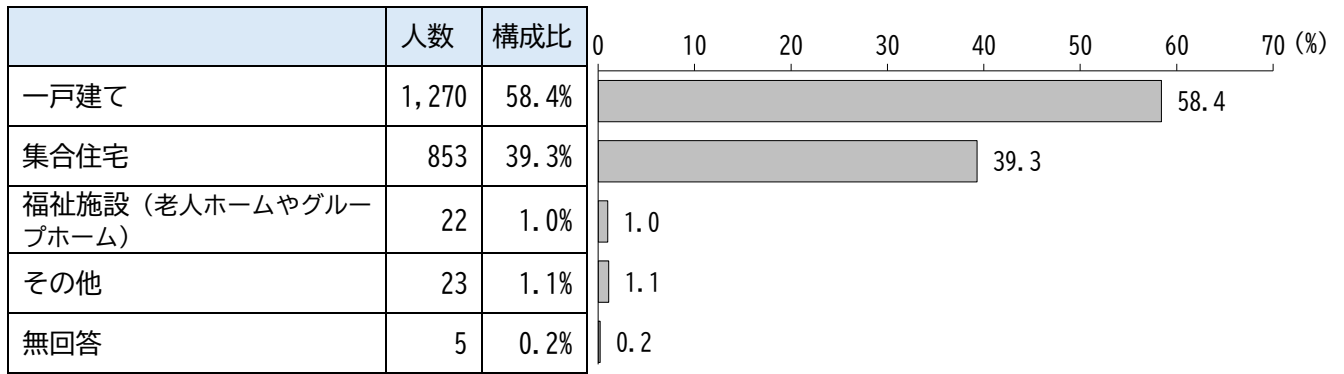
(4) 同居者



(5) 居住地区



(6) 住居形態

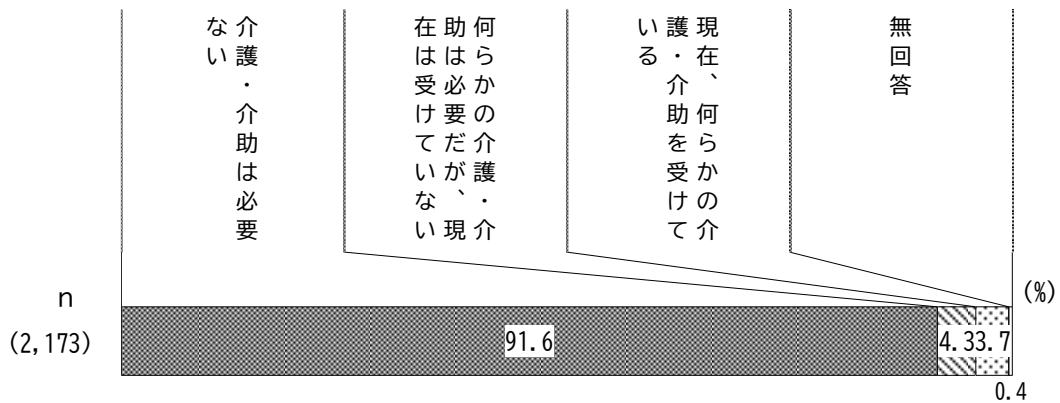


2 住まいや暮らしの状況について

(1) 介護・介助を受けている状況

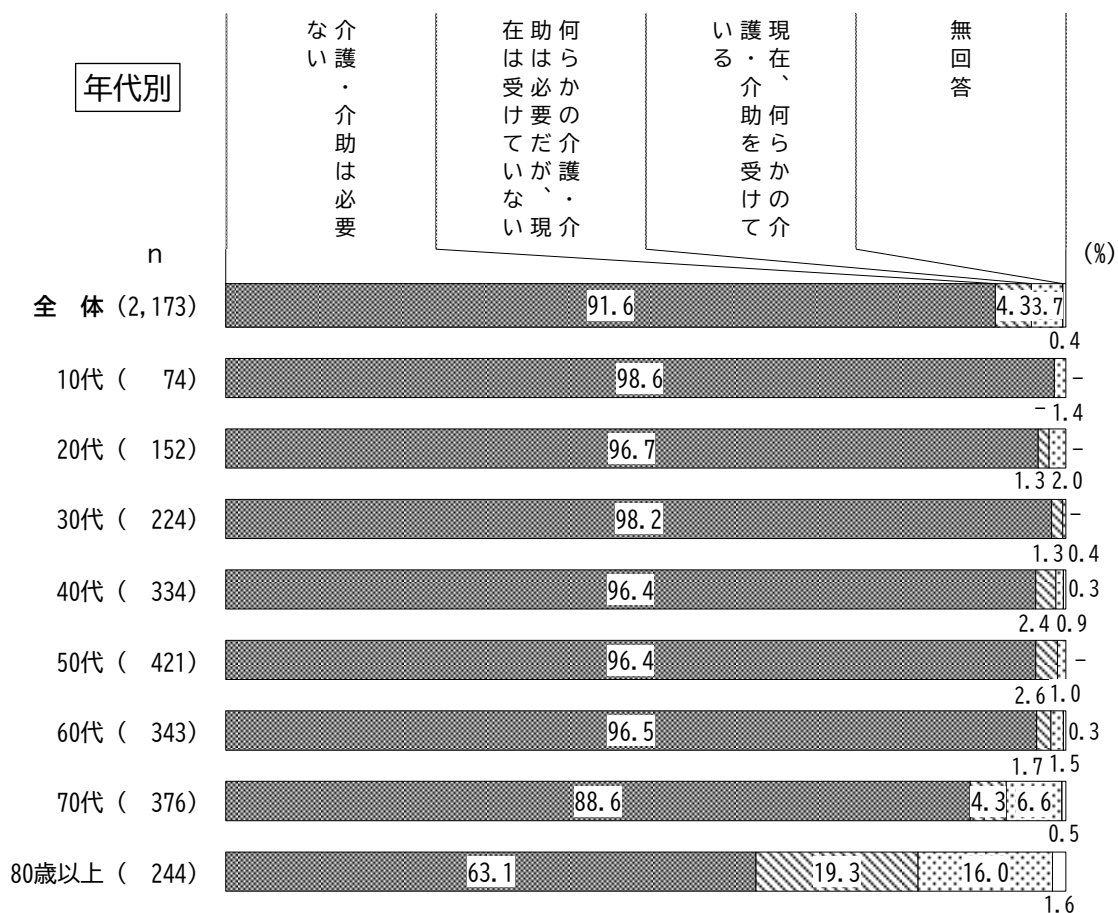
問5 あなたは、普段の生活で介護・介助を受けることを必要としていますか。(1つに○)

介護・介助を受けている状況は、「介護・介助は必要ない」が91.6%を占めており、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.3%、「現在、何らかの介護・介助を受けている」が3.7%となっている。



【年代別】

年代別でみると、「介護・介助は必要ない」は80歳以上で急減し、この年代は、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が19.3%、「現在、何らかの介護・介助を受けている」が16.0%となっている。



(1-1) 介護・介助者

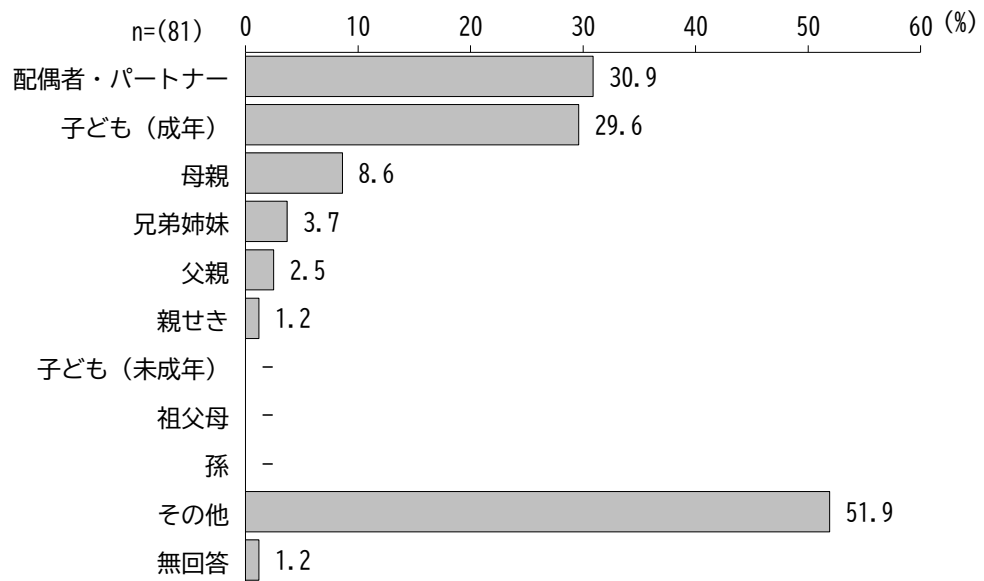
問5で「3 現在、何らかの介護・介助を受けている」と回答した方へ

問5-1 あなたを介護・介助している方は、あなたからみてどなたにあたりますか。

(あてはまる方すべてに○)

介護・介助者は、「その他」が51.9%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(30.9%)、「子ども(成年)」(29.6%)、「母親」(8.6%)となっている。

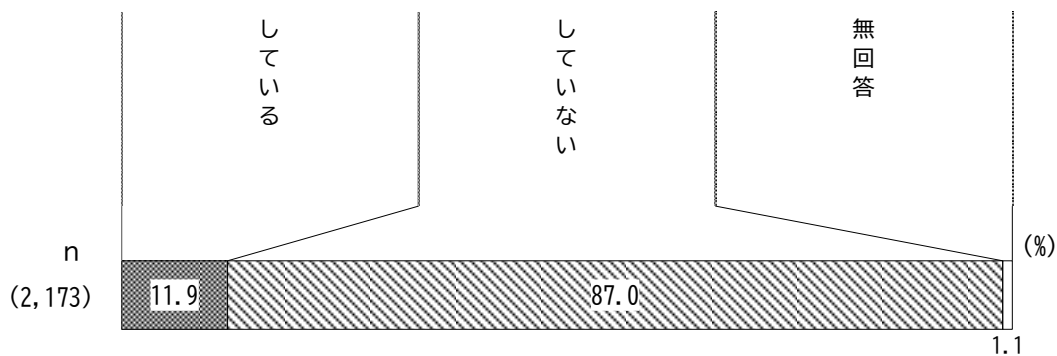
「その他」の内容は、「在宅サービスの介護職員」、「施設で介護を受けている」などが多くあげられている。



(2) 介護・介助をしている状況

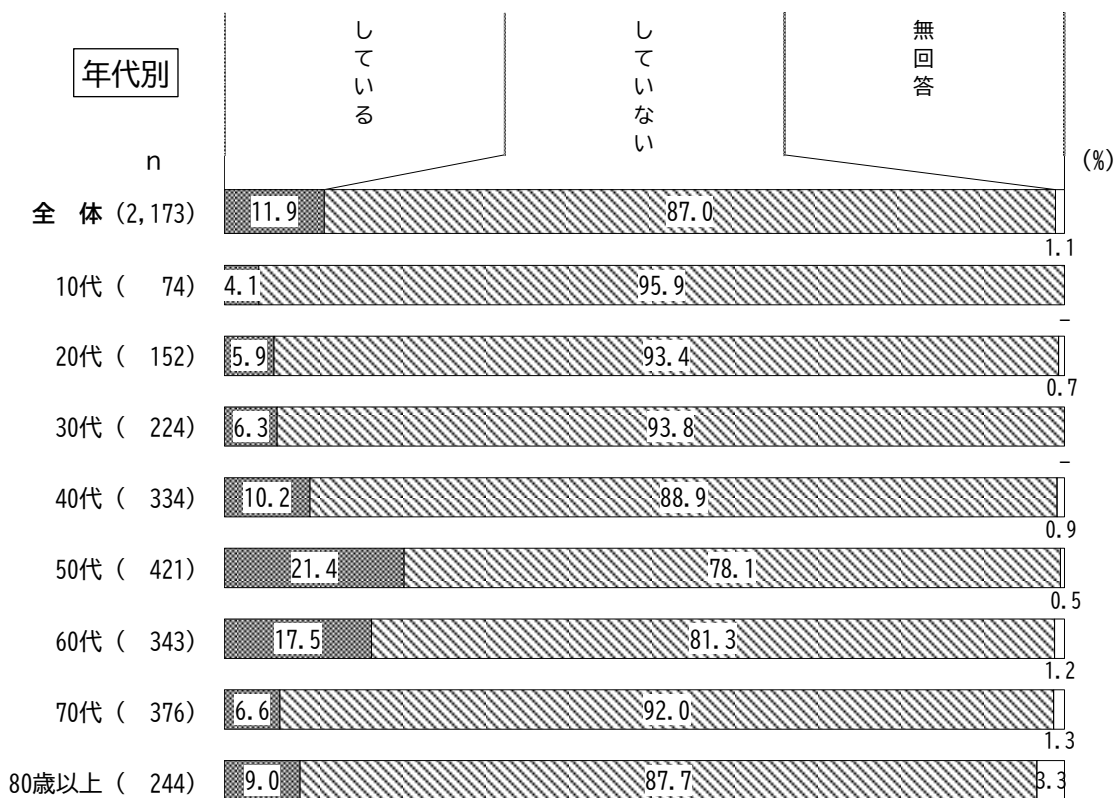
問6 あなたは、誰かの介護・介助をしていますか。(1つに○)

ご自身が誰かの介護・介助をしている状況は、「していない」が87.0%で、「している」が11.9%となっている。



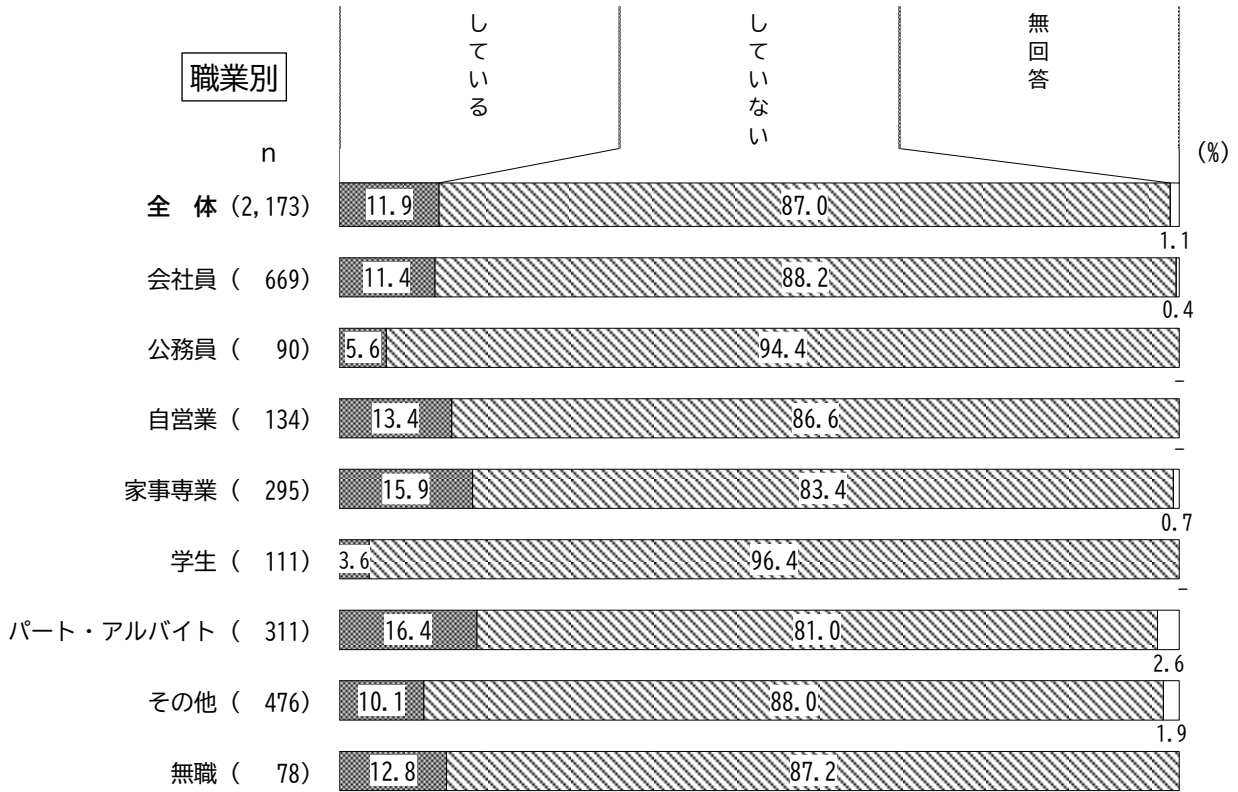
【年代別】

年代別でみると、「している」は50代で21.4%と最も高く、次いで60代で17.5%となっている。



【職業別】

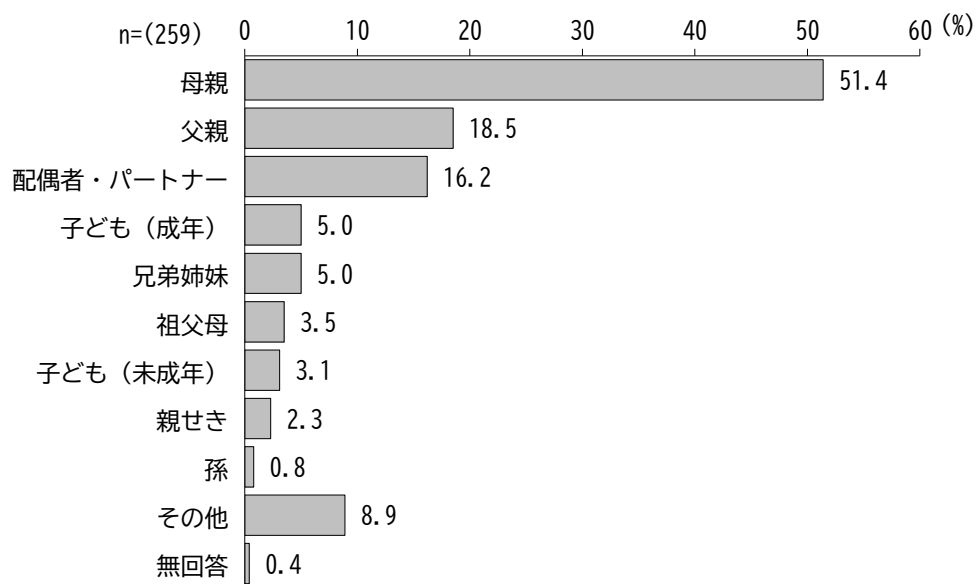
職業別でみると、「している」はパート・アルバイトで16.4%と最も高くなっている。また、会社員、公務員、自営業といった有職者でも「している」は約6%から1割台みられ、就労しながら介護等に関わっている層の存在が一定程度うかがえる。



(2-1) 介護・介助の対象者

問6で「1 している」と回答した方へ
問6-1 それはどなたですか。(あてはまる方すべてに○)

介護・介助をしている対象は、「母親」が51.4%で最も高く、次いで「父親」(18.5%)、「配偶者・パートナー」(16.2%)となっている。

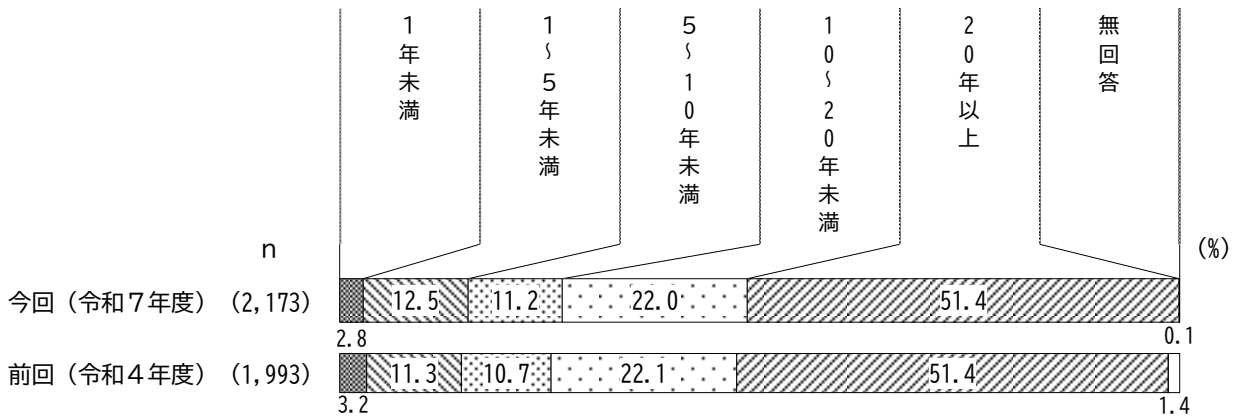


(3) 居住年数

問8 あなたがお住まいの地区に住んで何年になりますか。(1つに○)

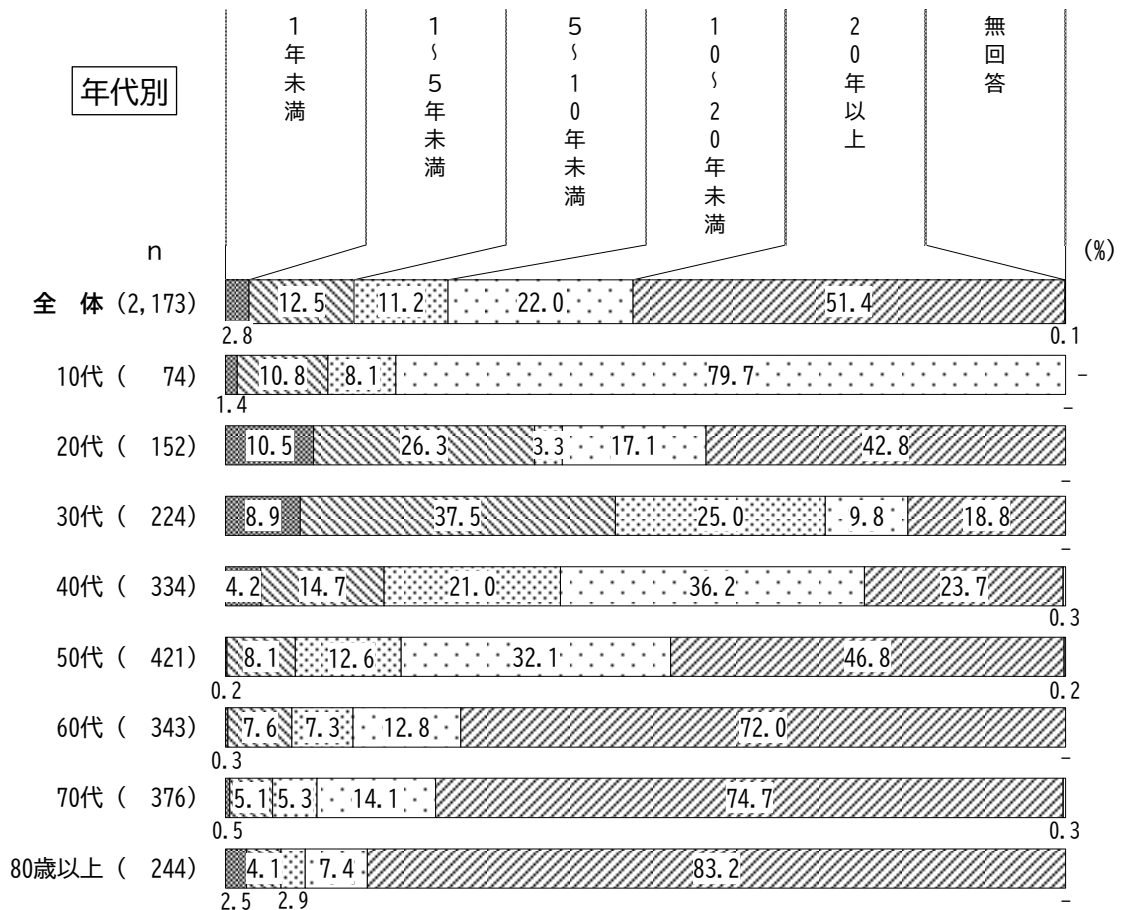
居住年数は、「20年以上」が51.4%で最も高く、次いで「10～20年未満」が22.0%、「1～5年未満」が12.5%となっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】

年代別で見ると、「20年以上」は60歳以上で7～8割台となっている。「1～5年未満」は30代で37.5%と高く、この年代は「20年以上」が18.8%にとどまる。

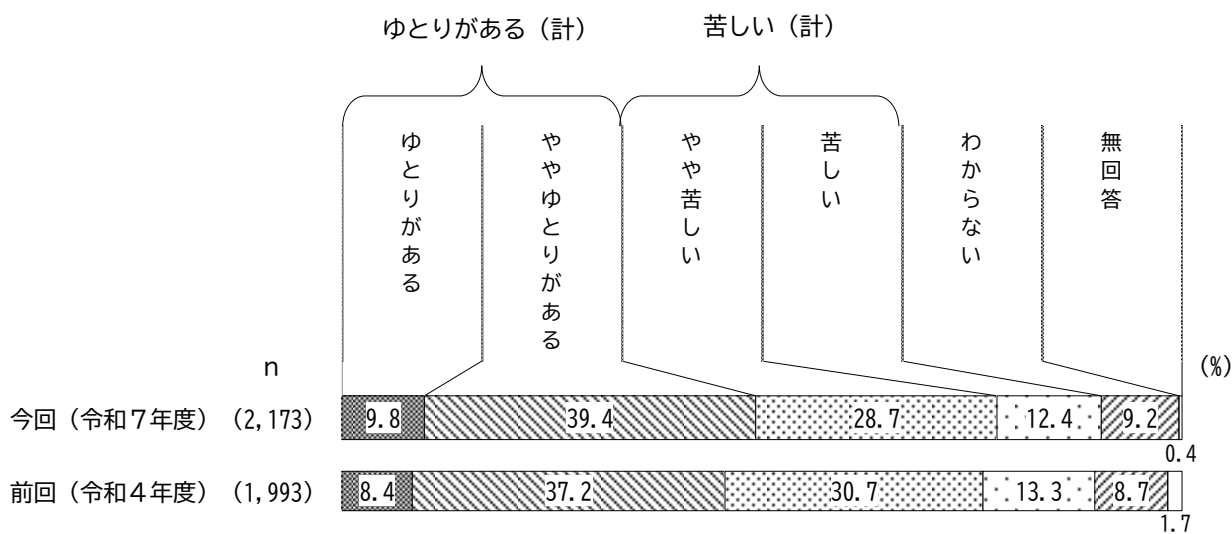


(4) 現在の暮らしの経済的状況

問10 あなたは、現在の暮らしの経済的状況についてどう感じていますか。(1つに○)

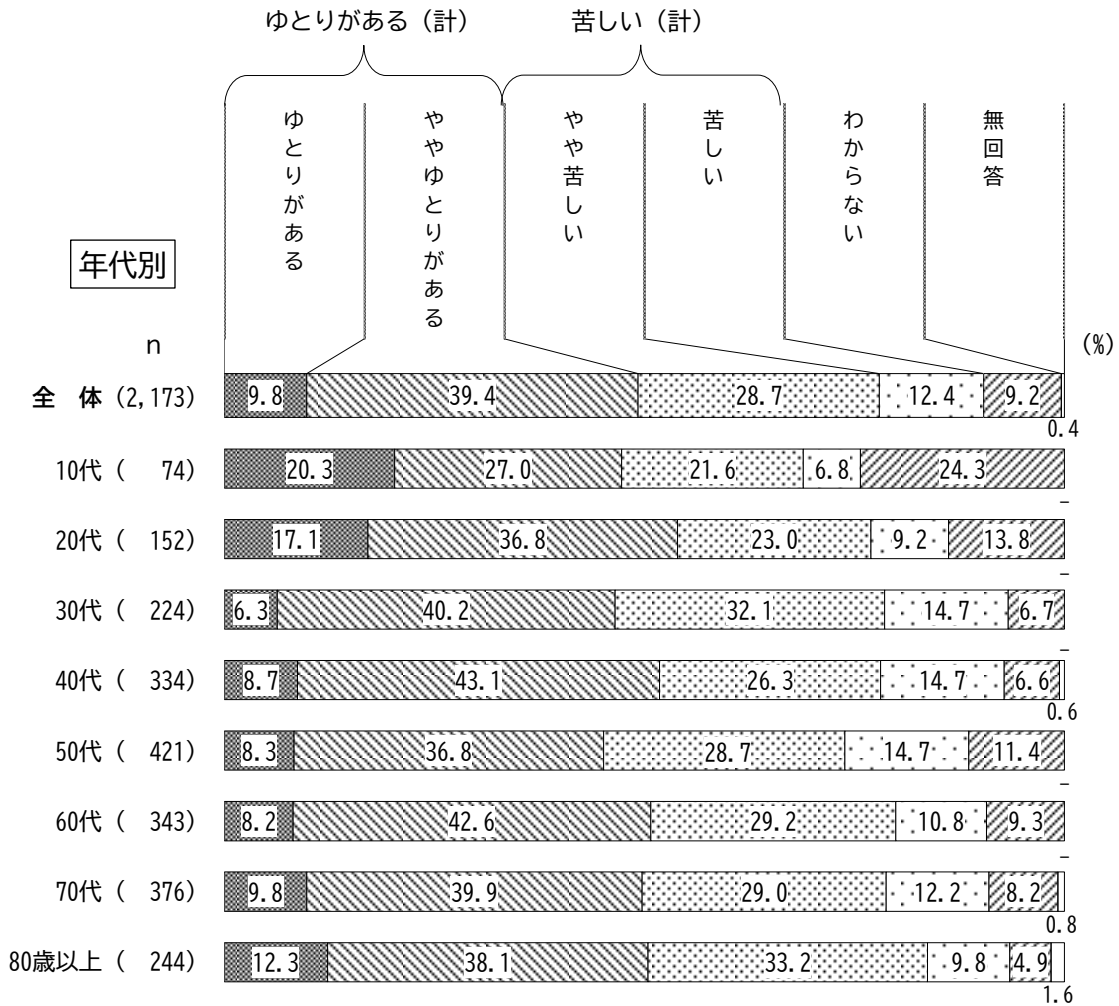
現在の暮らしの経済的状況は、「ゆとりがある」は9.8%だが、「ややゆとりがある」が39.4%で最も高く、これらを合わせた【ゆとりがある(計)】は49.2%となっている。一方、「やや苦しい」(28.7%)と「苦しい」(12.4%)を合わせた【苦しい(計)】は41.1%である。

前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】

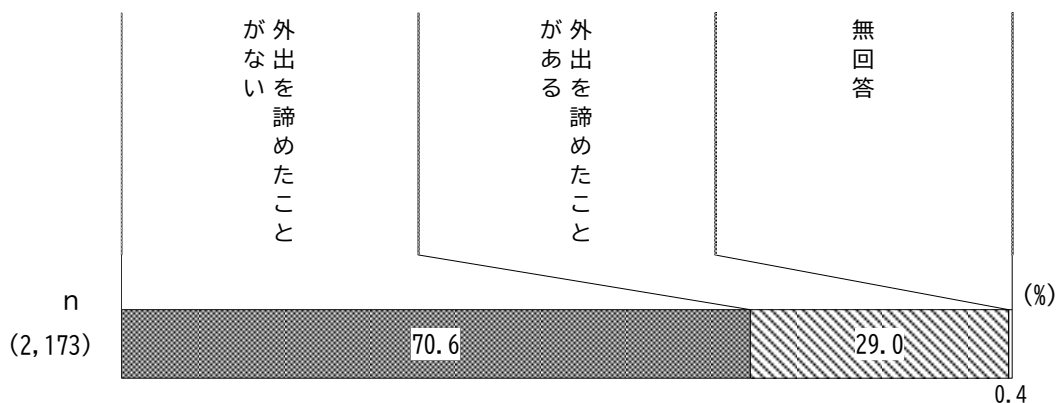
年代別でみると、【ゆとりがある（計）】は20代で53.9%と最も高くなっている。多くの年代で【ゆとりがある（計）】が【苦しい（計）】を上回っている一方、30代と50代では、【ゆとりがある（計）】と【苦しい（計）】がおおむね並んでいる。



(5) 現在の身体状況や家庭状況等で外出を諦めた経験

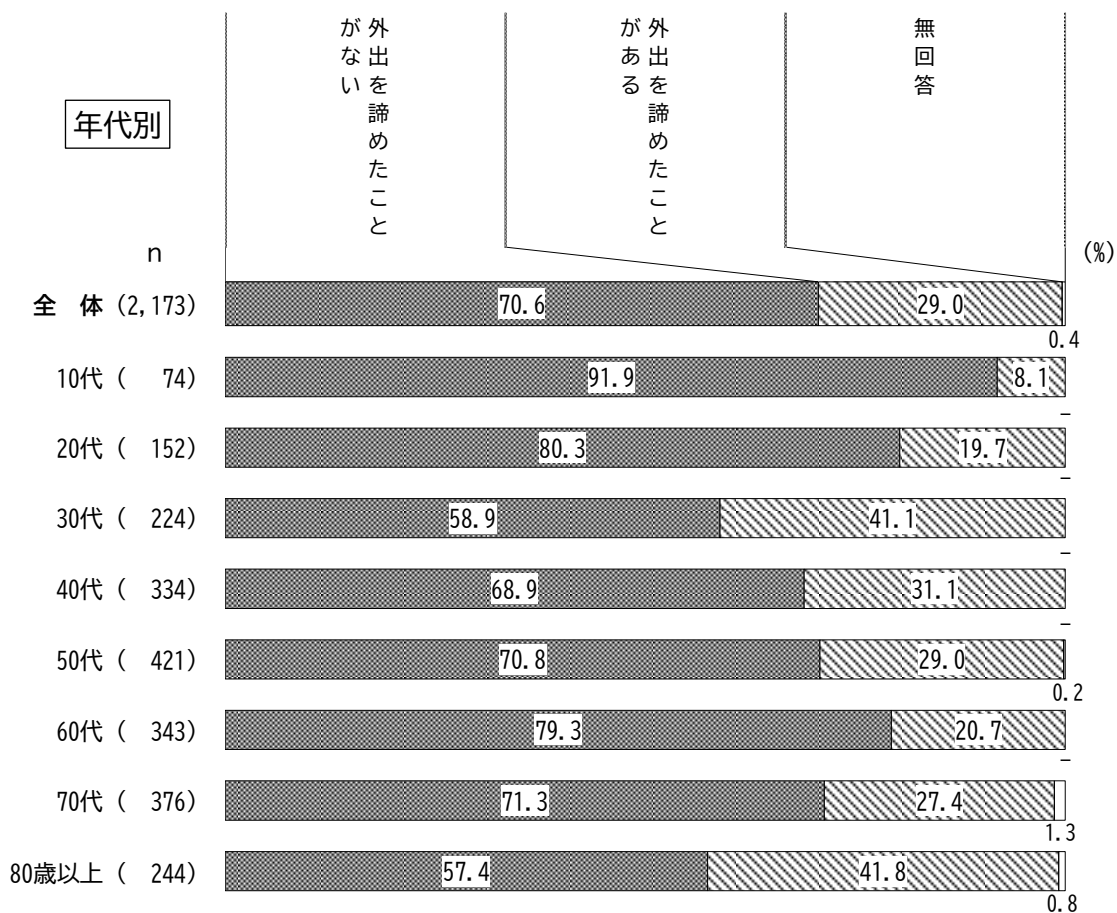
問11 あなたは、外出したいと思っても、現在の身体状況や家庭状況等で外出を諦めたことがありますか。(1つに○)

現在の身体状況や家庭状況等で外出を諦めた経験は、「外出を諦めたことがない」が70.6%、「外出を諦めたことがある」が29.0%となっている。



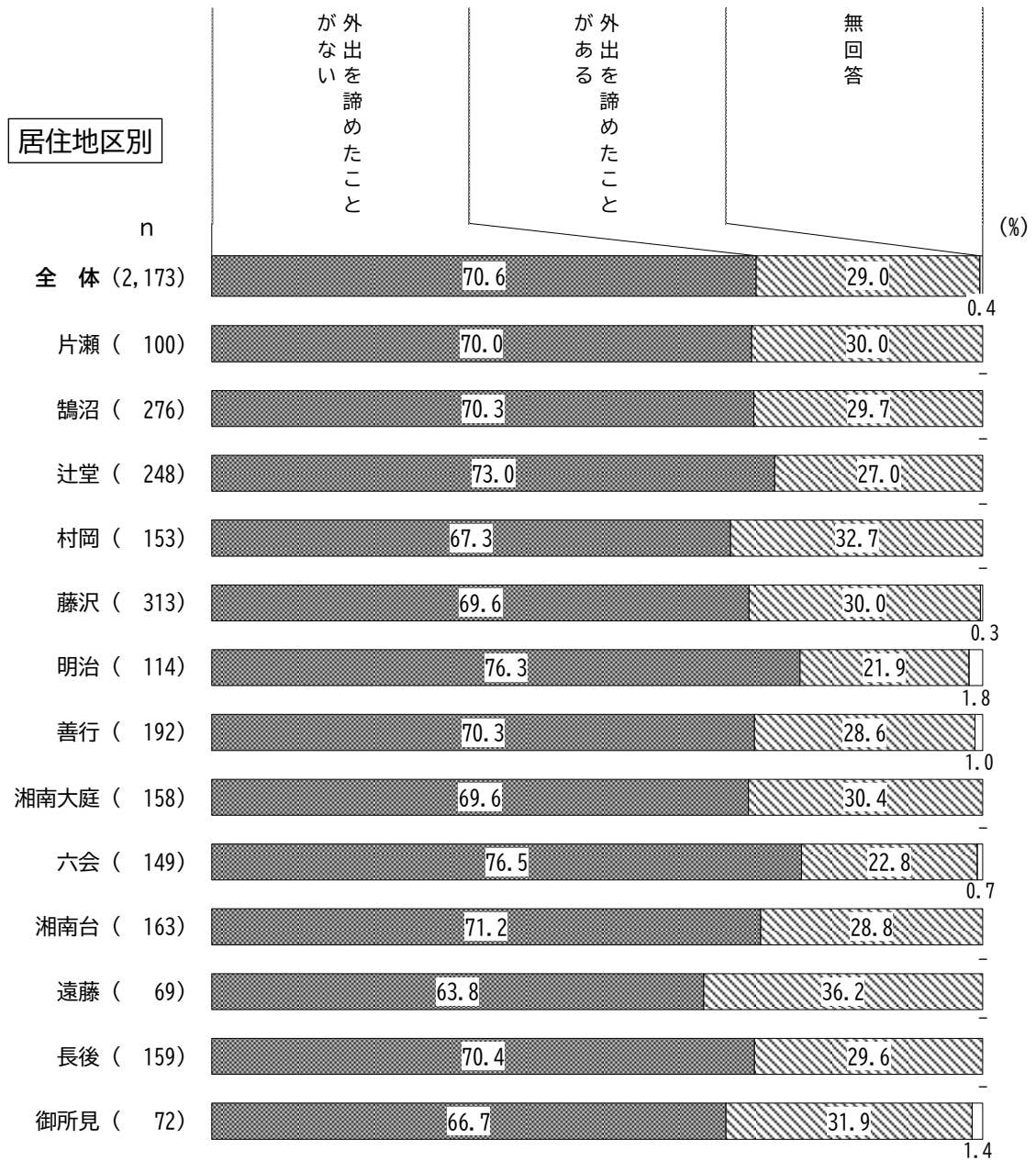
【年代別】

年代別でみると、「外出を諦めたことがある」は、30代で41.1%、80歳以上で41.8%と高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、「外出を諦めたことがある」は、遠藤で36.2%と最も高くなっている。

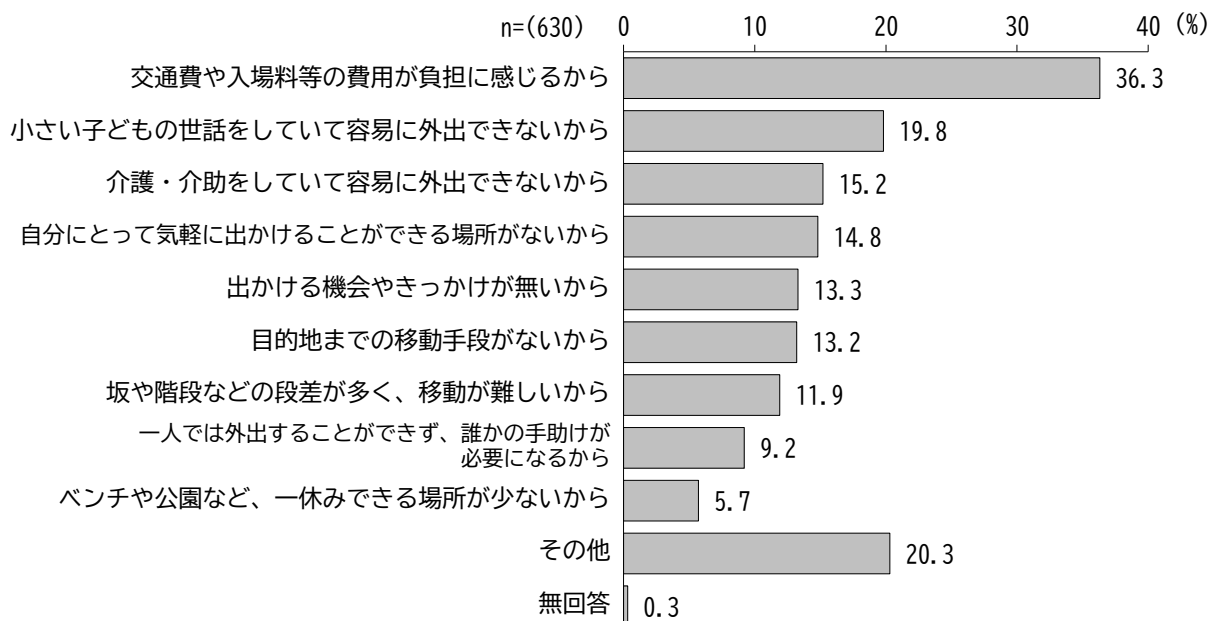


(5-1) 現在の身体状況や家庭状況等で外出を諦めた経験

問11で「2 外出を諦めたことがある」と回答した方へ
 問11-1 あなたが、外出を諦めたのはどのような理由ですか。(あてはまるものすべてに○)

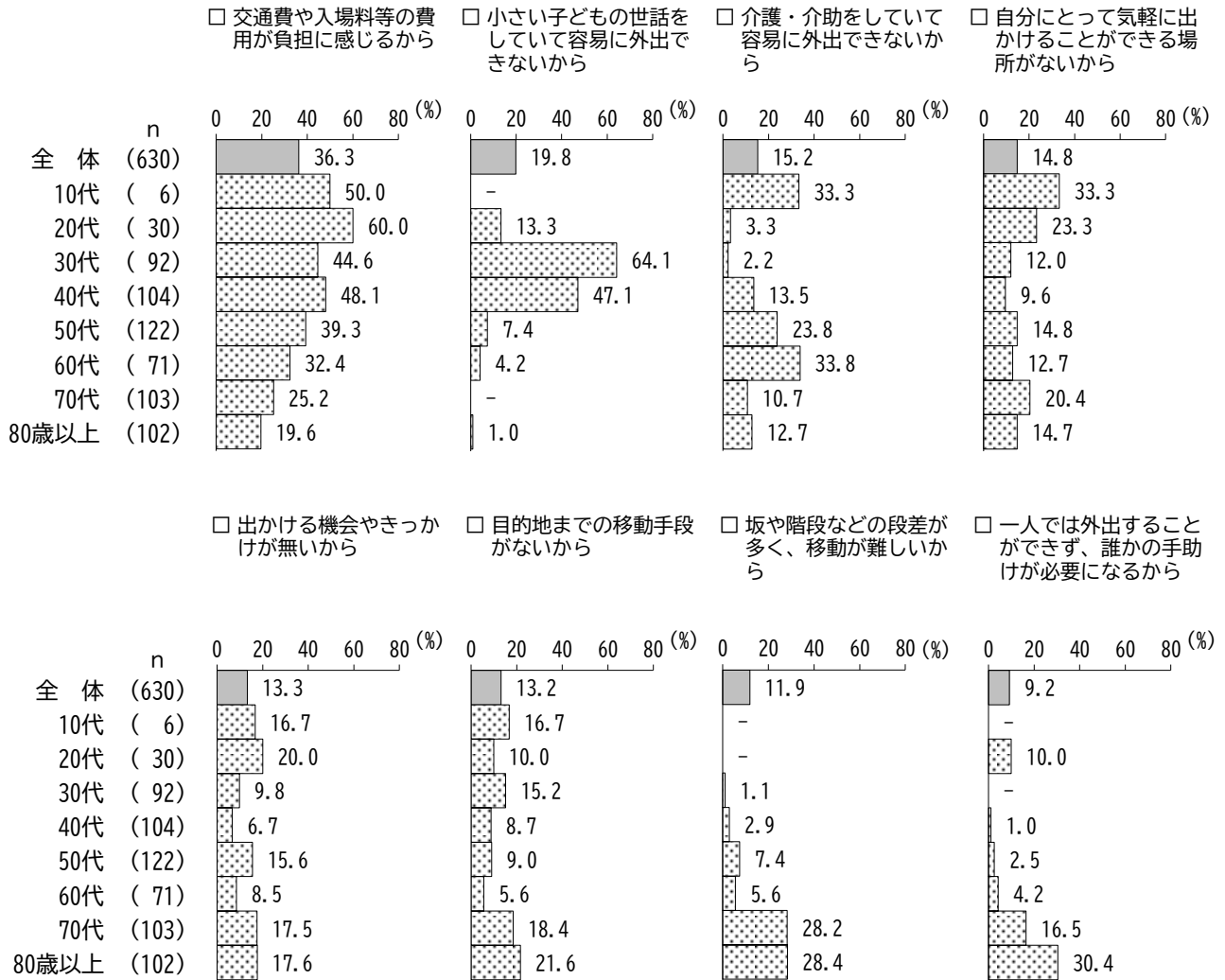
外出を諦めた理由は、「交通費や入場料等の費用が負担に感じるから」が36.3%で最も高く、次いで「小さい子どもの世話をしているから」(19.8%)、「介護・介助をしているから」(15.2%)となっている。

なお、「その他」の内容には、「健康上の理由」、「家族の介護・介助・育児等のため」、「ペットを飼っているため」などが多く挙げられている。



【年代別】（上位8項目）

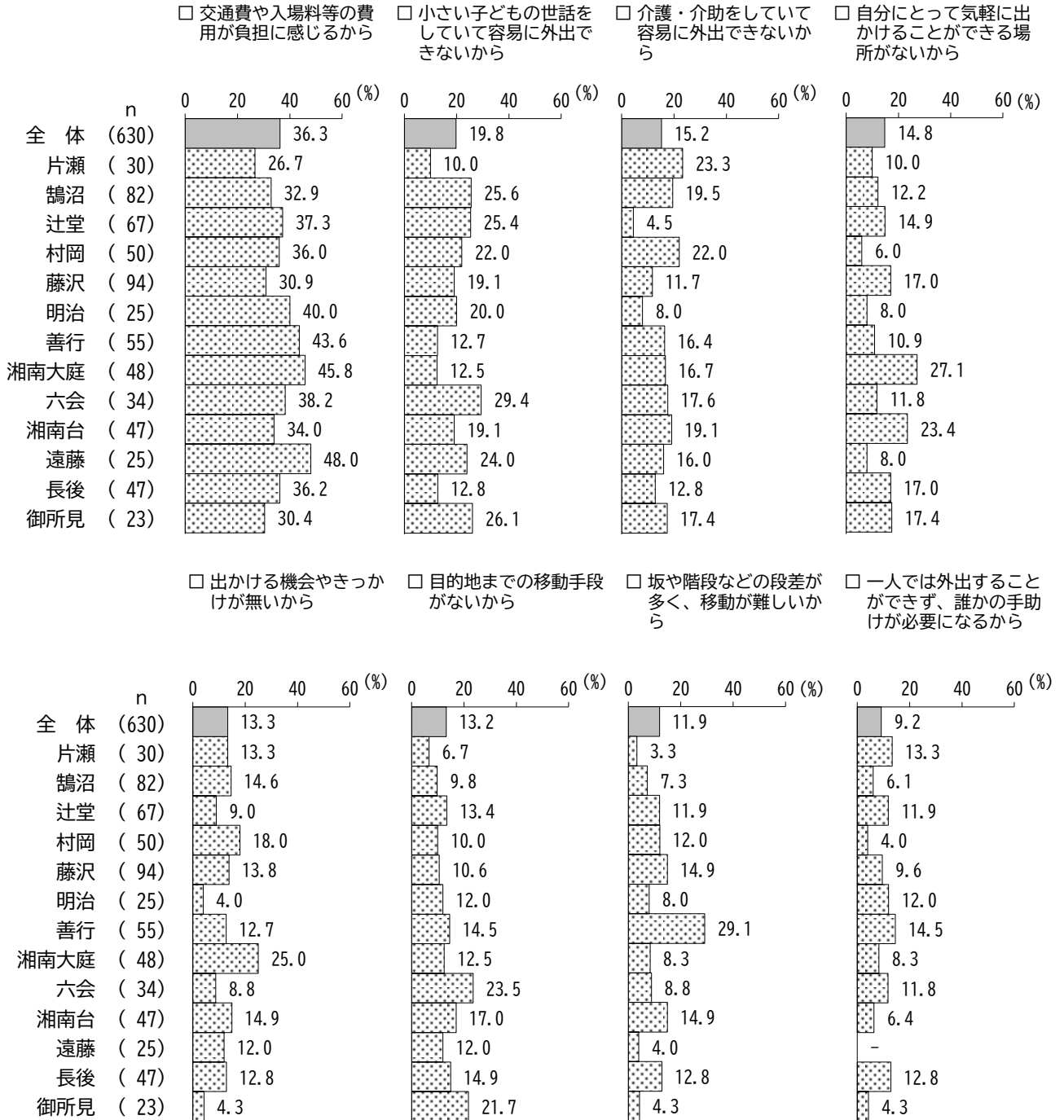
年代別で上位8項目をみると、「交通費や入場料等の費用が負担に感じるから」は20代で60.0%と最も高く、それ以降おおむね年代が上がるほど低くなる。「小さい子どもの世話をしているから容易に外出できないから」は30代で64.1%、40代で47.1%と高い。また、「介護・介助をしながら容易に外出できないから」は60代で33.8%となっている。



第2章 調査結果の詳細

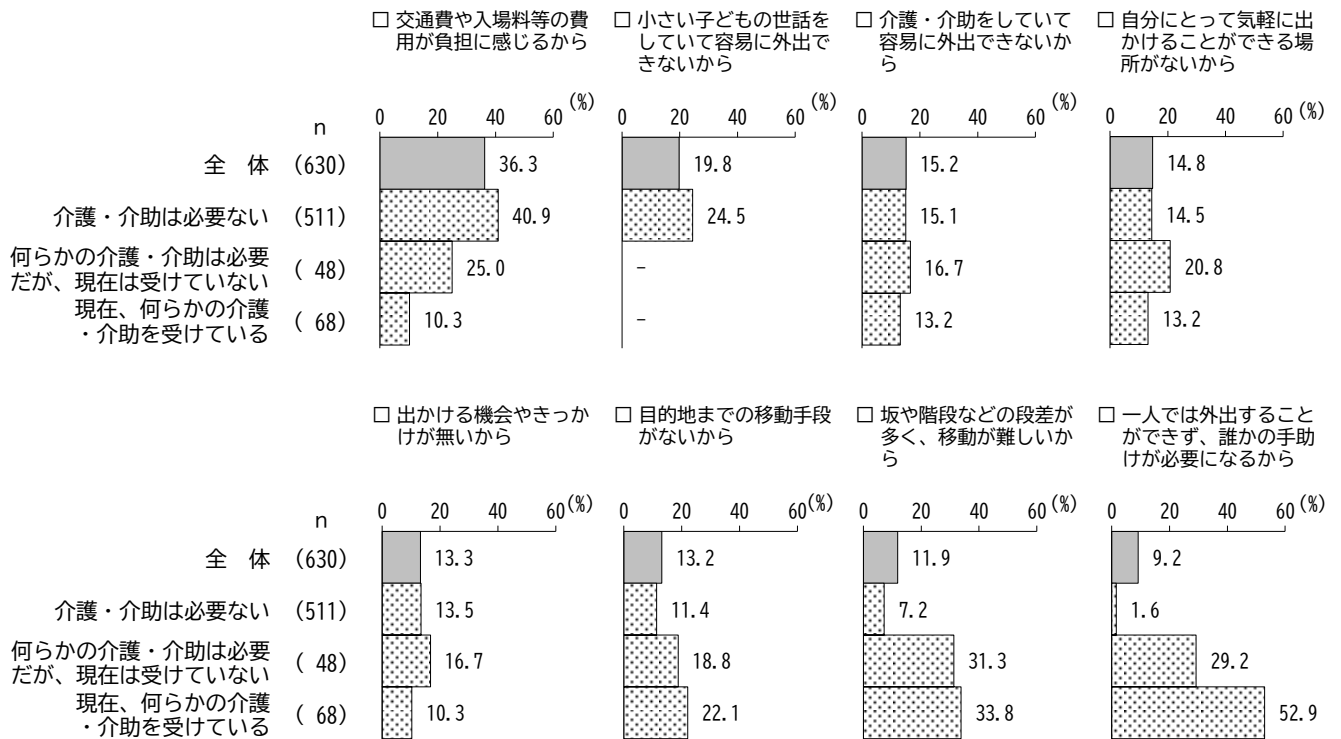
【居住地区別】（上位8項目）

居住地区別で上位8項目をみると、「交通費や入場料等の費用が負担に感じるから」は湘南大庭や善行で4割台半ば、「小さい子どもの世話をしているから容易に外出できないから」は六会で29.4%と高くなっている。また、「坂や階段などの段差が多く、移動が難しいから」でも、善行は29.1%と高い。



【介護・介助を受けている状況別】（上位8項目）

介護・介助を受けている状況別で上位8項目をみると、「交通費や入場料等の費用が負担に感じるから」は、「介護・介助は必要ない」人で40.9%と最も高くなっている。「一人では外出することができず、誰かの手助けが必要になるから」は、「現在、何らかの介護・介助を受けている」人で52.9%である。



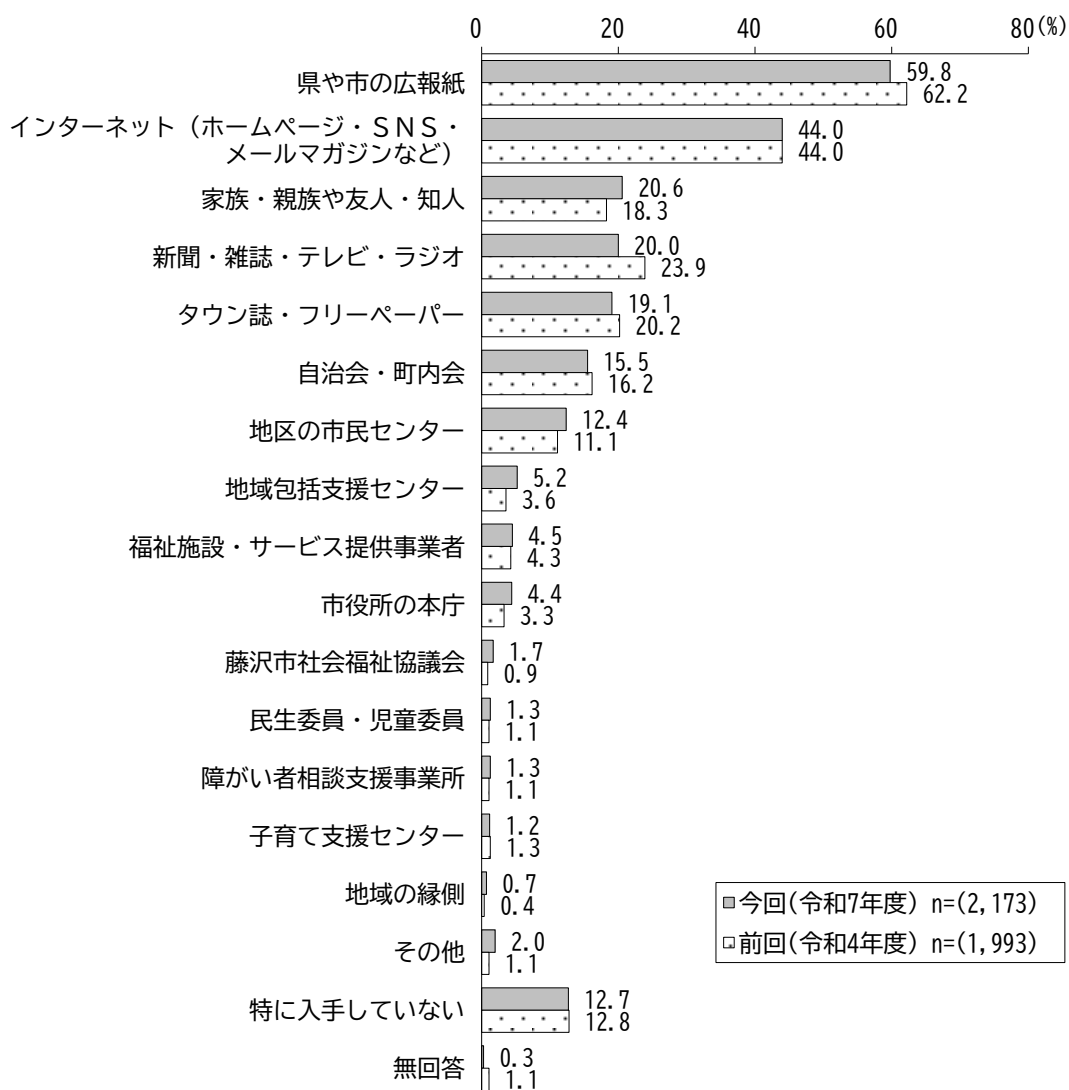
3 行政や福祉サービスなどについて

(1) 行政や福祉サービスなどの情報入手先

問12 あなたは、行政や福祉サービスなどの情報をどのように入手しますか。
 (あてはまるものすべてに○)

行政や福祉サービスなどの情報入手先では、「県や市の広報紙」が59.8%で最も高く、次いで「インターネット（ホームページ・SNS・メールマガジンなど）」(44.0%)、「家族・親族や友人・知人」(20.6%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(20.0%)となっている。

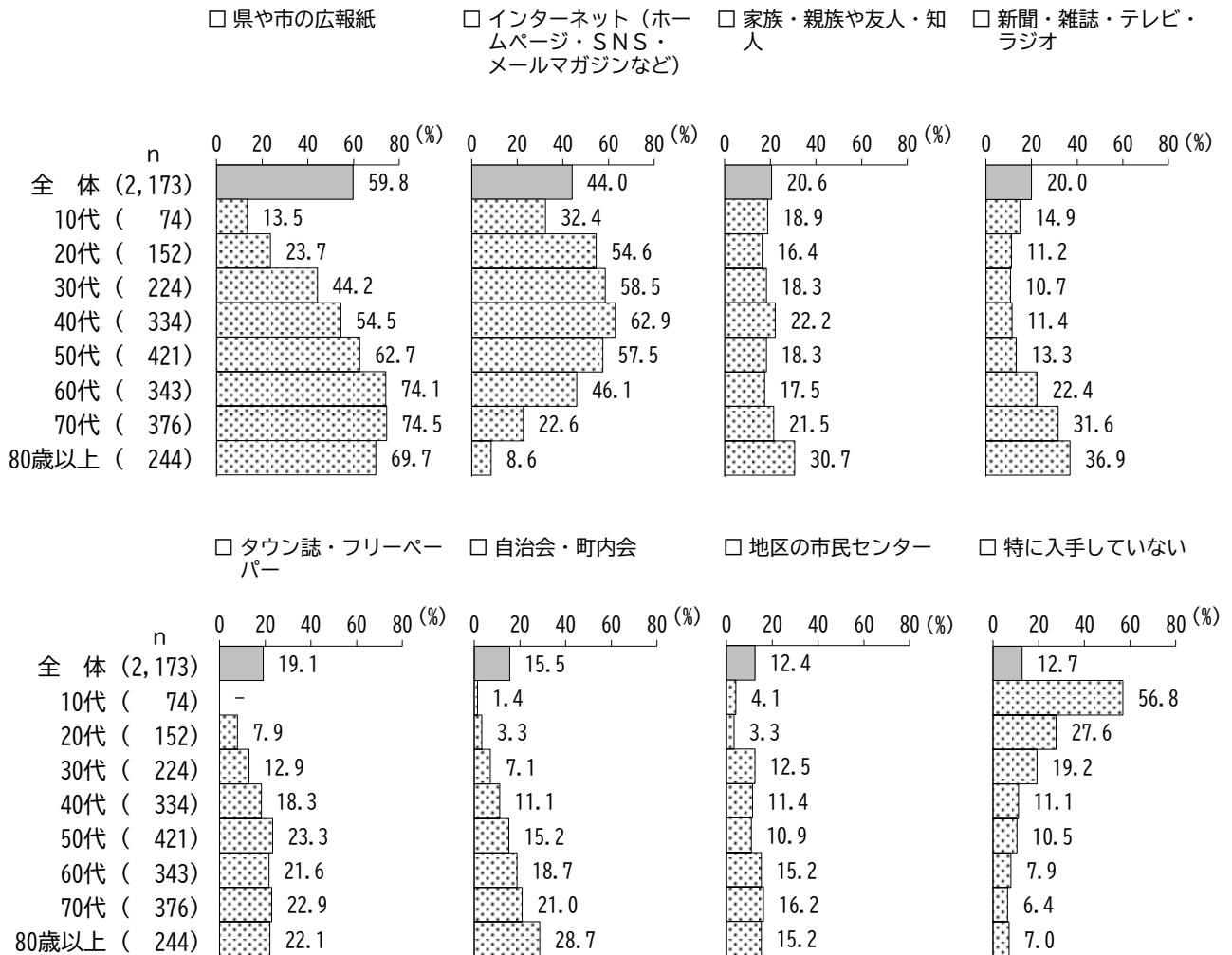
前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】（上位7項目+「特に入手していない」）

年代別で上位7項目をみると、「県や市の広報紙」はおおむね年代が上がるほど高くなり、60～70代で7割台半ばとなっている。「インターネット（ホームページ・SNS・メールマガジンなど）」は40代で62.9%と最も高く、次いで30代と50代で約6割である。

一方、「特に入手していない」は10代で56.8%と最も高くなっている。

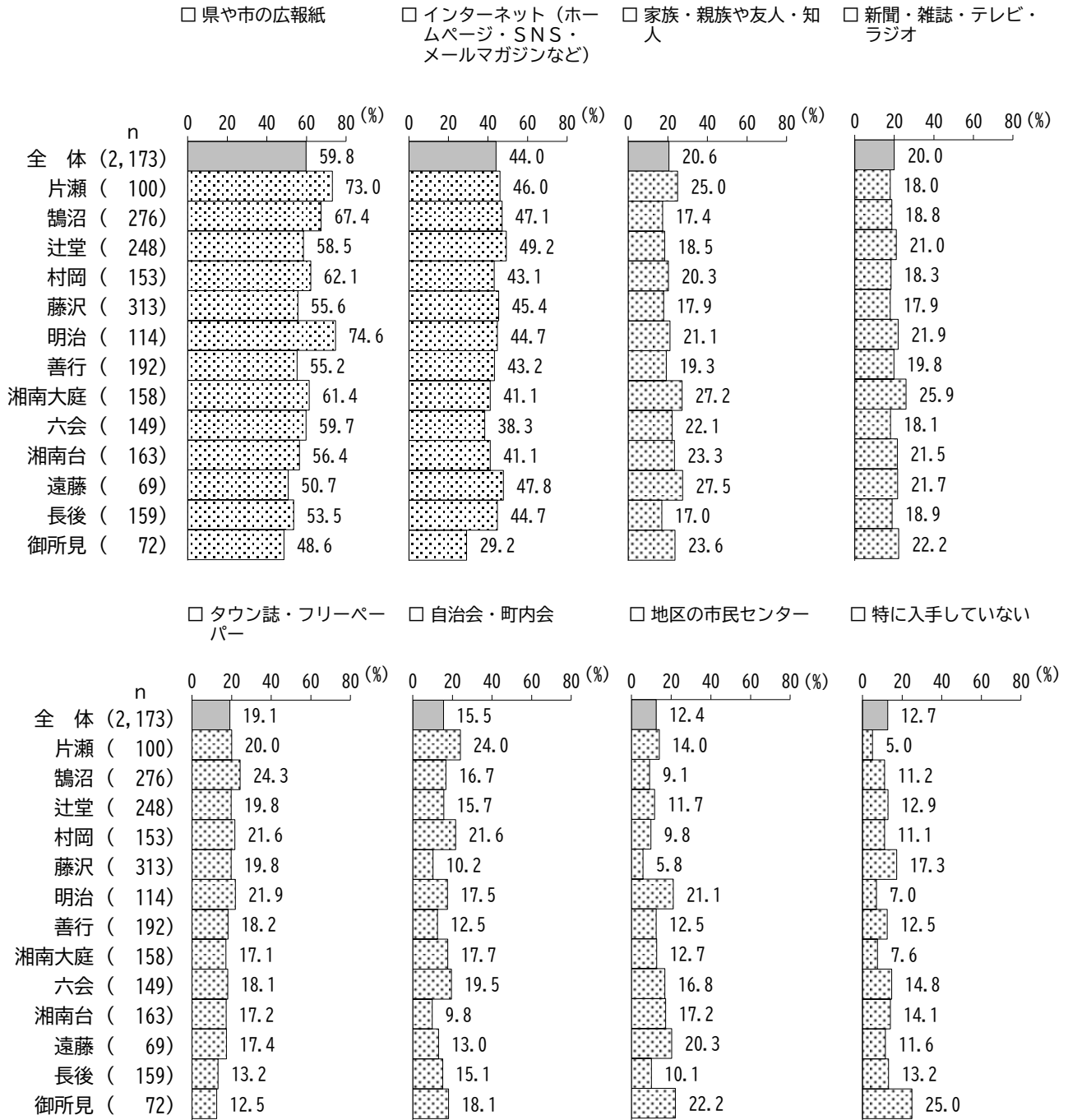


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「特に入手していない」）

居住地区別で上位7項目をみると、「県や市の広報紙」は明治と片瀬で7割台半ばと高くなっている。「インターネット（ホームページ・SNS・メールマガジンなど）」は多くの居住地区で4割台であるが、六会と御所見は4割を下回る。

一方、「特に入手していない」は御所見で25.0%と最も高くなっている。

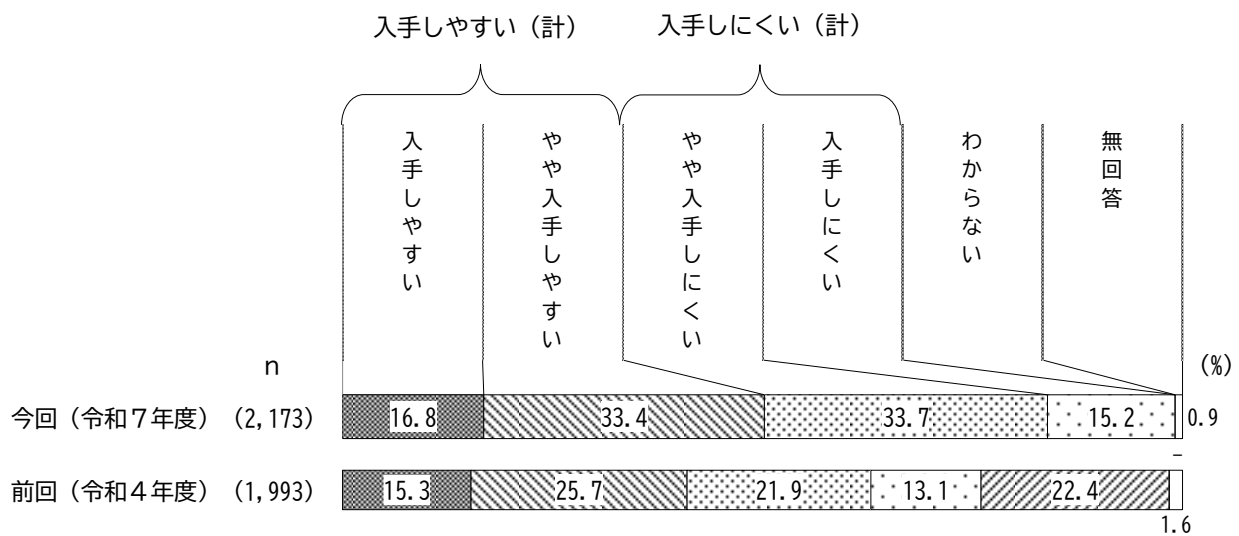


(2) 行政や福祉サービスなどの情報入手のしやすさ

問13 行政や福祉サービスなどの情報は入手しやすいと思いますか。(1つに○)

行政や福祉サービスなどの情報入手のしやすさは、「入手しやすい」が16.8%で、これに「やや入手しやすい」(33.4%)を合わせた【入手しやすい(計)】は50.2%となっている。一方、「やや入手しにくい」が33.7%で最も高く、「入手しにくい」(15.2%)を合わせた【入手しにくい(計)】は48.9%である。

前回の令和4年度調査との比較については、今回調査では「わからない」の選択肢を削除しており、また本設問が単数回答であることから、厳密な比較は行わず、参考として図示するにとどめる。

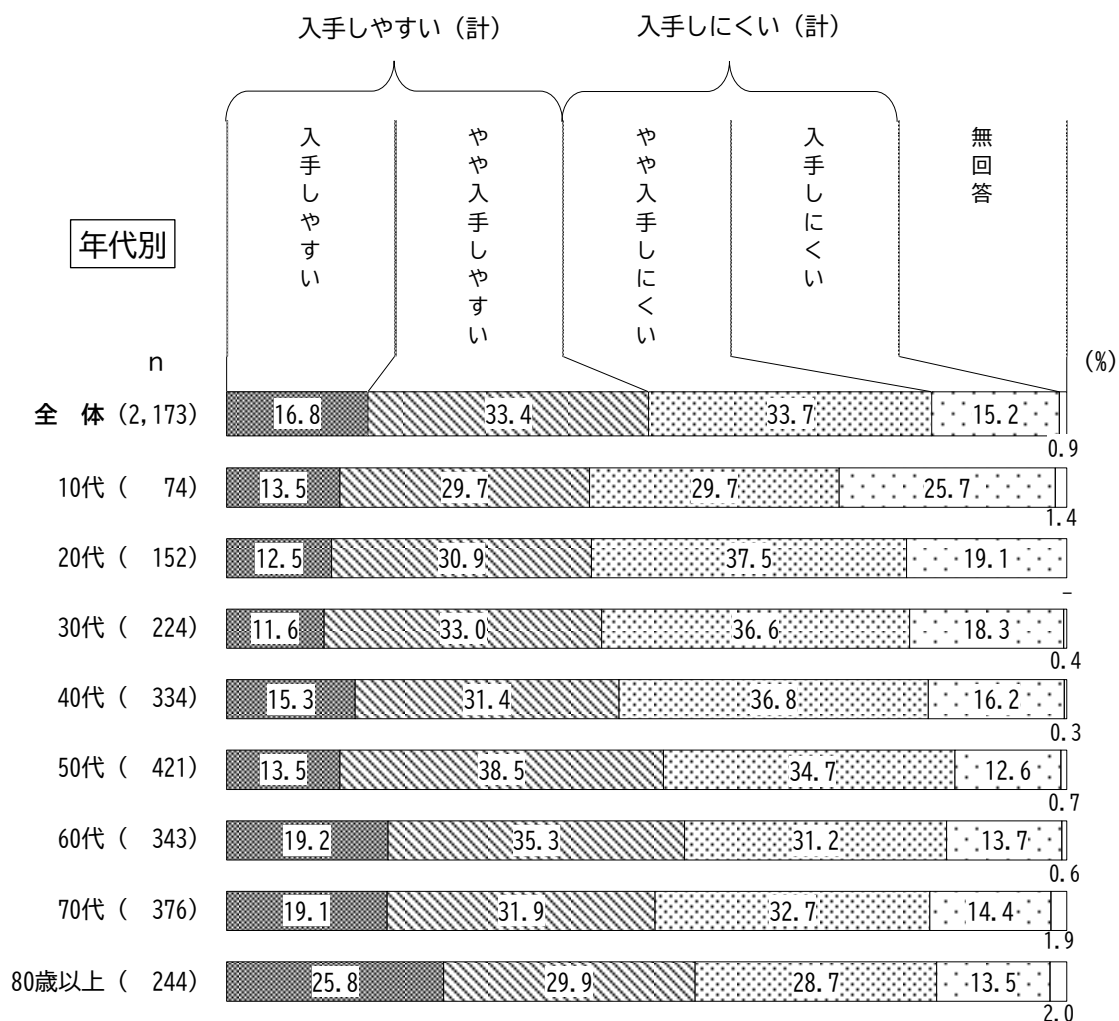


※「わからない」は今回（令和7年度）調査で削除

第2章 調査結果の詳細

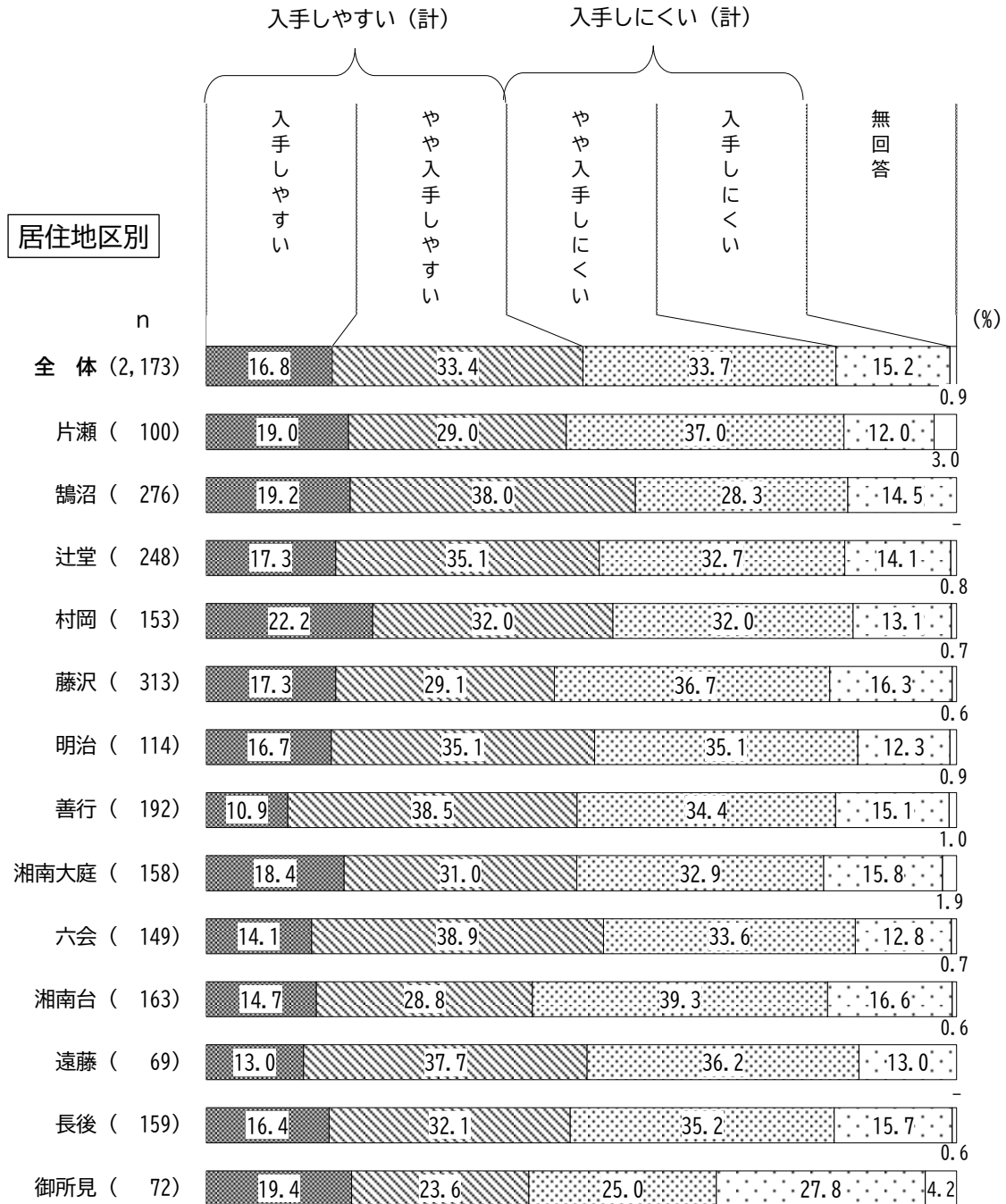
【年代別】

年代別でみると、【入手しやすい（計）】は50歳以上で5割を超えており、80歳以上で55.7%と最も高い。一方、【入手しにくい（計）】は10～40代で5割台半ばとおおむね並んでいる。



【居住地区別】

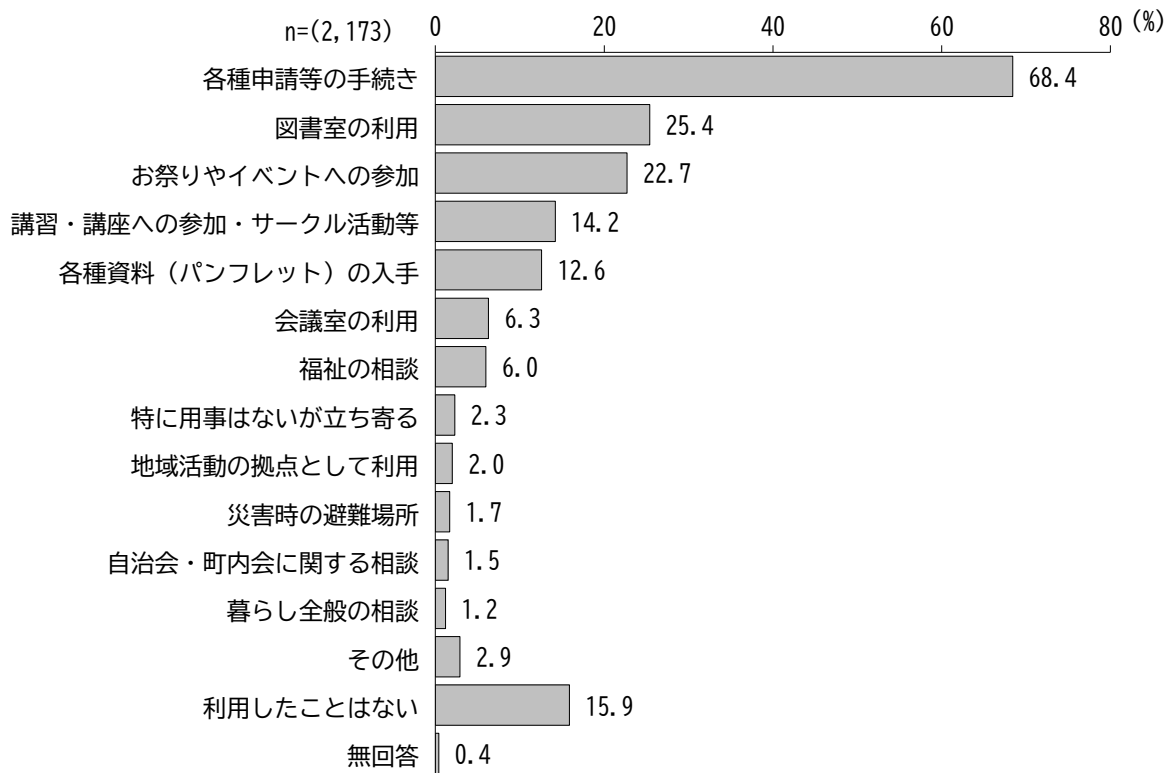
居住地区別でみると、【入手しやすい (計)】は鶴沼で57.2%と最も高く、次いで村岡と六会で5割台半ばとなっている。一方、【入手しにくい (計)】は湘南台で55.9%と最も高く、藤沢、御所見、長後で5割以上となっている。



(3) 居住地区の市民センターの利用目的

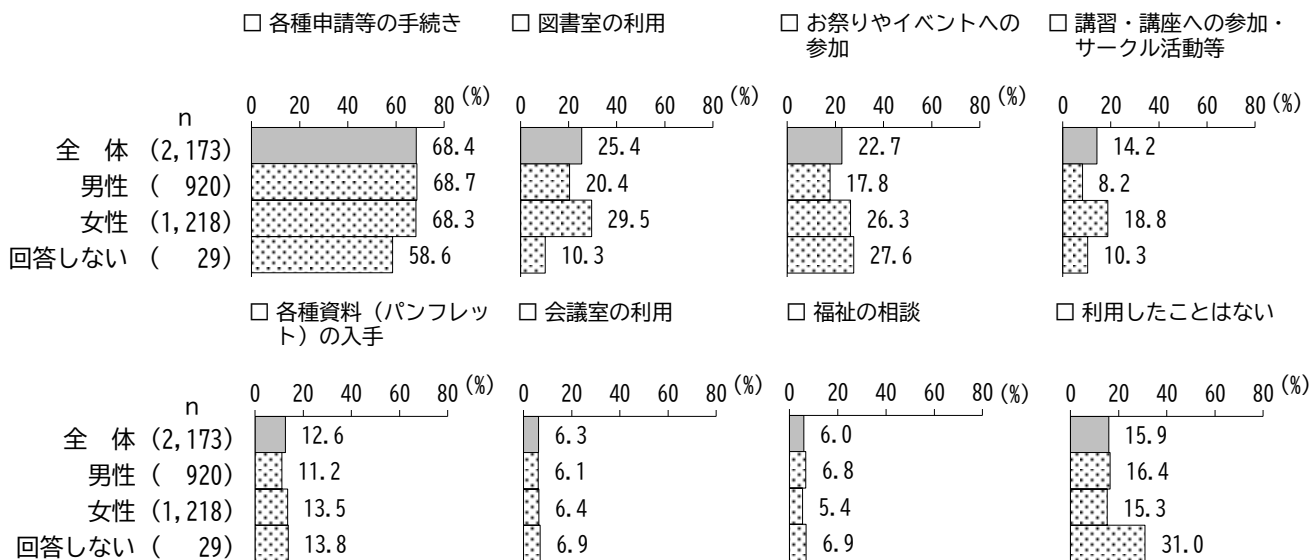
問14 あなたのお住まいの地区の市民センターをどのような目的で利用したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

居住地区の市民センターの利用目的は、「各種申請等の手続き」が68.4%で最も高く、次いで「図書室の利用」(25.4%)、「お祭りやイベントへの参加」(22.7%)が2割台で続いている。一方、「利用したことはない」は15.9%となっている。



【性別】(上位7項目+「利用したことはない」)

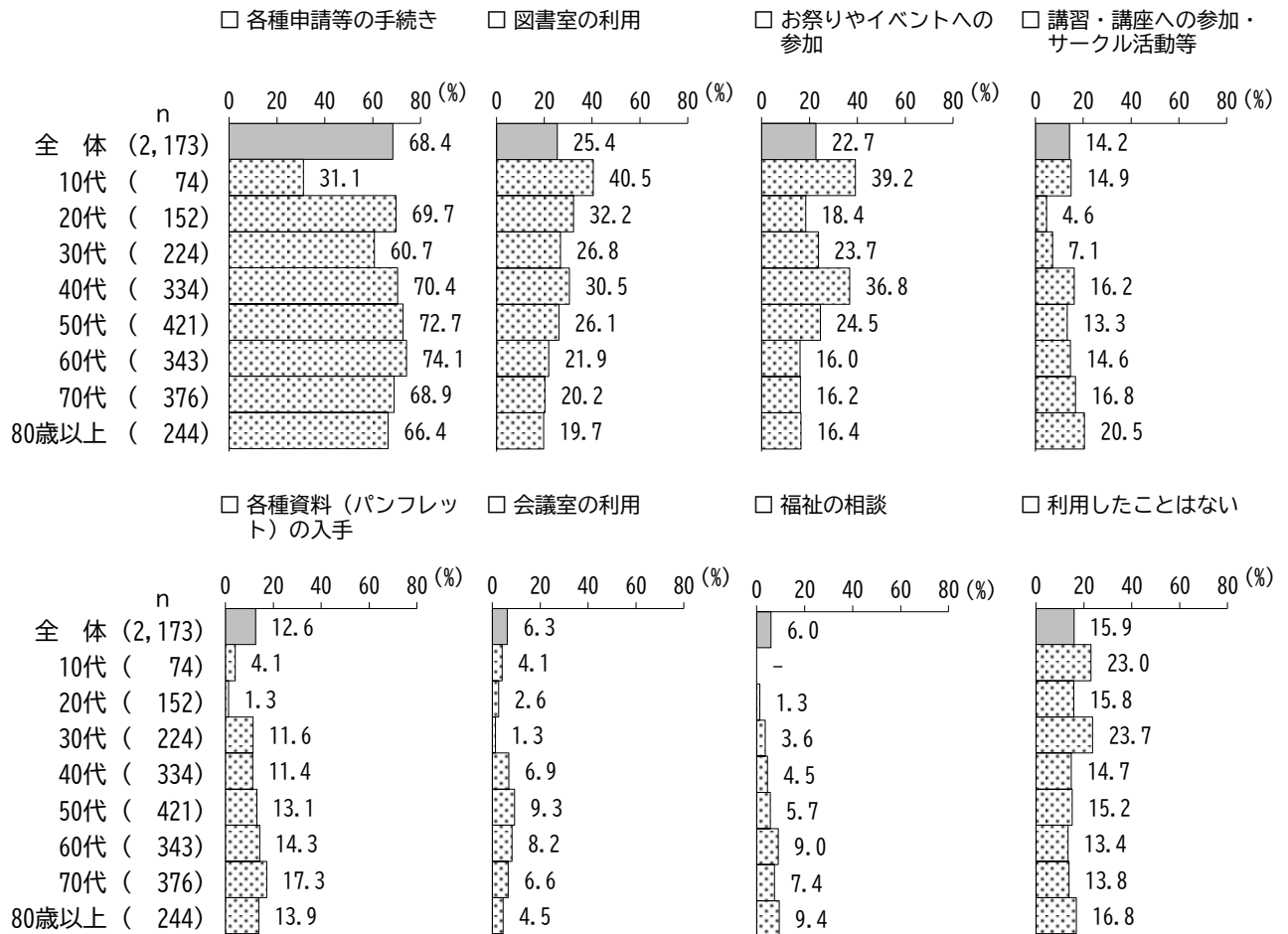
nの人数が確保できている男性と女性について上位7項目をみると、多くの項目で女性の方が男性よりも高く、「講習・講座への参加・サークル活動等」で10.6ポイント、「図書室の利用」の9.1ポイント「お祭りやイベントへの参加」で8.5ポイント差となっている。



【年代別】（上位7項目+「利用したことはない」）

年代別で上位7項目をみると、10代を除いたすべての年代で「各種申請等の手続き」は高く6割以上である。「図書室の利用」は10代で40.5%と最も高く、おおむね年代が上がるほど低くなる。また、「お祭りやイベントへの参加」は10代で39.2%、40代で36.8%と高くなっている。

一方、「利用したことはない」は、10代と30代で2割台半ばである。

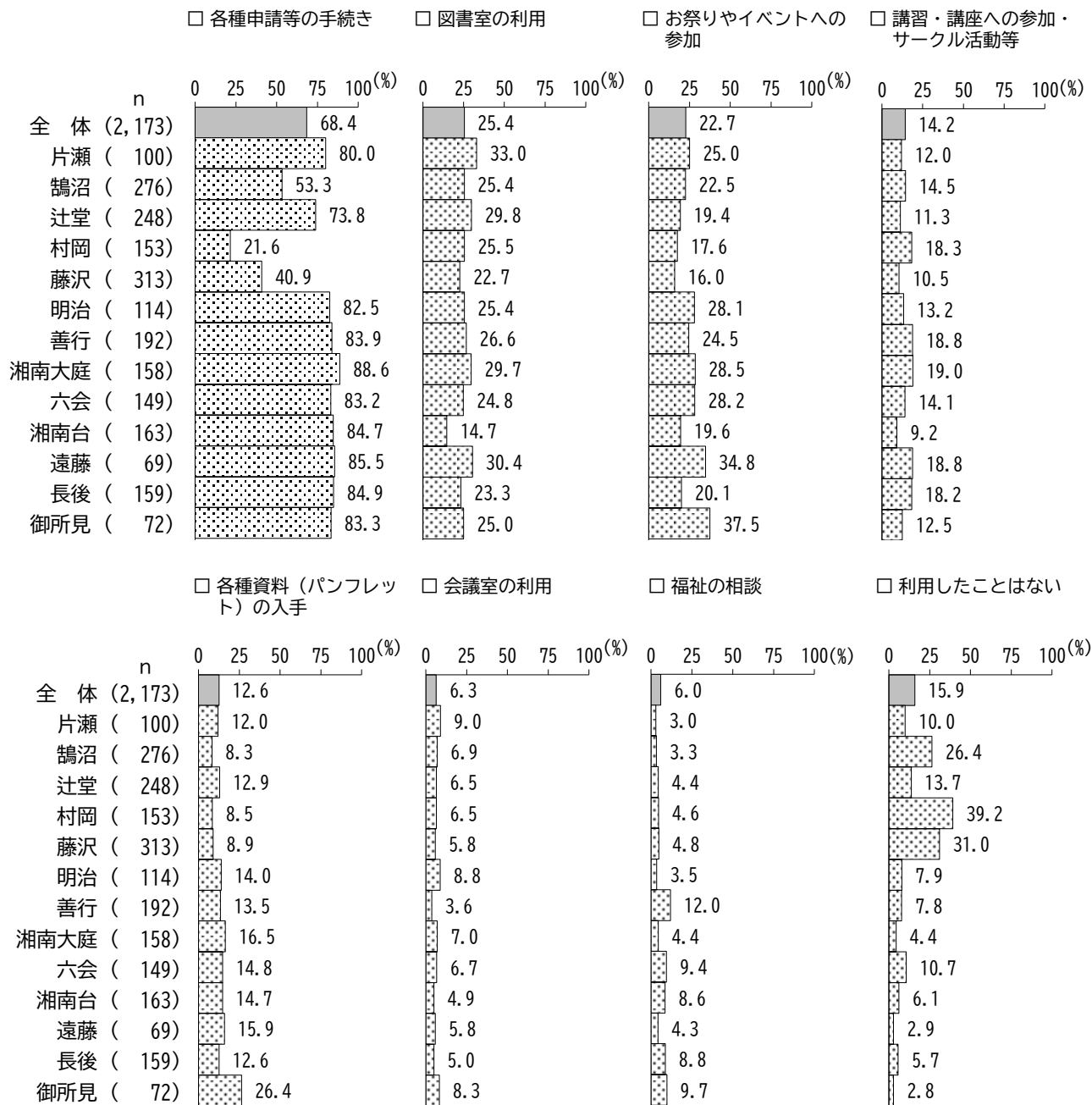


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「利用したことはない」）

居住地区別で上位7項目をみると、多くの居住地区で「各種申請等の手続き」が高いが、村岡、藤沢、鶴沼は他の居住地区に比べて低い。

一方、「利用したことはない」は、村岡で39.2%と最も高く、次いで藤沢で31.0%、鶴沼で26.4%となっている。

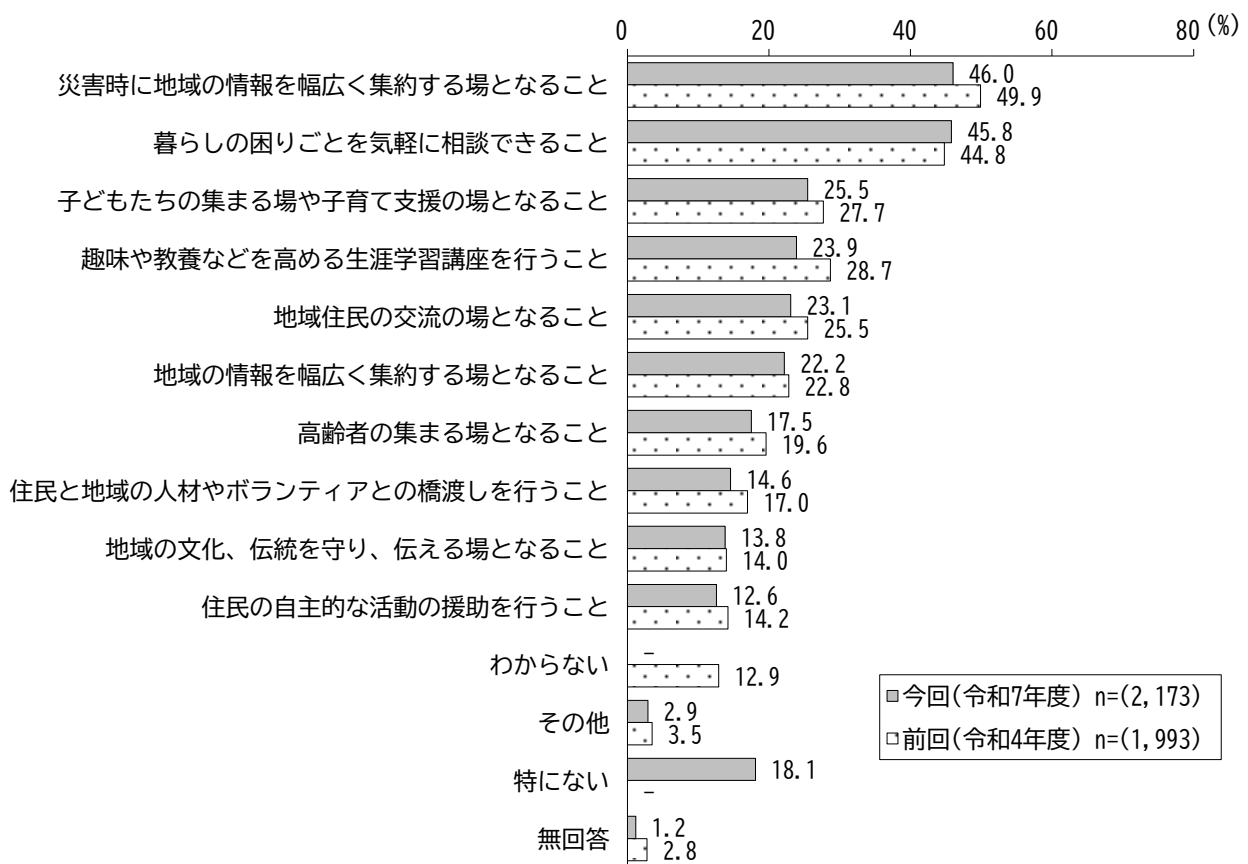


(4) 居住地区の市民センター機能充実のために要望すること

問15 あなたのお住まいの地区の市民センターの機能充実のために、どのようなことを要望しますか。(あてはまるものすべてに○)

居住地区の市民センターの機能充実のために要望することは、「災害時に地域の情報を幅広く集約する場となること」が46.0%で最も高く、これに「暮らしの困りごとを気軽に相談できること」(45.8%)が僅差で続いている。

前回の令和4年度調査との比較については、今回調査では「わからない」および「特にない」の選択肢の設計を変更している。本問は複数回答の設問であることから、参考として前回調査との差をみたところ、「趣味や教養などを高める生涯学習講座を行うこと」は4.8ポイント減少している。



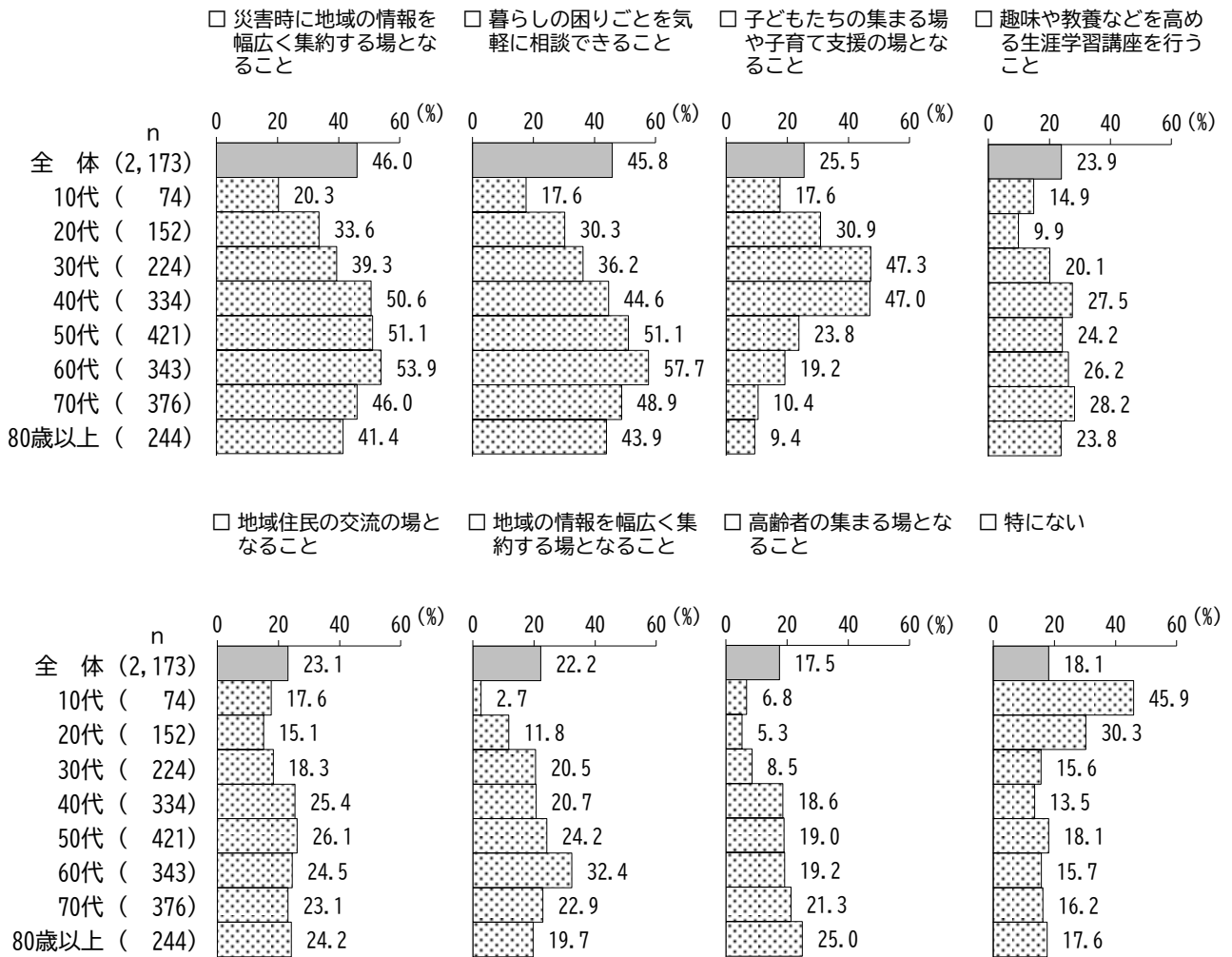
※「わからない」は今回（令和7年度）調査で削除し、「特にない」を追加した。

第2章 調査結果の詳細

【年代別】（上位7項目+「特にない」）

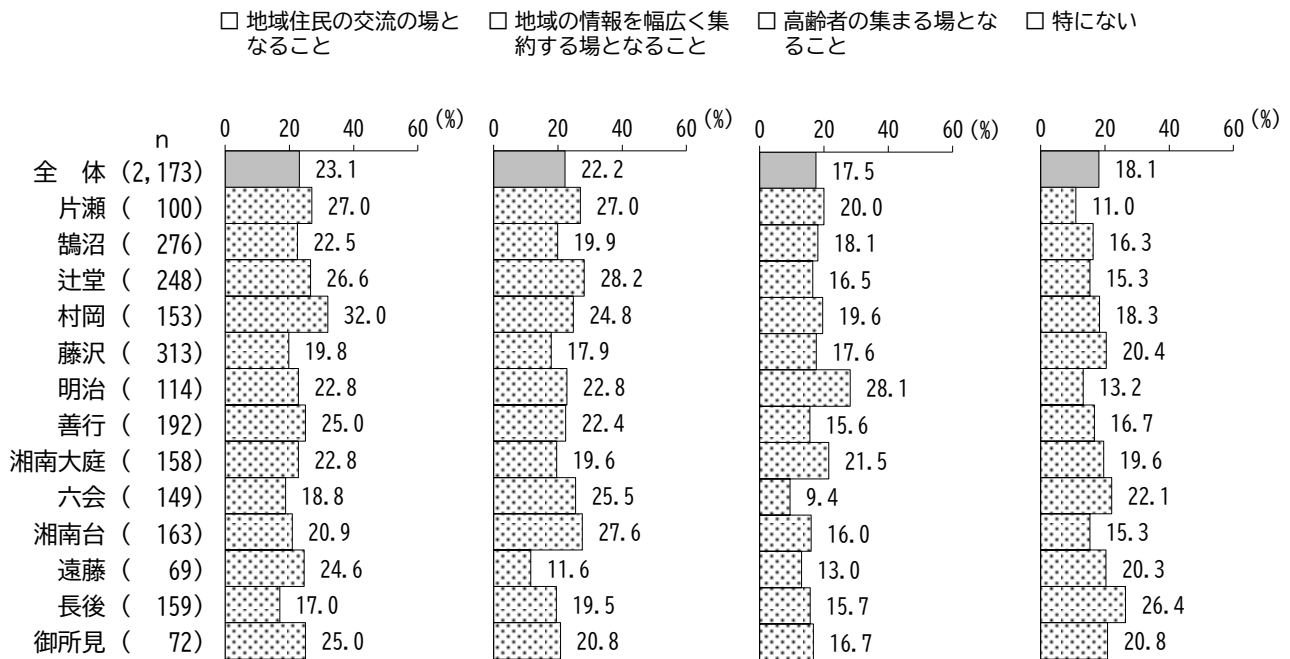
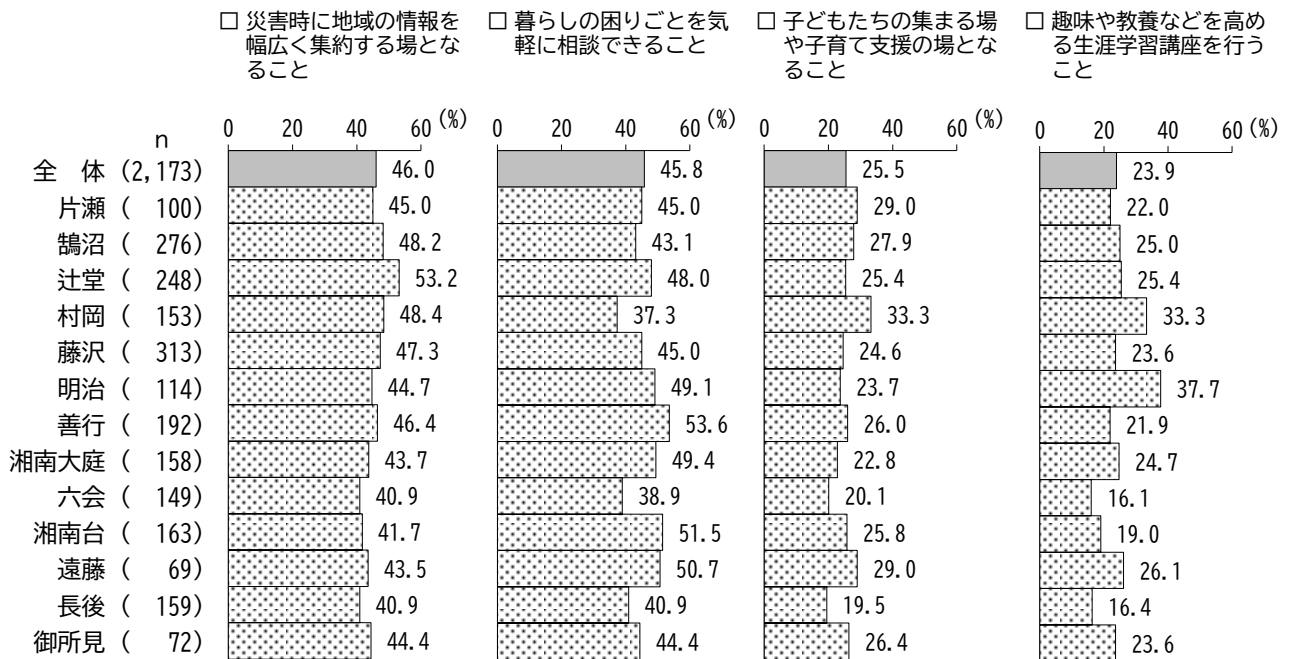
年代別で上位7項目をみると、「災害時に地域の情報を幅広く集約する場となること」は、40～60代で5割を超え高く、50～60代は「暮らしの困りごとを気軽に相談できること」でも5割を超えている。また、「子どもたちの集まる場や子育て支援の場となること」は、30～40代で5割弱と高くなっている。

一方、「特にない」は、10代で45.9%と最も高く、次いで20代で30.3%となっている。



【居住地区別】(上位7項目+「特にない」)

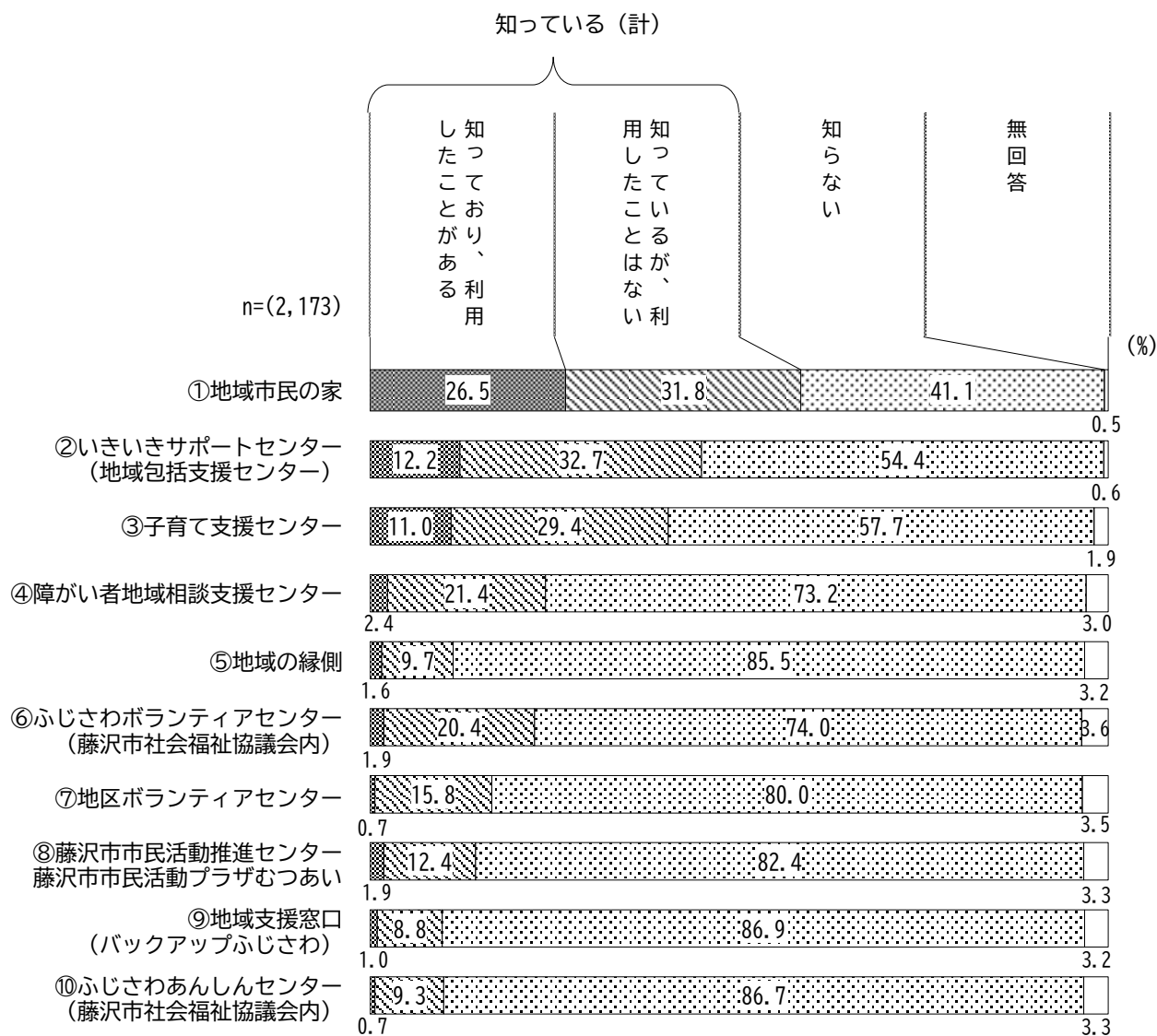
居住地区別で上位7項目をみると、全ての居住地区で「災害時に地域の情報を幅広く集約する場となること」と「暮らしの困りごとを気軽に相談できること」が高くなっている。



(5) 施設や窓口の認知度

問16 あなたは、次の場所を知っていますか。(それぞれ○は1つずつ)

施設や窓口の認知度では、「知っており、利用したことがある」は「①地域市民の家」が26.5%で最も高くなっている。「知っているが、利用したことはない」を合わせた【知っている(計)】としてみると、「①地域市民の家」が58.3%、「②いきいきサポートセンター(地域包括支援センター)」が44.9%、「③子育て支援センター」が40.4%などとなっている。一方、「知らない」は、「⑨地域支援窓口(バックアップふじさわ)」(86.9%)、「⑩ふじさわあんしんセンター(藤沢市社会福祉協議会内)」(86.7%)、「⑤地域の縁側」(85.5%)で85%以上となっている。

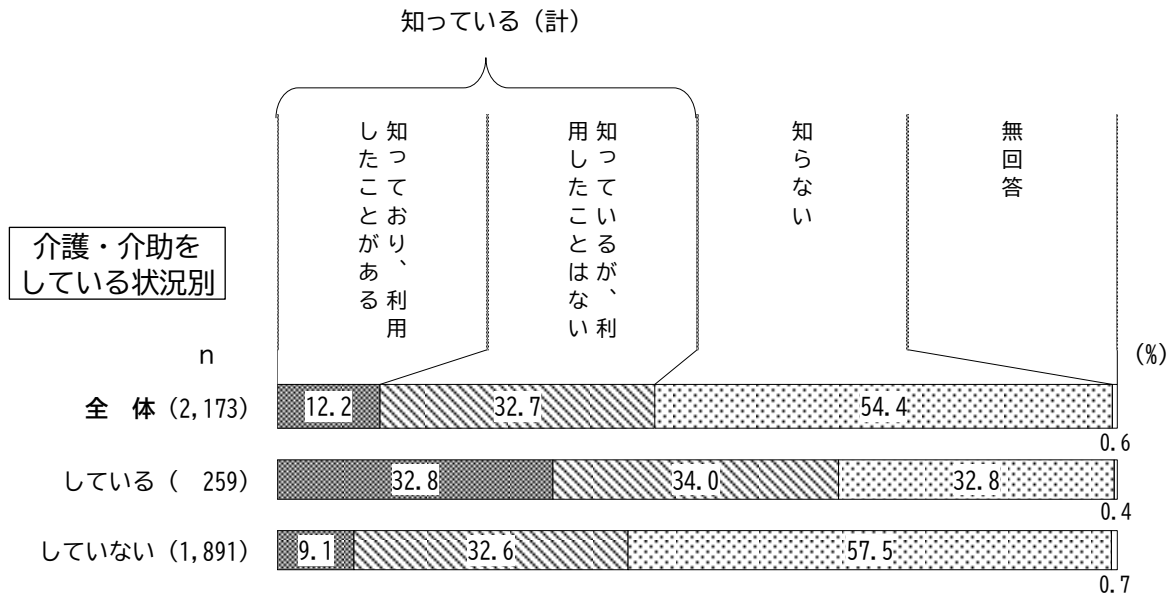


※介護・介助をしている状況別は、施設や窓口を抜粋して掲載する

②いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）

【介護・介助をしている状況別】

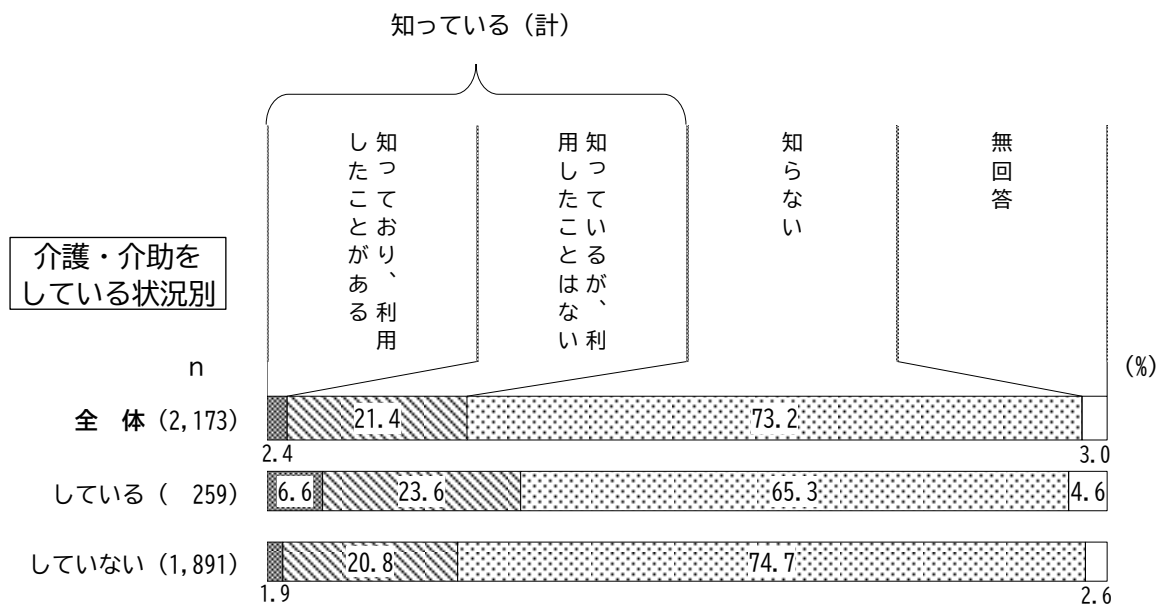
介護・介助をしている状況別でみると、「知っており、利用したことがある」は、介護・介助を「している」人で32.8%となっている。この層は、【知っている（計）】が66.8%となる。一方、「知らない」は、介護・介助を「していない」人で57.5%となっている。



④障がい者地域相談支援センター

【介護・介助をしている状況別】

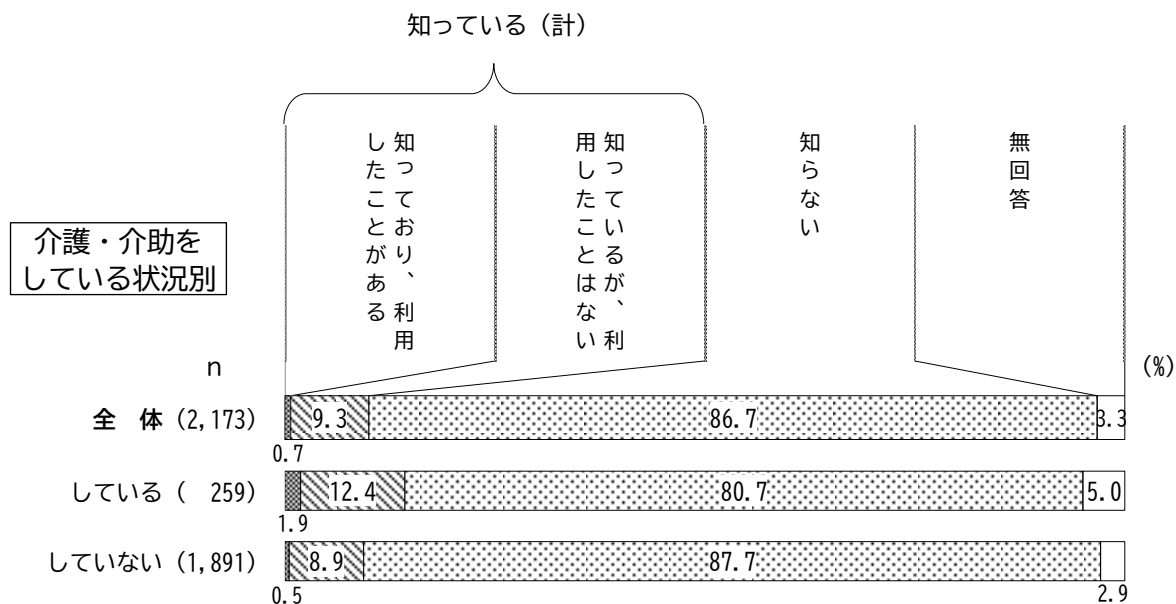
介護・介助をしている状況別でみると、【知っている（計）】は、介護・介助を「している」人で30.2%となっており、「知らない」が介護・介助をしている状況に関わらず高い。



⑩ふじさわあんしんセンター（藤沢市社会福祉協議会内）

【介護・介助をしている状況別】

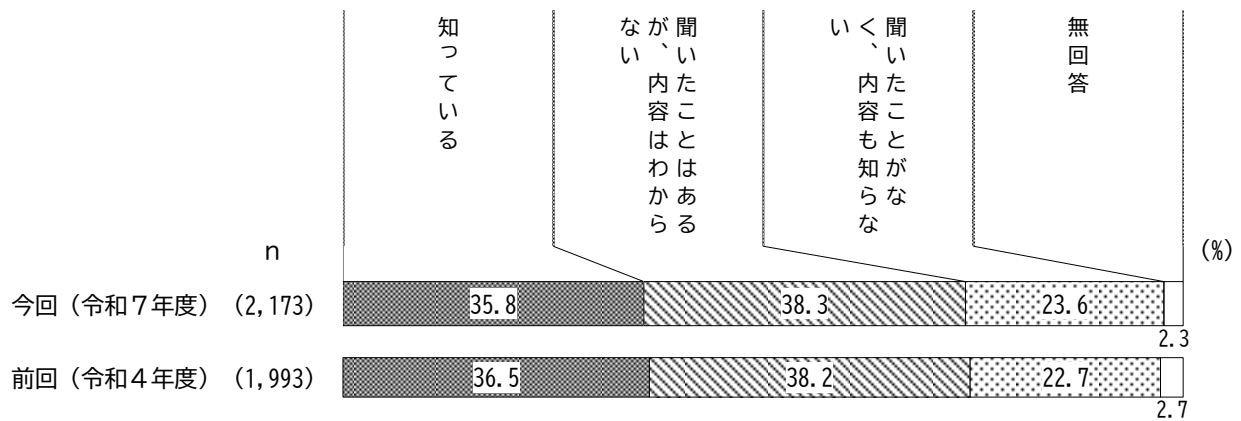
介護・介助をしている状況別でみると、【知っている（計）】は、介護・介助を「している」人で14.3%となっており、「知らない」が介護・介助をしている状況に関わらず高い。



(6) 成年後見制度の認知度

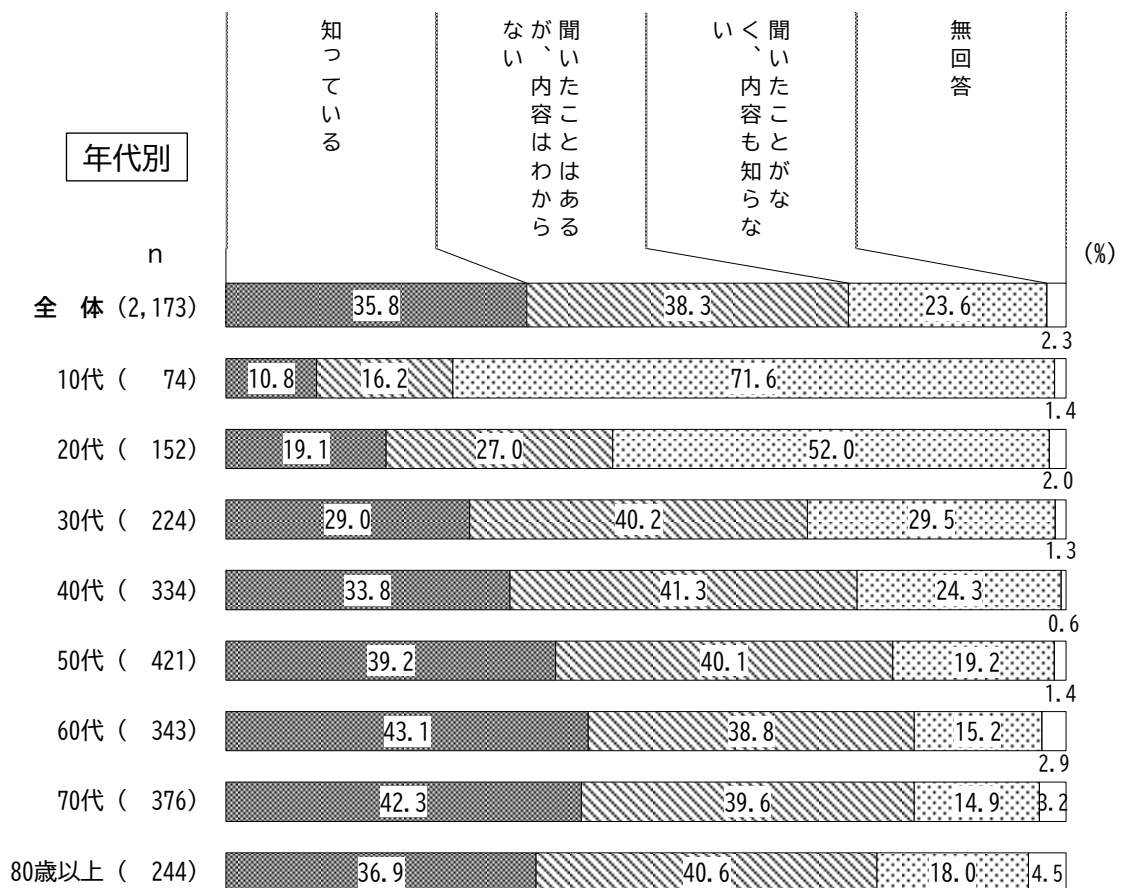
問17 成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分ではない方が不利益を被らないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を選任してもらう制度です。あなたは「成年後見制度」について知っていますか。
(1つに○)

成年後見制度の認知度は、「知っている」が35.8%で、「聞いたことはあるが、内容はわからない」が38.3%と最も高くなっている。一方、「聞いたことがなく、内容も知らない」が23.6%である。前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】

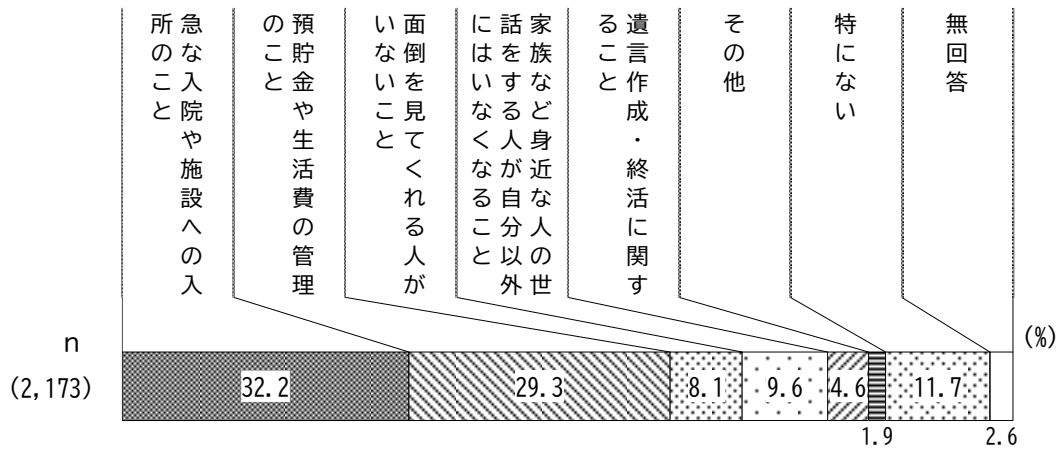
年代別でみると、「知っている」は50～70代で4割前後となっている。



(7) 自立した生活が難しくなった場合の備えとして最も不安に感じること

問18 あなたは、自立した生活が難しくなった場合の備えとして、どのようなことに、最も不安を感じますか。(1つに○)

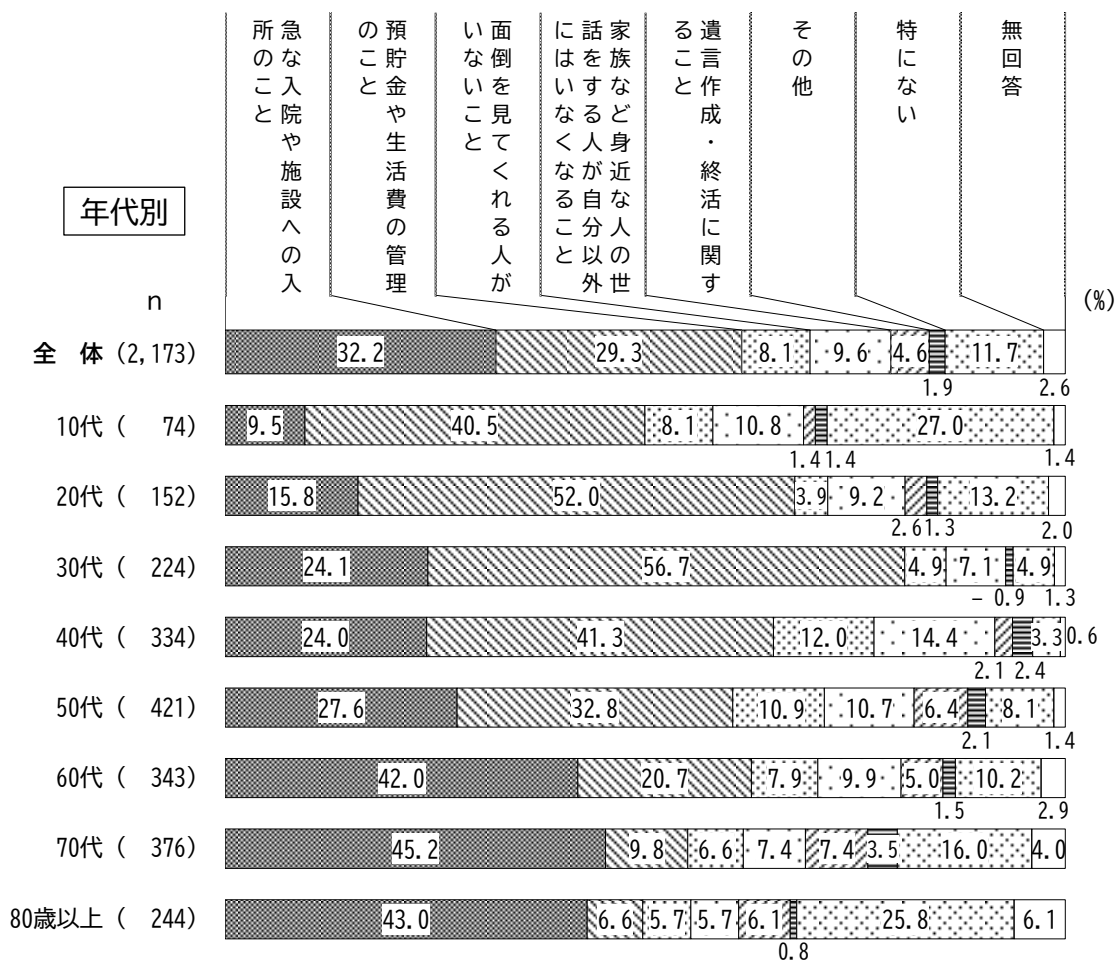
自立した生活が難しくなった場合の備えとして最も不安に感じることは、「急な入院や施設への入所のこと」が32.2%で最も高く、次いで「預貯金や生活費の管理のこと」が29.3%となっている。



【年代別】

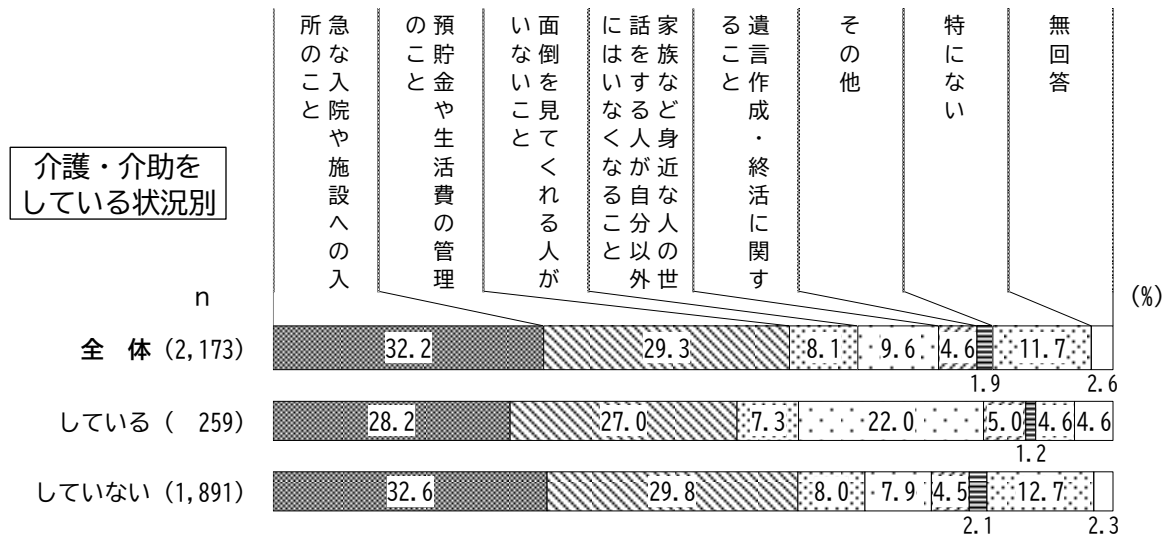
年代別でみると、「急な入院や施設への入所のこと」は60歳以上で4割台、「預貯金や生活費の管理のこと」は20～30代で5割台と、それぞれ高くなっている。

一方、「特になし」は、10代と80歳以上で2割台半ばと高い。



【介護・介助をしている状況別】

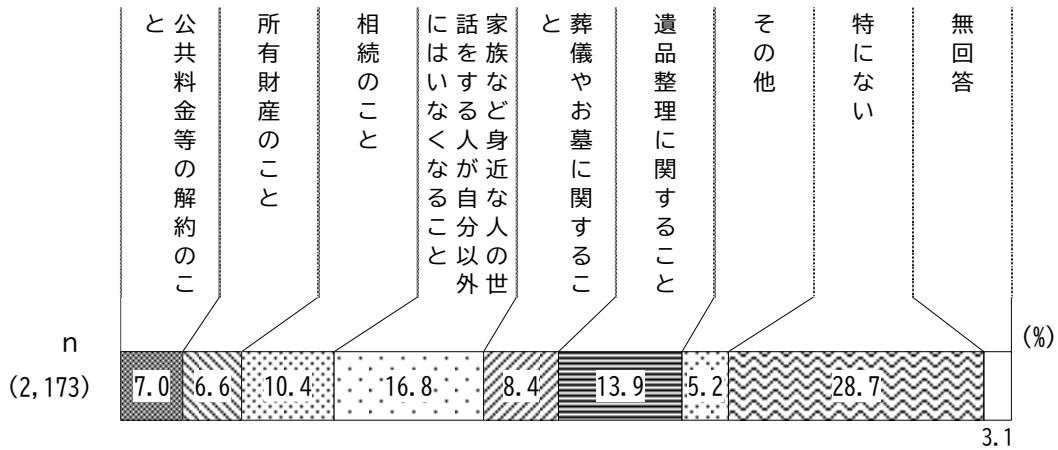
介護・介助をしている状況別でみると、介護・介助をしている状況に関わらず「急な入院や施設への入所のこと」と「預貯金や生活費の管理のこと」は高くなっている。しかし、介護・介助を「している」人では「家族など身近な人の世話をする人が自分以外にはいなくなることで22.0%となっており、「していない」人に比べて14.1ポイント高くなっている。



(8) 自身が亡くなった後のことで最も不安に感じること

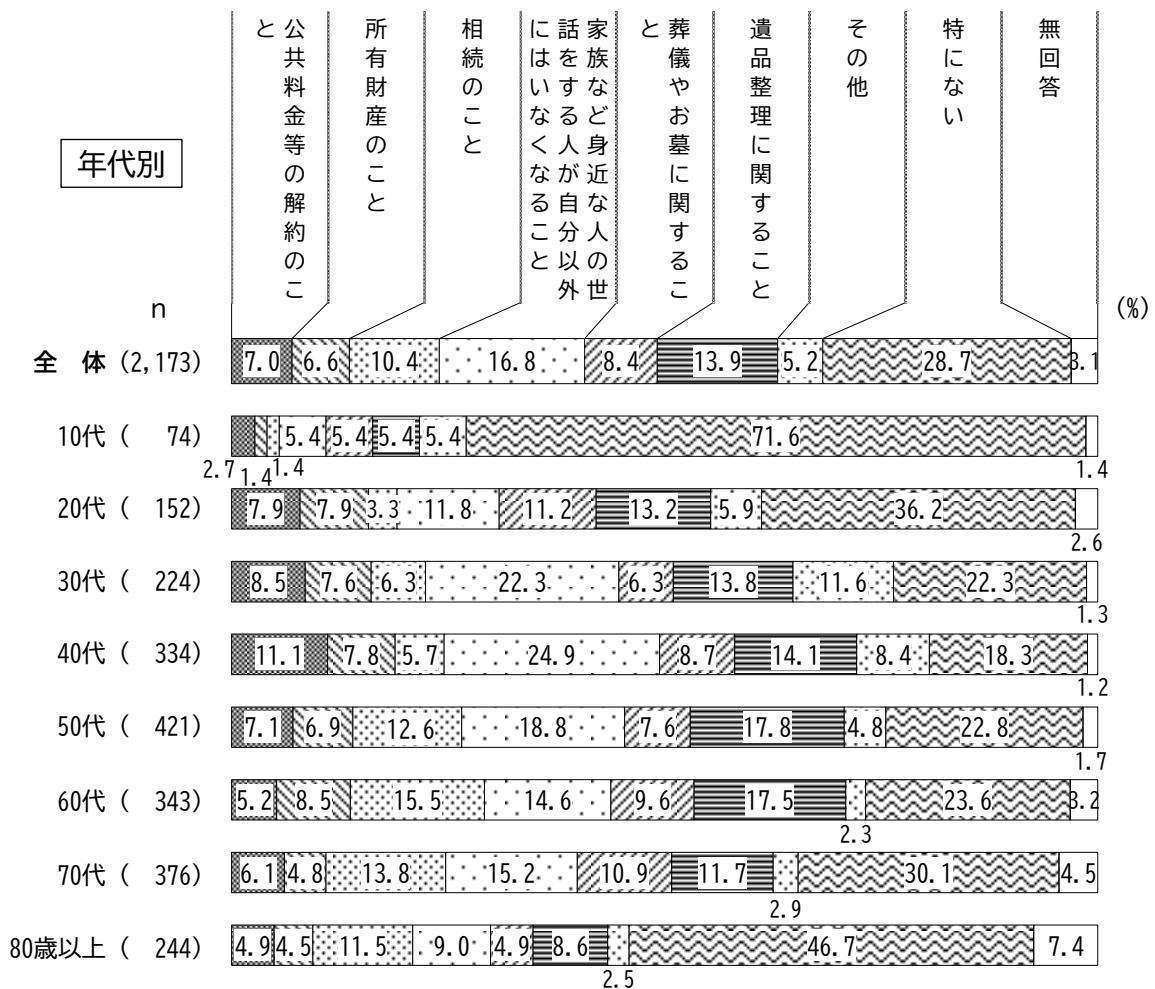
問19 あなたは、自身が亡くなった後のことで最も不安に感じることは何ですか。(1つに○)

自身が亡くなった後のことで最も不安に感じることは、「家族など身近な人の世話をする人が自分以外にはいなくなる」が16.8%、「遺品整理に関すること」が13.9%、「相続のこと」が10.4%などとなっている。一方「特にない」が28.7%で最も高い。



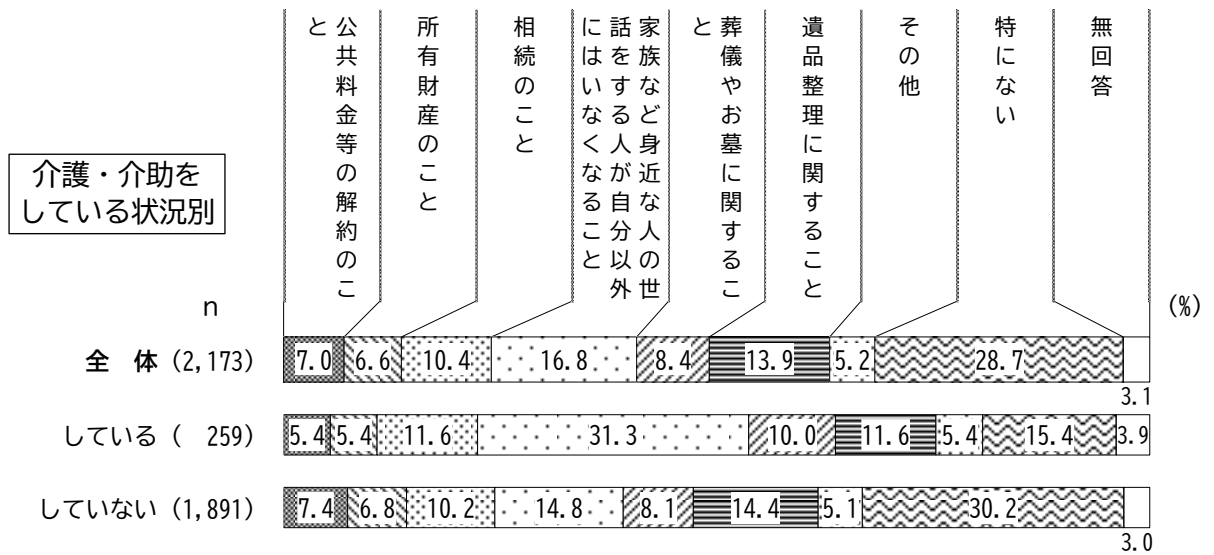
【年代別】

年代別で見ると、「特にない」が多くの年代で高くなっているが30~40代は低く、これらの年代は「家族など身近な人の世話をする人が自分以外にはいなくなる」で2割台半ばとなっている。



【介護・介助をしている状況別】

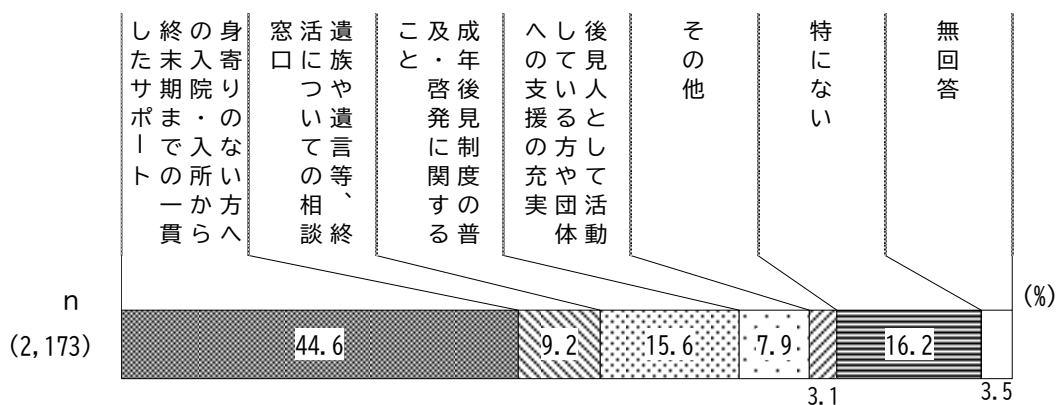
介護・介助をしている状況別でみると、「家族など身近な人の世話をする人が自分以外にはいなくなることは、介護・介助を「している」人で31.3%と、「していない」人に比べて16.5ポイント高くなっている。一方、「特にない」は、「していない」人で30.2%と、「している」人に比べて14.8ポイント高い。



(9) 成年後見制度について最も必要だと思う取組

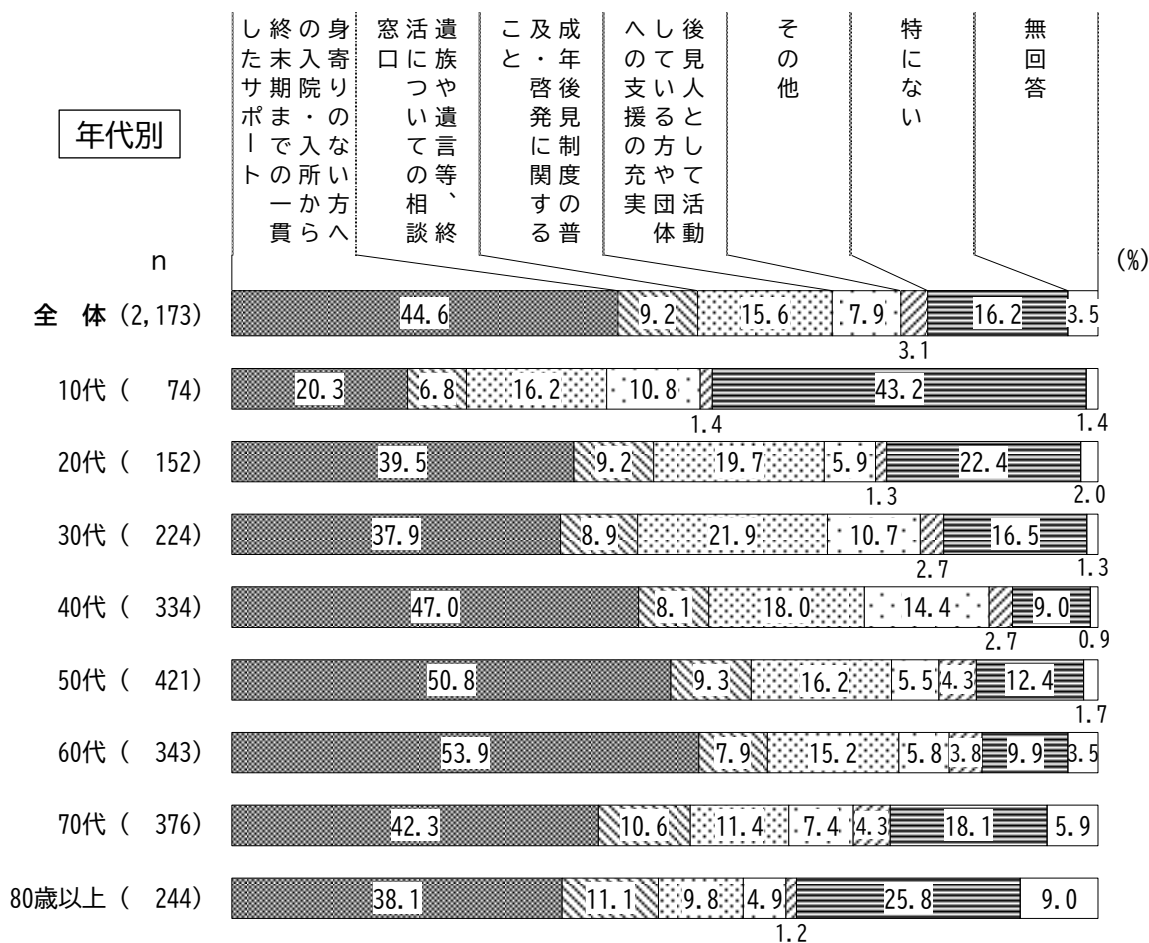
問20 あなたは、成年後見制度について、どのような取組が最も必要だと思いますか。
(1つに○)

成年後見制度について最も必要だと思う取組は、「身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート」が44.6%で最も高く、次いで「成年後見制度の普及・啓発に関すること」が15.6%となっている。一方「特にない」は16.2%である。



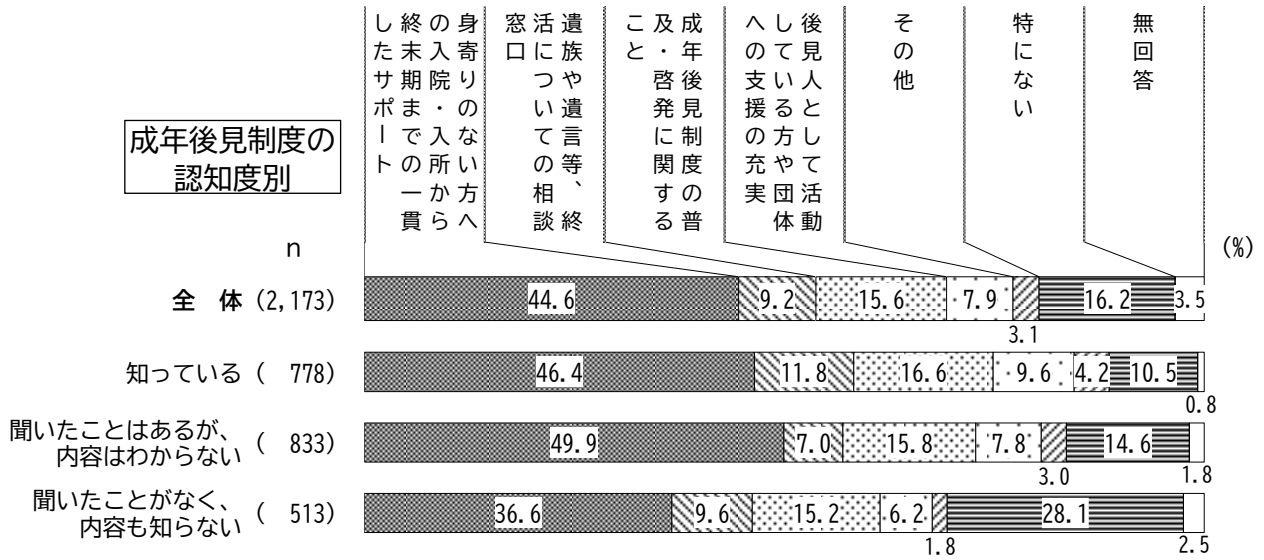
【年代別】

年代別でみると、「身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート」は、50～60代で5割を超え高くなっている。また、「成年後見制度の普及・啓発に関すること」は20～40代で2割前後となっている。



【成年後見制度の認知度別】

成年後見制度の認知度別でみると、制度の認知度にかかわらず「身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート」が高いが、成年後見制度を「聞いたことがなく、内容も知らない」人では36.6%にとどまり、この層は、「特にない」が28.1%となっている。



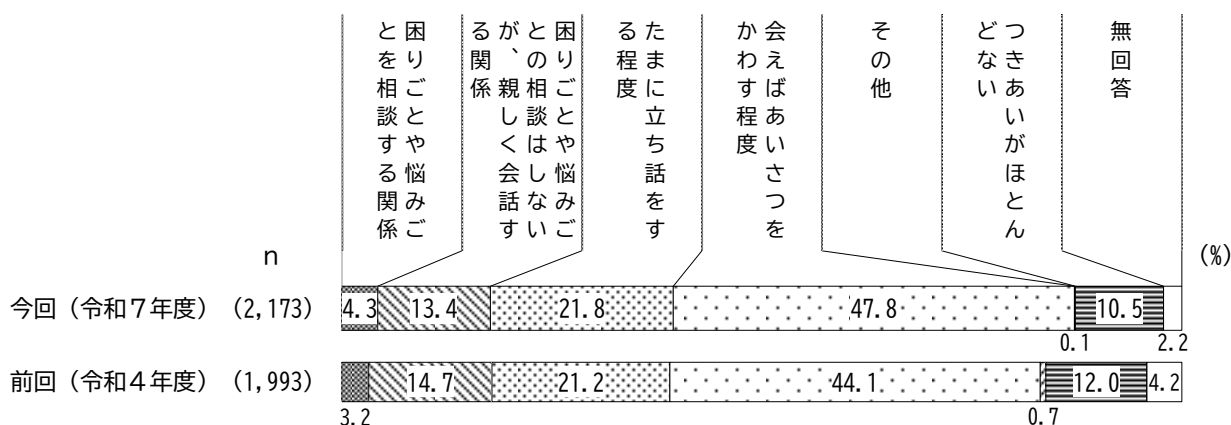
4 地域やご近所との関わりについて

(1) 近所の方とのつき合い方

問21 あなたは、日頃、ご近所の方とどのようなつきあい方をしていますか。(1つに○)

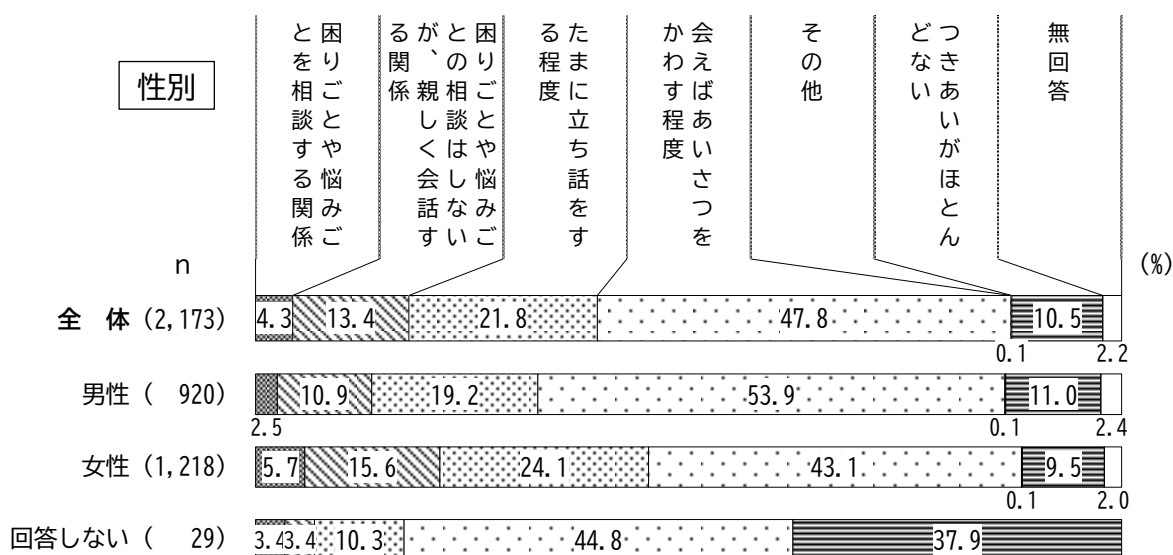
近所の方との日頃のつきあい方は、「会えばあいさつをかわす程度」が47.8%で最も高く、次いで「たまに立ち話をす」が21.8%、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」が13.4%などとなっている。一方、「つきあいがほとんどない」が10.5%となっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【性別】

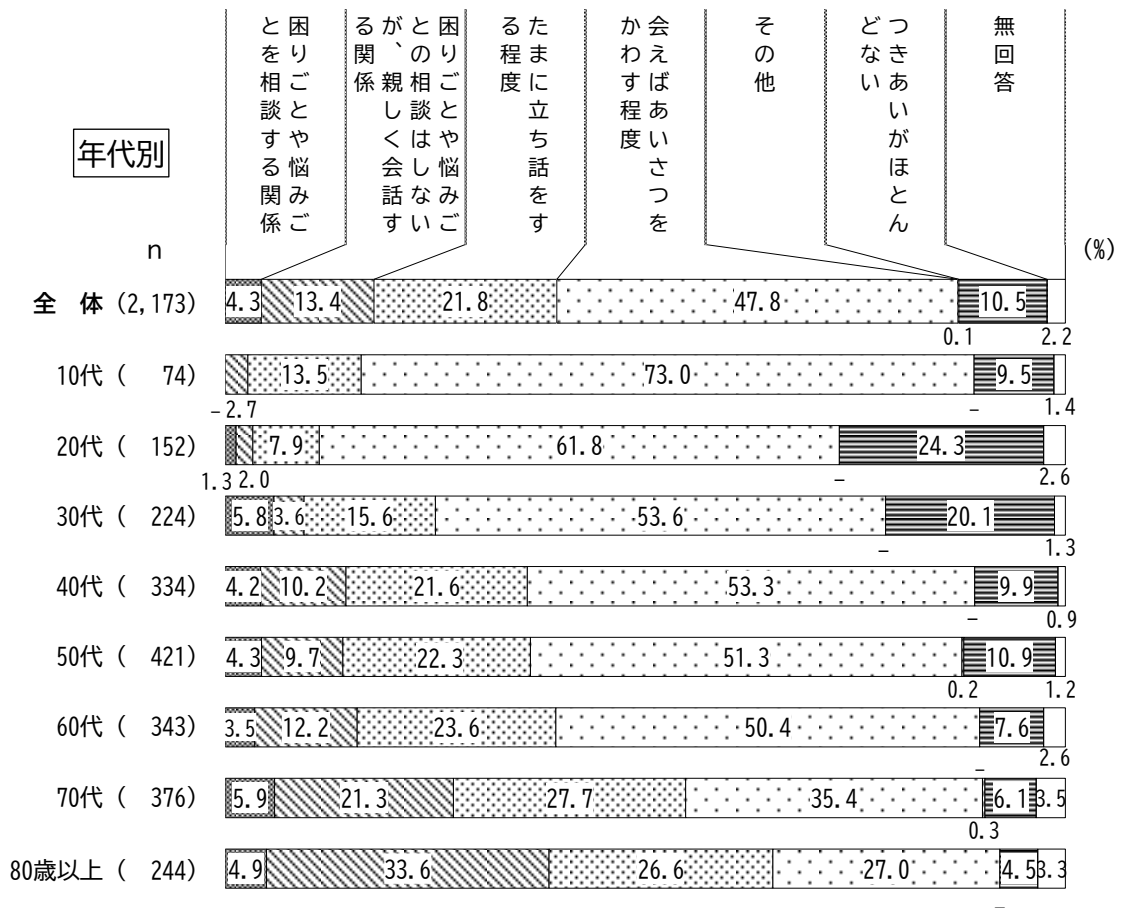
nの人数が確保できている男性と女性についてみると、最も違いが大きいのは「会えばあいさつをかわす程度」で、男性の方が女性よりも10.8ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別でみると、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」と「たまに立ち話をする程度」は、おおむね年代が上がるほど高くなる。「会えばあいさつをかわす程度」は10代で73.0%と最も高く、年代が上がるほど低くなる。

一方、「つきあいがほとんどない」は、20～30代で2割を超える。

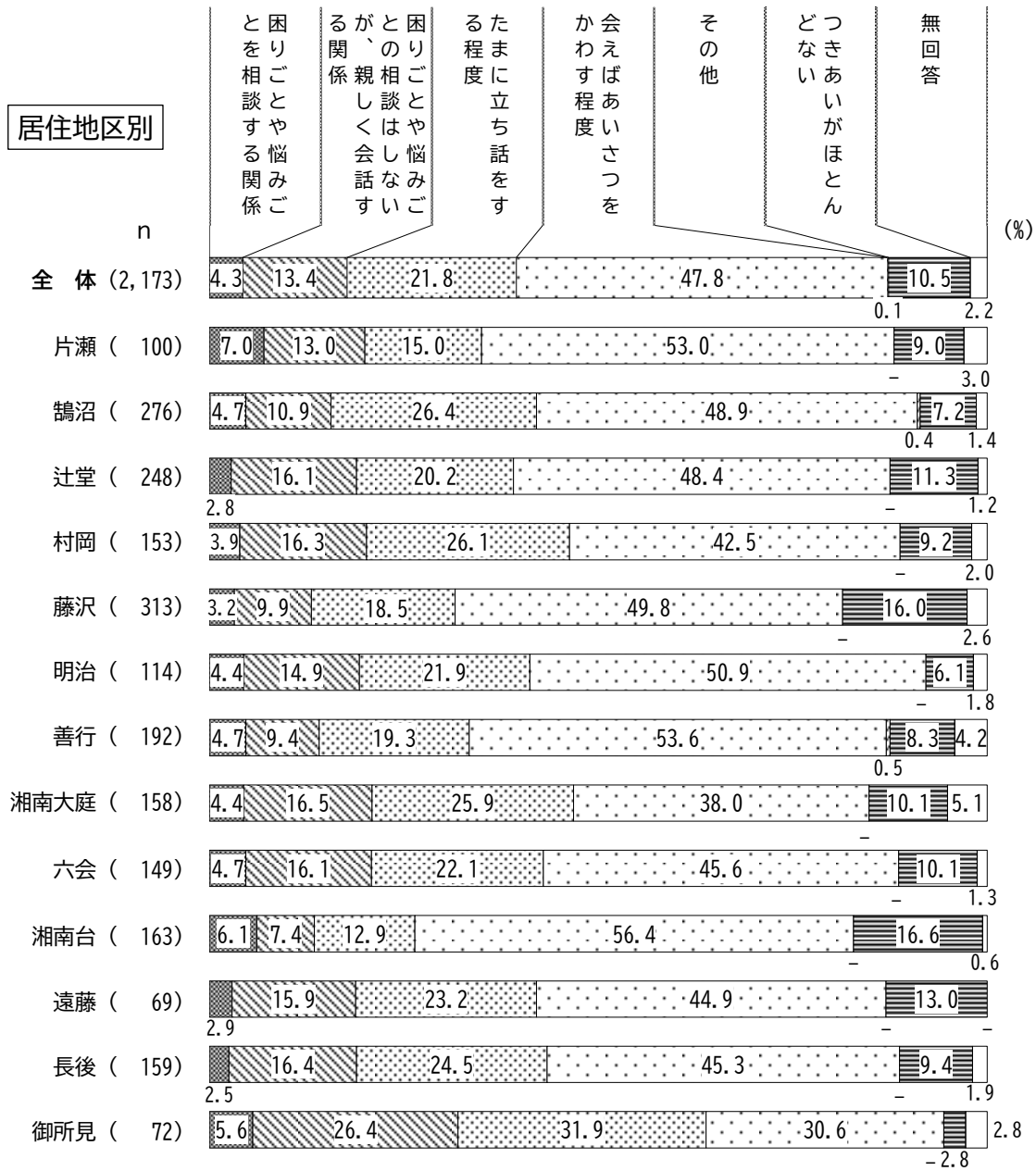


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】

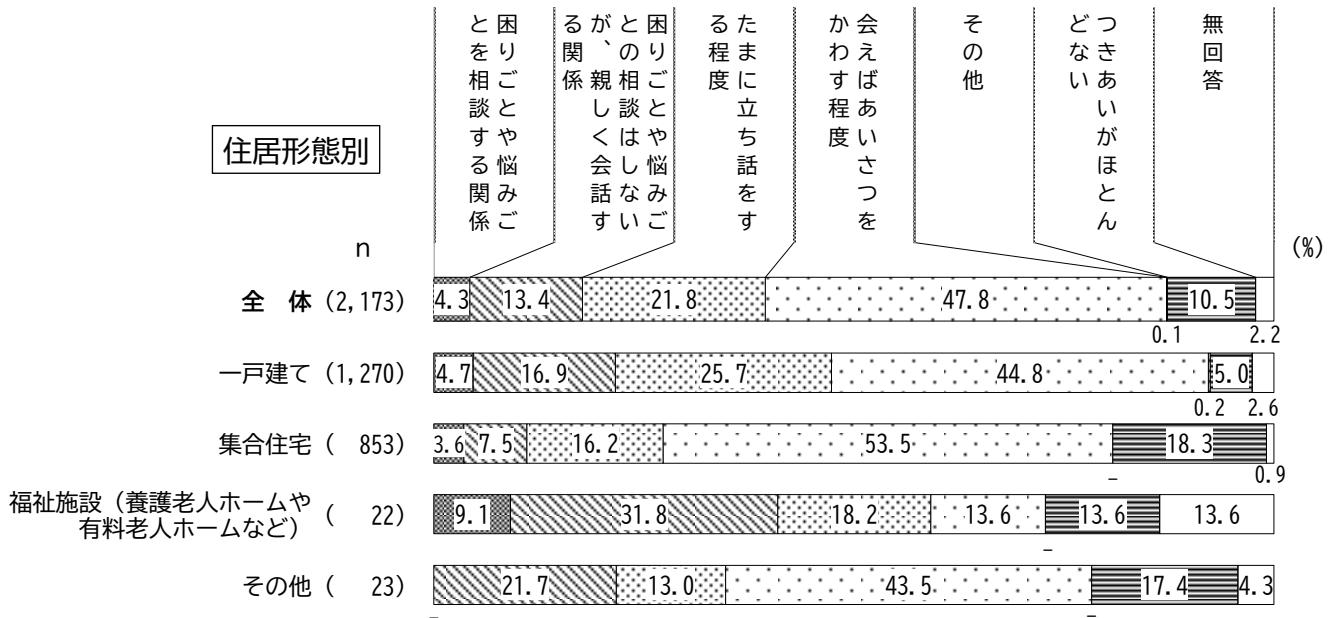
居住地区別でみると、多くの居住地区で「会えばあいさつをかわす程度」が高くなっているが、御所見では、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」が26.4%、「たまに立ち話をする程度」が31.9%と高い。

一方、「つきあいがほとんどない」は、湘南台、藤沢、遠藤で1割台半ばとなっている。



【住居形態別】

住居形態別でみると、「困りごとや悩みごとを相談する関係」と「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」は、一戸建ての方が集合住宅よりも高く、逆に、「会えばあいさつをかわす程度」は集合住宅の方が高い。また、「つきあいがほとんどない」は、集合住宅で18.3%となっている。

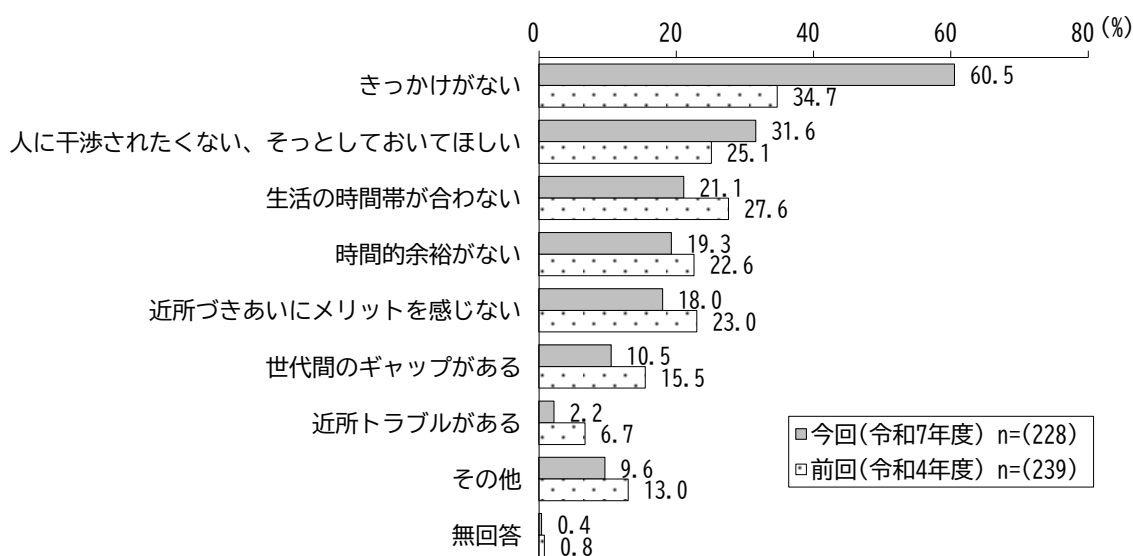


(1-1) つきあいがほとんどない理由

問21で「6 つきあいがほとんどない」と回答した方へ
 問21-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

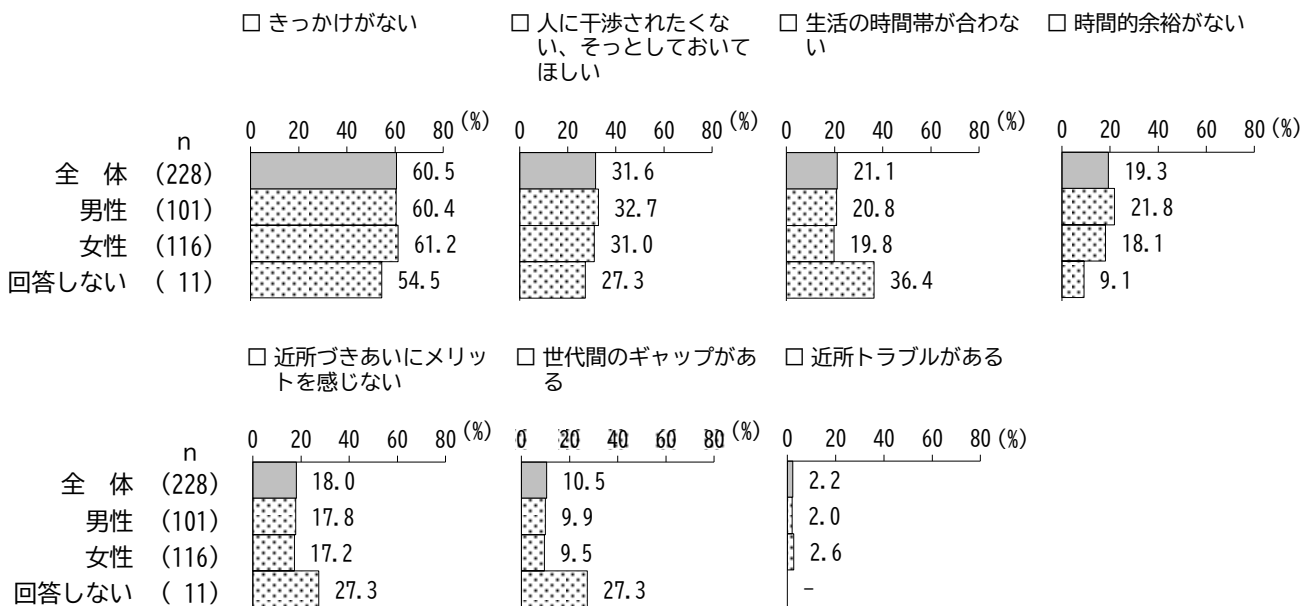
つきあいがほとんどない理由では、「きっかけがない」が60.5%で最も高く、次いで「人に干渉されたくない、そっとしておいてほしい」が31.6%、「生活の時間帯が合わない」が21.1%、「時間的余裕がない」が19.3%などとなっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、「きっかけがない」が25.8ポイント、「人に干渉されたくない、そっとしておいてほしい」が6.5ポイント増加している。逆に、「生活の時間帯が合わない」が6.5ポイント、「近所づきあいにメリットを感じない」と「世代間のギャップがある」が5.0ポイント、「近所トラブルがある」が4.5ポイント減少している。



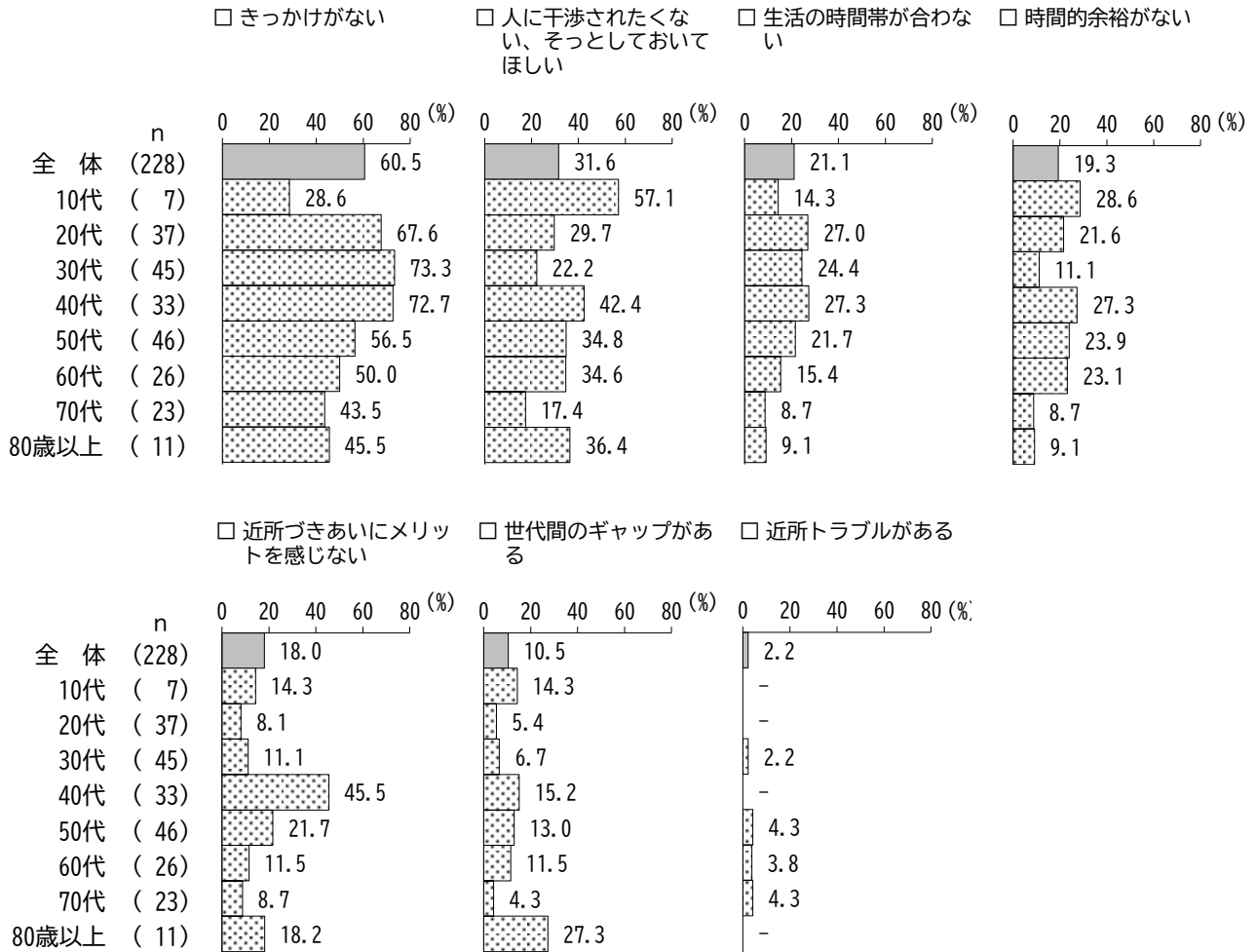
【性別】

nの人数が確保できている男性と女性についてみると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】

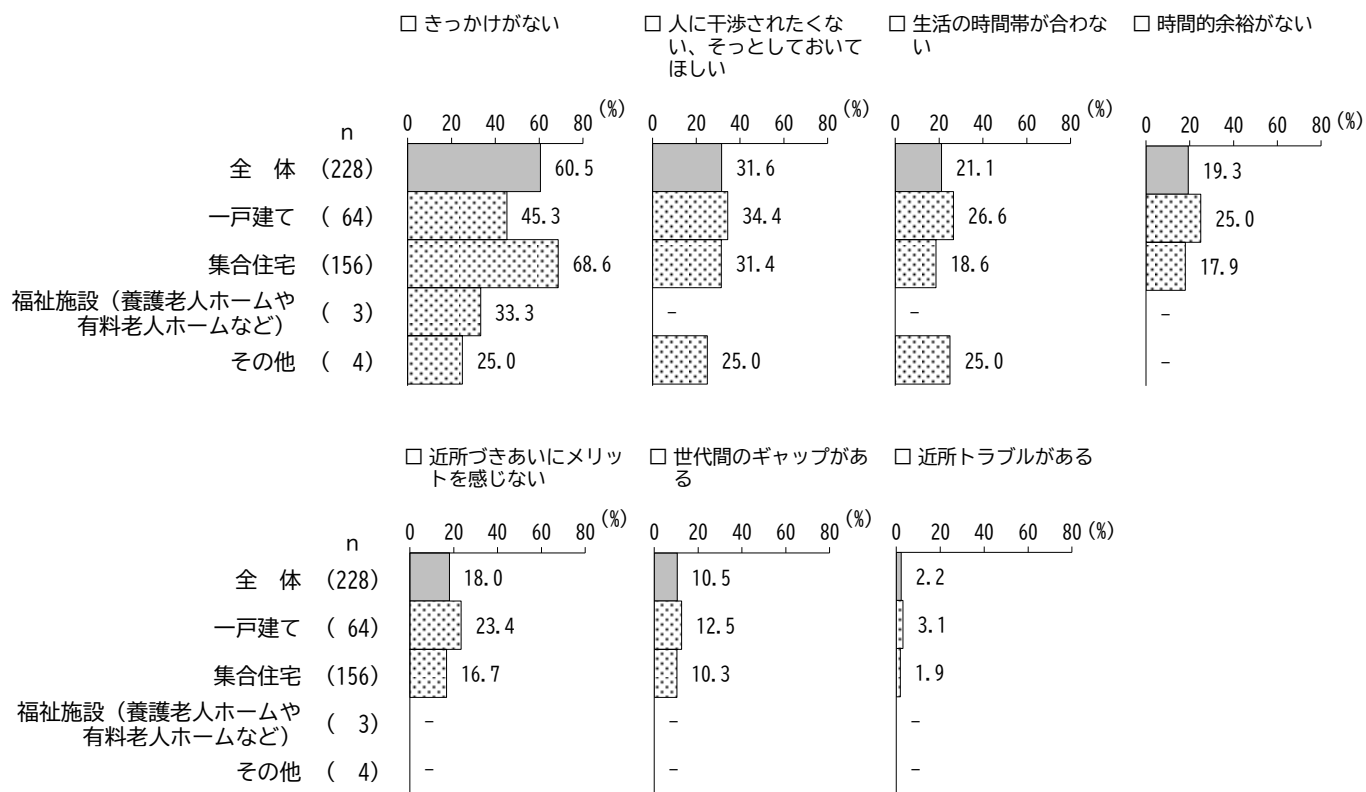
年代別でみると、「きっかけがない」は20～40代で7割前後と高くなっている。また、「人に干渉されたくない、そっとしておいてほしい」と「近所づきあいにメリットを感じない」は40代で高く、ともに4割台である。



第2章 調査結果の詳細

【住居形態別】

「きっかけがない」は、集合住宅の方が一戸建てよりも23.3ポイント高くなっている。しかし、それ以外の項目では一戸建ての方が高くなっている。

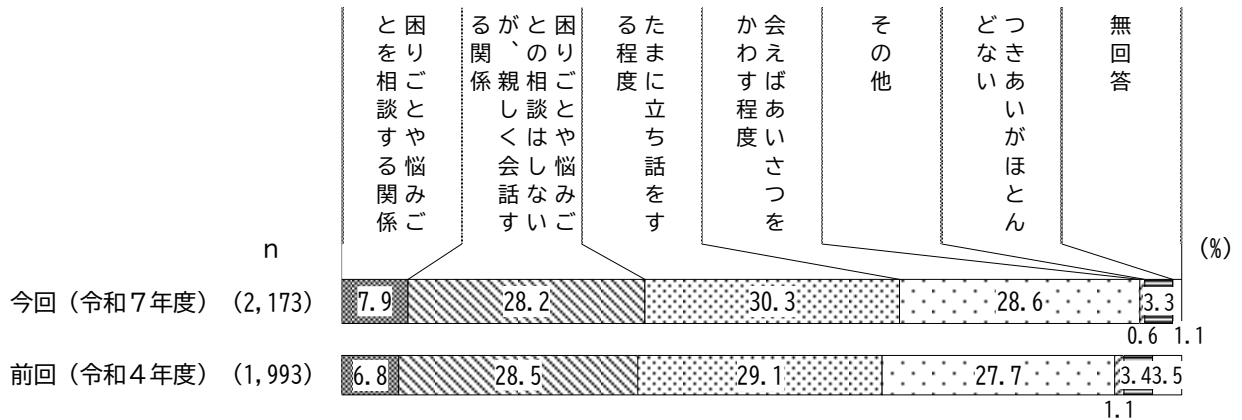


(2) 自分にとって望ましいと思う近所づきあい

問22 あなたにとって望ましい近所づきあいは、どの程度ですか。(1つに○)

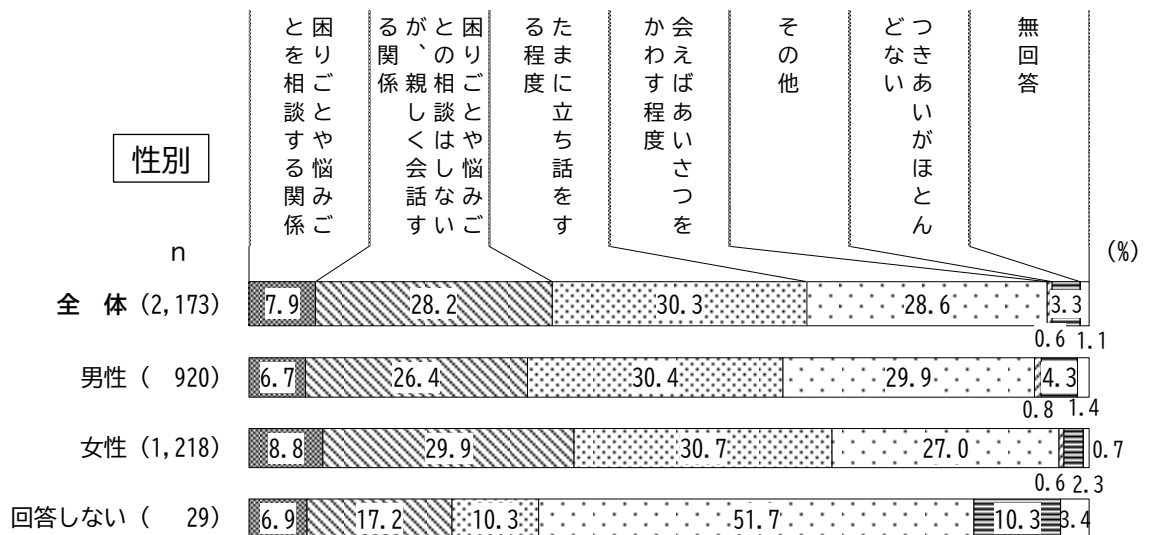
自分にとって望ましいと思う近所づきあいは、「たまに立ち話をする程度」が30.3%で最も高く、僅差で「会えばあいさつをかわす程度」(28.6%)、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」(28.2%)となっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【性別】

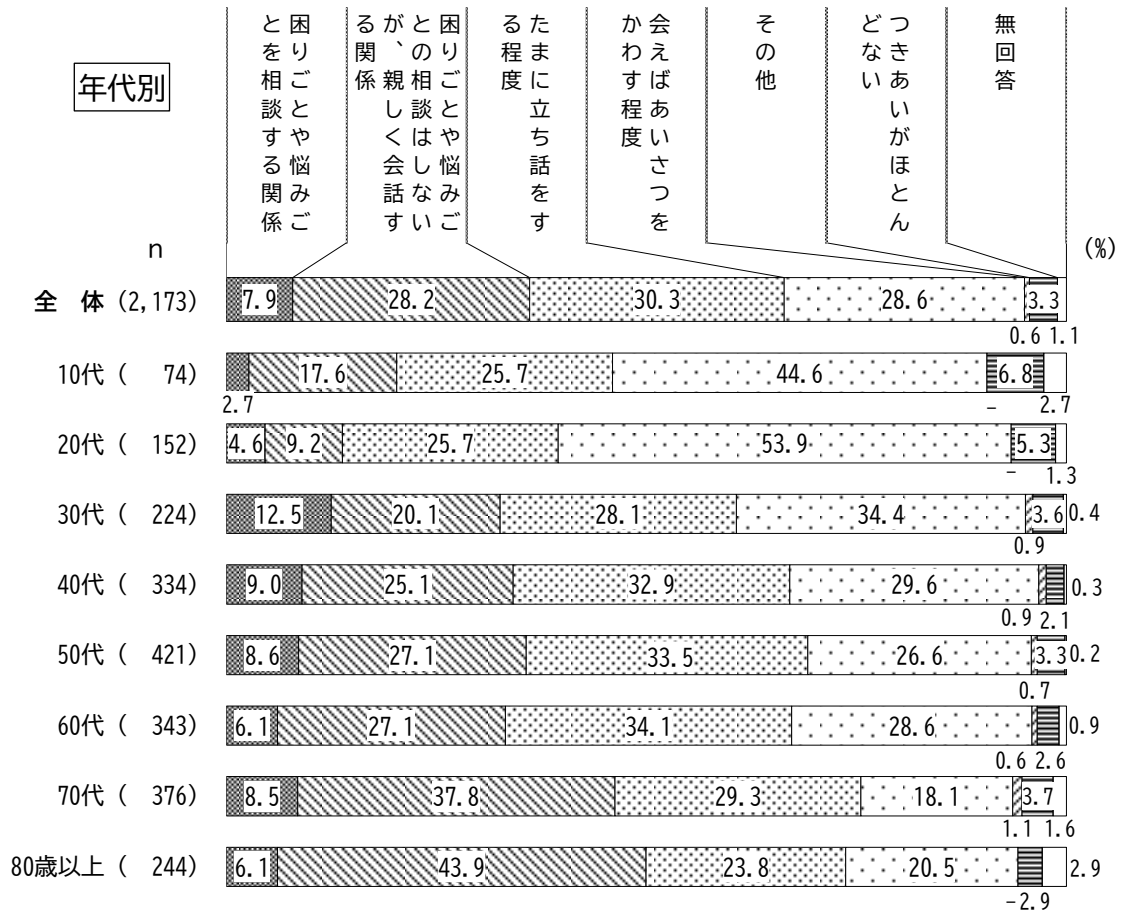
nの人数が確保できている男性と女性についてみると、特に大きな違いはみられない。



第2章 調査結果の詳細

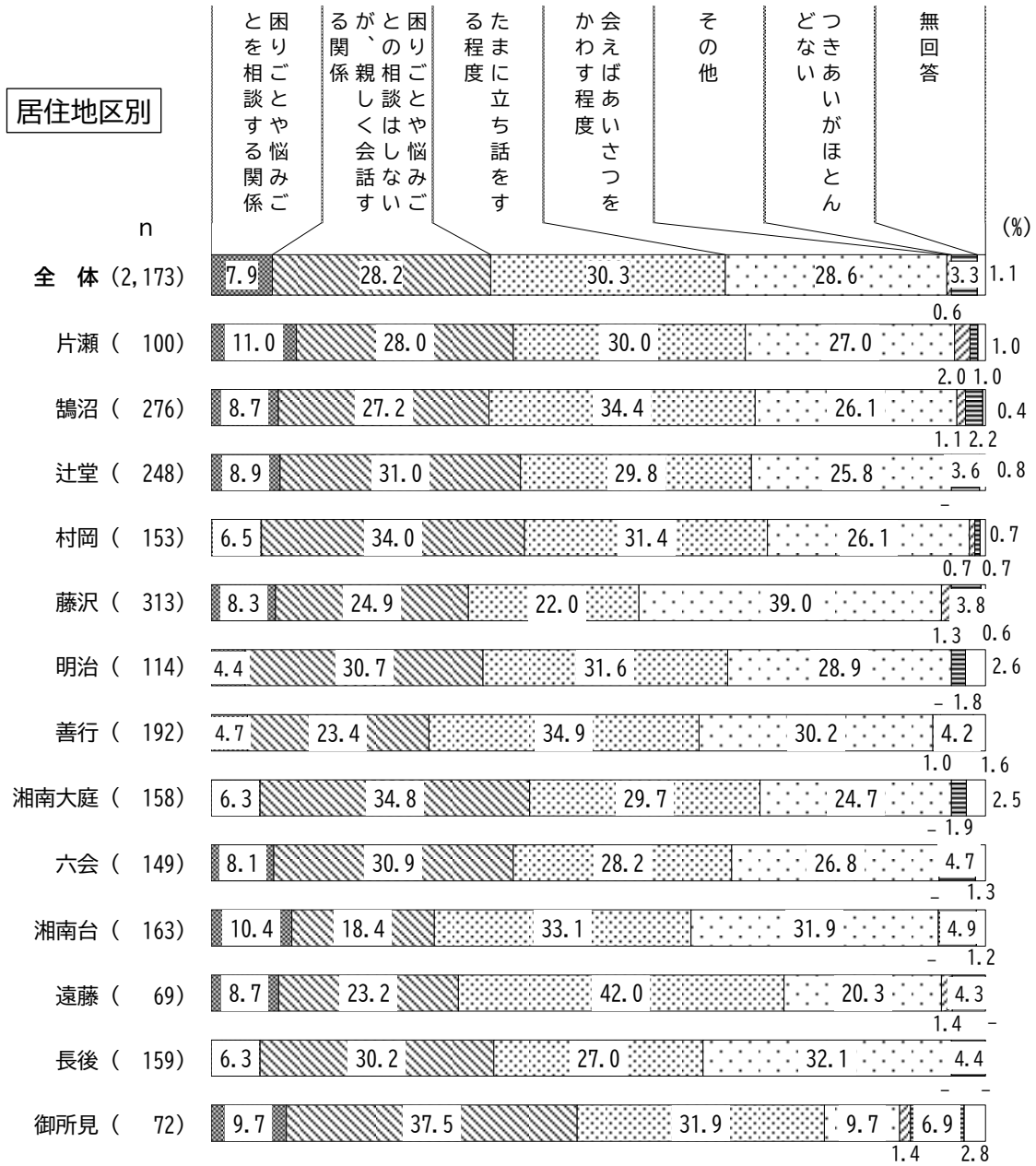
【年代別】

年代別でみると、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」は70歳以上、「たまに立ち話をする程度」は40～60代、「会えばあいさつをかわす程度」は10～30代で高い傾向がみられる。



【居住地区別】

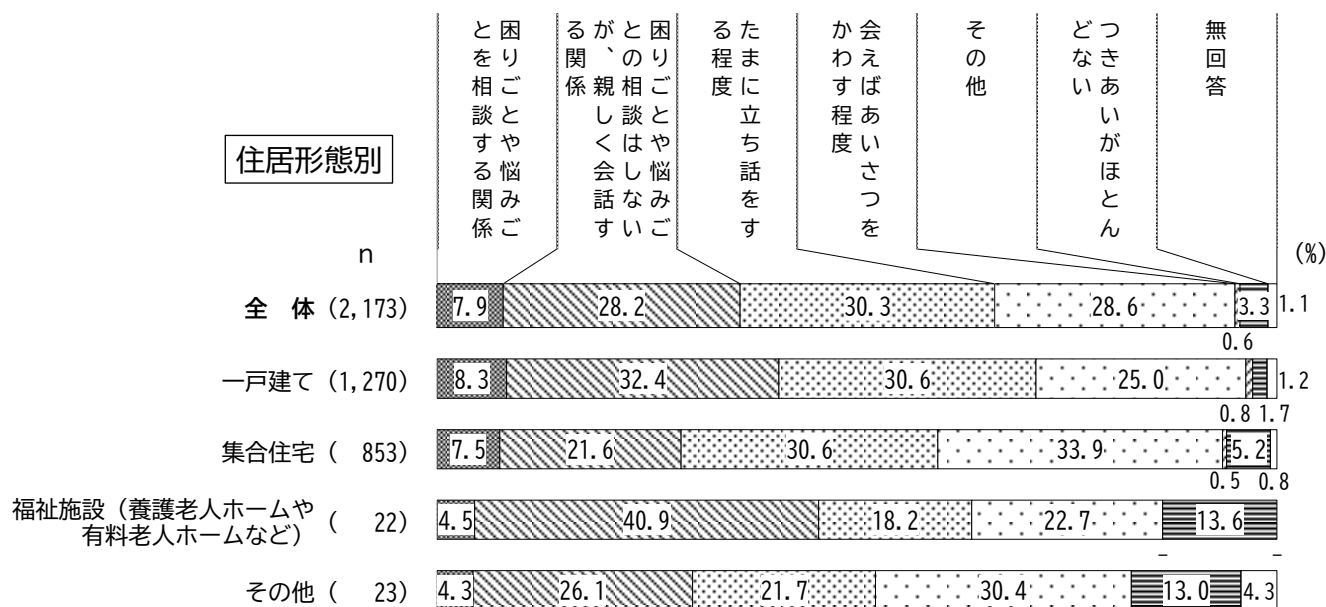
居住地区別でみると、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」は御所見で37.5%、「たまに立ち話をする程度」は遠藤で42.0%、「会えばあいさつをかわす程度」は藤沢で39.0%と、それぞれ最も高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

【住居形態別】

住居形態別でみると、「困りごとや悩みごとを相談する関係」と「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」は、一戸建ての方が集合住宅よりも高く、逆に、「会えばあいさつをかわす程度」は集合住宅の方が高い。

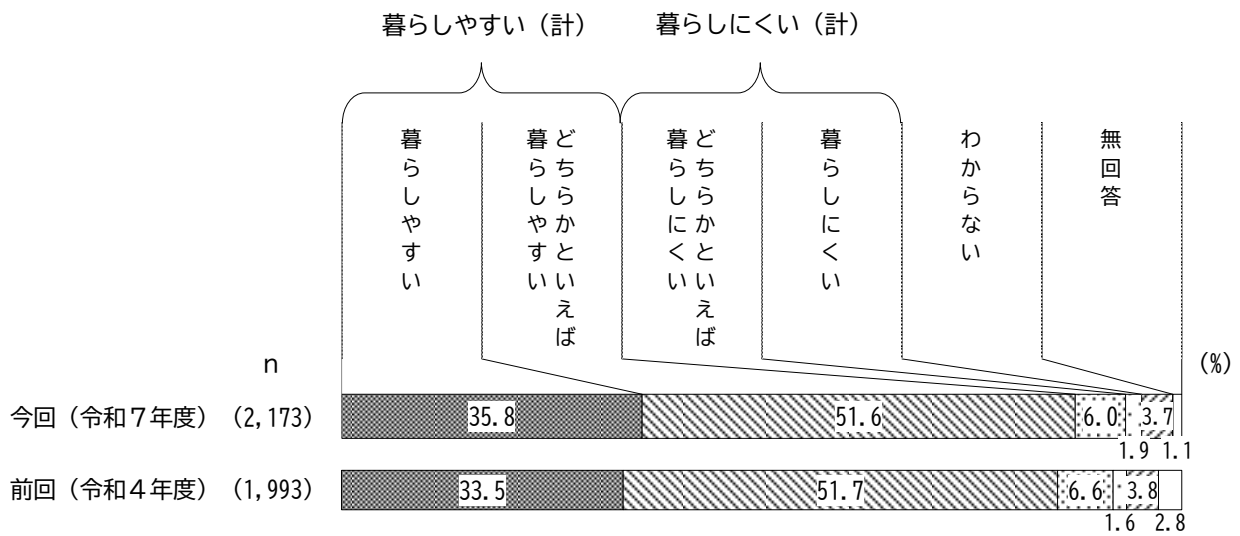


(3) 居住地域の暮らしやすさ

問23 あなたのお住まいの地域での暮らしについてどう思われますか。(1つに○)

居住地域の暮らしやすさでは、「暮らしやすい」が35.8%で、「どちらかといえば暮らしやすい」が51.6%と最も高い。これらを合わせた【暮らしやすい(計)】は87.4%となっている。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」(6.0%)と「暮らしにくい」(1.9%)を合わせた【暮らしにくい(計)】は7.9%である。

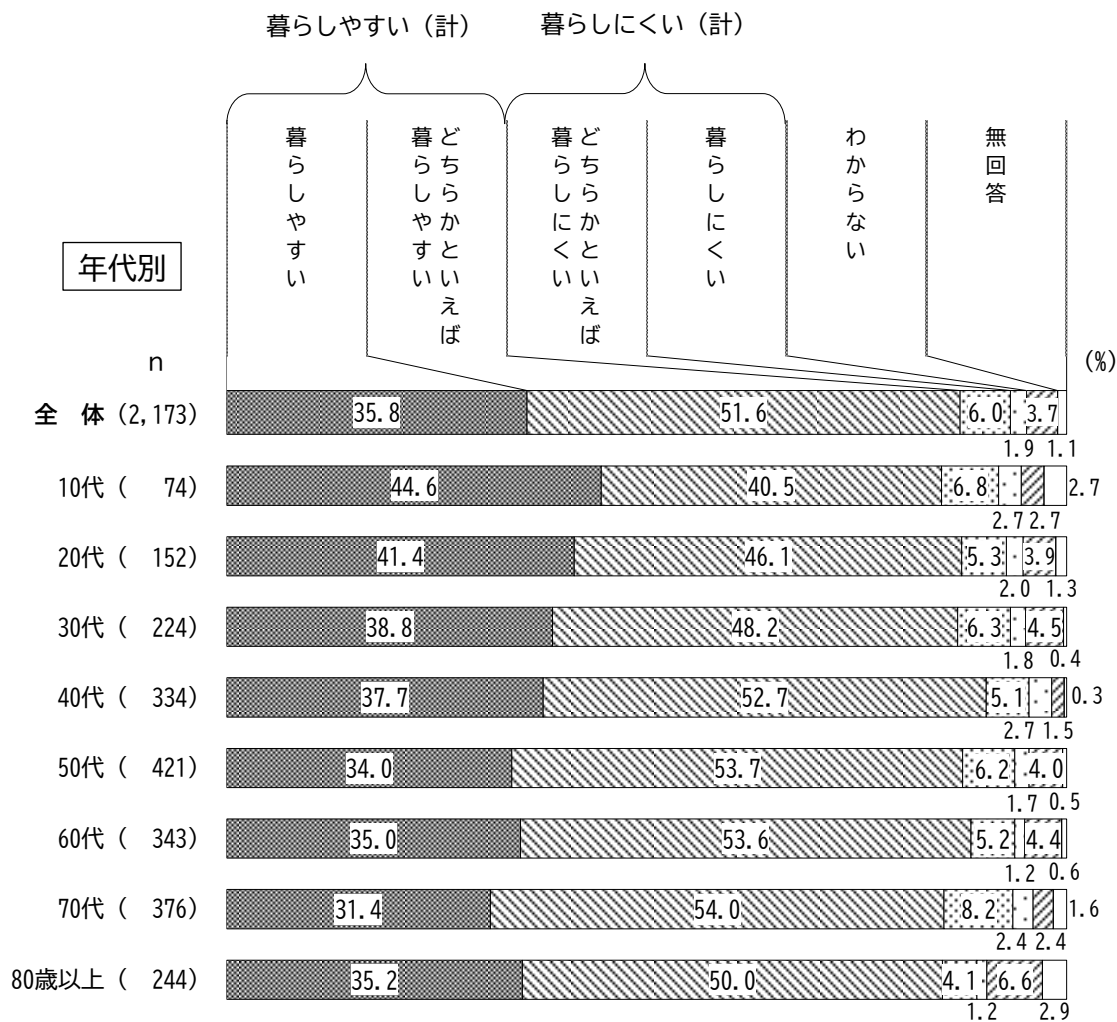
前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



第2章 調査結果の詳細

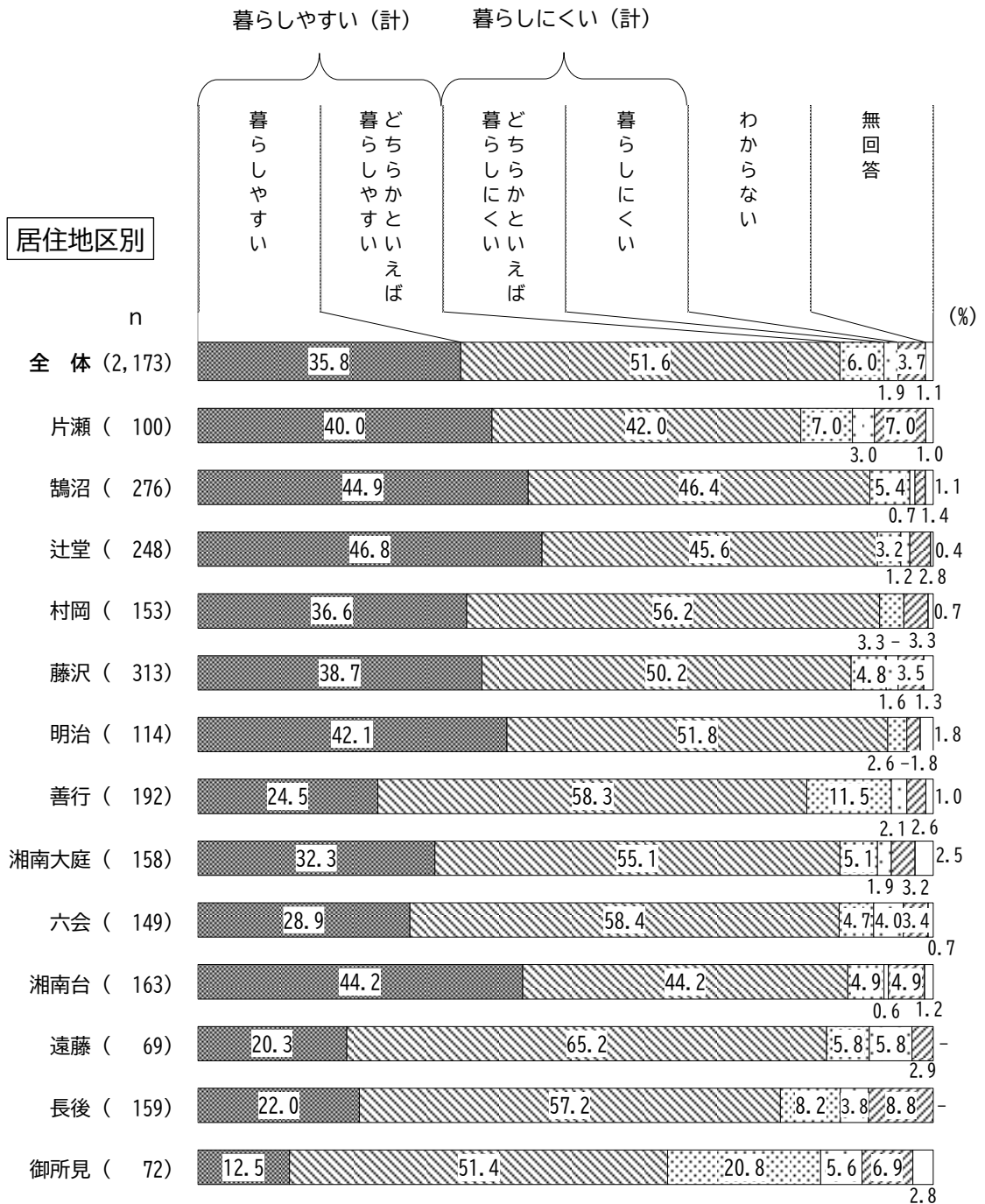
【年代別】

年代別でみると、「暮らしやすい」は10代で44.6%と最も高く、おおむね年代が上がるほど低くなっている。【暮らしやすい(計)】では、全ての年代で85%以上となっており、特に、40代は90.4%となっている。



【居住地区別】

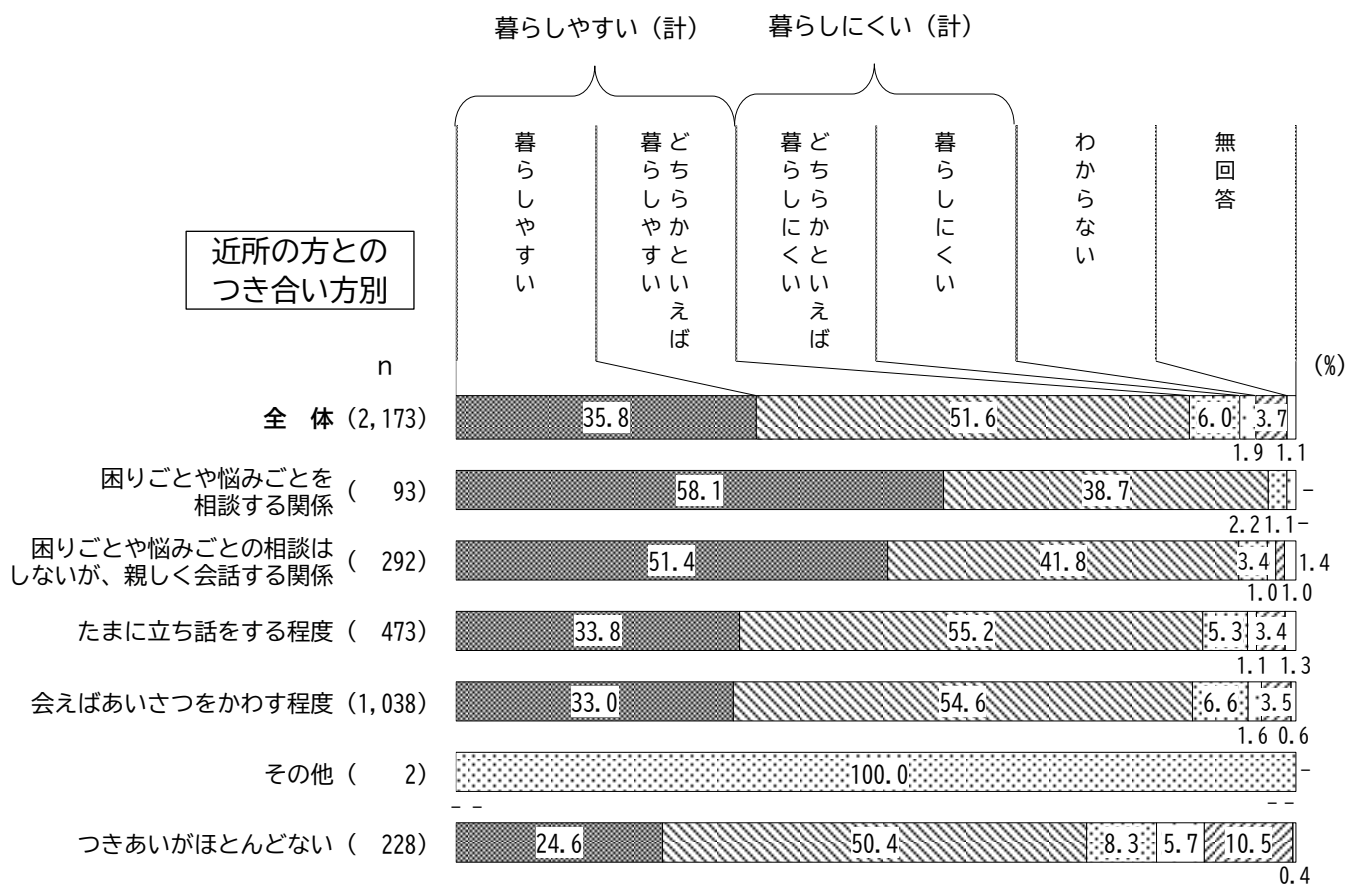
年代別でみると、「暮らしやすい」は、辻堂、湘南台、鶴沼で4割台半ばと高くなっている。【暮らしやすい(計)】では、多くの居住地区で8割を超えているが、長後は79.2%、御所見は63.9%と8割を下回っている。



第2章 調査結果の詳細

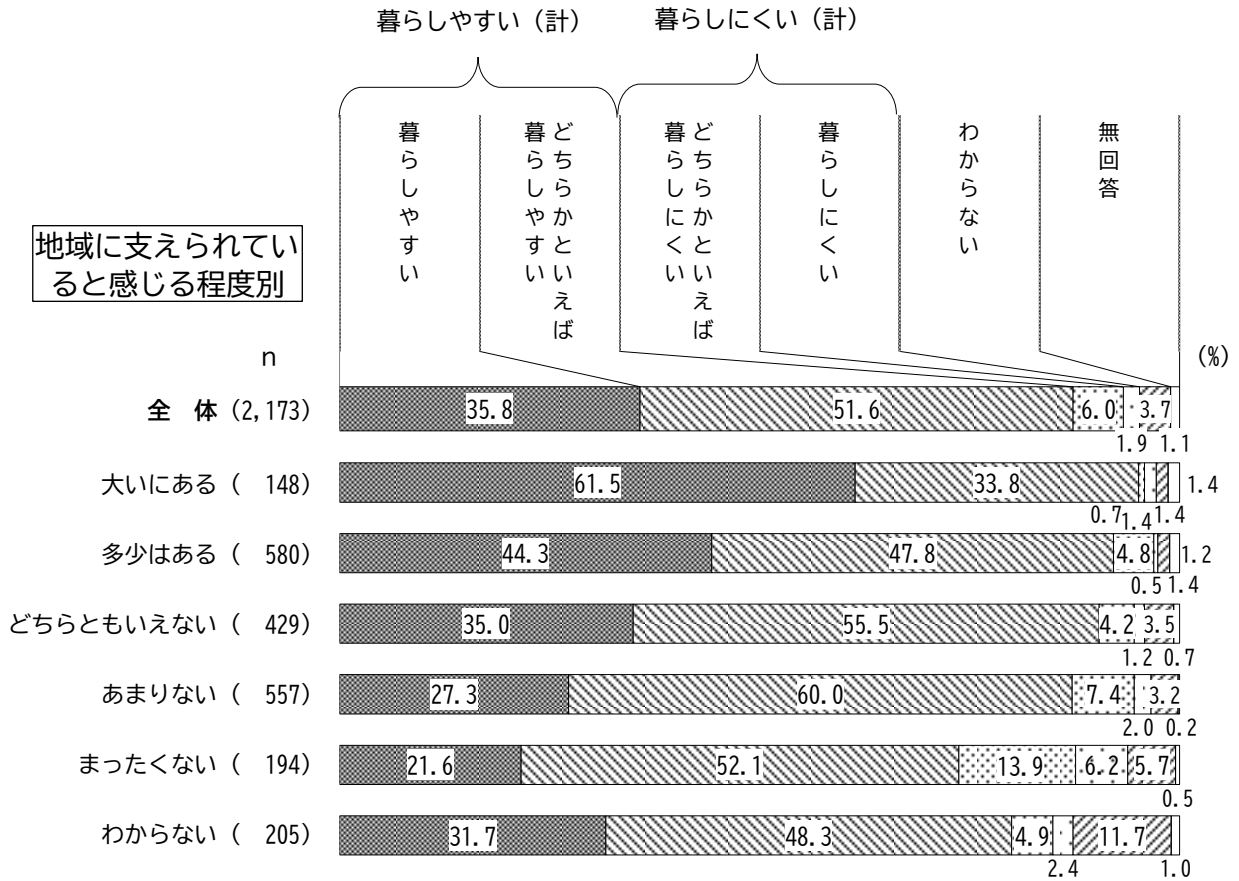
【近所の方とのつき合い方別】

近所の方とのつき合い方別でみると、「暮らしやすい」は、「困りごとや悩みごとを相談する関係」のつき合い方をしている人で58.1%と高く、関係性が薄くなるほど低くなっている。このことは、【暮らしやすい（計）】でも同様である。



【地域に支えられていると感じる程度別】

地域に支えられていると感じる程度別でみると、「暮らしやすい」は、地域に支えられていると感じることが「大いにある」人で61.5%と最も高く、支えられていると感じていなくなるほど低くなっている。このことは、【暮らしやすい（計）】でも同様である。

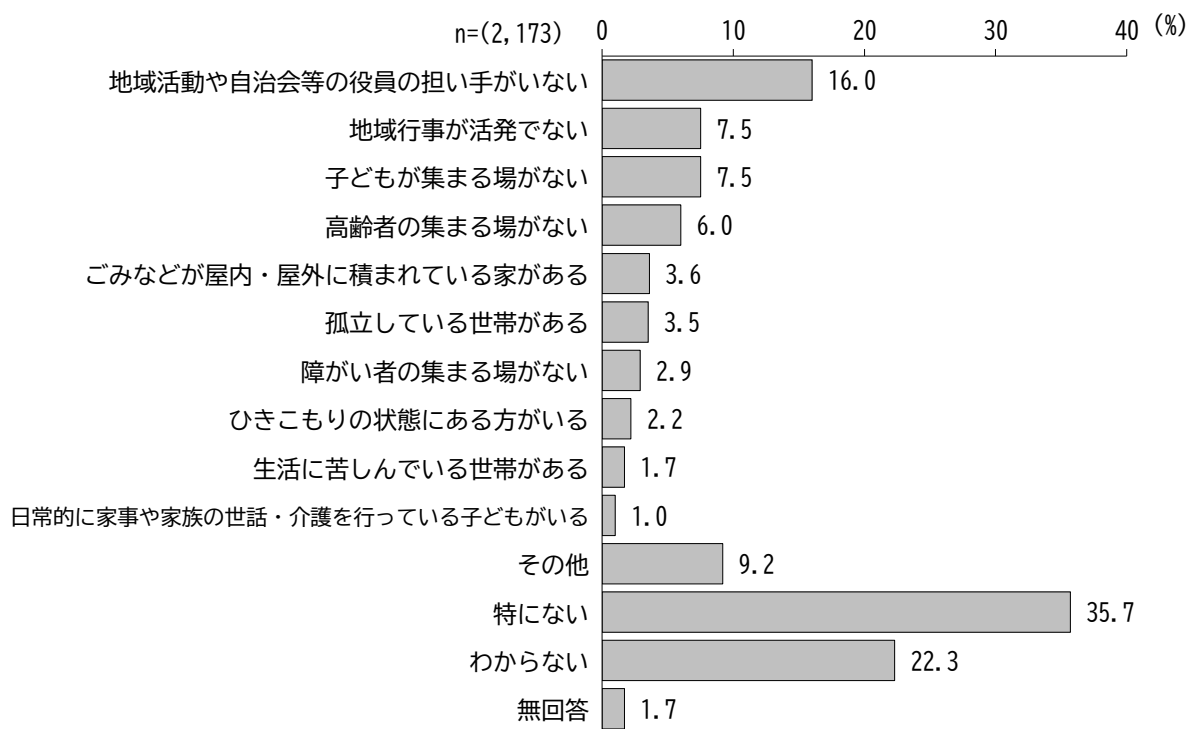


(4) 居住地域で気になっていること

問24 お住まいの地域で気になっていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

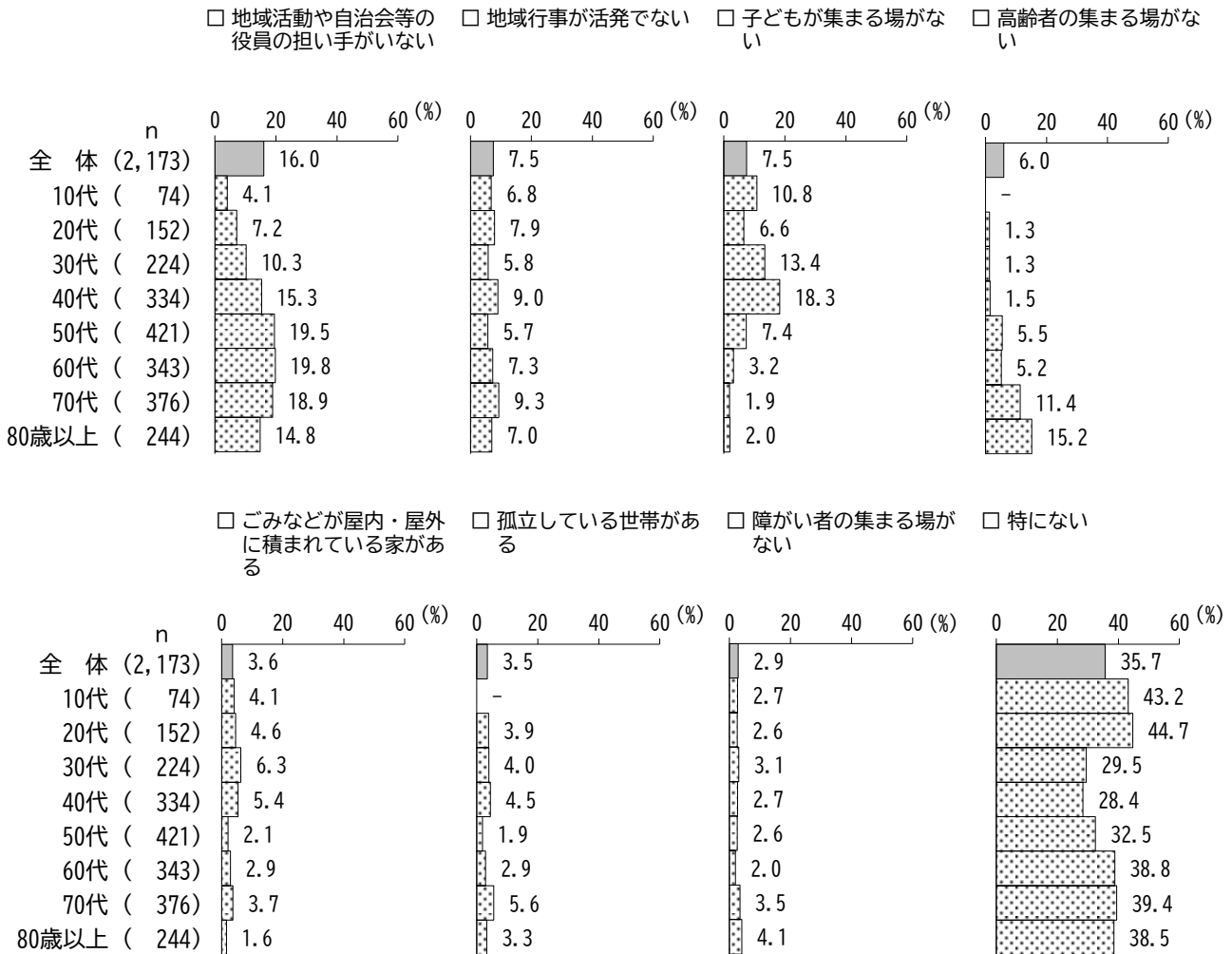
居住地域で気になっていることでは、「特にない」が35.7%と最も高く、次いで「わからない」が22.3%となっている。

気になっている内容の中では、「地域活動や自治会等の役員の担い手がいない」が16.0%で最も高く、次いで「地域行事が活発でない」と「子どもが集まる場がない」(各7.5%)、「高齢者の集まる場がない」(6.0%)と続いている。



【年代別】（上位7項目+「特にない」）

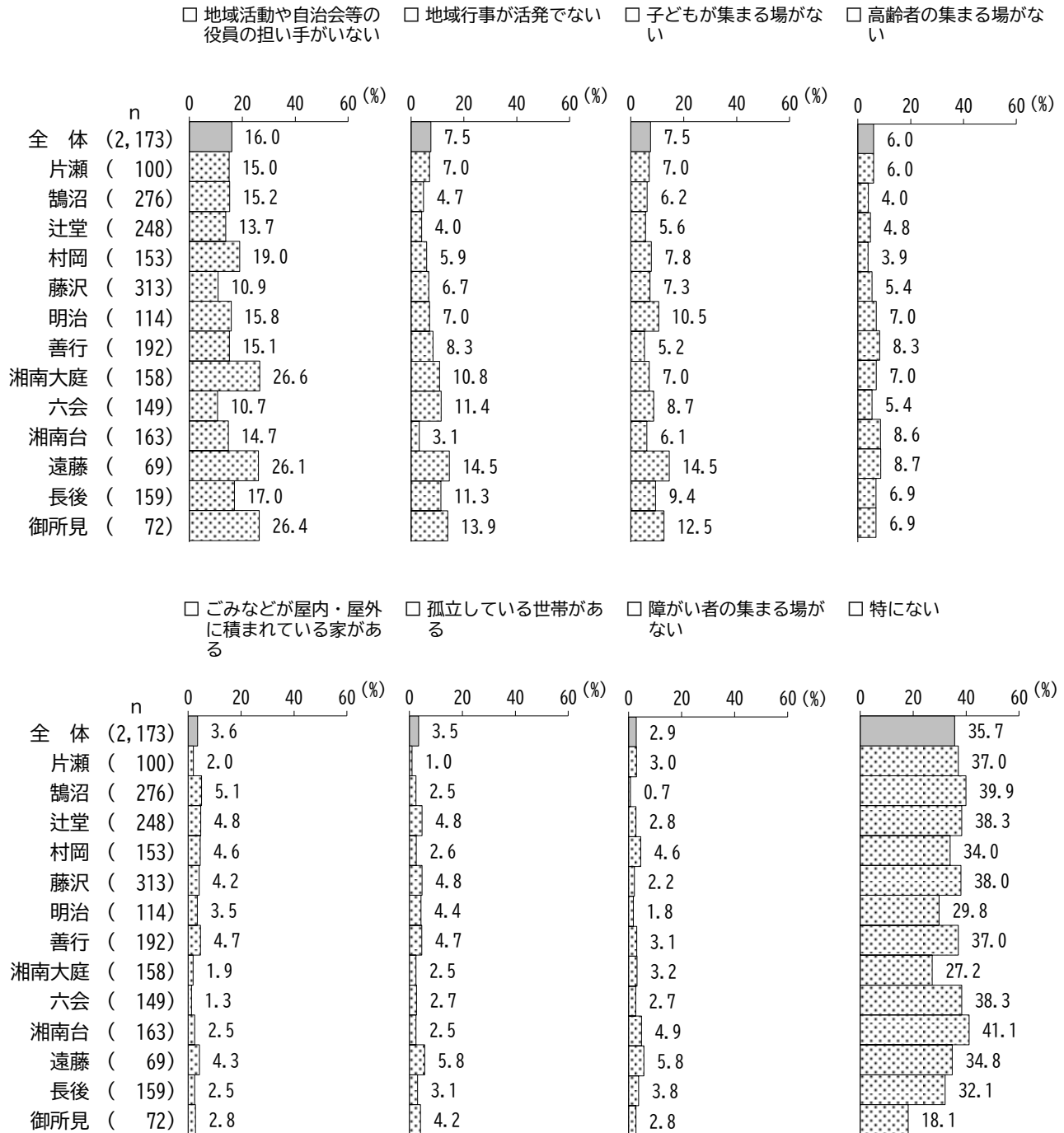
年代別で上位7項目をみると、「地域活動や自治会等の役員の担い手がいない」は50～70代で、「子どもが集まる場がない」は40代で、それぞれ約2割となっている。
一方、全ての年代で「特にない」は高く、特に、10～20代で4割台半ばである。



第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「特にない」）

居住地区別で上位7項目をみると、「地域活動や自治会等の役員の担い手がいない」は、湘南大庭、御所見、遠藤で2割台半ばと高くなっている。また、御所見と遠藤は「地域行事が活発でない」と「子どもが集まる場がない」でも高い傾向にあり、特に、御所見は「特にない」が18.1%にとどまっている。

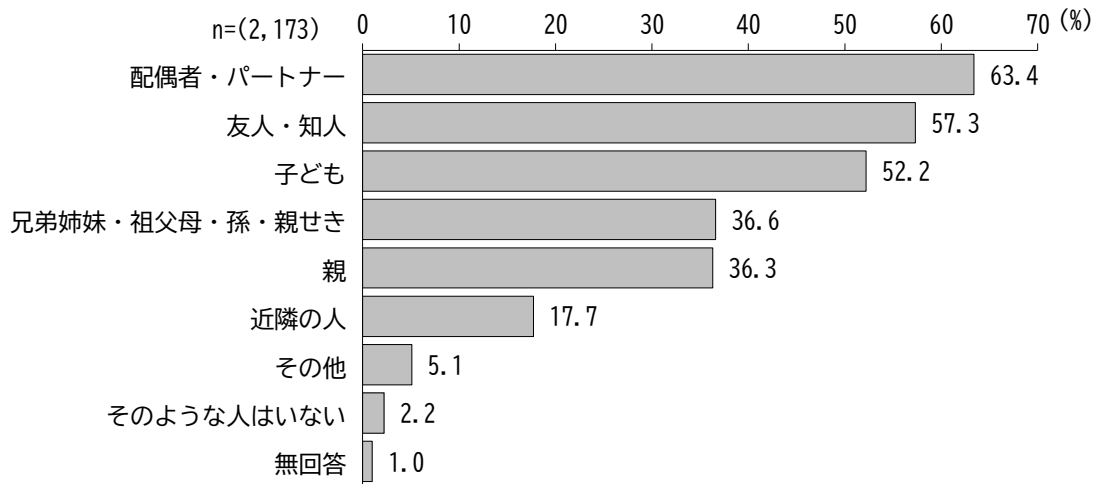


5 人と人とのつながりについて

(1) 日ごろ気軽に会話できる人

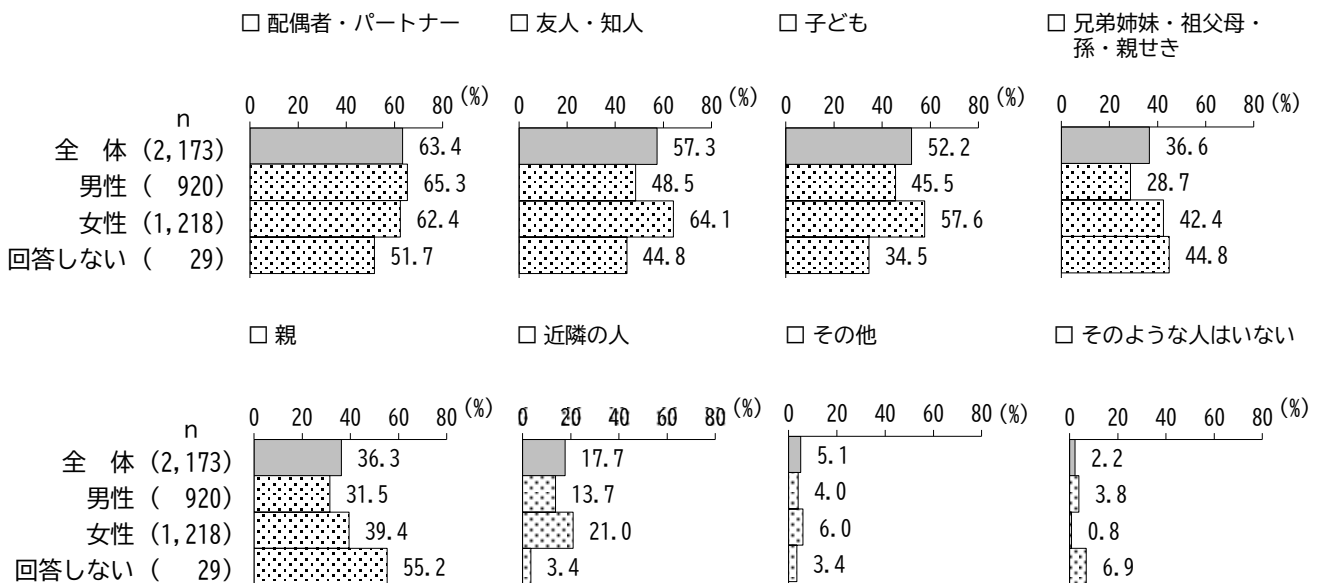
問25 あなたには、日ごろ気軽に会話できる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

日ごろ気軽に会話できる人は、「配偶者・パートナー」が63.4%で最も高く、次いで「友人・知人」(57.3%)、「子ども」(52.2%)が過半数で続く。



【性別】(上位7項目+「そのような人はいない」)

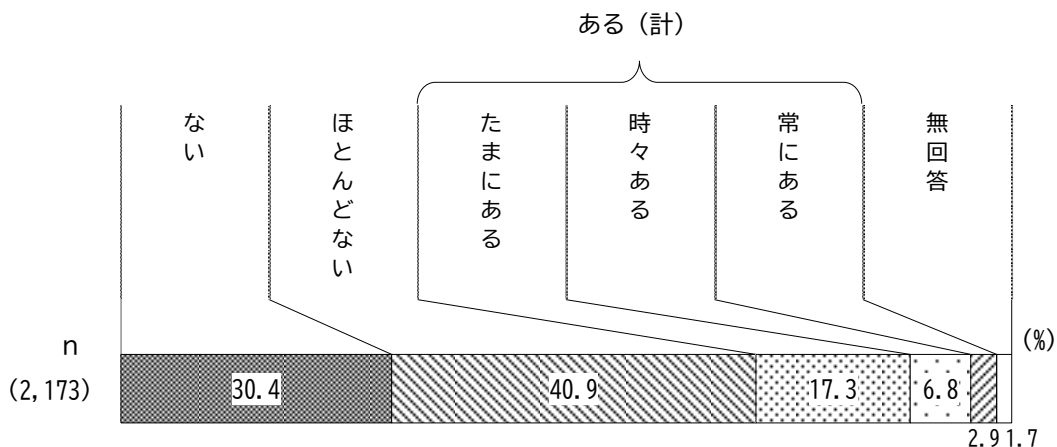
nの人数が確保できている男性と女性について上位7項目をみると、「配偶者・パートナー」を除いて、いずれも女性の方が男性よりも高くなっており、「友人・知人」、「子ども」、「兄弟姉妹・祖父母・孫・親せき」では10ポイント以上の差がみられる。



(2) 孤独を感じること

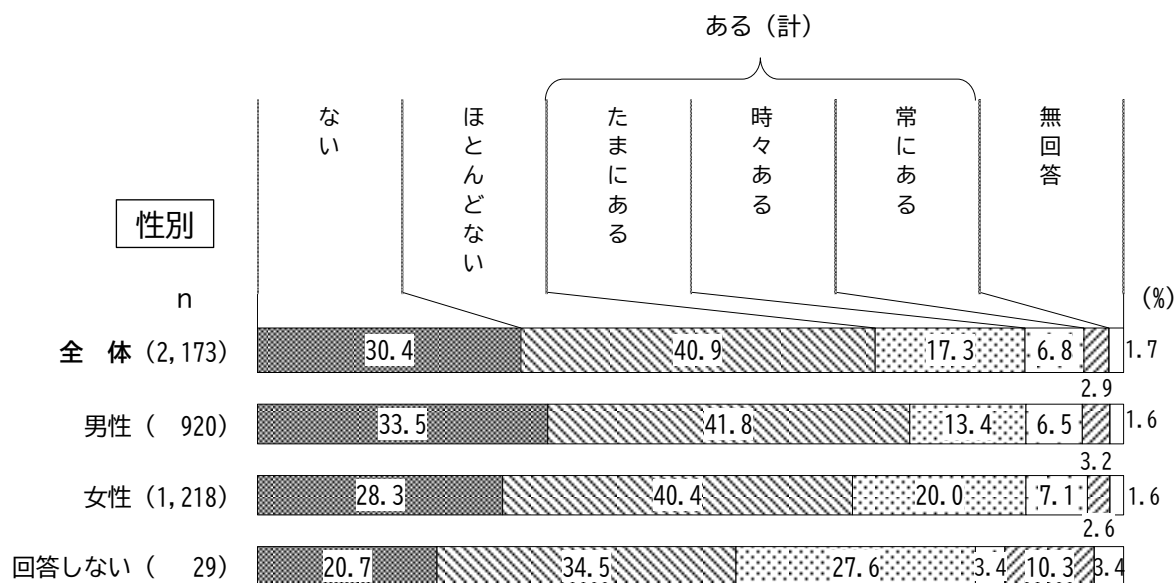
問26 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

孤独を感じることは、「常にある」が2.9%となっている。これに「たまにある」(17.3%)と「時々ある」(6.8%)を合わせた【ある(計)】は27.0%である。



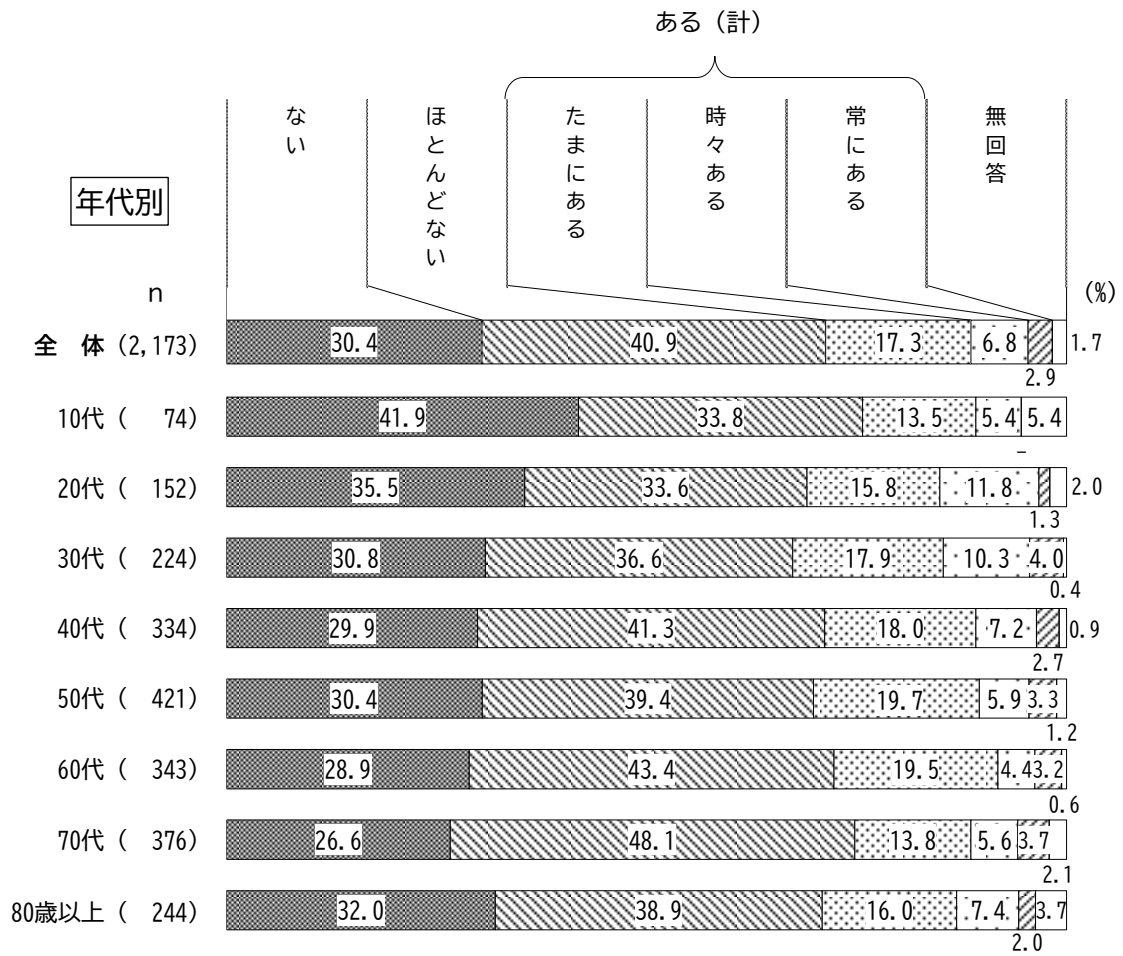
【性別】

nの人数が確保できている男性と女性についてみると、「ない」は男性の方が女性よりも5.2ポイント高くなっている。「たまにある」は女性の方が6.6ポイント高く、【ある(計)】でも女性が6.6ポイント高い。



【年代別】

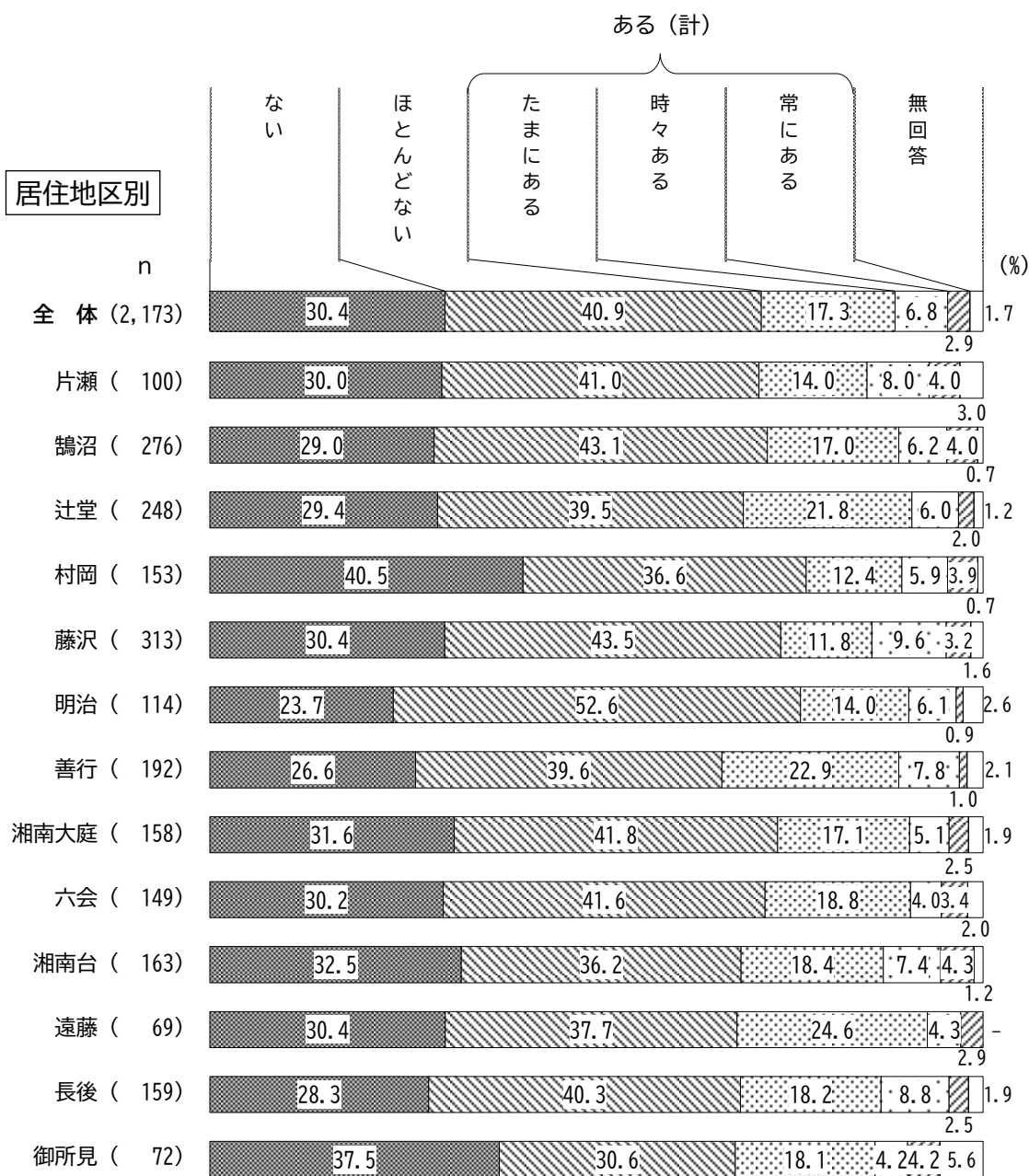
年代別でみると、「ない」は10代で41.9%と最も高く、おおむね年代が上がるほど低くなる。【ある（計）】は、20～60代で3割前後とおおむね並んでいる。



第2章 調査結果の詳細

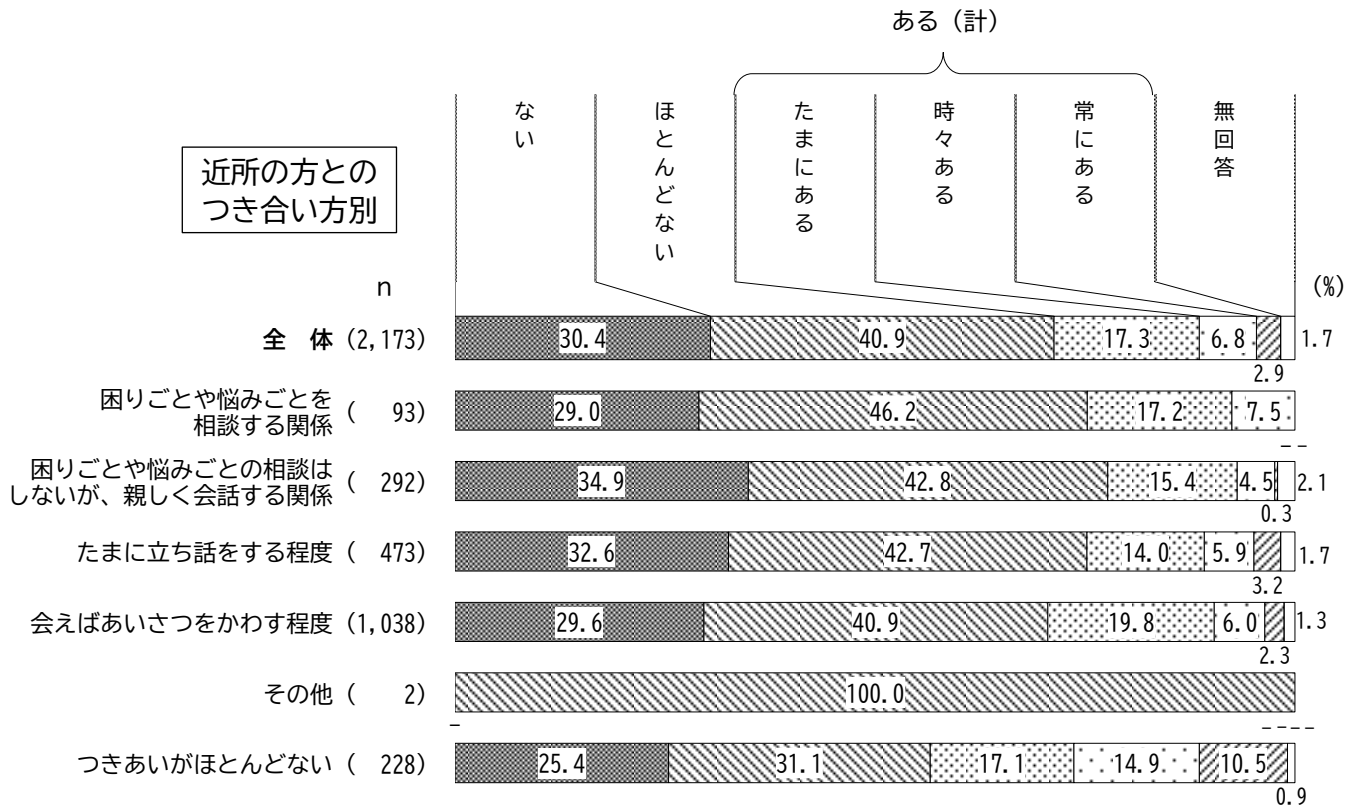
【居住地区別】

居住地区別でみると、「ない」は村岡で40.5%、御所見で37.5%と高くなっている。【ある（計）】は、遠藤、善行、湘南台、辻堂、長後で3割前後とおおむね並んでいる。



【近所の方とのつき合い方別】

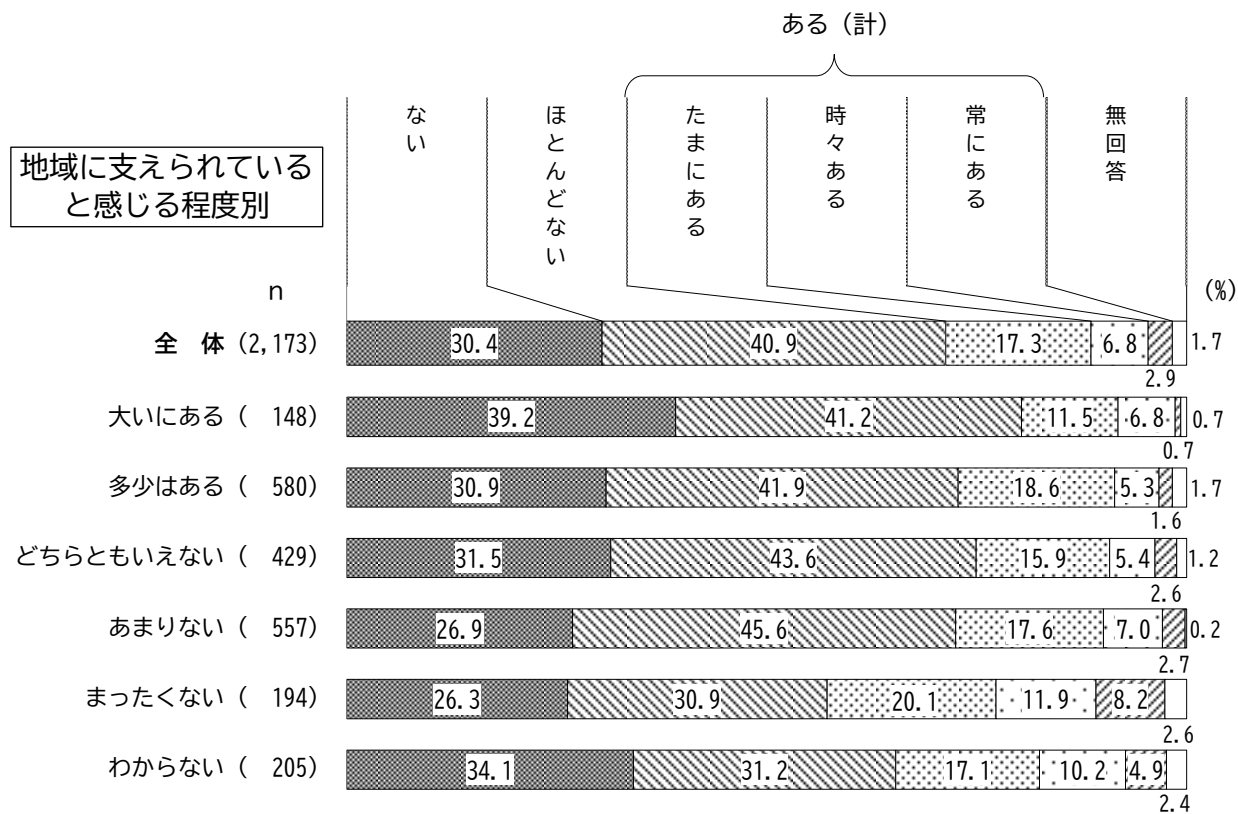
近所の方とのつき合い方別でみると、「常にある」は、「つきあいがほとんどない」人で10.5%と高く、この層は【ある（計）】だと42.5%となっている。



第2章 調査結果の詳細

【地域に支えられていると感じる程度】

地域に支えられていると感じる程度別でみると、「常にある」での大きな違いはみられないが、【ある（計）】では、地域に支えられていると感じることが「まったくない」人で40.2%と高くなっている。



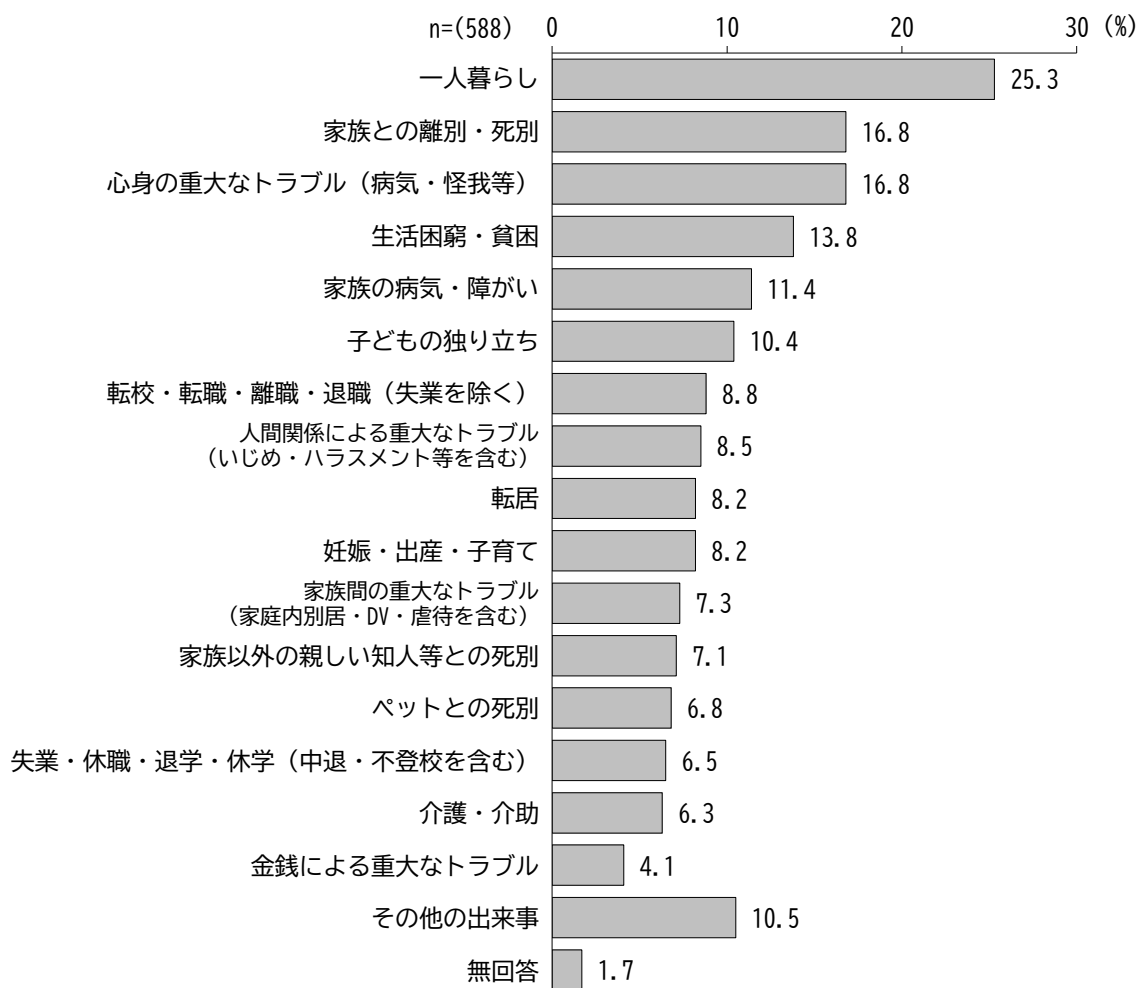
(2-1) 現在の孤独感に強く影響を与えたと思われる出来事

問26で「3」～「5」と回答した方へ

問26-1 現在の孤独感（問26で回答した状況）に強く影響を与えたと思われる出来事はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

現在の孤独感に強く影響を与えたと思われる出来事は、「一人暮らし」が25.3%で最も高く、次いで「家族との離別・死別」と「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」（各16.8%）、「生活困窮・貧困」（13.8%）などとなっている。

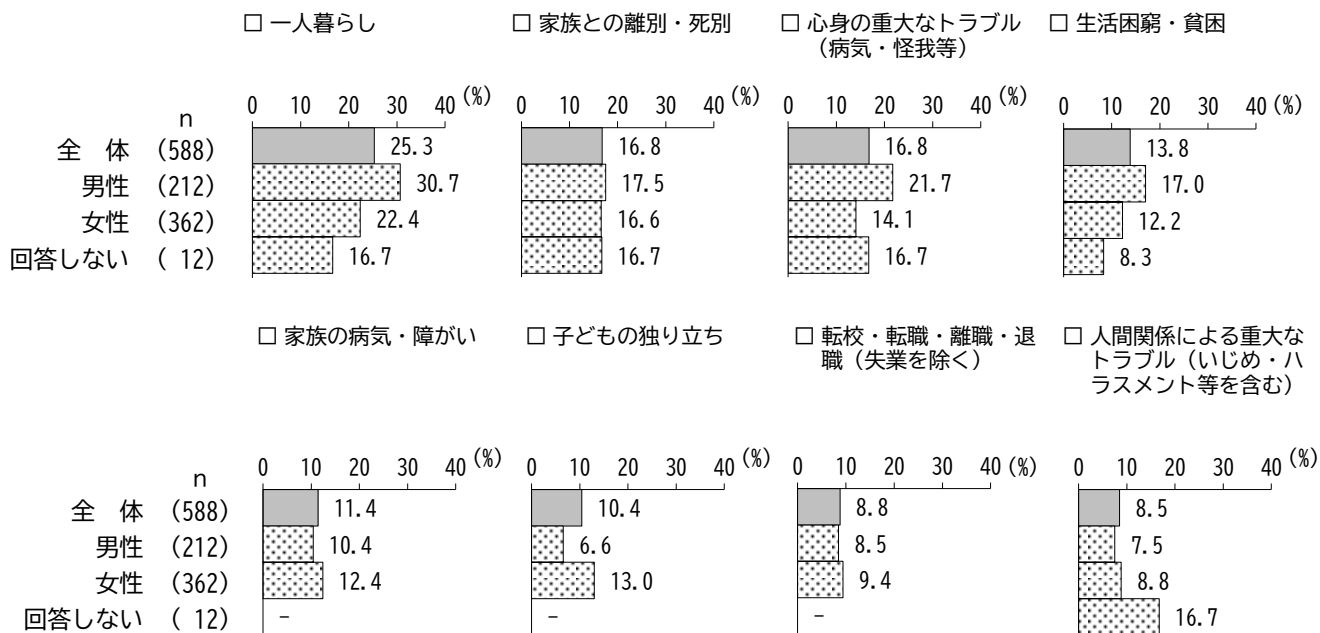
なお、「その他」の内容には、「配偶者・パートナーがいない」、「特定の人と離れたこと」などが挙げられている。



第2章 調査結果の詳細

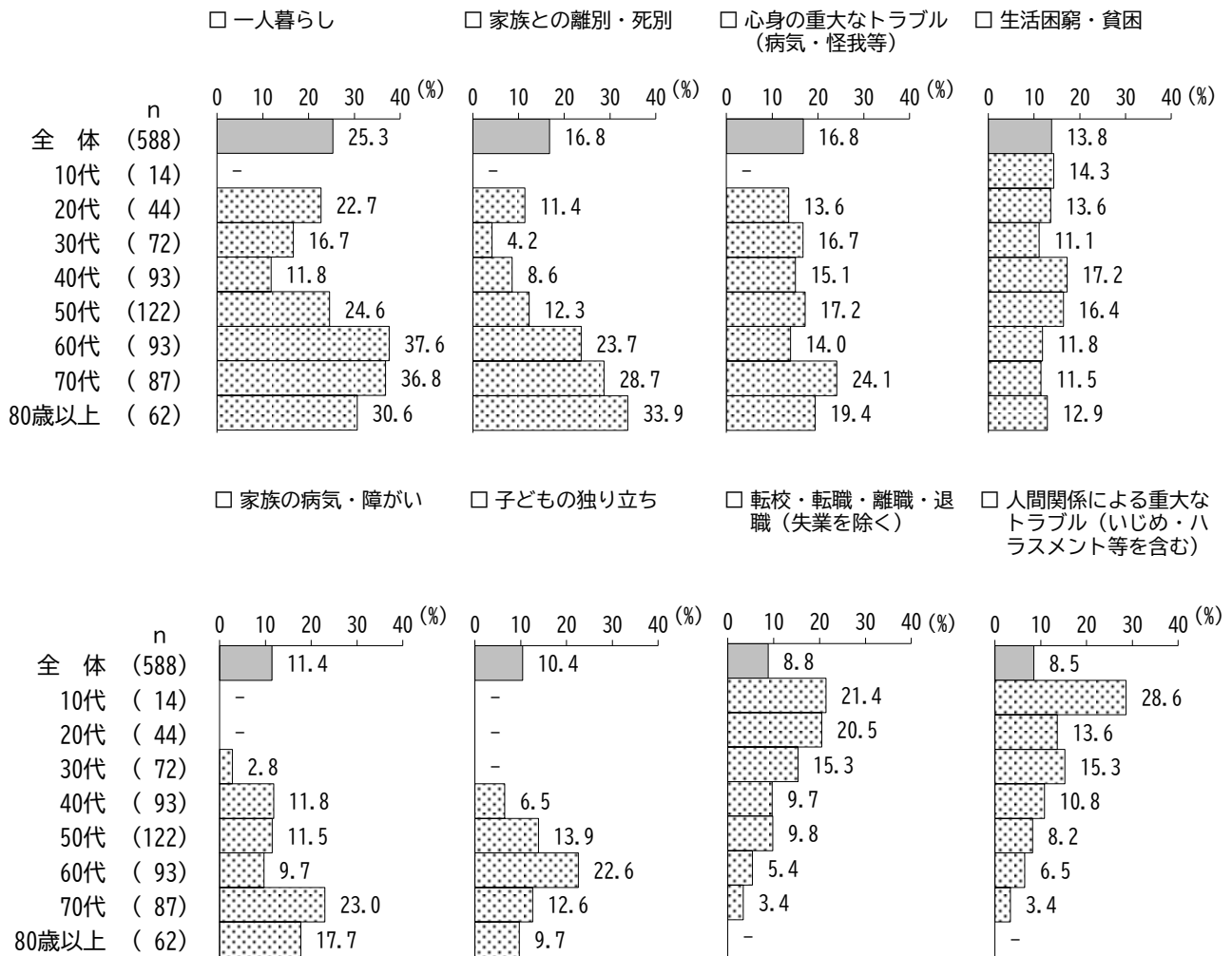
【性別】（上位8項目）

nの人数が確保できている男性と女性について上位8項目をみると、男性の方が女性よりも高い項目は、「一人暮らし」で8.3ポイント、「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」で7.6ポイント、「生活困窮・貧困」で4.8ポイント差がみられる。一方、「子どもの独り立ち」は、女性の方が男性よりも6.4ポイント高い。



【年代別】（上位8項目）

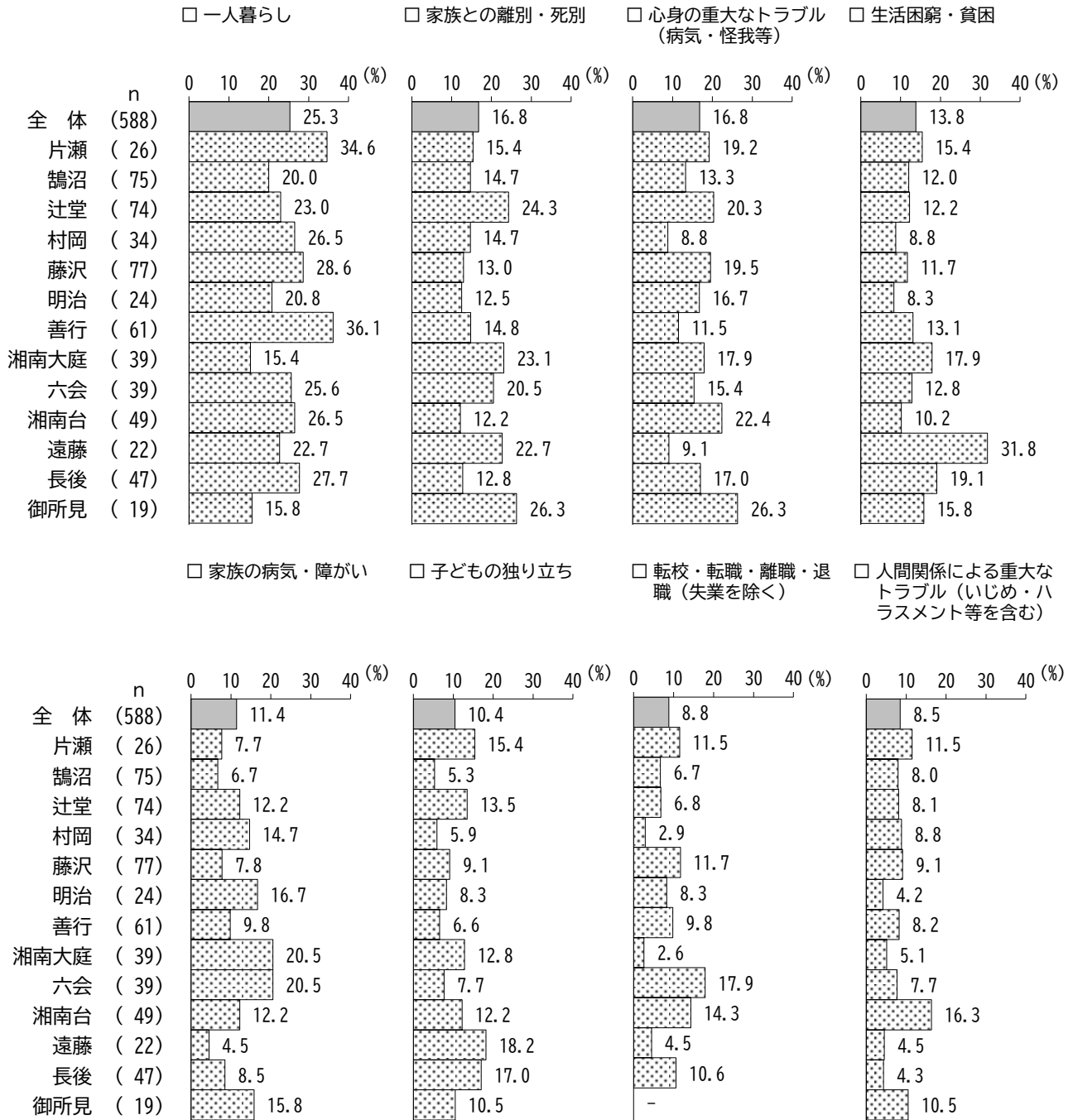
年代別で上位8項目をみると、「一人暮らし」と「家族との離別・死別」は、60歳以上で高くなっており、特に、「一人暮らし」は60～70代で3割台半ばである。「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」と「家族の病気・障がい」は70代で2割台半ば、「子どもの独り立ち」は60代で2割強と高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

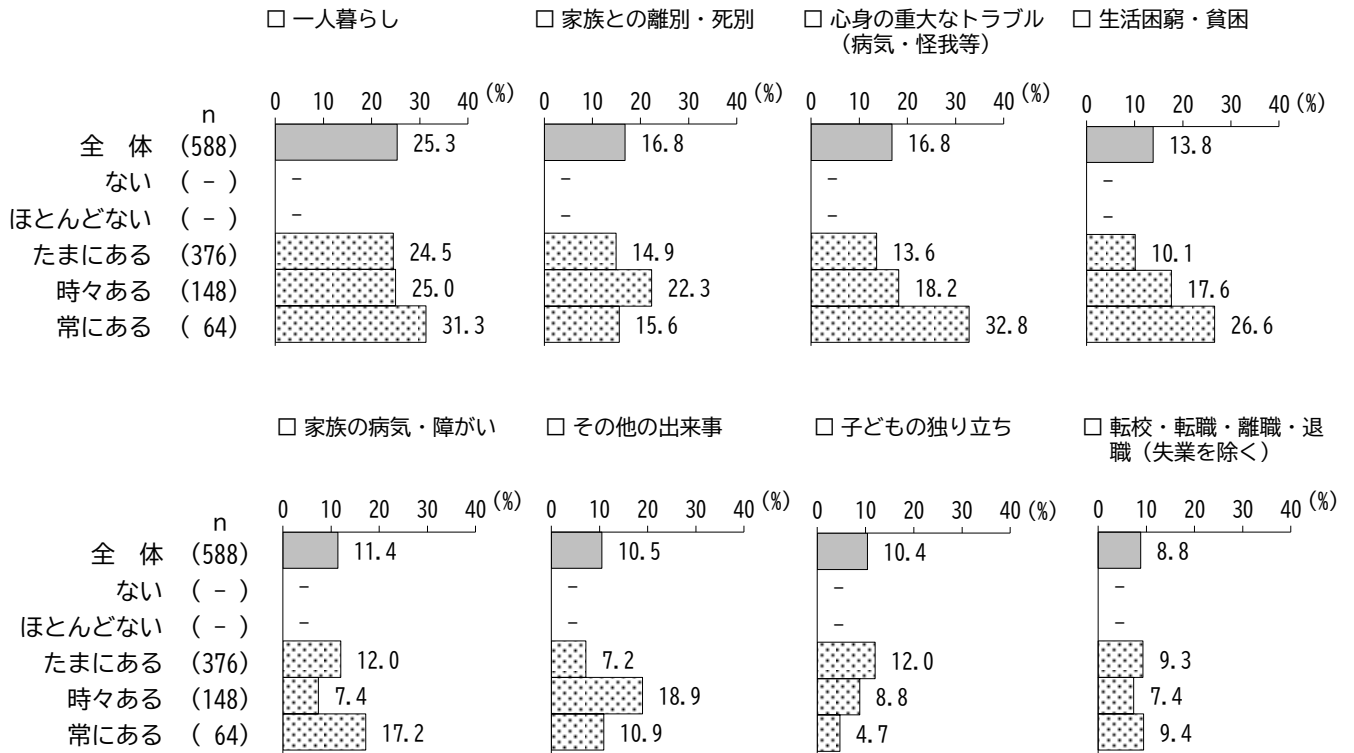
【居住地区別】（上位8項目）

居住地区別で上位8項目をみると、「一人暮らし」は善行で36.1%と最も高くなっている。「家族との離別・死別」は辻堂と湘南大庭で2割台半ば、「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」は湘南台と辻堂で2割強、「家族の病気・障がい」は湘南大庭と六会で2割となっている。



【孤独を感じること別】(上位8項目)

孤独を感じること別で上位8項目をみると、「一人暮らし」は、孤独感が「常にある」人で31.3%と最も高くなっている。この層は、「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)」でも32.8%、「生活困窮・貧困」でも26.6%と高くなっている。



(3) 孤立していると思われる方の試算

「孤独」は主観的概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある。他方、「孤立」は客観的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指すと言われている。

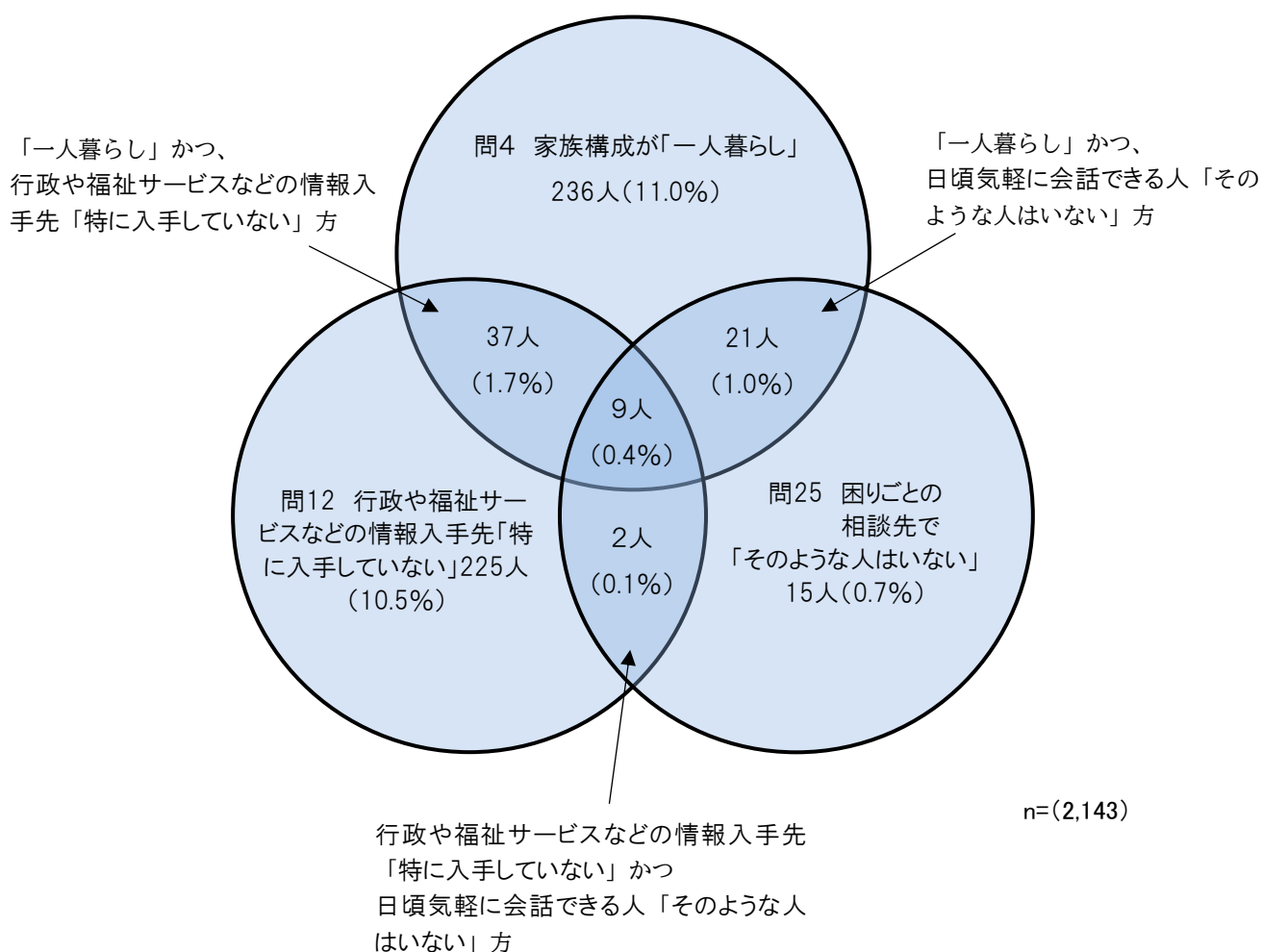
本調査では、問26として、直接的に「孤独を感じることをたずねており、「孤独」の状況把握はできている。しかし、客観的概念である「孤立」は、単一の設問によって直接的に把握することは難しい。

そこで、本調査においてたずねた複数の設問を組み合わせることにより、「孤立していると思われる方」の出現状況を試算した。

利用した設問は、「問4 同居者」、「問12 行政や福祉サービスなどの情報入手先」、「問25 日ごろ気軽に会話できる人」の3問である（3問全て回答した方を試算の対象としている）。

具体的には、問4の同居者で「一人暮らし」と回答し、かつ問12の行政や福祉サービスなどの情報入手先で「17 特に入手していない」と回答した方、さらに問25の日ごろ気軽に会話できる人で「そのような人はいない」と回答した方を、「孤立していると思われる方」と定義した。

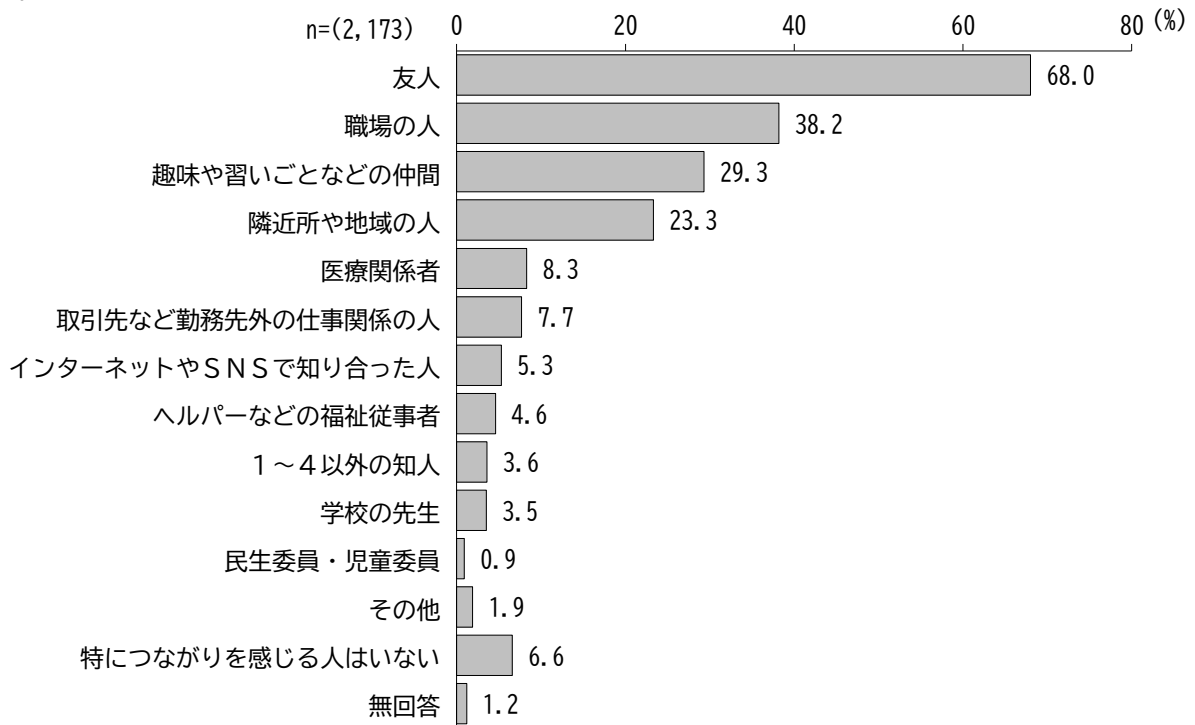
その結果、9人の方が3つの回答に該当し、「孤立していると思われる方」の出現率は0.4%となった。



(4) 家族・親族以外で人と人とのつながりを感じる人

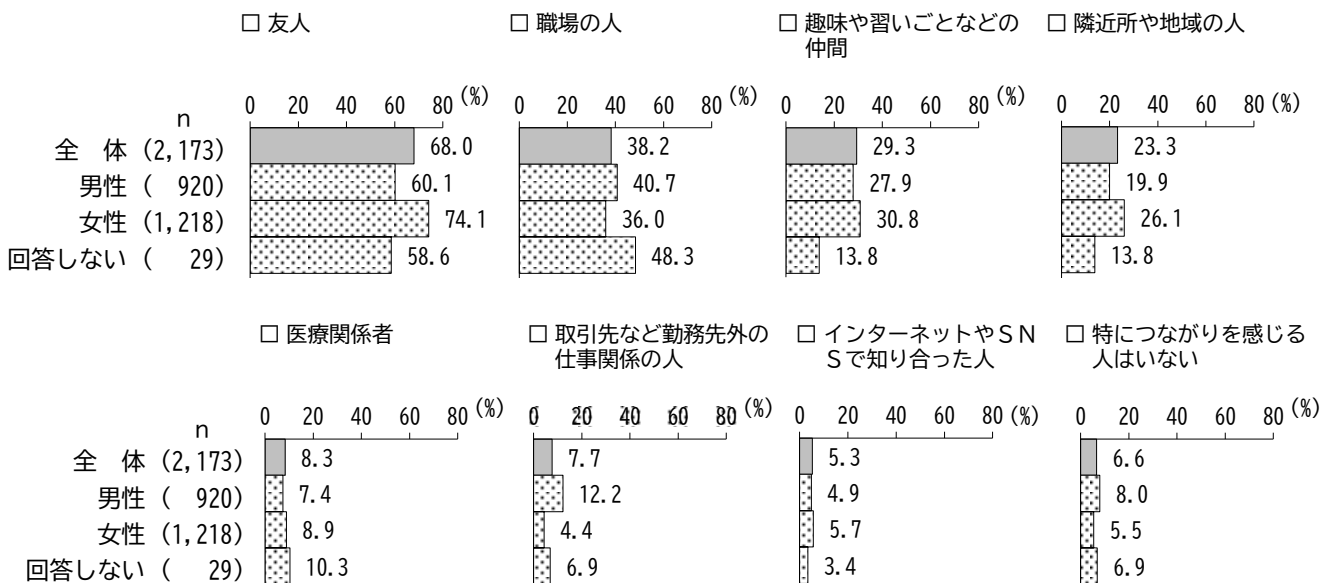
問27 あなたにとって、家族・親族以外で、人と人とのつながりを感じるのは、どのような関係の方ですか。(あてはまるものすべてに○)

家族・親族以外で人と人とのつながりを感じる人は、「友人」が68.0%で最も高く、次いで「職場の人」が38.2%、「趣味や習いごとなどの仲間」が29.3%、「隣近所や地域の人」が23.3%などとなっている。



【性別】(上位7項目+「特につながりを感じる人はいない」)

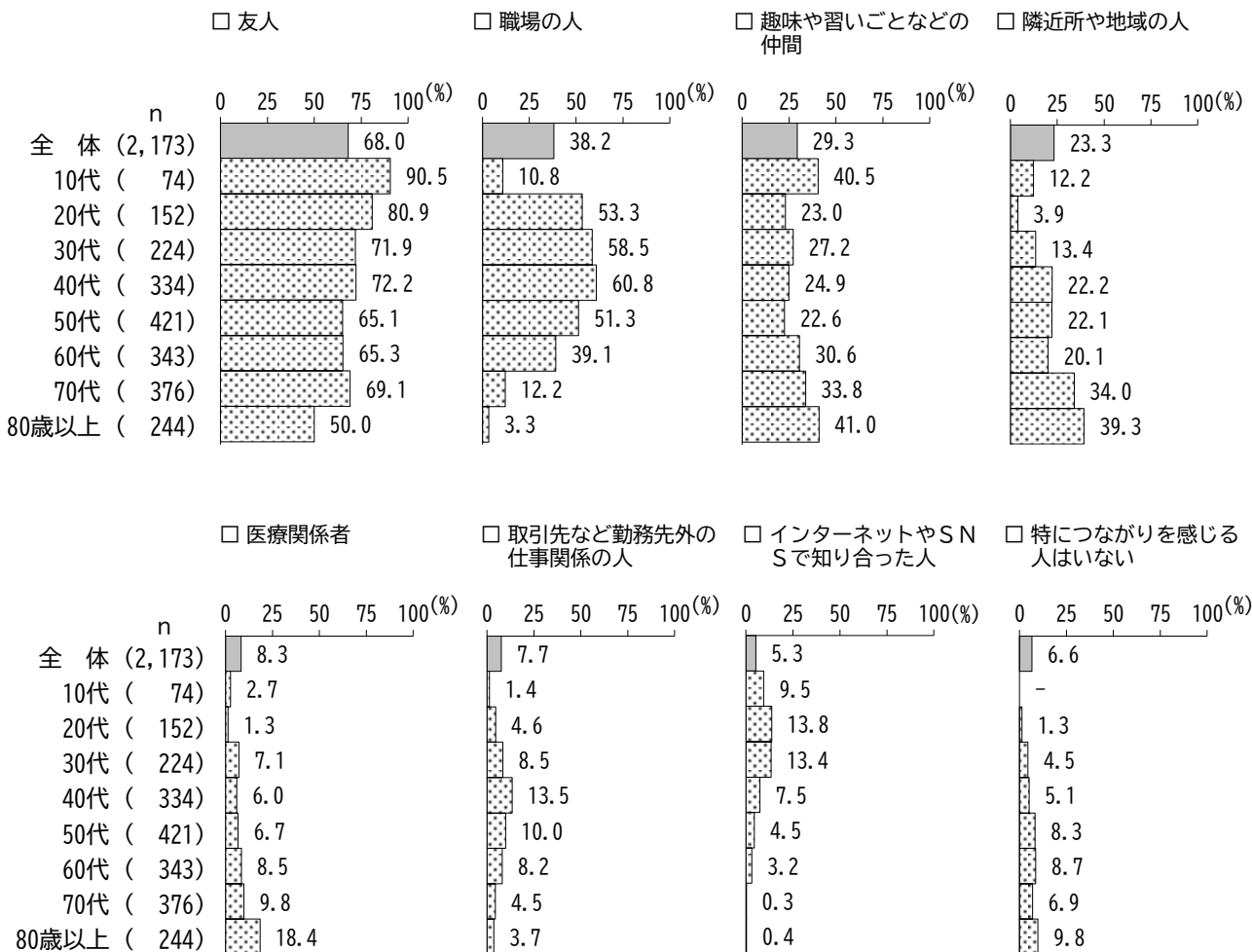
nの人数が確保できている男性と女性について上位7項目をみると、「友人」は女性の方が男性よりも14.0ポイント高く、「隣近所や地域の人」でも6.2ポイント高い。一方、「取引先など勤務先外の仕事関係の人」は男性の方が7.8ポイント高く、「職場の人」でも4.7ポイント高い。



第2章 調査結果の詳細

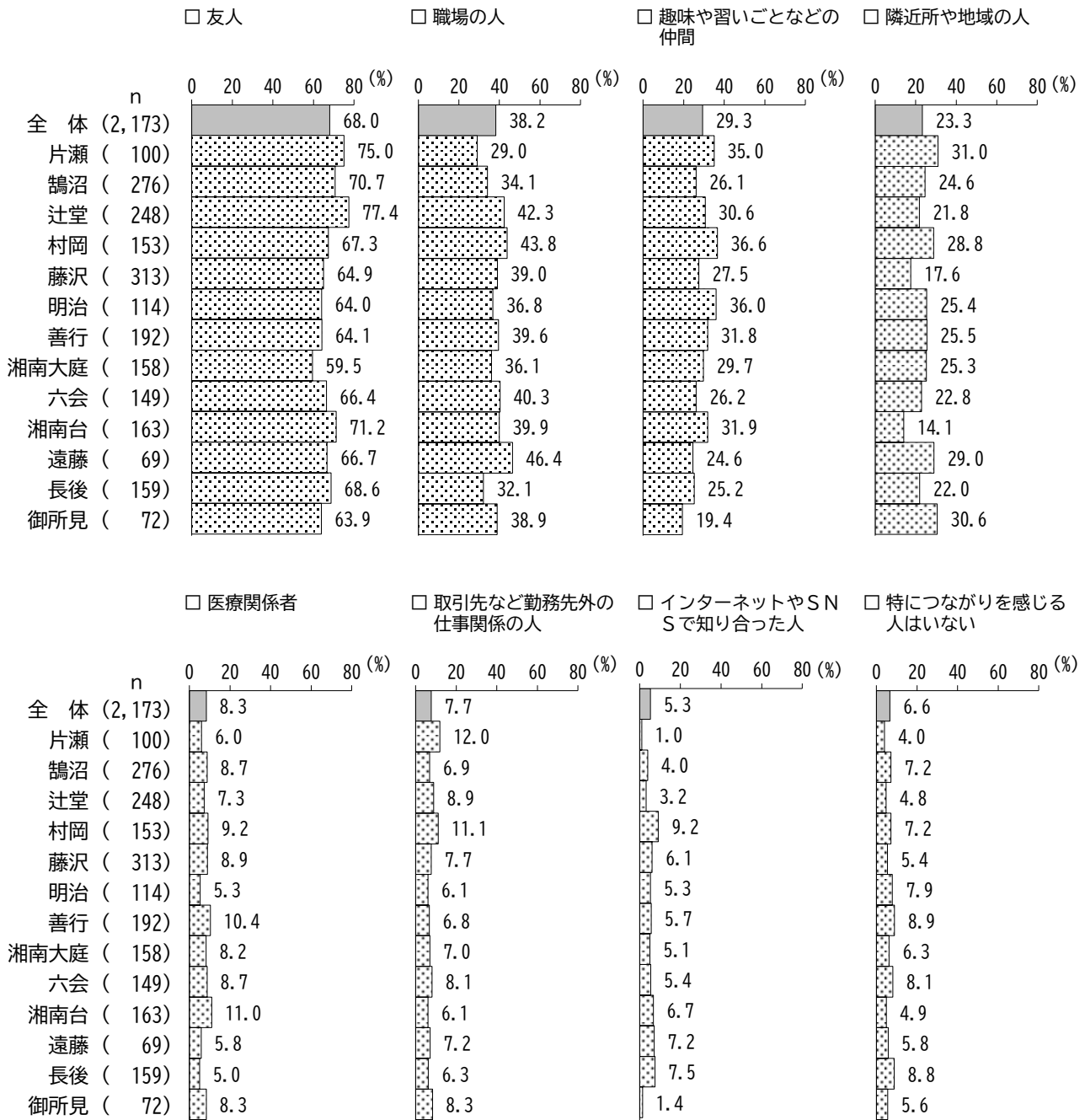
【年代別】（上位7項目+「特につながりを感じる人はいない」）

年代別で上位7項目をみると、どの年代も「友人」の比率は高く、特に、10代は90.5%、20代は80.9%となっている。「職場の人」は20～50代で5割以上である。「趣味や習いごとなどの仲間」は10代と80歳以上で4割強、「隣近所や地域の人」でも80歳以上は約4割と高い。



【居住地区別】（上位7項目+「特につながりを感じる人はいない」）

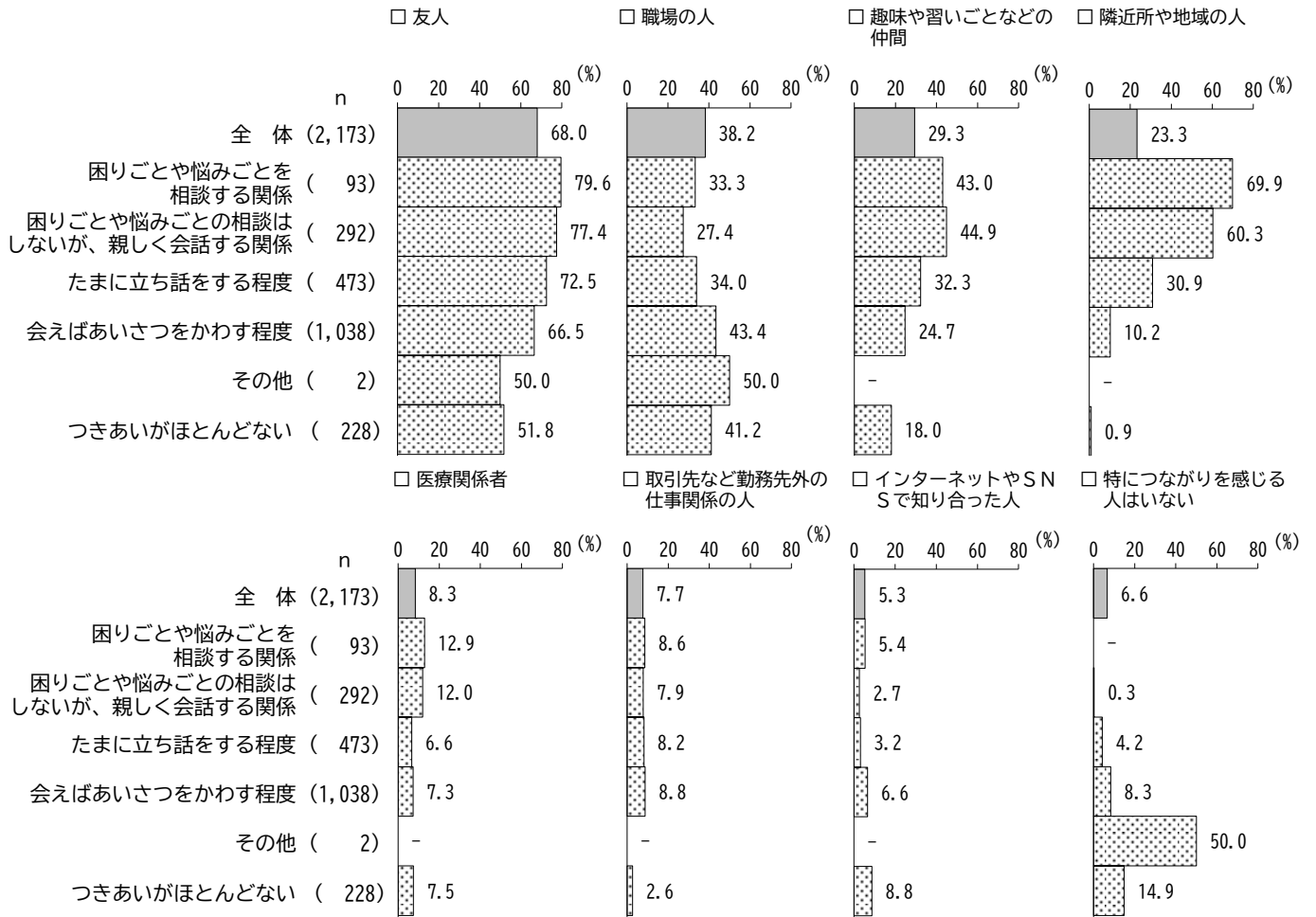
居住地区別で上位7項目をみると、全ての居住地区でも「友人」の比率は高く、特に、辻堂は77.4%、片瀬は75.0%となっている。



第2章 調査結果の詳細

【近所の方とのつき合い方別】(上位7項目+「特につながりを感じる人はいない」)

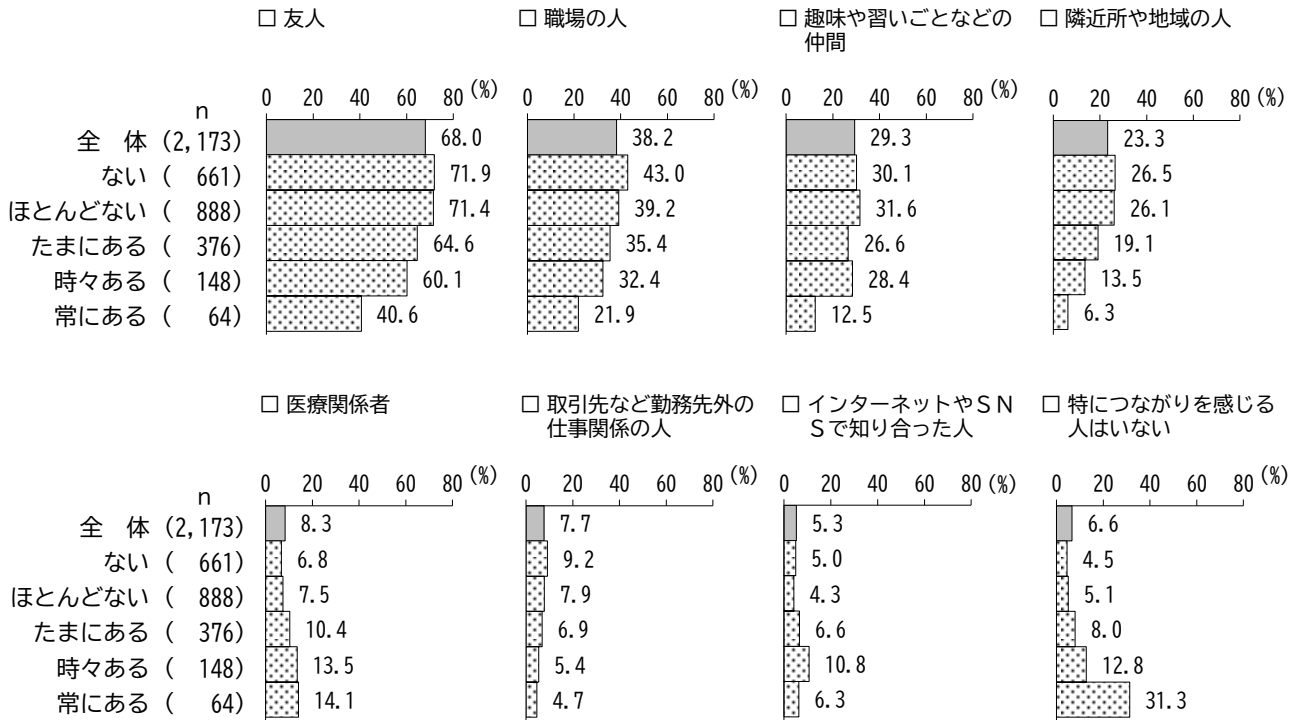
近所の方とのつき合い方別で上位7項目をみると、「職場の人」を除けば、おおむね関係性が薄くなるほど低くなる。



【孤独を感じること別】(上位7項目+「特につながりを感じる人はいない」)

孤独を感じること別で上位7項目をみると、いずれもおおむね孤独感を感じていない人ほど高くなっている。

一方、「特につながりを感じる人はいない」は、孤独感が「常にある」人で31.3%と高くなっている。



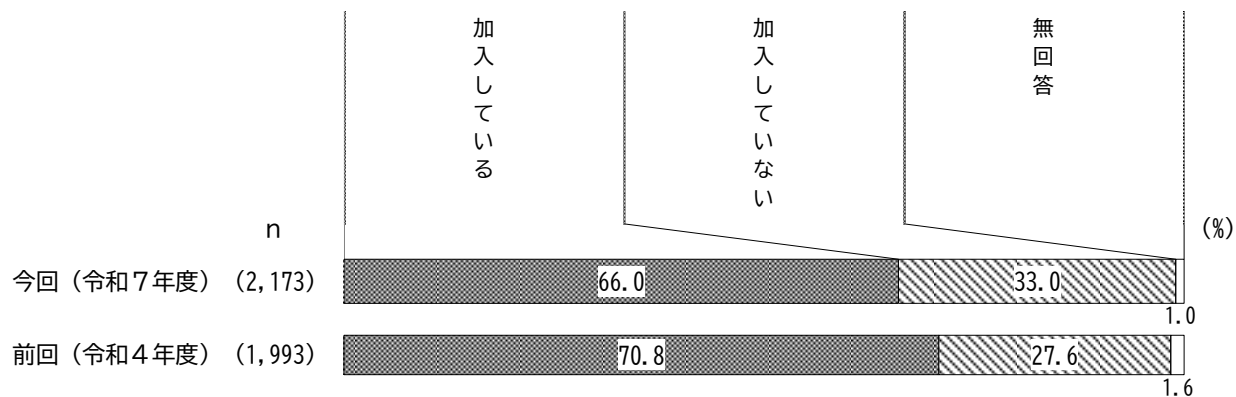
6 地域活動、ボランティア活動について

(1) 自治会・町内会の加入状況

問28 あなたは現在、自治会・町内会に加入していますか。(1つに○)

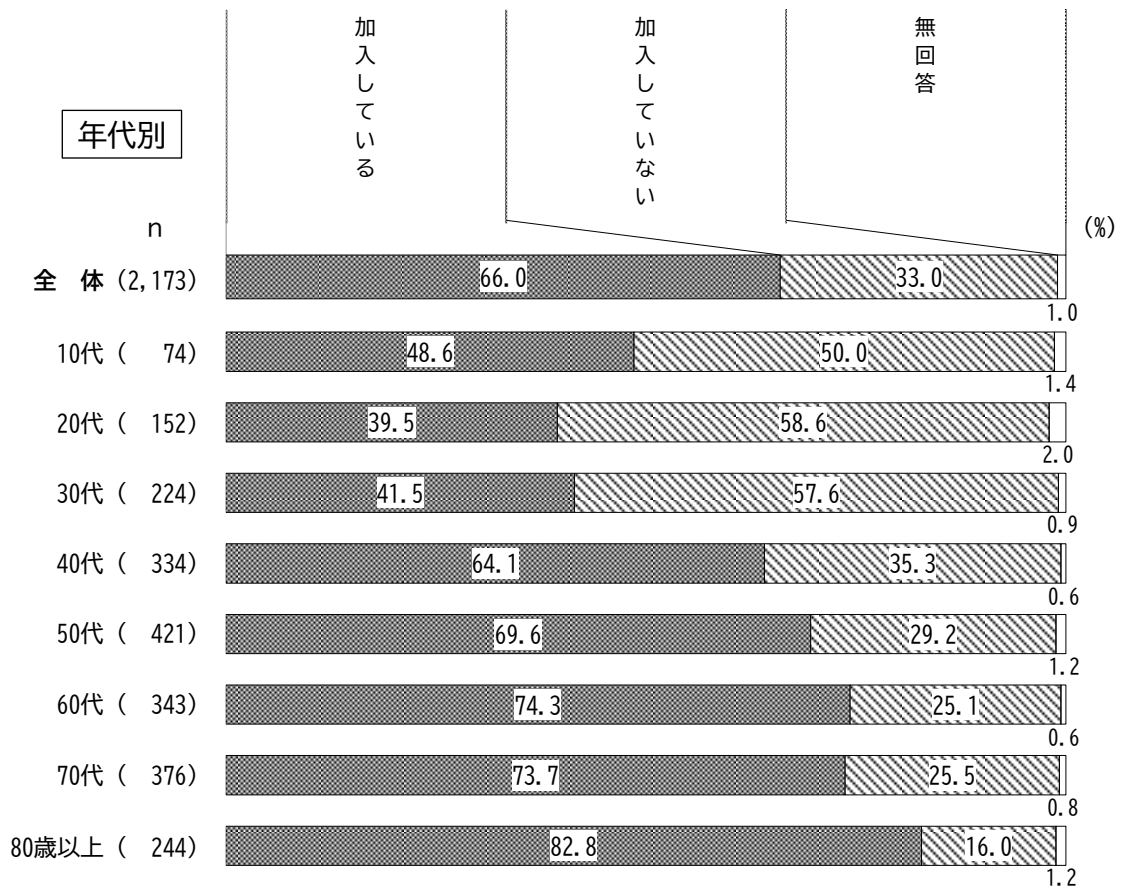
自治会・町内会の加入状況は、「加入している」が66.0%、「加入していない」が33.0%となっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、「加入している」が4.8ポイント減少している。



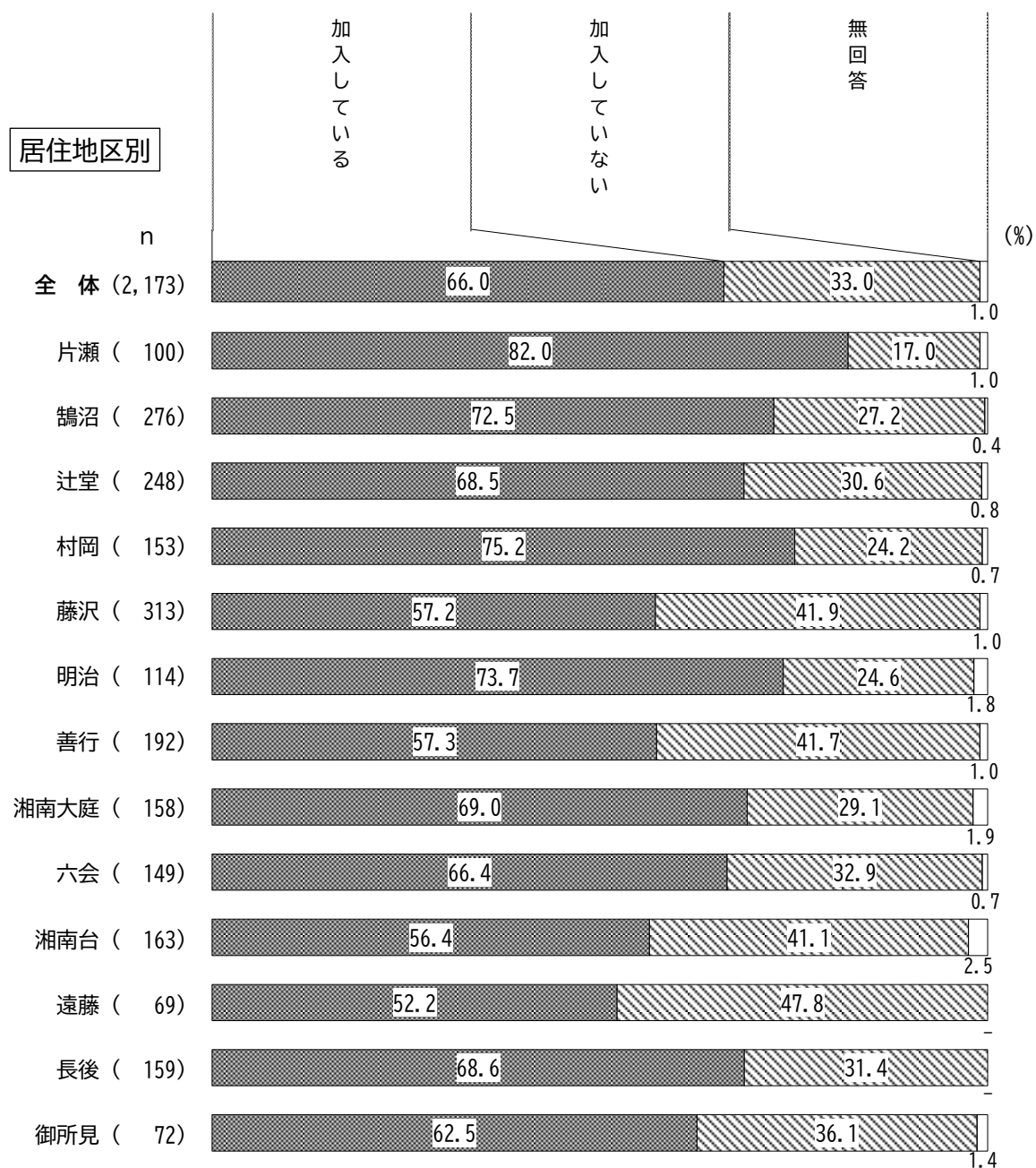
【年代別】

年代別でみると、「加入している」は20代の39.5%を底に、年代が上がるほど高くなり、80歳以上で82.8%となっている。一方、「加入していない」は10~30代で、5割以上である。



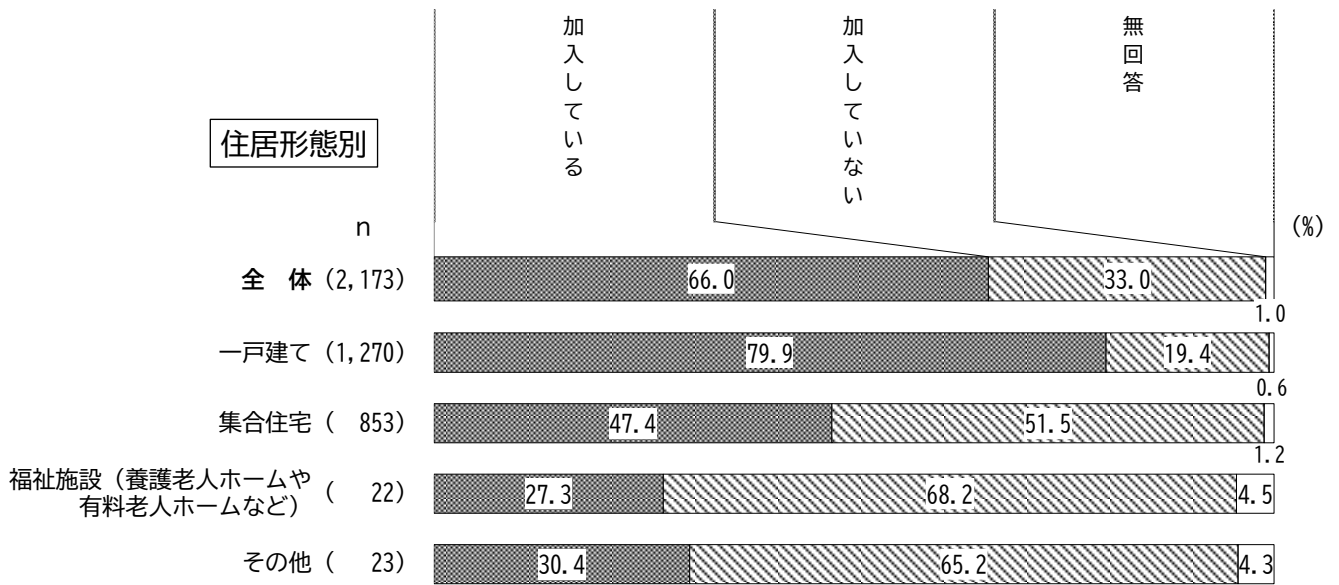
【居住地区別】

居住地区別でみると、「加入している」は、片瀬で82.0%と最も高く、次いで村岡と明治で7割台半ばとなっている。一方、「加入していない」は遠藤で47.8%と最も高い。



【住居形態別】

住居形態別でみると、「加入している」は、一戸建てで79.9%、集合住宅で47.4%となっている。

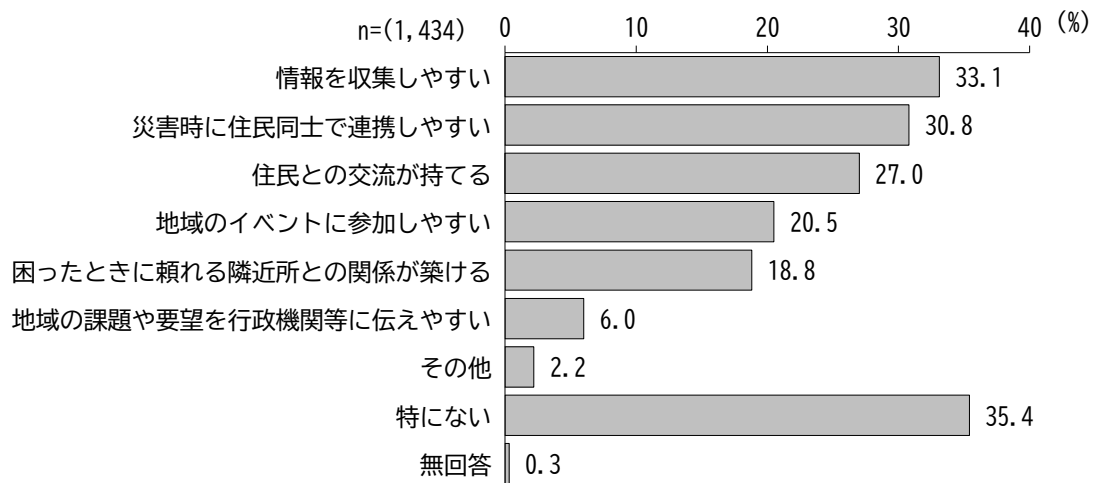


(1-1) 自治会・町内会に加入して特によかったこと

問28で「1 加入している」と回答した方へ

問28-1 自治会・町内会に加入して特によかったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

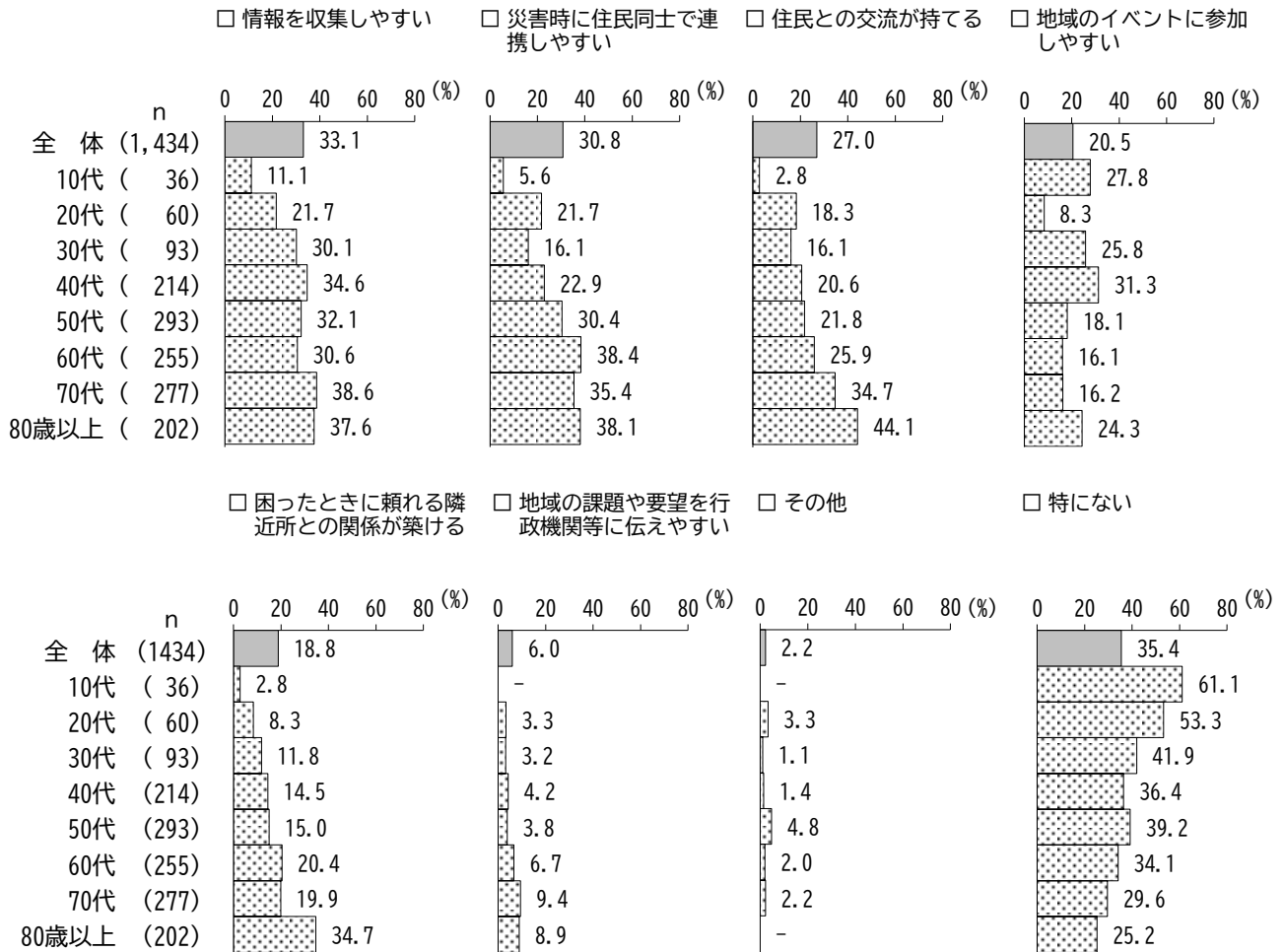
自治会・町内会に加入して特によかったことでは、「特にない」が35.4%で最も高くなっている。
よかったことの内容としては、「情報を収集しやすい」が33.1%で最も高く、次いで「災害時に住民同士で連携しやすい」(30.8%)、「住民との交流が持てる」(27.0%)などとなっている。



【年代別】(全項目)

年代別でみると、「情報を収集しやすい」、「災害時に住民同士で連携しやすい」、「住民との交流が持てる」、「困ったときに頼れる隣近所との関係が築ける」はおおむね年代が上がるほど高くなっており、特に、「住民との交流が持てる」は80歳以上で44.1%である。

一方、「特にない」は10代で61.1%、20代で53.3%と高く、おおむね年代が上がるほど低くなる。

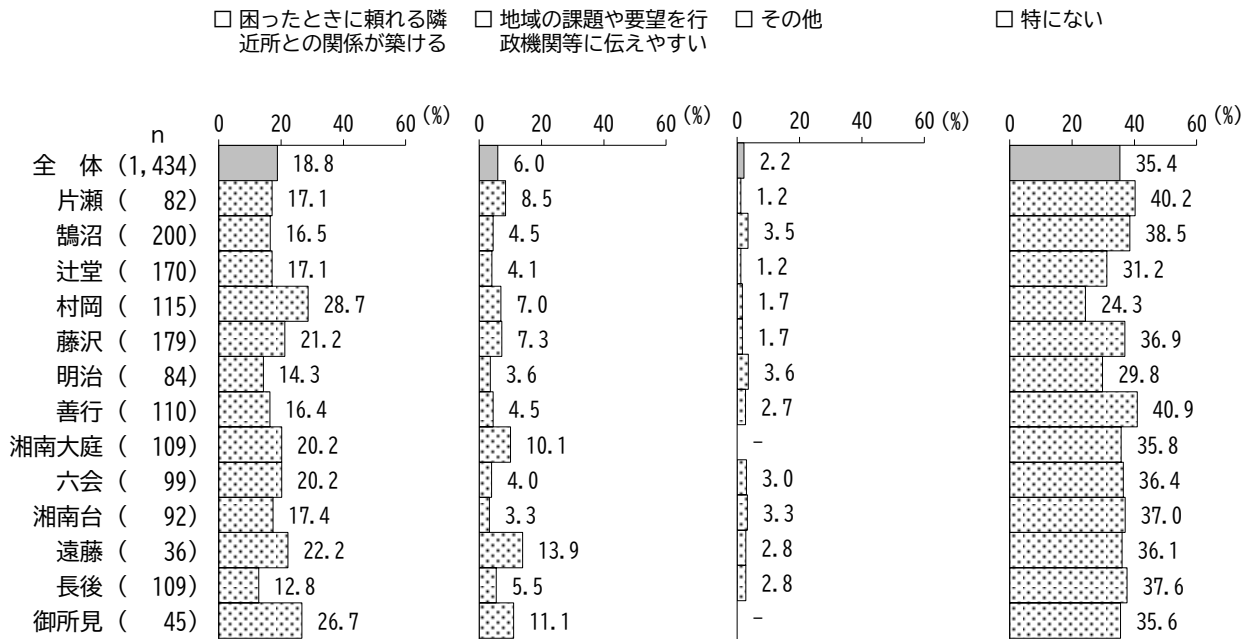
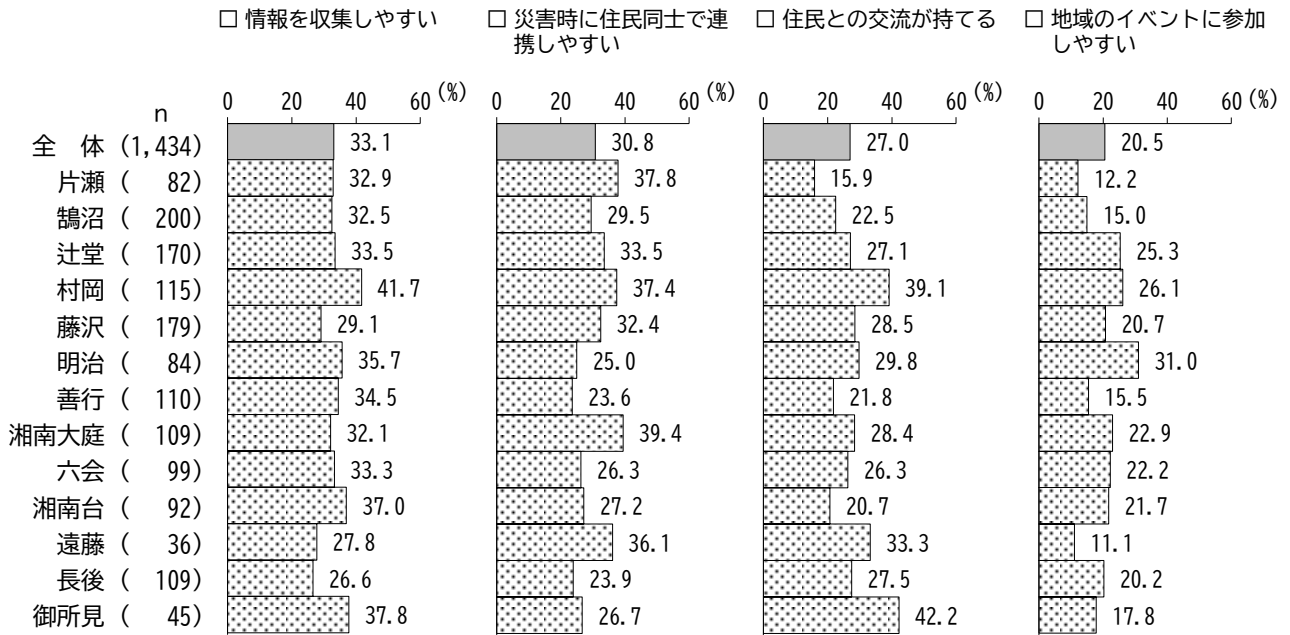


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】(全項目)

居住地区別でみると、「情報を収集しやすい」は村岡で、「災害時に住民同士で連携しやすい」は湘南大庭、片瀬、村岡で、「住民との交流が持てる」は御所見と村岡で、それぞれ4割前後となっている。また、「困ったときに頼れる隣近所との関係が築ける」でも、御所見と村岡は2割台半ばから約3割と高い。

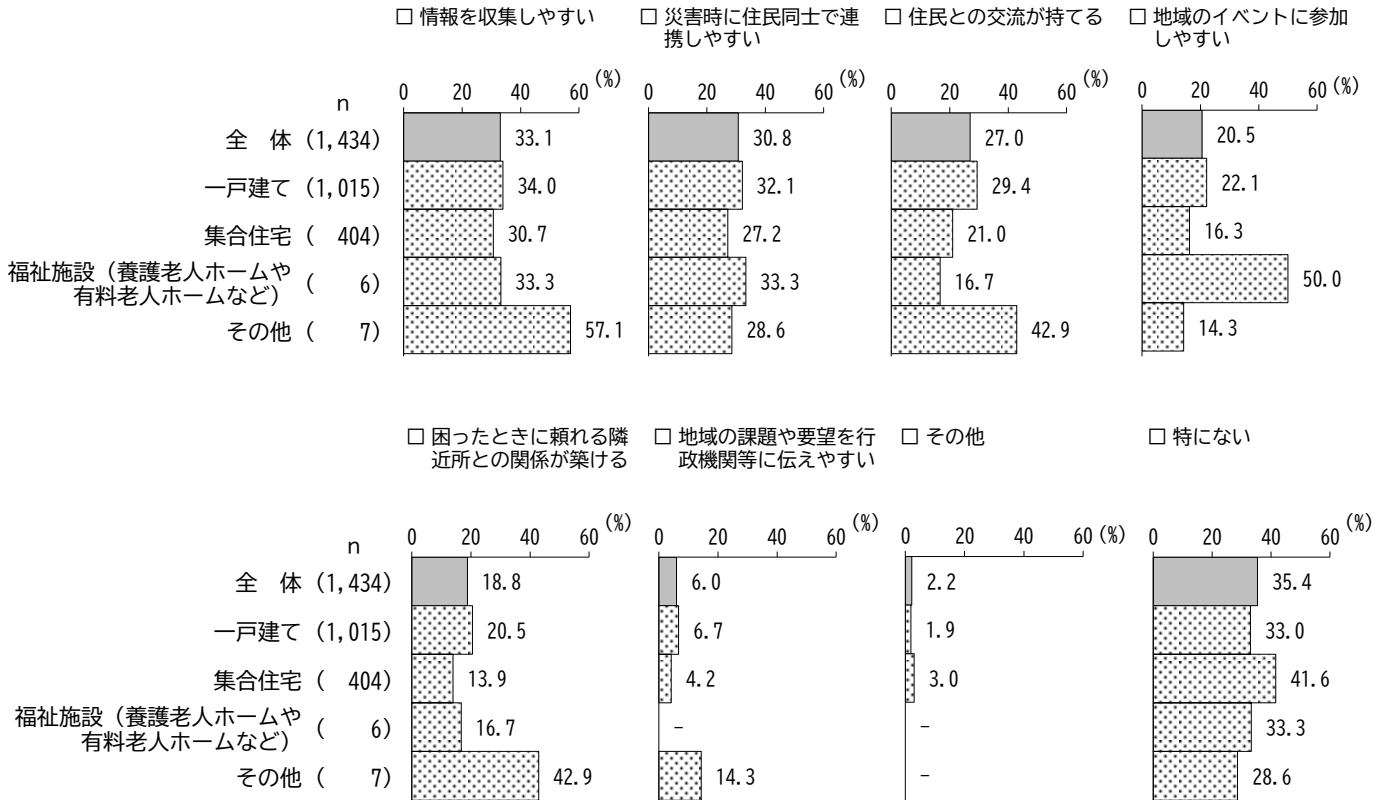
一方、「特にない」は、善行、片瀬、鶴沼で4割前後と高くなっている。



【住居形態別】（全項目）

住居形態別でみると、「その他」と「特にない」を除き、一戸建ての方が集合住宅よりも高く、特に、「住民との交流が持てる」は8.4ポイント差がみられる。

一方、「特にない」は集合住宅の方が8.6ポイント高くなっている。

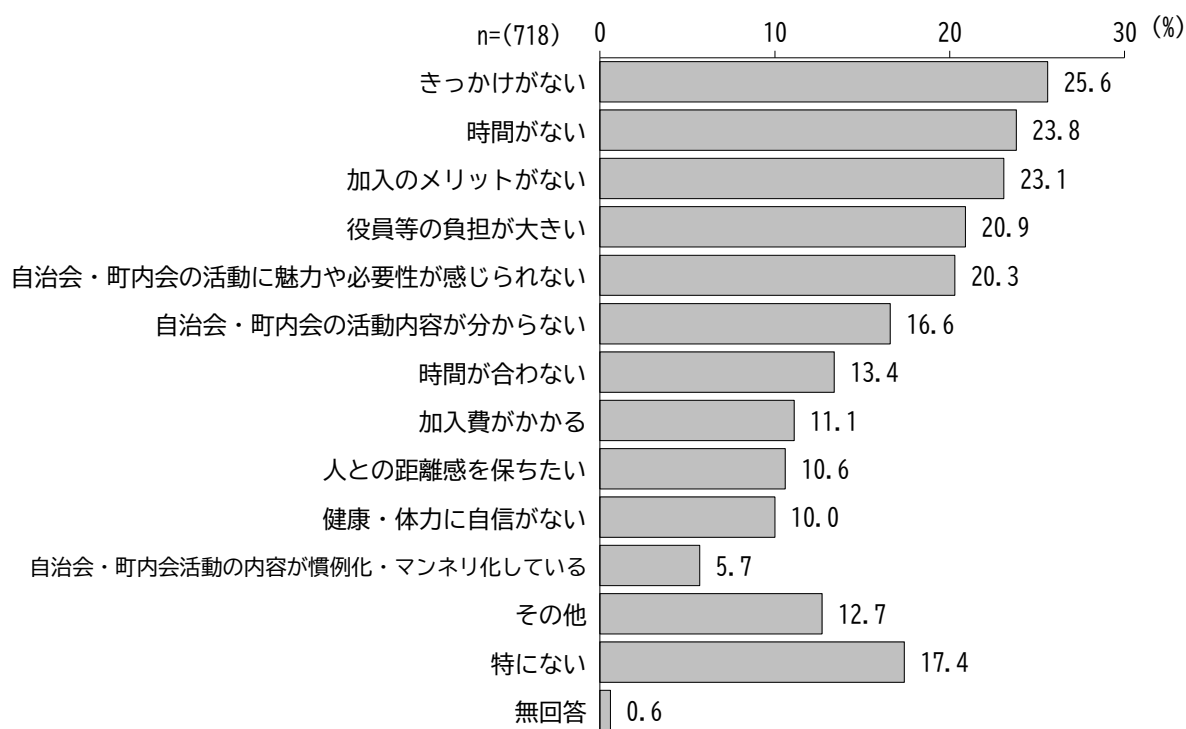


(1-2) 加入していない理由

問28で「2 加入していない」と回答した方へ
 問28-2 加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

加入していない理由は、「きっかけがない」が25.6%で最も高く、次いで「時間がない」(23.8%)、「加入のメリットがない」(23.1%)、「役員等の負担が大きい」(20.9%)、「自治会・町内会の活動に魅力や必要性を感じられない」(20.3%)が2割台で続いている。一方「特にない」は17.4%である。

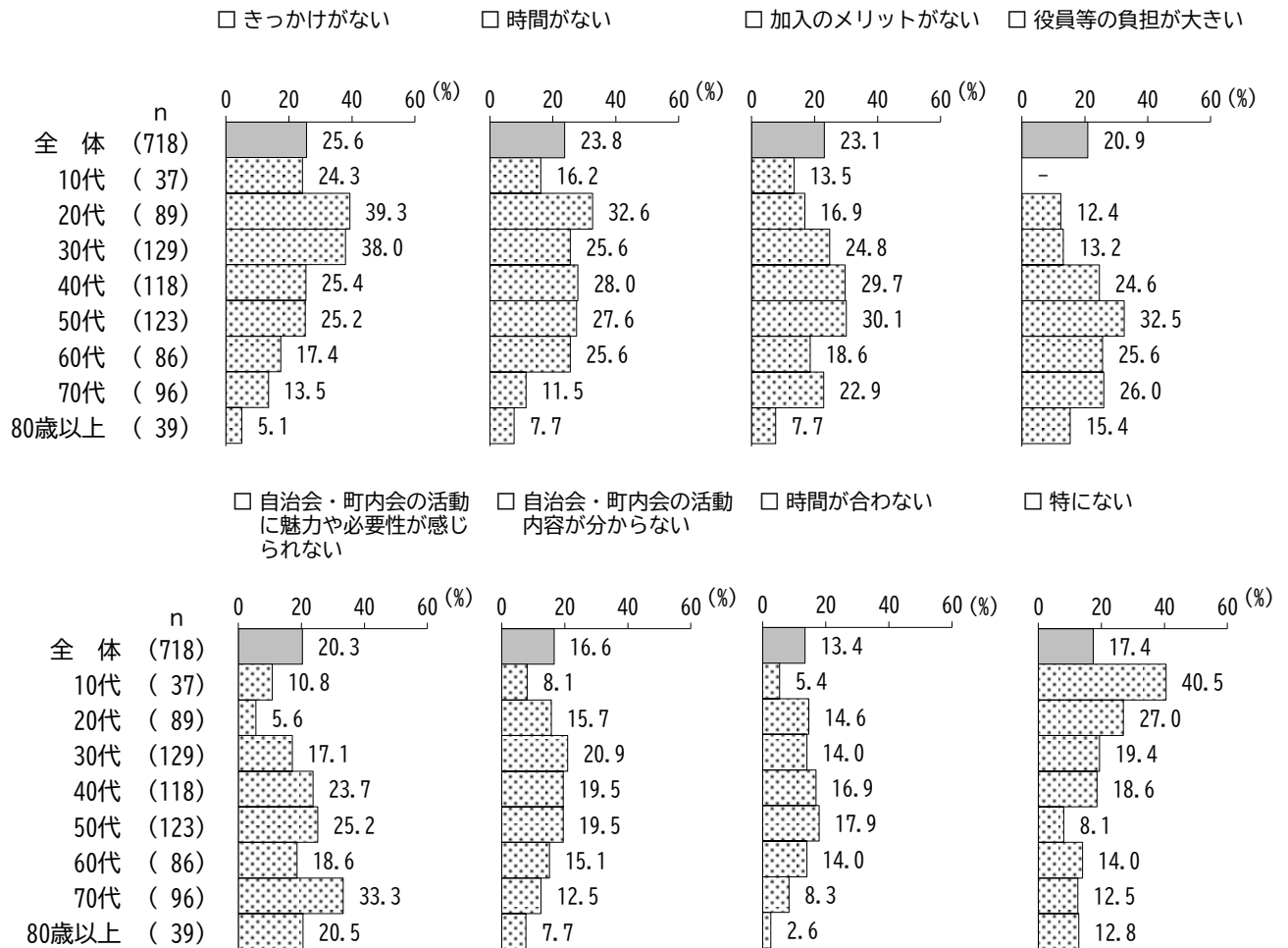
なお、「その他」の内容には、「集合住宅のため」、「家族が加入している」、「自治会・町内会を知らない」などが挙げられている。



【年代別】（上位7項目+「特にない」）

年代別で上位7項目をみると、「きっかけがない」は20～30代で約4割と高く、「時間がない」でも20代は3割を超えている。「加入のメリットがない」は40～50代で3割前後と高く、50代は「役員等の負担が大きい」でも3割を超える。また、「自治会・町内会の活動に魅力や必要性を感じられない」は70歳以上で33.3%と最も高い。

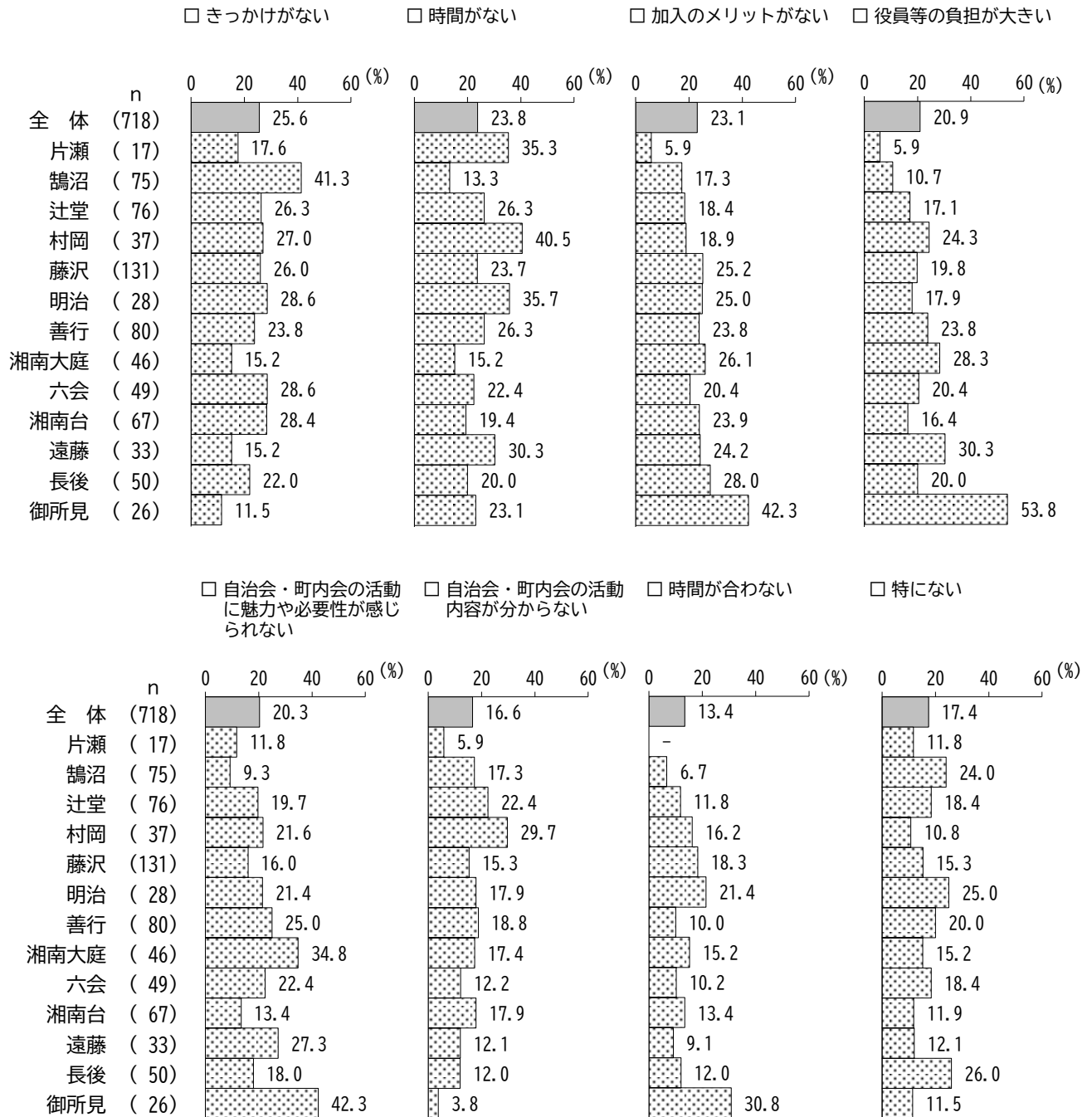
一方、「特にない」は、10代で40.5%である。



第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「特にない」）

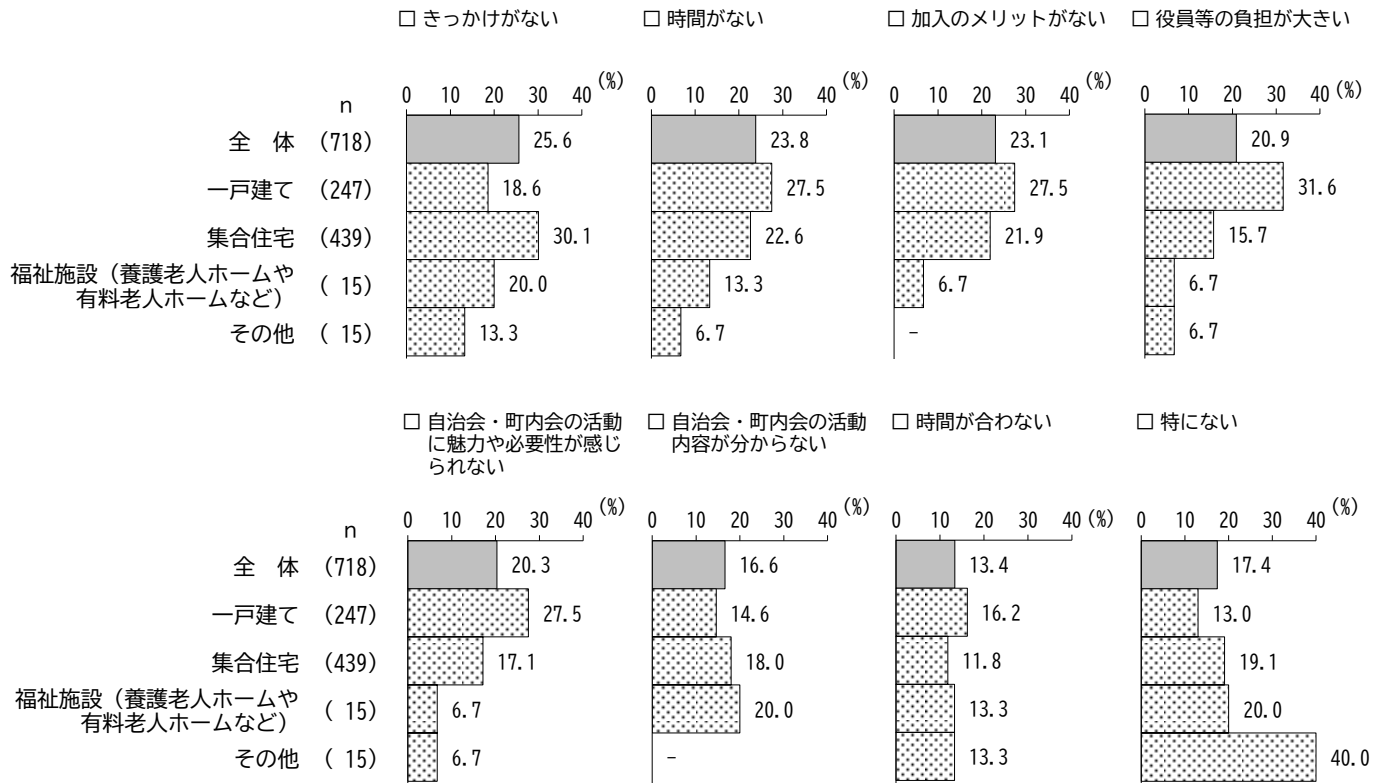
年代別で上位7項目をみると、「きっかけがない」は鶴沼で41.3%、「時間がない」は村岡で40.5%と、それぞれ最も高くなっている。また、「役員等の負担が大きい」は遠藤で30.3%、「自治会・町内会の活動に魅力や必要性が感じられない」は湘南大庭で34.8%となっている。



【住居形態別】（上位7項目+「特にない」）

住居形態別で上位7項目をみると、「きっかけがない」は、集合住宅の方が一戸建てよりも11.5ポイント高くなっている。多くの項目は、一戸建ての方が高く、特に、「役員等の負担が大きい」は15.9ポイント差、「自治会・町内会の活動に魅力や必要性を感じられない」は10.4ポイント差がみられる。

一方、「特にない」は、集合住宅の方が6.1ポイント高くなっている。

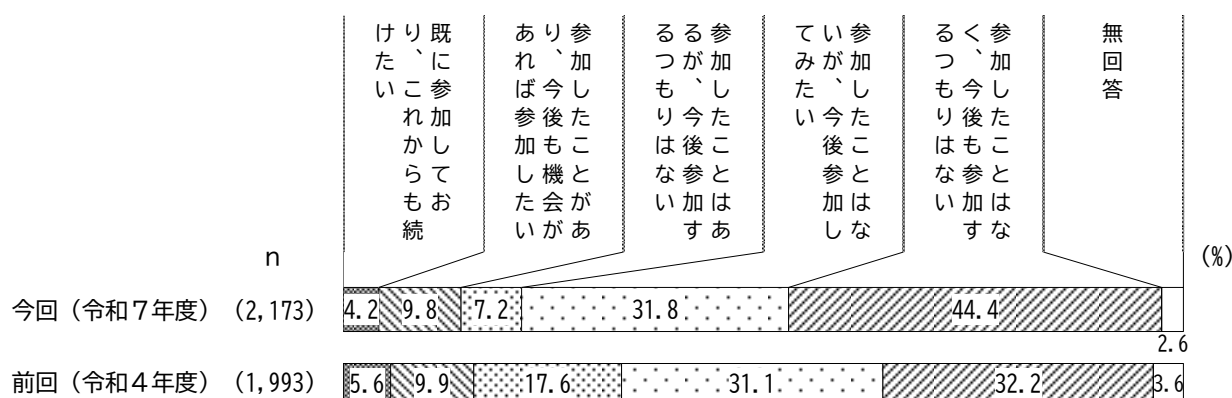


(2) ボランティア活動の参加意向

問 29 あなたは地域を支えるボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

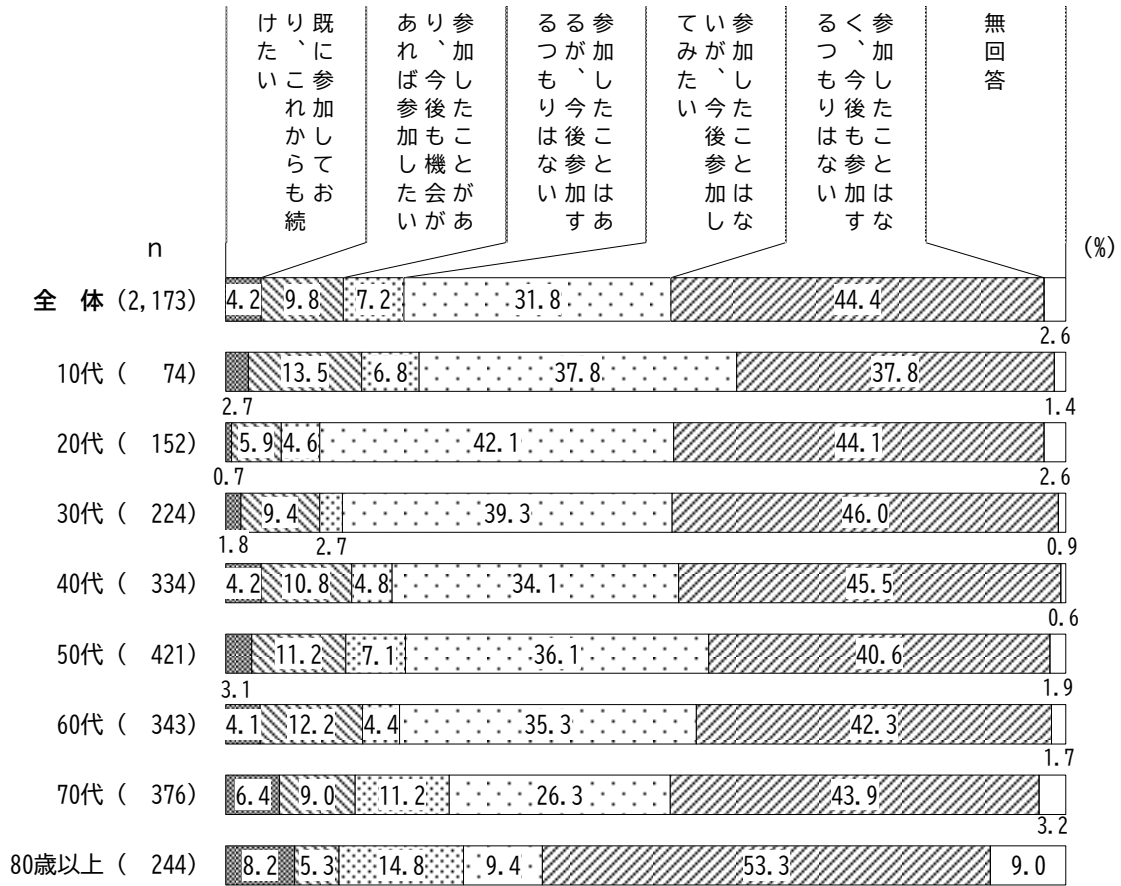
ボランティア活動への参加意向では、「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」が44.4%で最も高く、次いで「参加したことはないが、今後参加してみたい」が31.8%となっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」が12.2ポイント増加し、「参加したことはあるが、今後参加するつもりはない」が10.4ポイント減少している。



【年代別】

年代別でみると、「参加したことはないが、今後参加してみたい」は、10～30代で4割前後となっている。ただし、10代を除いた年代で、「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」が高い。

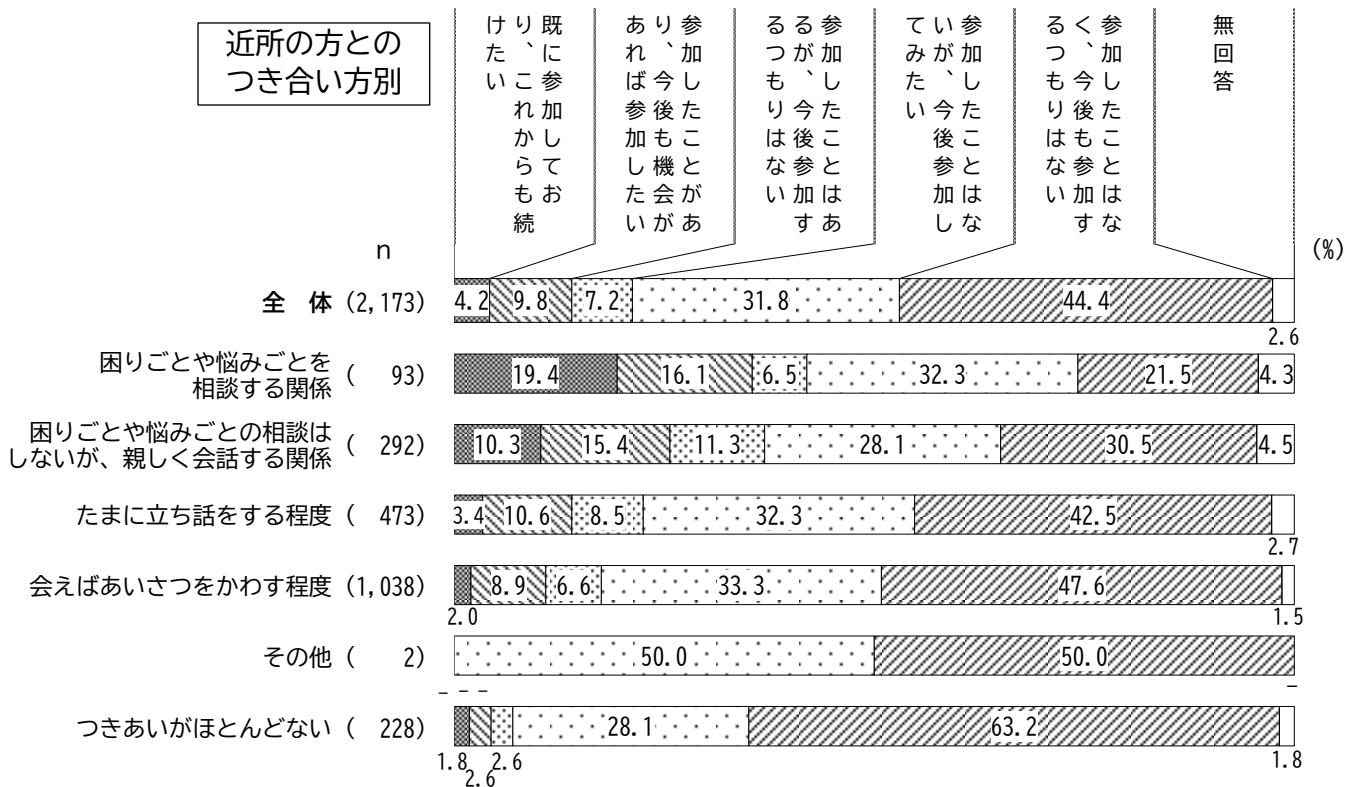


第2章 調査結果の詳細

【近所の方とのつき合い方別】

近所の方とのつき合い方別でみると、「既に参加しており、これからも続けたい」は、「困りごとや悩みごとを相談する関係」のつき合い方をしている人で19.4%と高く、関係性が薄くなるほど低くなる。このことは、「参加したことがあり、今後も機会があれば参加したい」でも同様である。また、「参加したことはないが、今後参加してみたい」は、つき合い方での大きな違いはみられない。

一方、「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」は関係性が薄くなるほど高くなり、「つきあいがほとんどない」人で63.2%となっている。



(2-1) ボランティア活動に参加する際の動機

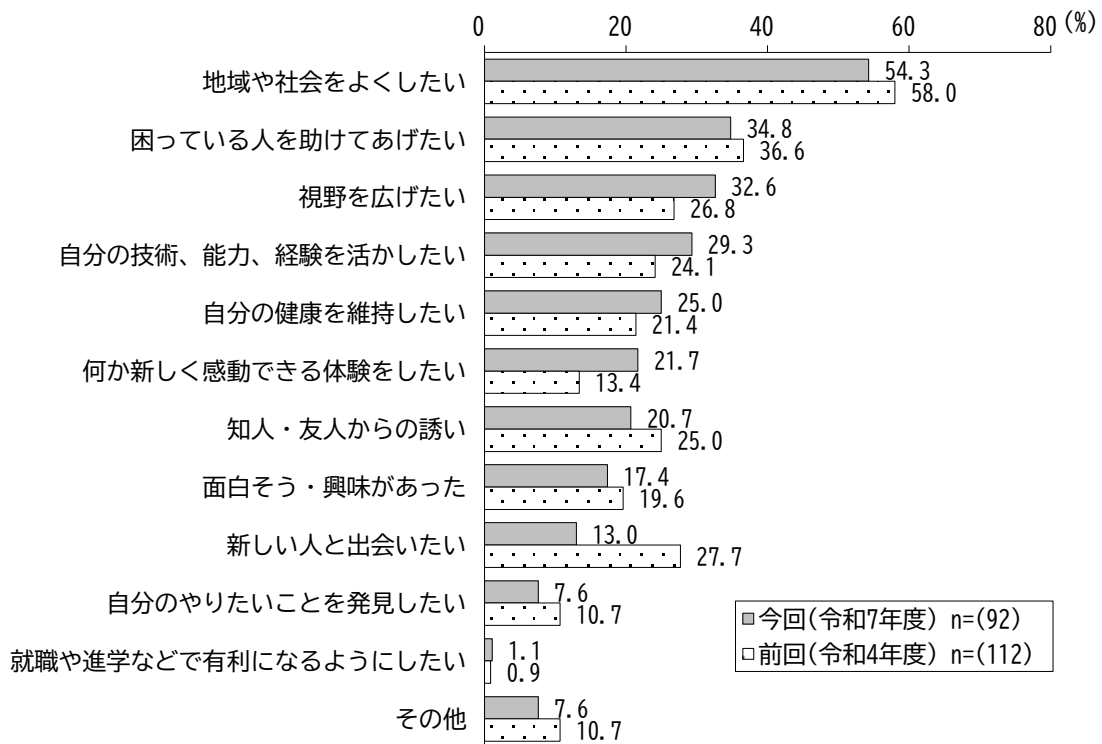
問29で「1 既に参加しており、これからも続けたい」と回答した方へ

問29-1 ボランティア活動に参加する際の動機はどのようなことがありましたか。

(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動に参加する際の動機は、「地域や社会をよくしたい」が54.3%で最も高く、次いで「困っている人を助けてあげたい」(34.8%)、「視野を広げたい」(32.6%)、「自分の技術、能力、経験を活かしたい」(29.3%)などとなっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、「何か新しく感動できる体験をしたい」が8.3ポイント、「視野を広げたい」が5.8ポイント、「自分の技術、能力、経験を活かしたい」が5.2ポイント増加している。逆に、「新しい人と出会いたい」が14.7ポイント減少している。



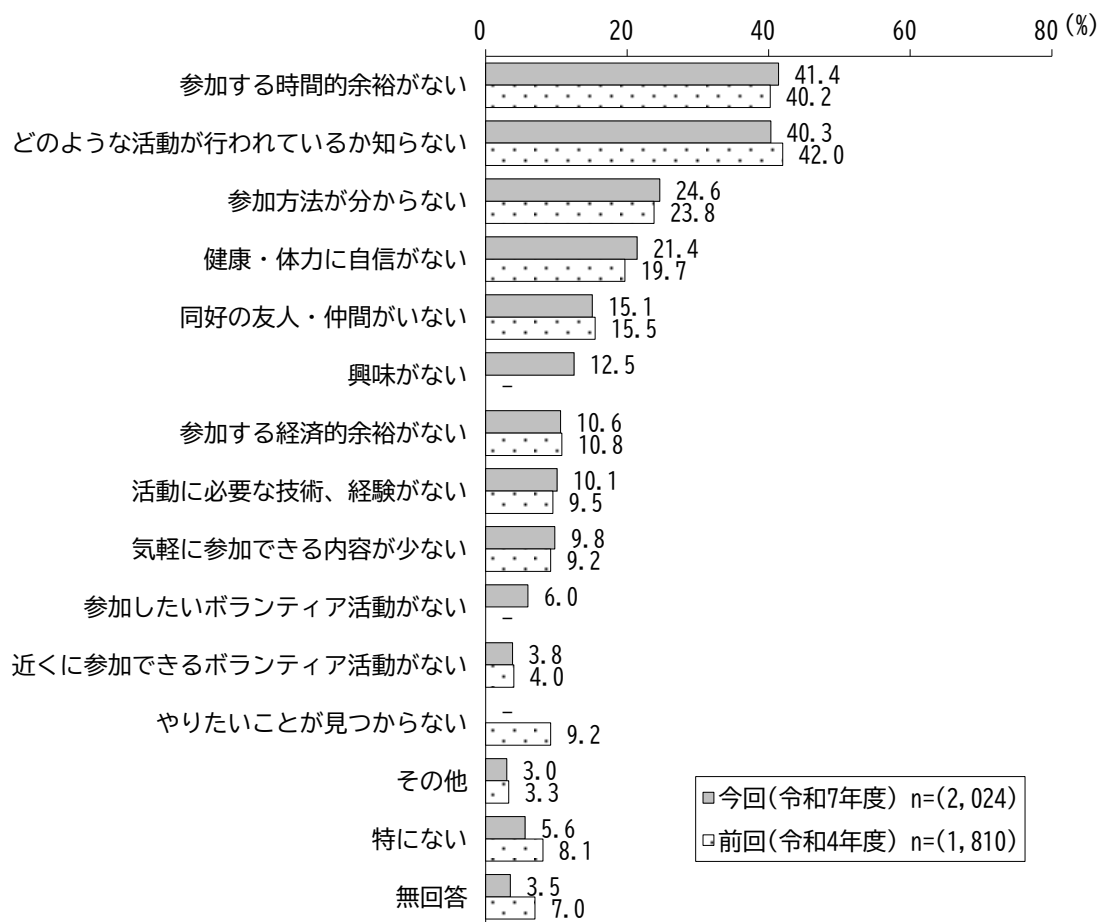
(2-2) ボランティア活動に参加する上で支障となることや問題点

問29で「2」～「5」と回答した方へ

問29-2 ボランティア活動に参加する上で支障となることや問題点として感じているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動に参加する上で支障となることや問題点は、「参加する時間的余裕がない」が41.4%で最も高く、僅差で「どのような活動が行われているか知らない」が40.3%で続く。

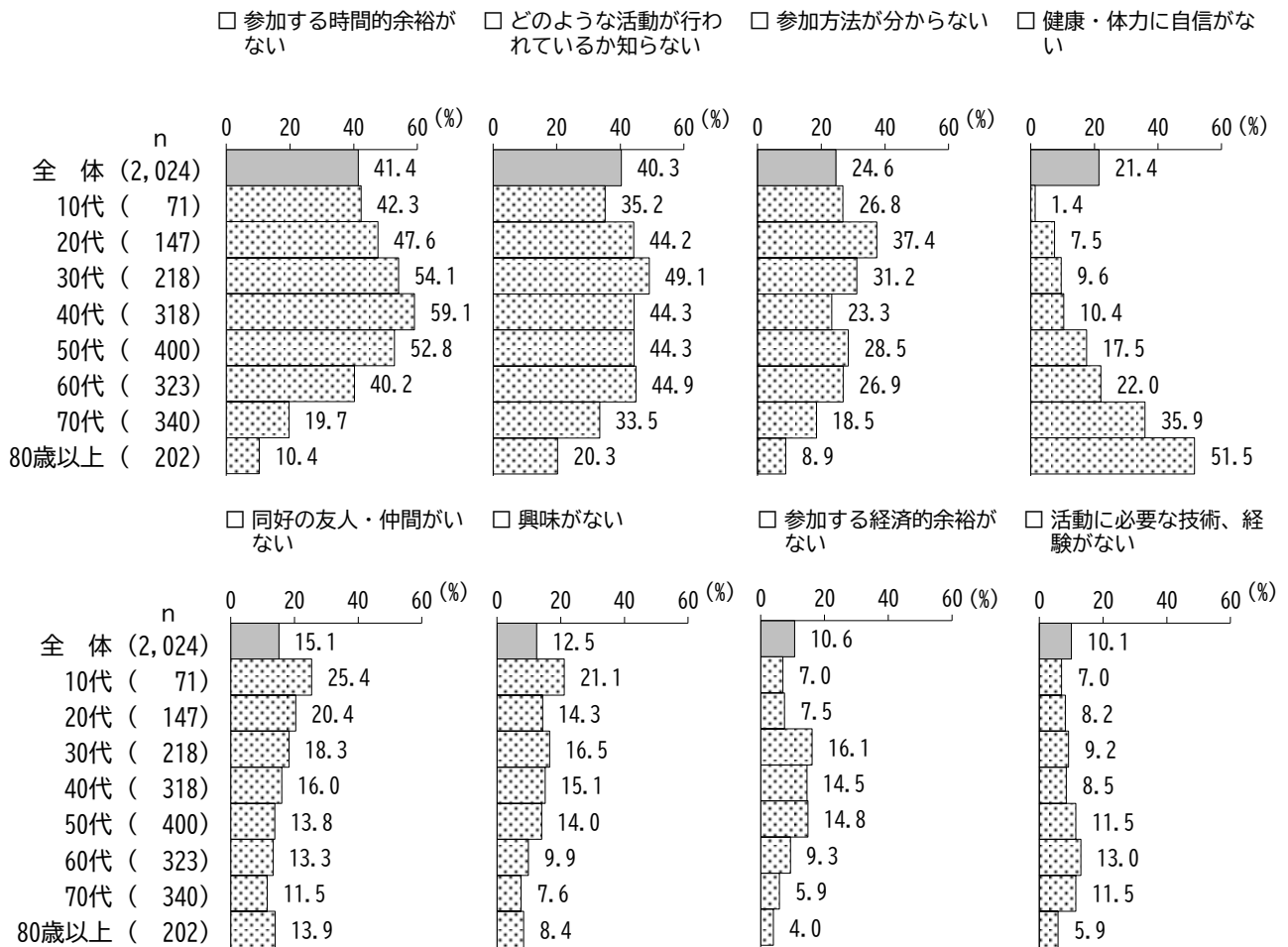
前回の令和4年度調査と比較については、今回調査では「やりたいことが見つからない」および「興味がない」の選択肢の設計を変更している。本問は複数回答の設問であることから、参考として前回調査との差をみたところ、特に大きな違いはみられない。



※「やりたいことが見つからない」は今回（令和7年度）調査で削除し、「興味がない」を追加した。

【年代別】（上位8項目）

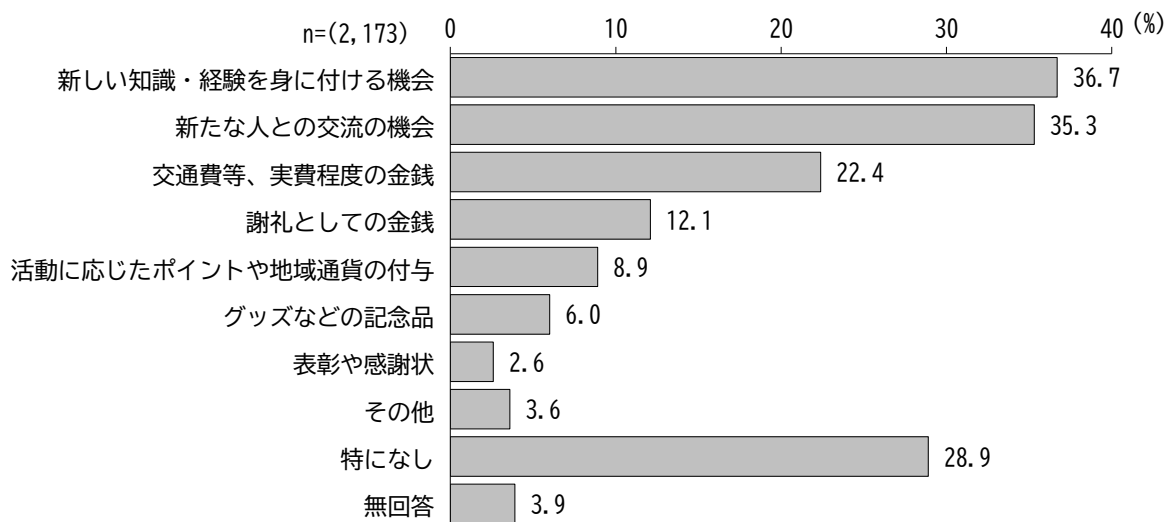
年代別で上位8項目をみると、「参加する時間的余裕がない」は40代で59.1%と最も高く、30代と50代も5割台となっている。「どのような活動が行われているか知らない」は30代で49.1%、「参加方法が分からない」は20代で37.4%と、それぞれ最も高い。「健康・体力に自信がない」は年代が上がるほど高くなり、「同好の友人・仲間がいない」と「興味がない」はおおむね年代が上がるほど低くなっている。



(3) ボランティア活動の参加意欲を高めるために求めるもの

問30 ボランティア活動の参加意欲を高めるものとして、あなたが求めるものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

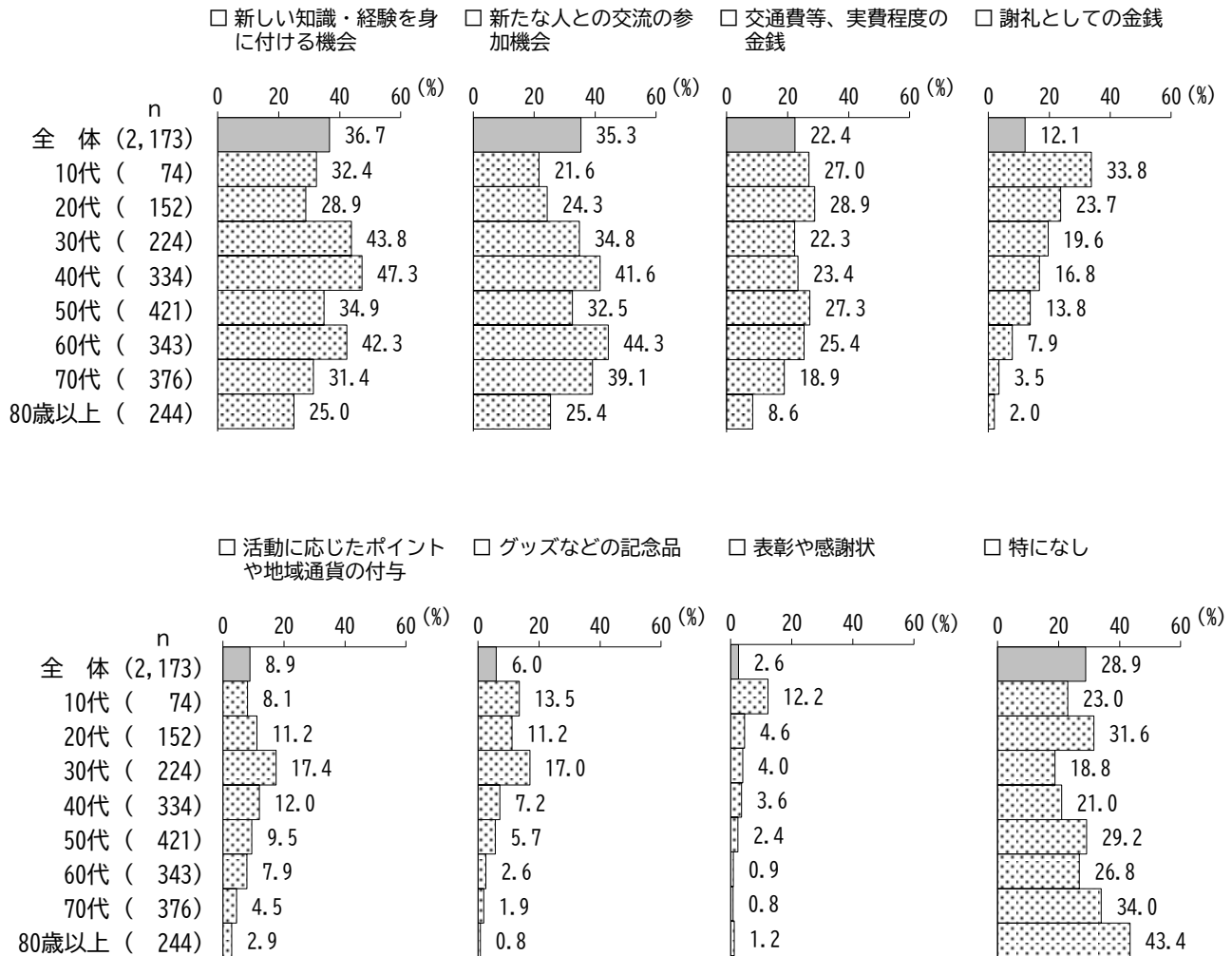
ボランティア活動の参加意欲を高めるために求めるものは、「新しい知識・経験を身に付ける機会」が36.7%で最も高く、次いで「新たな人との交流の機会」が35.3%、「交通費等、実費程度の金銭」が22.4%などとなっている。一方、「特になし」は28.9%である。



【年代別】（上位7項目+「特になし」）

年代別で上位7項目をみると、「新しい知識・経験を身に付ける機会」は、40代で47.3%と最も高く、次いで30代と60代で4割台半ばとなっており、40代と60代は「新たな人との交流の参加機会」でも高い。「交通費等、実費程度の金銭」は10~60代では特に大きな違いはみられず、「謝礼としての金銭」は10代が33.8%で、年代が上がるほど低くなっている。

一方、「特になし」は、80歳以上で43.4%と最も高くなっている。

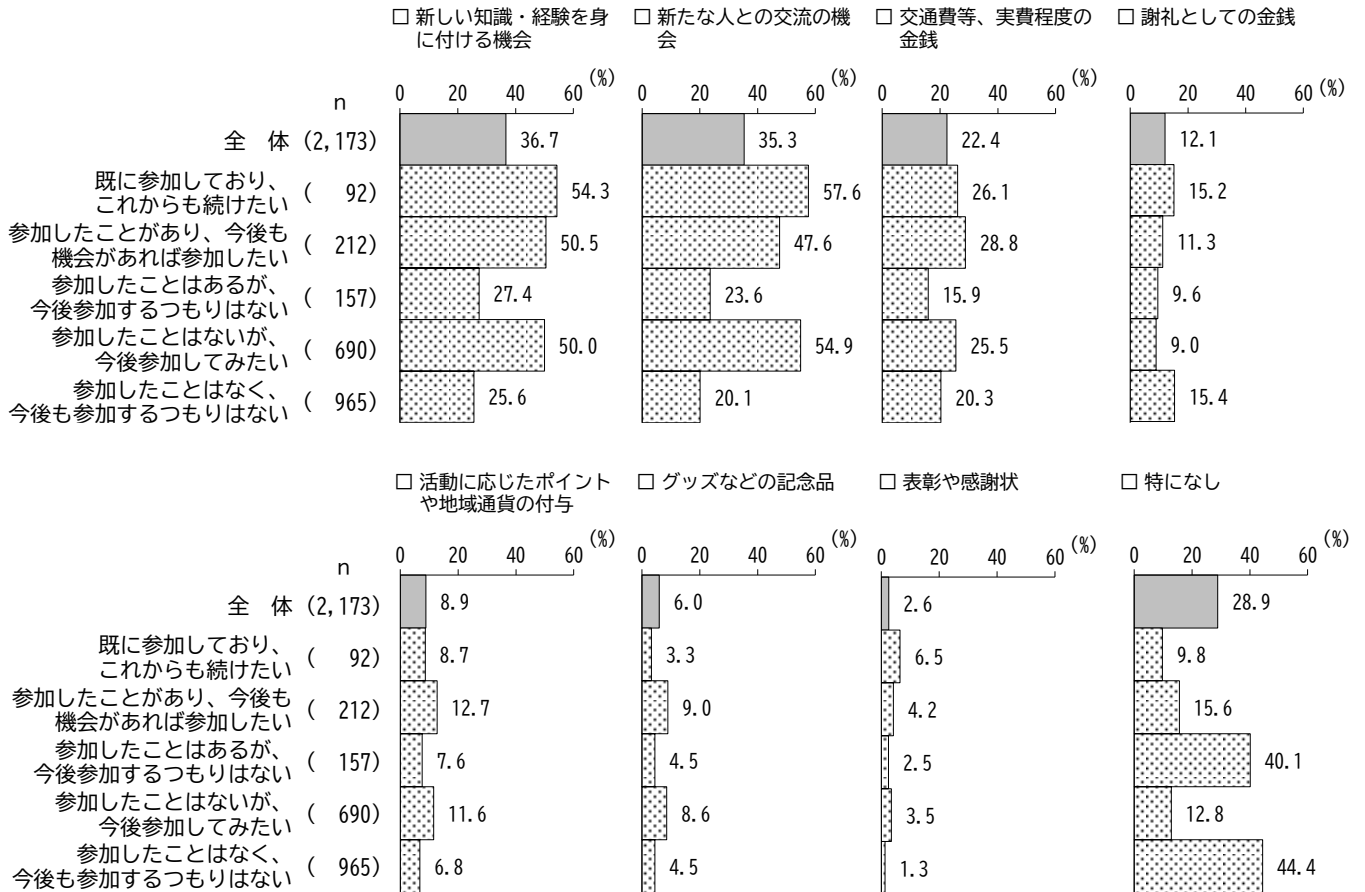


第2章 調査結果の詳細

【ボランティア活動への参加意向別】（上位7項目+「特になし」）

ボランティア活動への参加意向別で上位7項目をみると、「新しい知識・経験を身に付ける機会」と「新たな人との交流の参加機会」は、ボランティア活動の継続ないしは参加意向のある人で高く、4割台後半から5割台半ばとなっている。

一方、「特になし」は、ボランティア活動への参加意向がない人で4割台前半と高い。



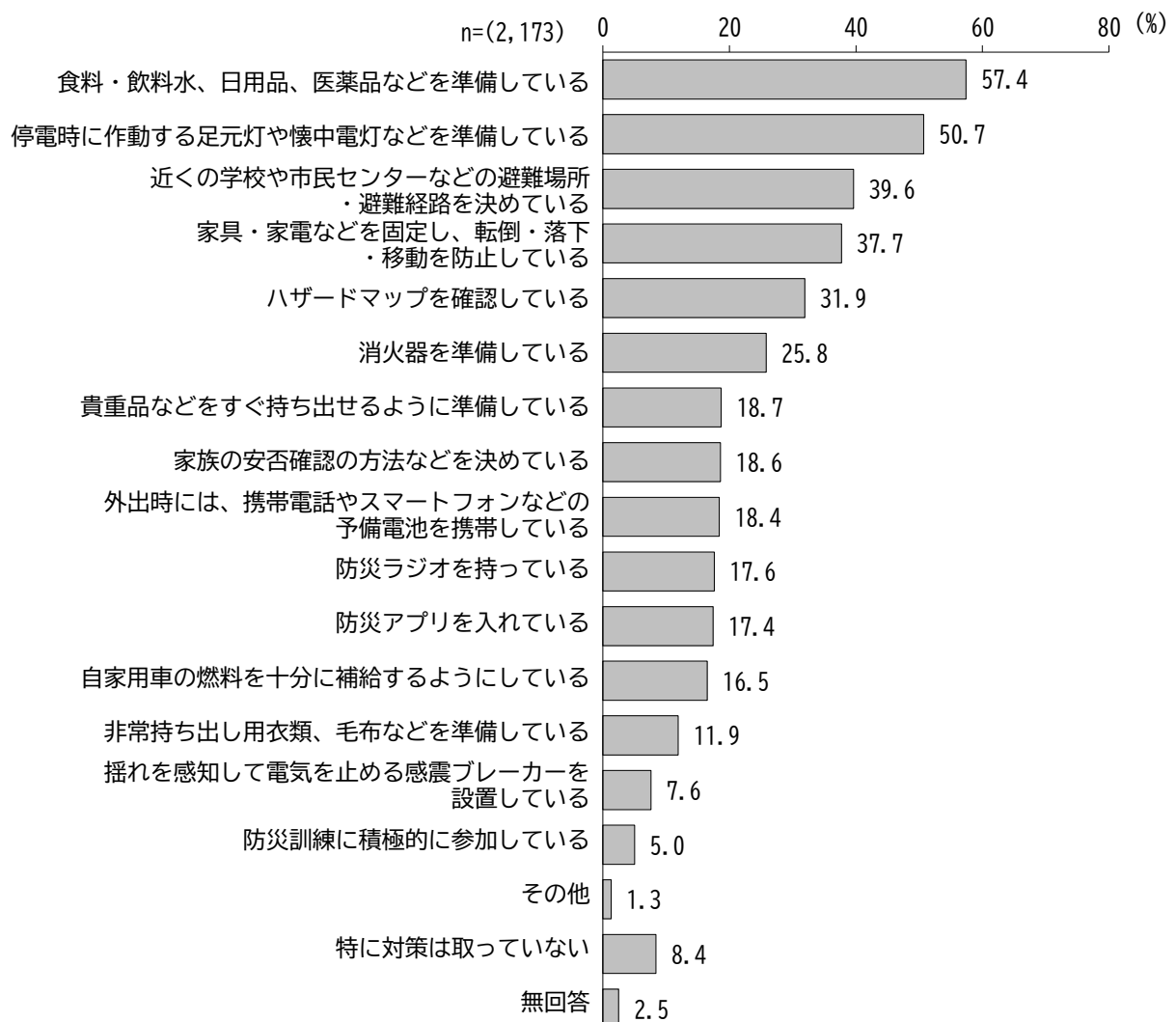
7 防災について

(1) 災害に備えている対策

問31 あなたは、災害に備えて、どのような対策をとっていますか。

(あてはまるものすべてに○)

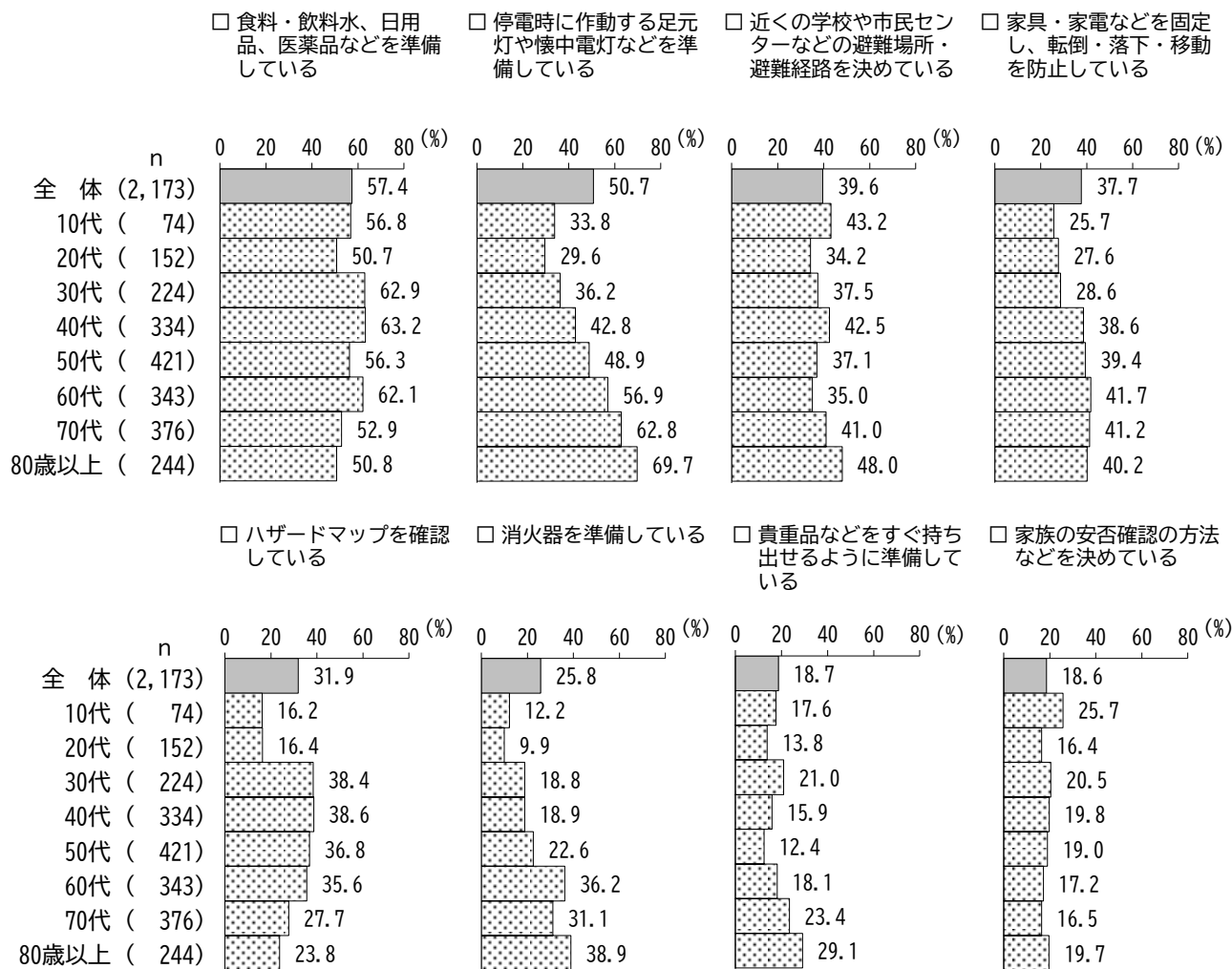
災害に備えている対策は、「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」が57.4%で最も高く、次いで「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」が50.7%となっている。このほか「近くの学校や市民センターなどの避難場所・避難経路を決めている」(39.6%)、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」(37.7%)、「ハザードマップを確認している」(31.9%)と続く。



第2章 調査結果の詳細

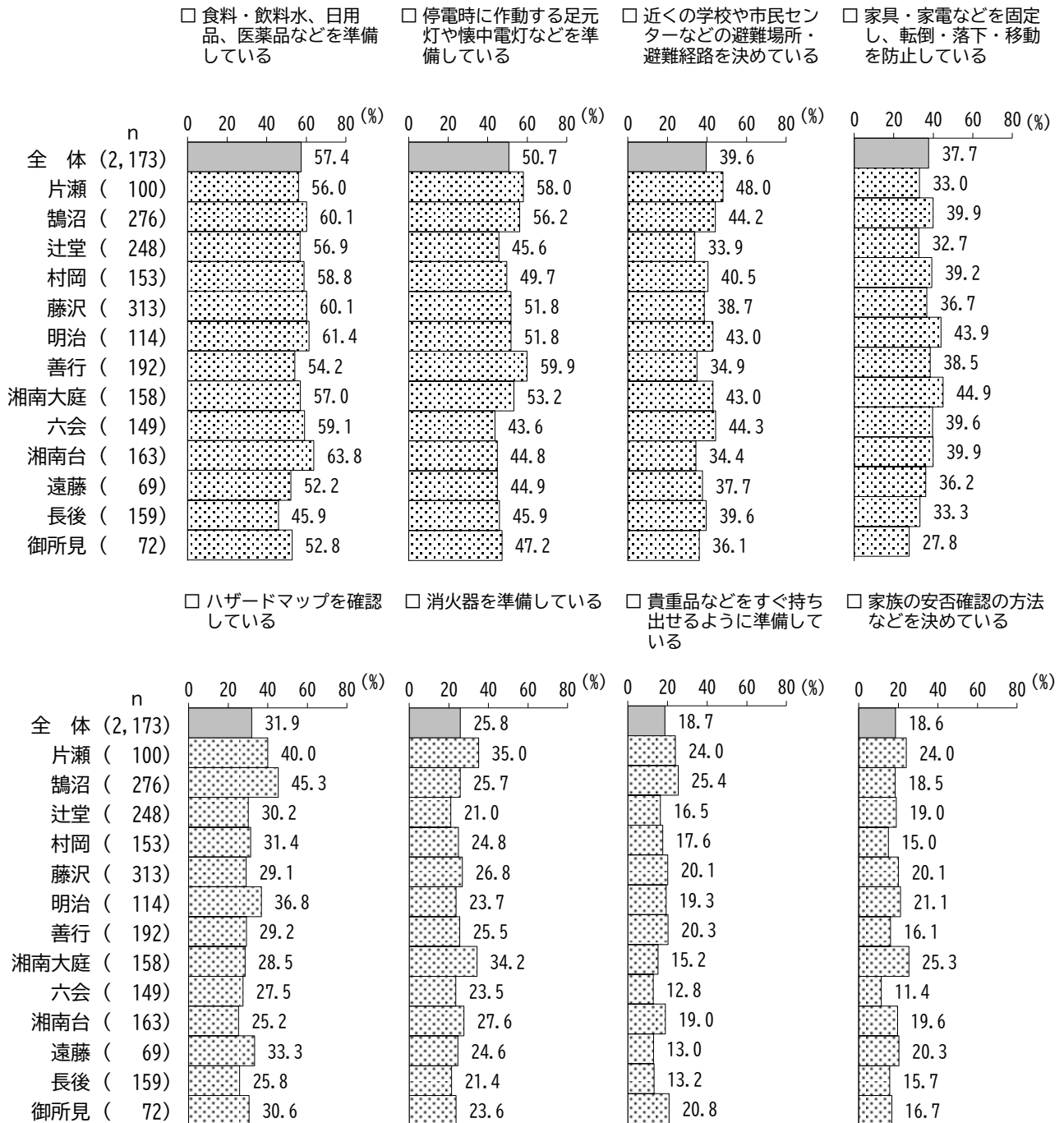
【年代別】（上位8項目）

年代別で上位8項目をみると、「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」は30～40代、60代で6割を超え高くなっている。「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」は、おおむね年代が上がるほど高くなり、80歳以上で69.7%となる。このほか、「ハザードマップを確認している」は10～20代で2割を下回り、これらの年代は「消火器を準備している」でも1割前後にとどまっている。



【居住地区別】（上位8項目）

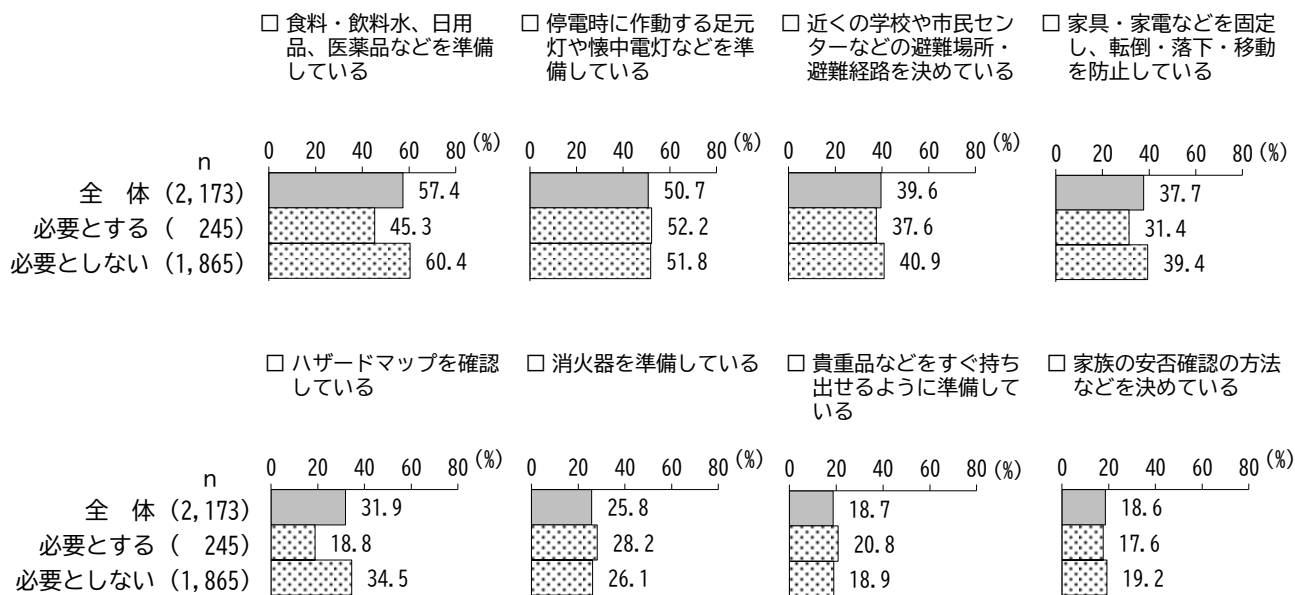
居住地区別で上位8項目をみると、「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」は長後で45.9%と5割を下回っている。「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」は、善行と片瀬で約6割と高く、善行は「近くの学校や市民センターなどの避難場所・避難経路を決めている」でも48.0%と高い。このほか、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」は湘南大庭と明治で、「ハザードマップを確認している」は鵜沼で、それぞれ4割台半ばとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【災害時における支援の必要性別】（上位8項目）

災害時における支援の必要性別で上位8項目をみると、上位8項目中5項目で、災害時における支援を「必要としない」人のほうが、支援を「必要とする」人よりも高くなっている。

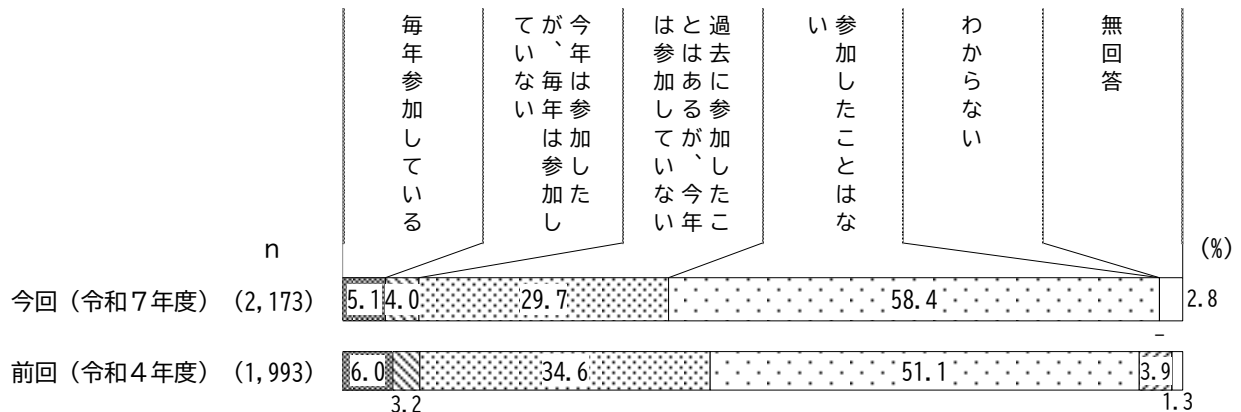


(2) 居住地域の防災訓練への参加状況

問32 あなたはお住まいの地域の防災訓練※に参加したことはありますか。(1つに○)

居住地域の防災訓練への参加状況は、「参加したことはない」が58.4%で最も高く、次いで「過去に参加したことはあるが、今年には参加していない」が29.7%となっている。

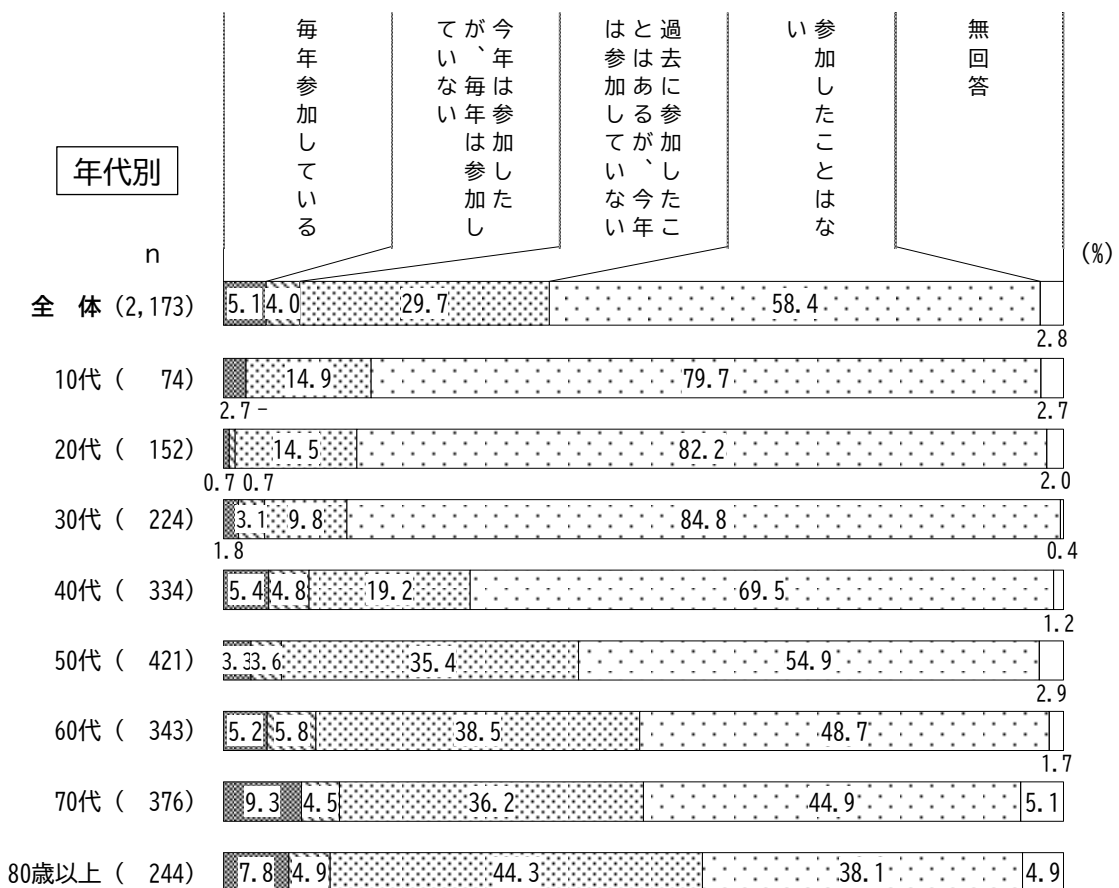
前回の令和4年度調査と比較については、今回調査では「わからない」の選択肢を削除しており、また本設問が単数回答であることから、厳密な比較は行わず、参考として図示することと定める。



※「わからない」は今回（令和7年度）調査で削除

【年代別】

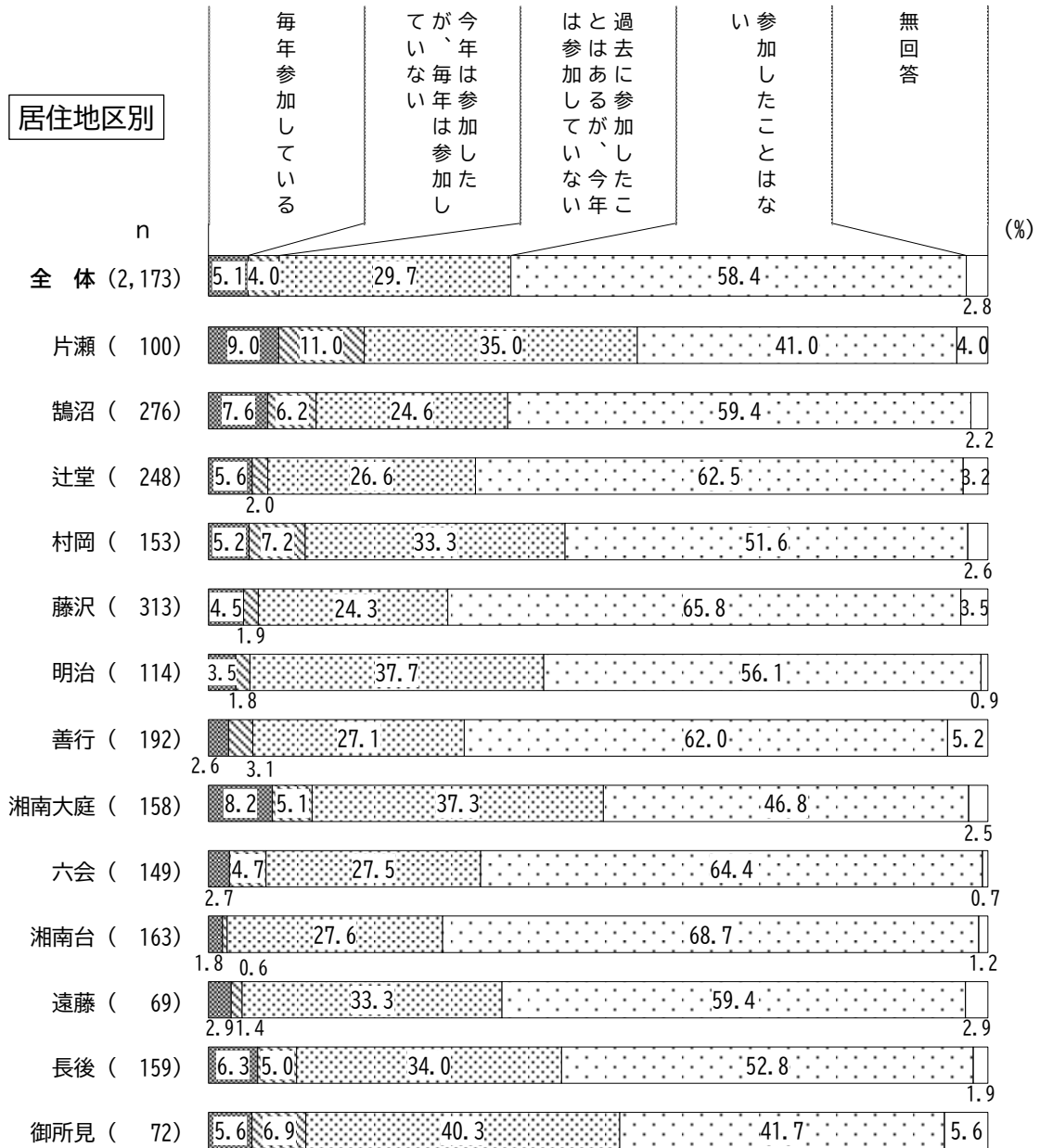
年代別でみると、「参加したことはない」は、10～20代で8割前後、30代で8割台半ばと高い。



第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】

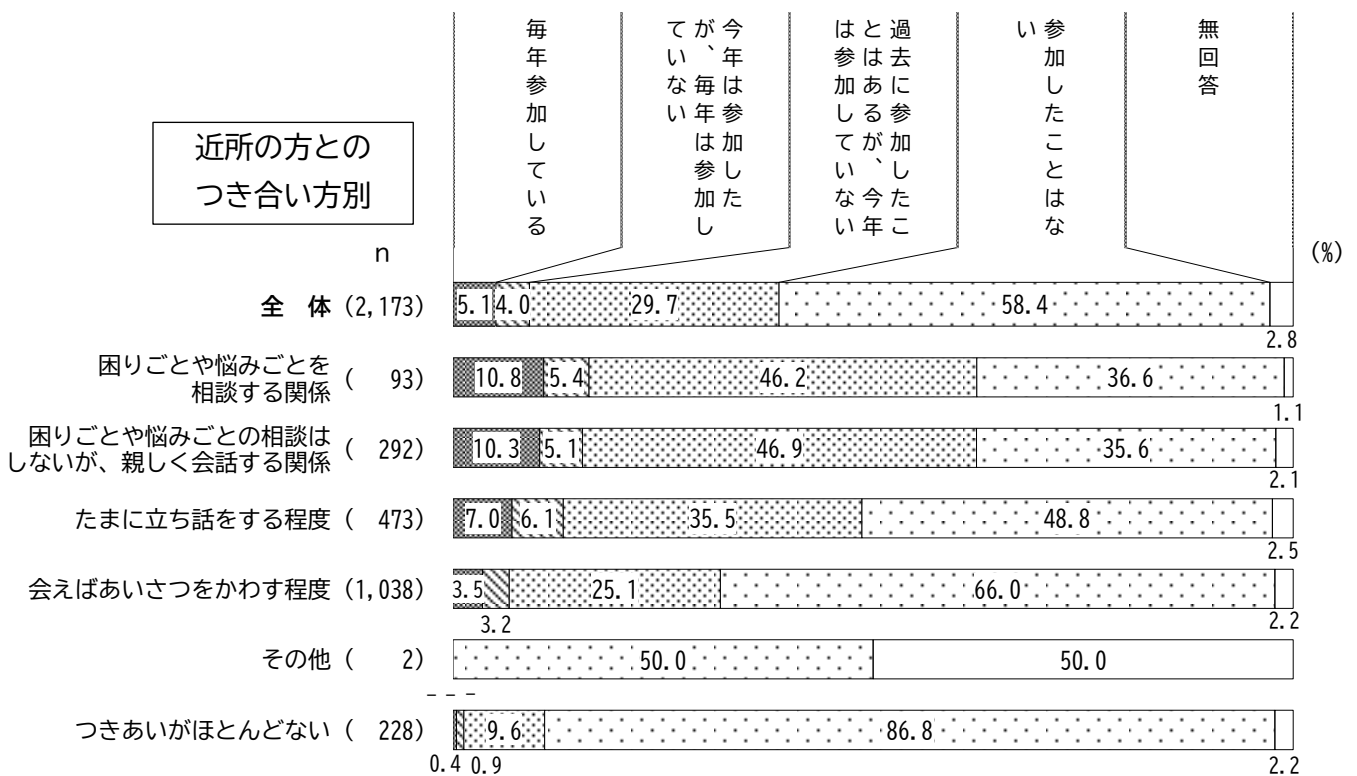
居住地区別でみると、どの居住地区でも「参加したことはない」が高く、特に、湘南台は68.7%となっている。



【近所の方とのつき合い方別】

近所の方とのつき合い方別でみると、「毎年参加している」は、「困りごとや悩みごとを相談する関係」のつき合い方をしている人と「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」のつき合い方をしている人で1割となっており、関係性が薄くなるほど低くなる。このことは、「今年は参加したが、毎年は参加していない」、「過去に参加したことはあるが、今年は参加していない」でも同様である。

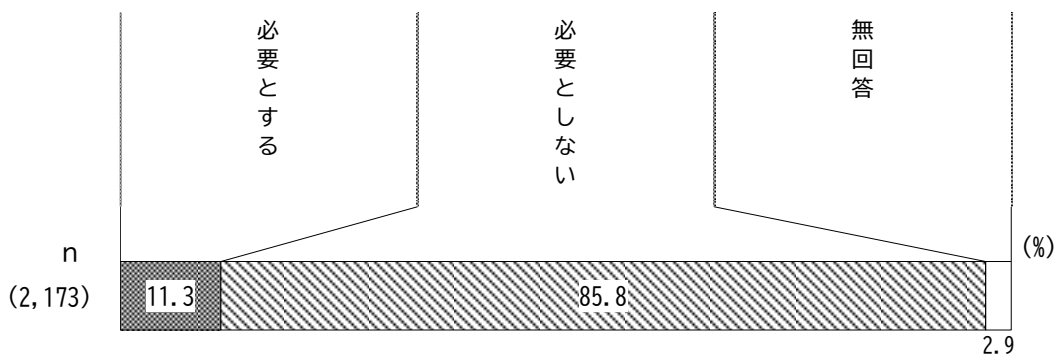
一方、「参加したことはない」は関係性が薄くなるほど高くなり、「つきあいがほとんどない」人で86.8%となっている。



(3) 災害時の避難支援の必要性

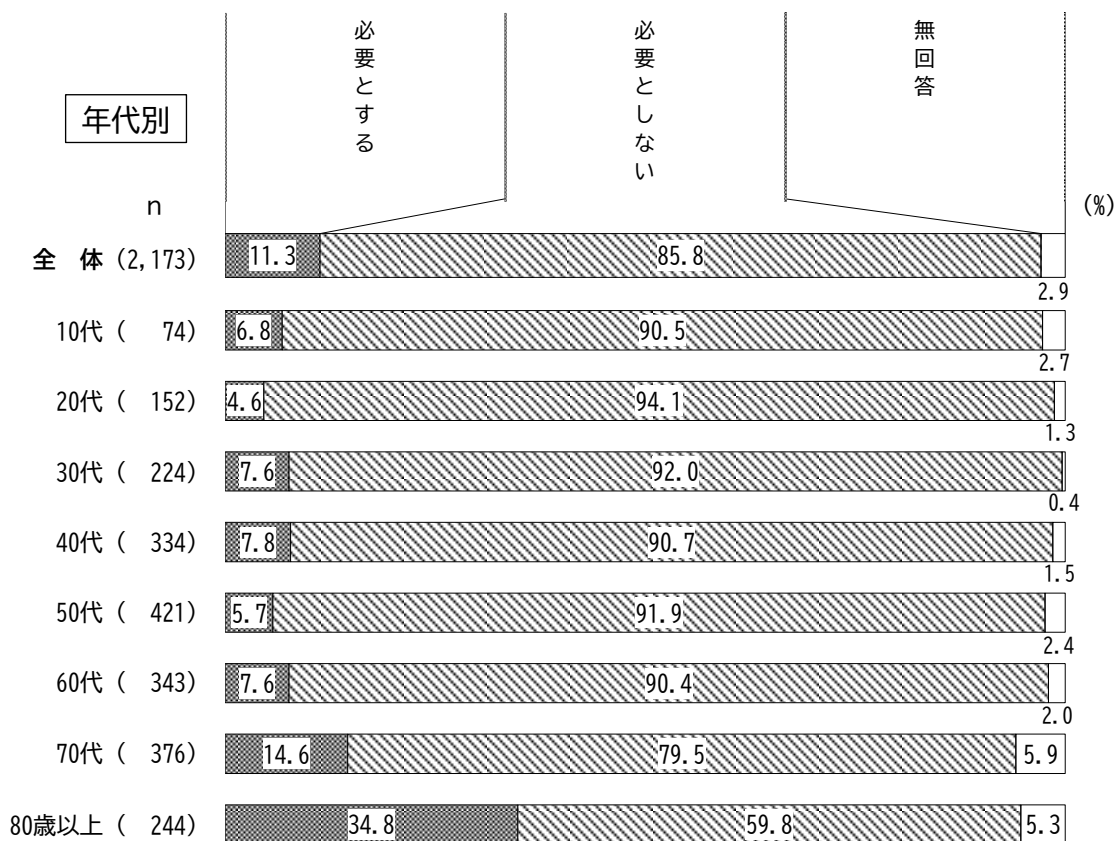
問33 災害時、あなたは自力での避難が難しく、どなたかの支援を必要としますか。(1つに○)

ご自身の災害時における避難支援を「必要とする」は11.3%となっている。



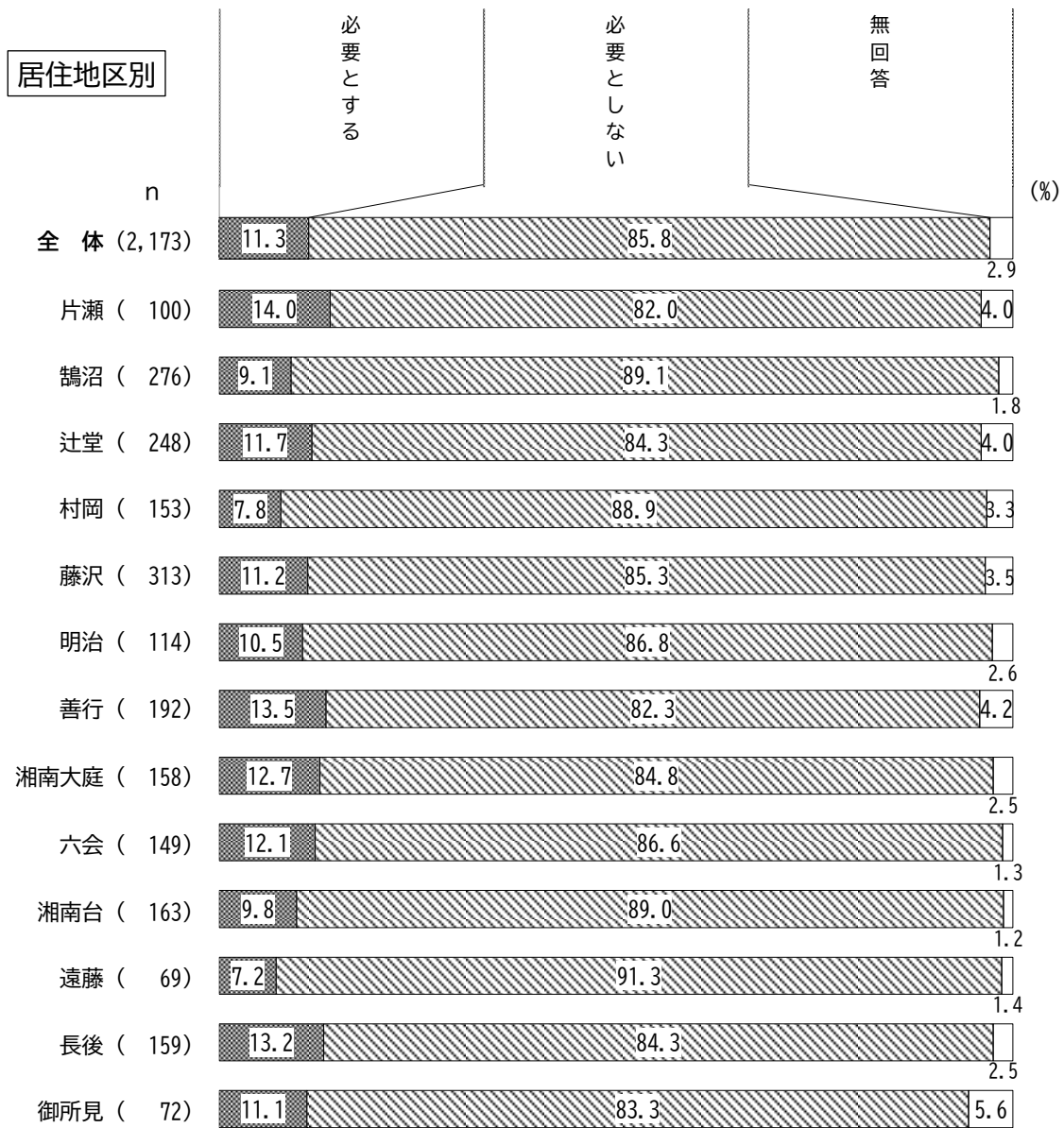
【年代別】

年代別でみると、「必要とする」は、70代で14.6%、80歳以上で34.8%となっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、特に大きな違いはみられない。

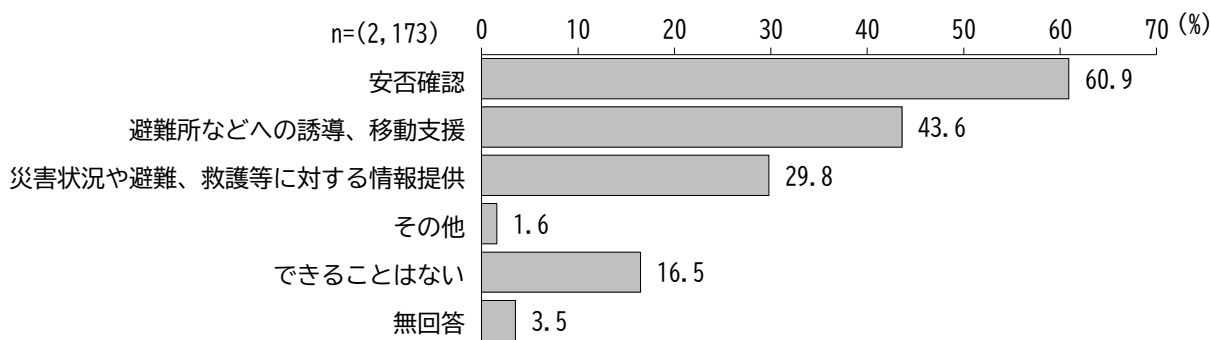


(4) 近隣の避難行動要支援者に協力できると思うこと

問34 災害時に、近隣にお住まいの避難行動要支援者※に協力が必要な場合、あなたは何ができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

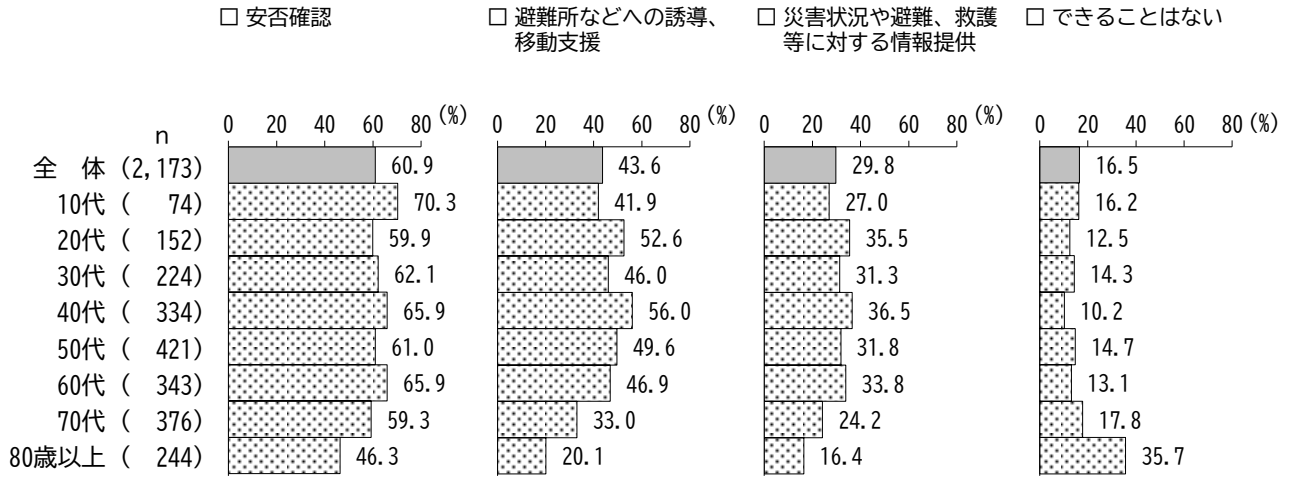
※避難行動要支援者とは、高齢者や障がいのある人など、災害が発生した場合にひとりで避難することが困難であり、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために、特に支援を要する人をいいます。

近隣の避難行動要支援者に協力できると思うことは、「安否確認」が60.9%で最も高く、次いで「避難所などへの誘導、移動支援」が43.6%となっている。「災害状況や避難、救護等に対する情報提供」(29.8%)、「できることはない」(16.5%)となっている。



【年代別】（上位3項目+「できることはない」）

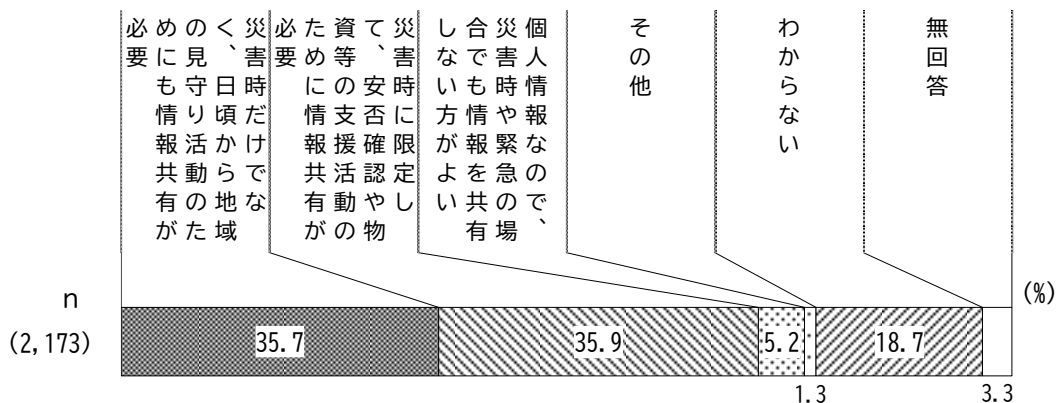
年代別で上位3項目をみると、どの年代も「安否確認」は高く、特に10代で7割と最も高い。「避難所などへの誘導、移動支援」は、40代で56.0%と最も高く、20代と50代で5割前後である。



(5) 居住者情報を必要に応じて自治会・町内会などで共有することについて

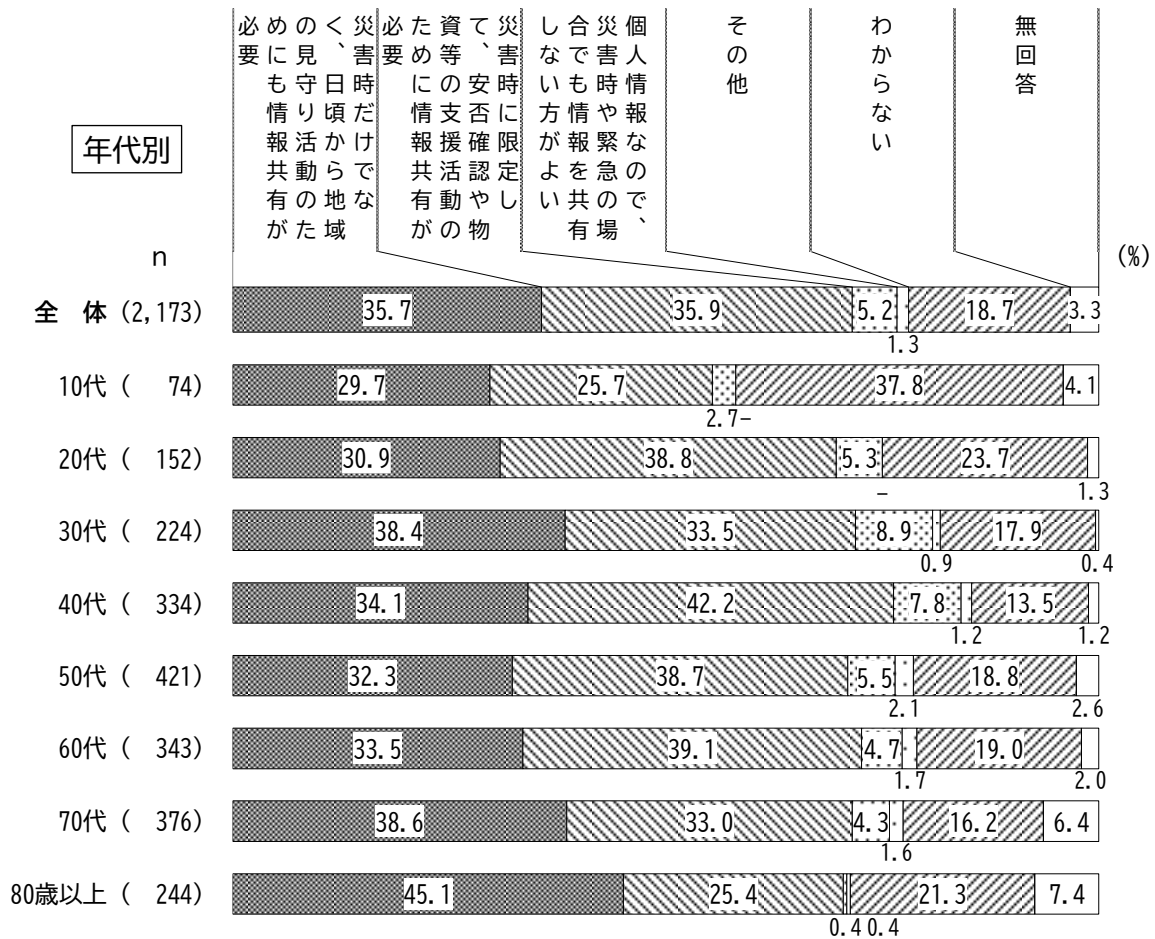
問35 災害時に備えるなどの理由で、地域にお住まいの方の情報を必要に応じて自治会・町内会などで共有することについてどう感じますか。(1つに○)

居住者情報を自治会・町内会などで共有することについては、「災害時に限定して、安否確認や物資等の支援活動のために情報共有が必要」が35.9%、「災害時だけでなく、日頃から地域の見守り活動のためにも情報共有が必要」が35.7%で、おおむね並んでいる。



【年代別】

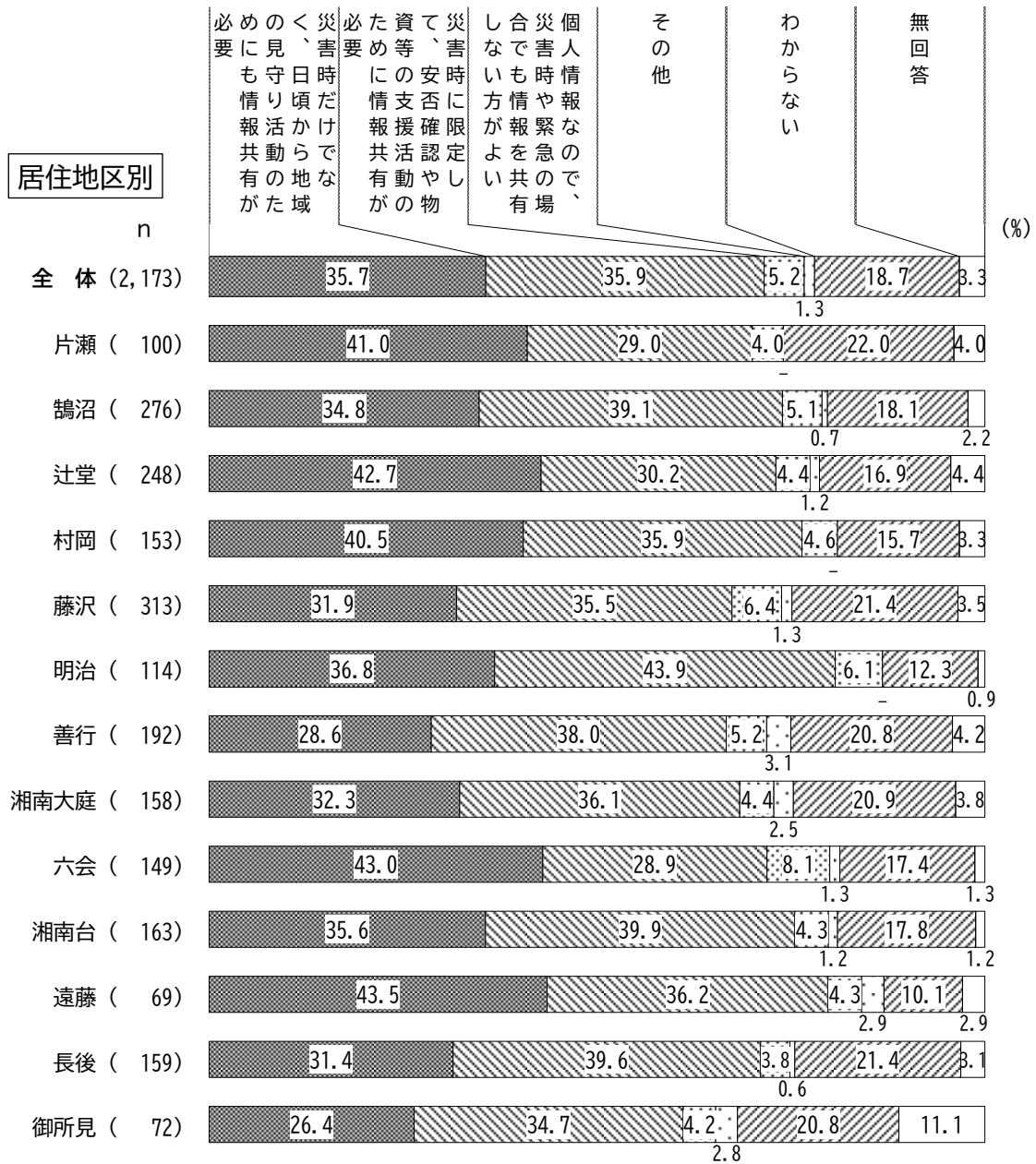
年代別でみると、「災害時だけでなく、日頃から地域の見守り活動のためにも情報共有が必要」は、80歳以上で45.1%と最も高く、次いで30代と70代で約4割である。これらの年代と10代以外は、「災害時に限定して、安否確認や物資等の支援活動のために情報共有が必要」が4割前後である。また、10代は「わからない」が37.8%となっている。



第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】

居住地区別で見ると、「災害時だけでなく、日頃から地域の見守り活動のためにも情報共有が必要」は、遠藤、六会、辻堂で4割台半ばと高くなっている。「災害時に限定して、安否確認や物資等の支援活動のために情報共有が必要」は、明治で43.9%と最も高い。

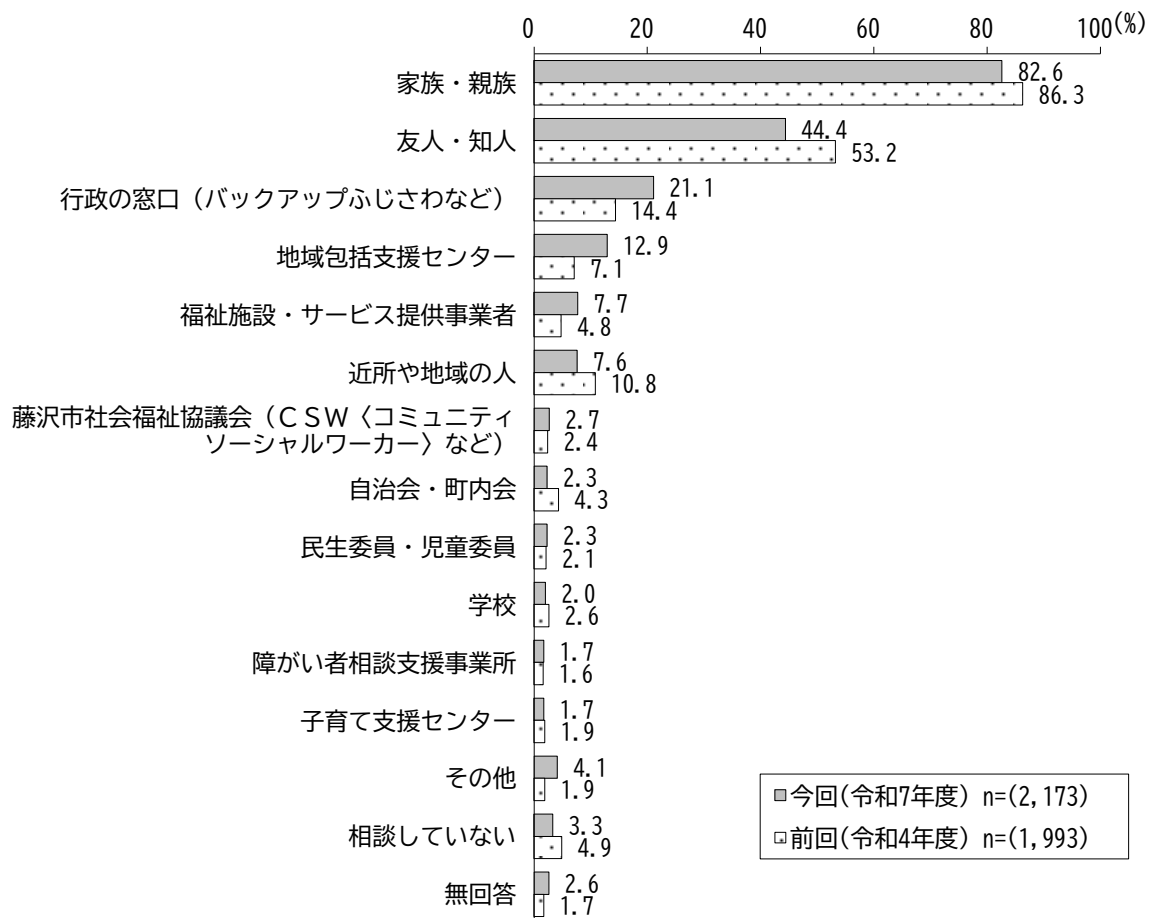


8 支えあいの地域づくりについて

(1) 保健福祉に関することで困ったときの相談相手

問36 あなたは福祉や健康に関することで困ったとき、誰に（どこに）相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

福祉や健康に関することで困ったときの相談相手は、「家族・親族」が82.6%で最も高く、次いで「友人・知人」が44.4%「行政の窓口（バックアップふじさわなど）」が21.1%などとなっている。前回の令和4年度調査と比較すると、「行政の窓口（バックアップふじさわなど）」が6.7ポイント増加し、「友人・知人」が8.8ポイント減少している。

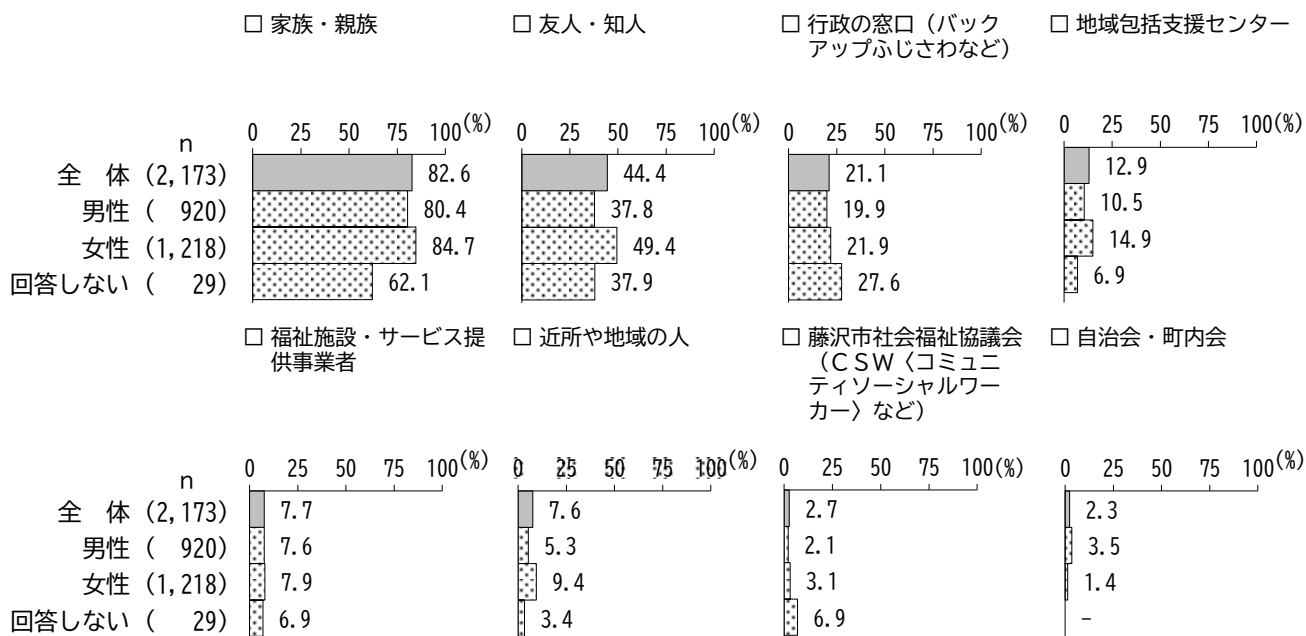


※設問文は、前回（令和4年度）は「困った時、誰に（どこに）相談しますか」だったが、今回（令和7年度）は「福祉や健康に関することで困ったとき、誰に（どこに）相談しますか」とした。

第2章 調査結果の詳細

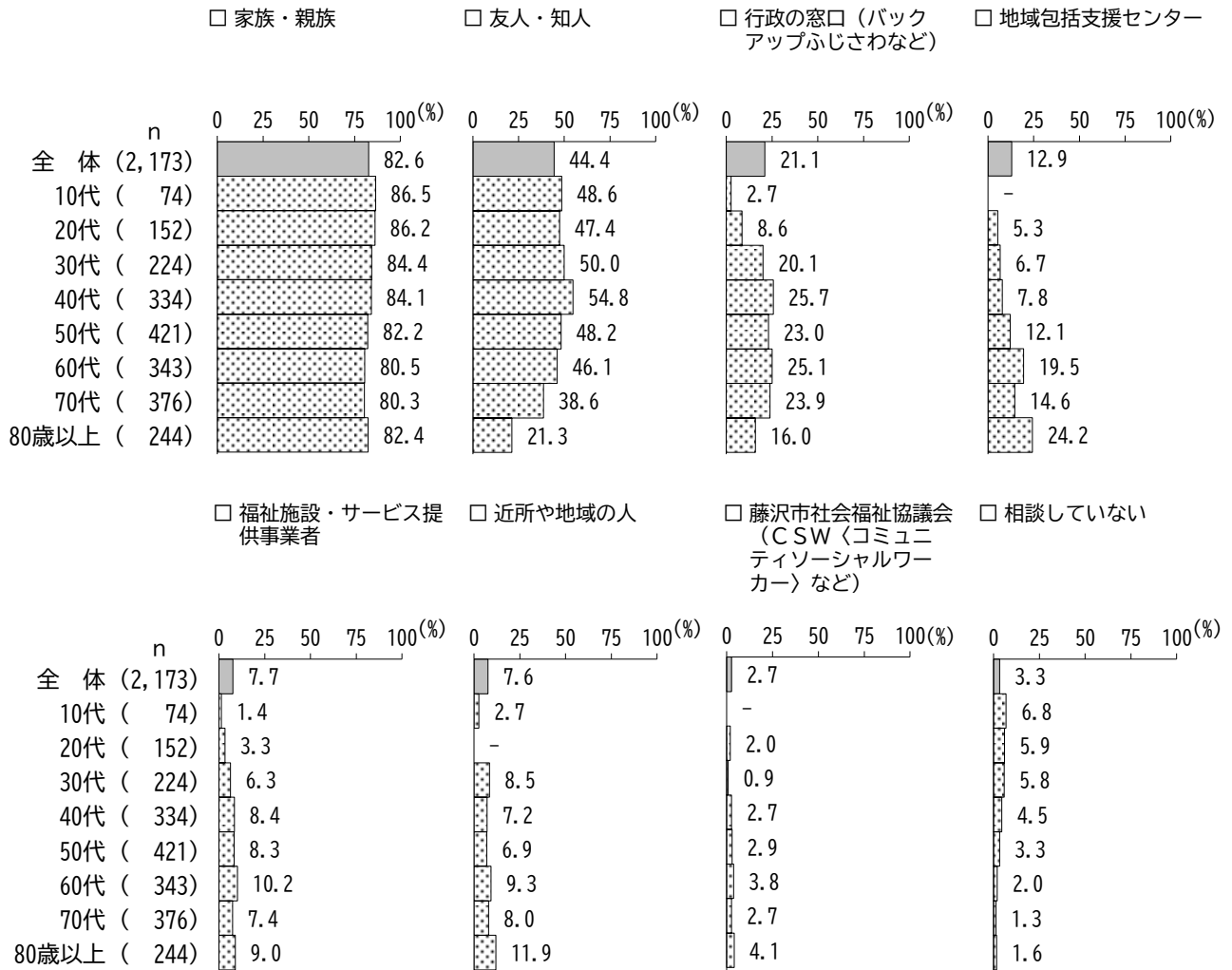
【性別】（上位8項目）

nの人数が確保できている男性と女性について上位8項目をみると、「自治会・町内会」を除いて、女性の方が男性よりも高くなっている。違いが最も大きいのは、「友人・知人」で11.6ポイント差がみられる。



【年代別】（上位8項目）

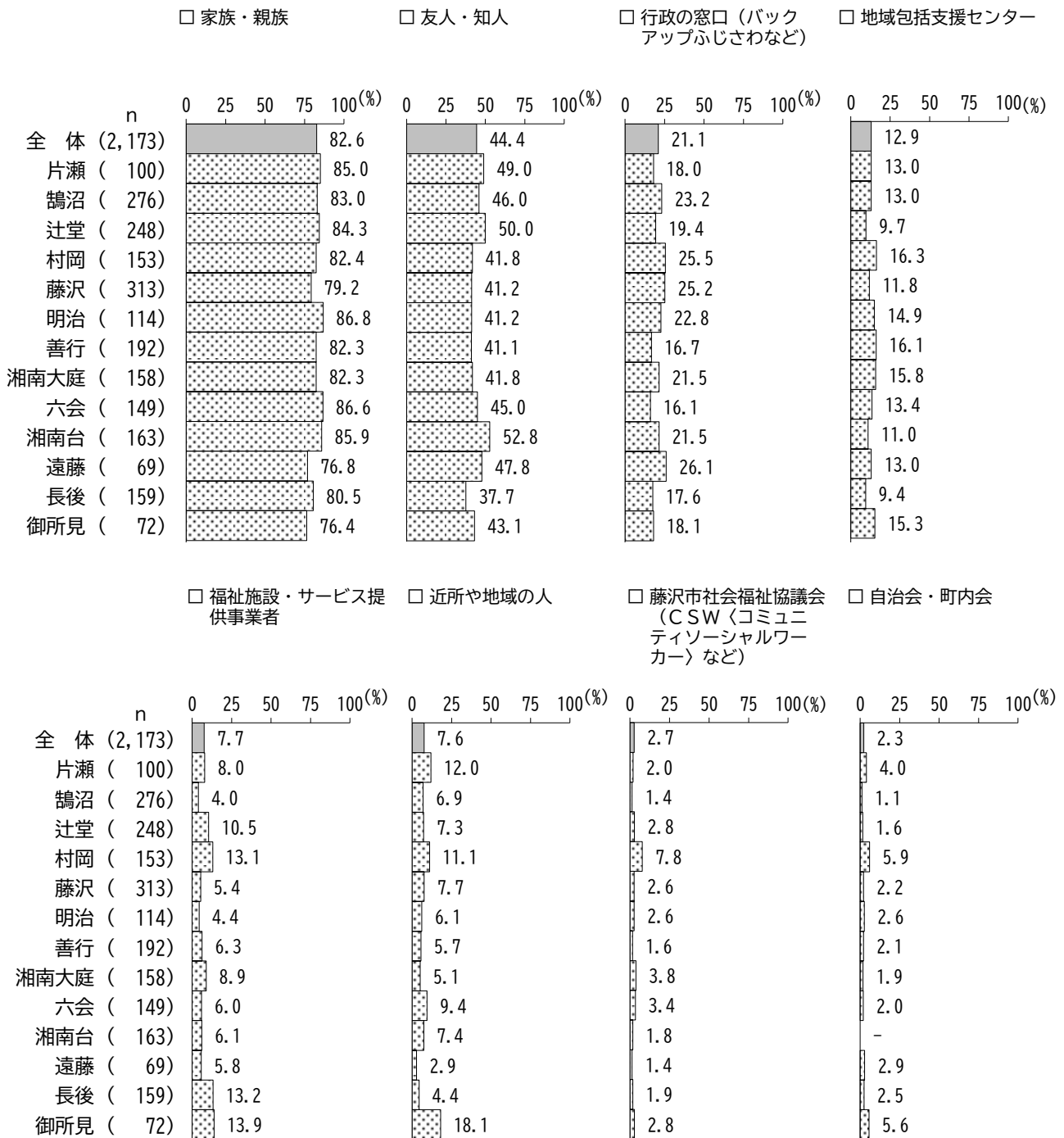
年代別で上位8項目をみると、どの年代も「家族・親族」が高く8割以上となっている。また、「友人・知人」は40代で54.8%と最も高く、それ以降年代が上がるほど低くなる。



第2章 調査結果の詳細

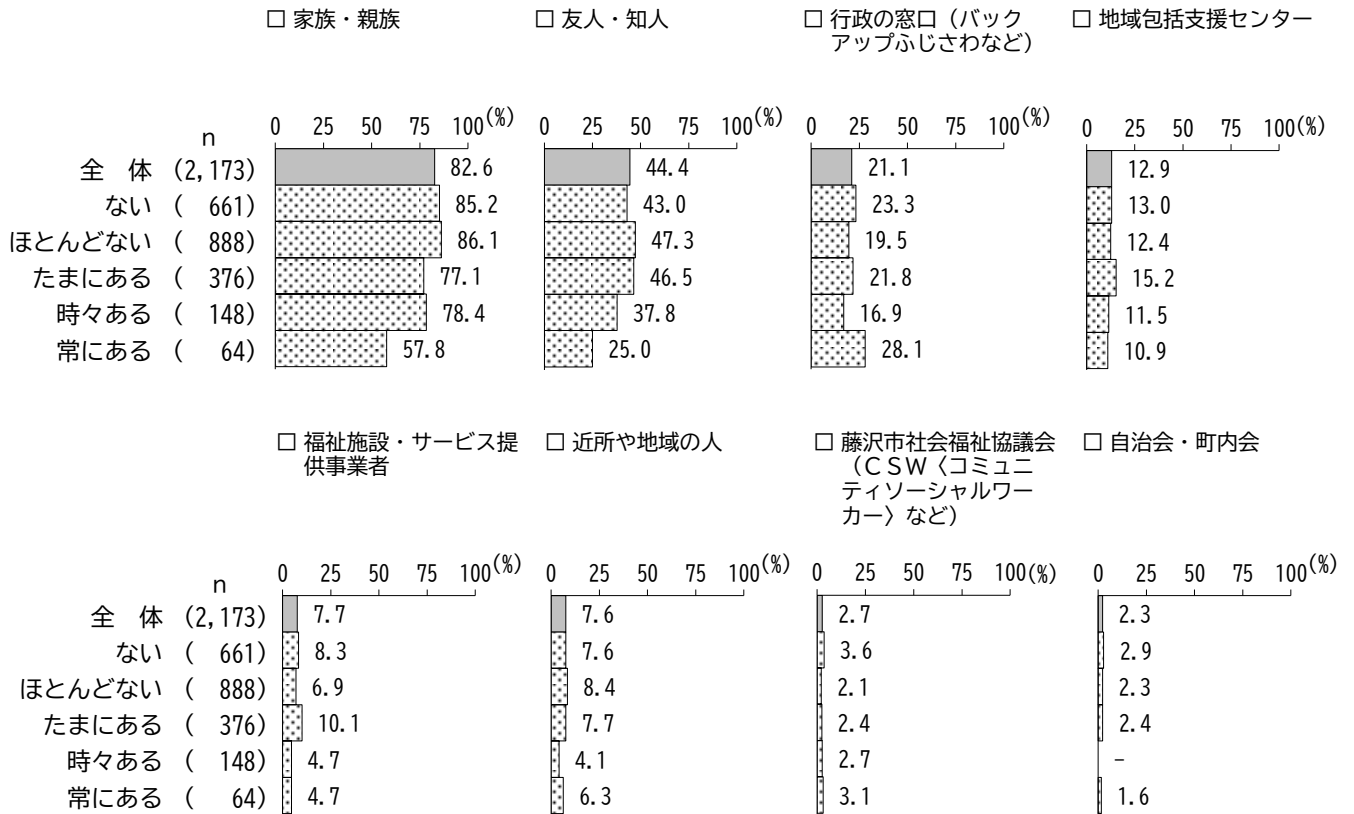
【居住地域別】（上位8項目）

居住地区別で上位8項目をみると、どの居住地区も「家族・親族」が高く7割以上となっている。また、「友人・知人」は湘南台と辻堂で5割台となっている。



【孤独を感じること別】（上位8項目）

孤独を感じること別で上位8項目をみると、おおむねどの層も「家族・親族」と「友人・知人」が高い。しかし、その中で、孤独感が「常にある」人は他の層に比べて低く、「家族・親族」で57.8%、「友人・知人」で25.0%にとどまる。また、孤独感が「常にある」人は「行政の窓口（バックアップふじさわなど）」が28.1%と「友人・知人」よりも高い。

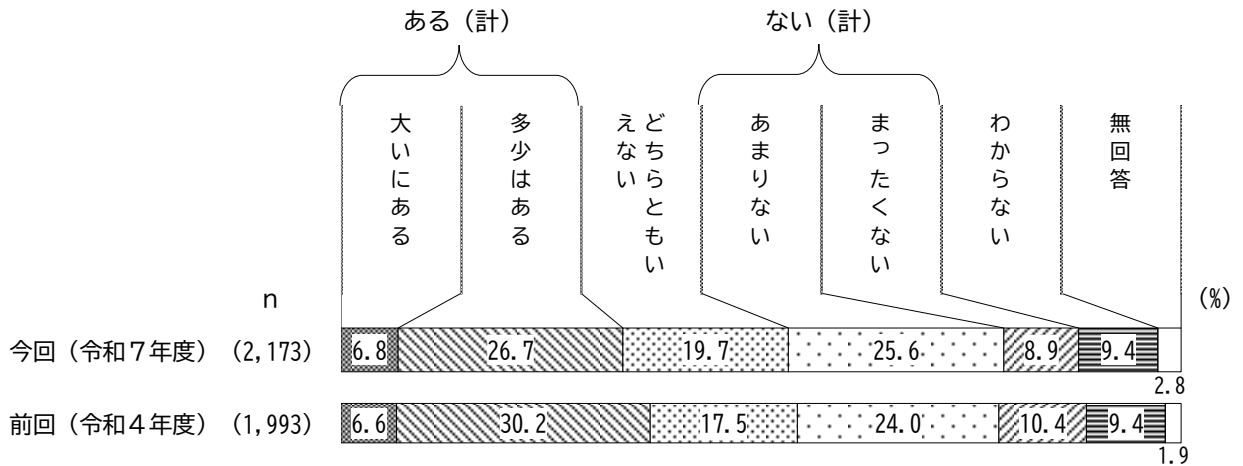


(2) 地域に支えられていると感じること

問37 あなたは普段、地域に支えられていると感じることはありますか。(1つに○)

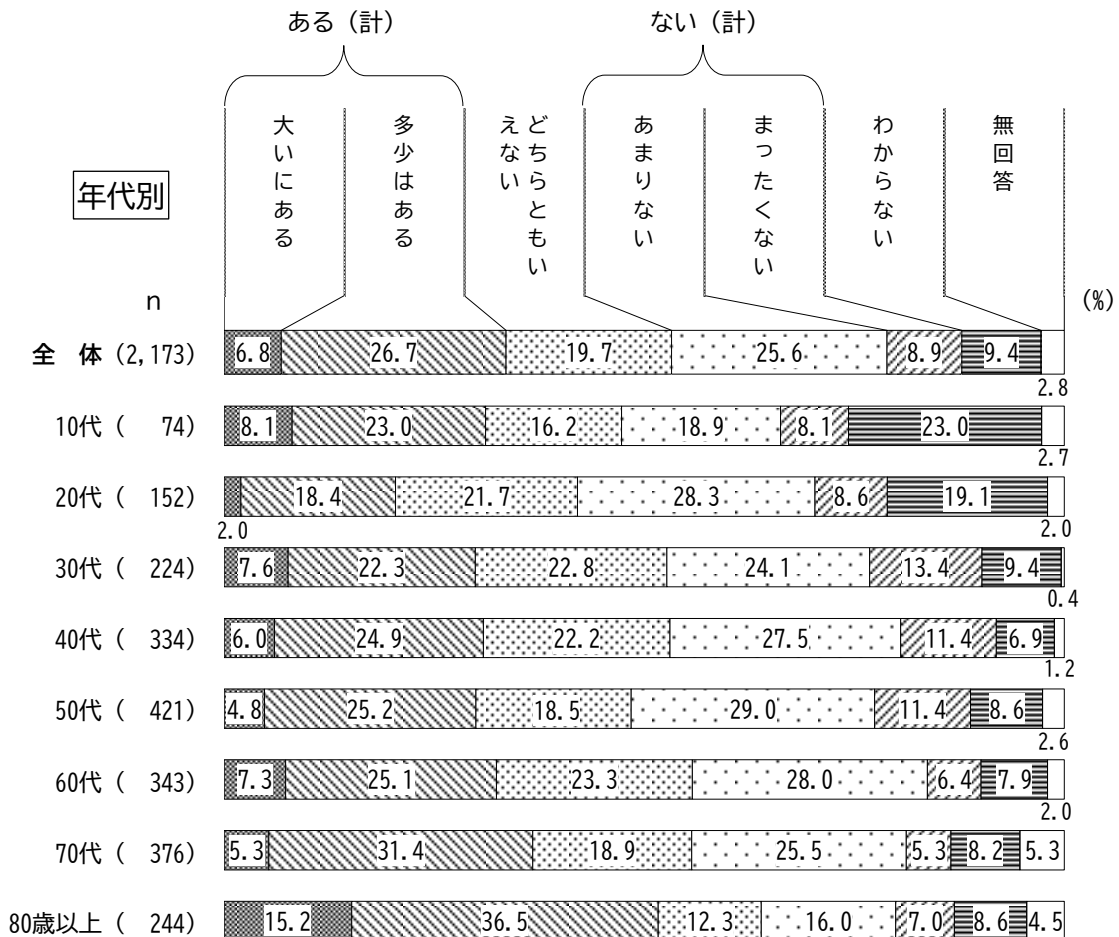
地域に支えられていると感じることが、「大いにある」は6.8%だが、「多少はある」が26.7%で最も高く、これらを合わせた【ある(計)】は33.5%となっている。一方、「あまりない」(25.6%)と「まったくない」(8.9%)を合わせた【ない(計)】が34.5%である。

前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



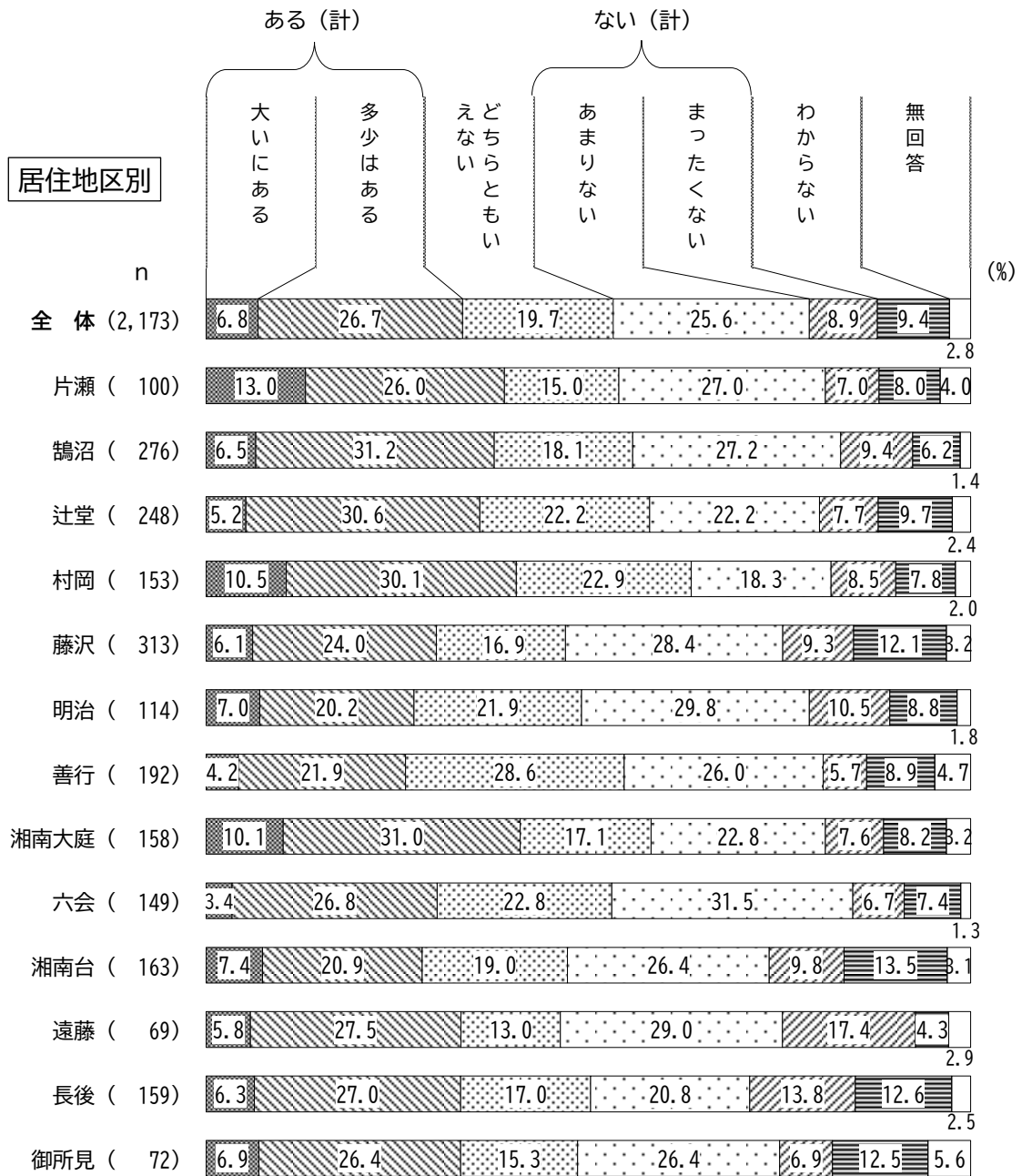
【年代別】

年代別でみると、【ある(計)】は80歳以上で51.7%と最も高い。一方、【ない(計)】は40～50代で4割前後と高くなっている。



【居住地区別】

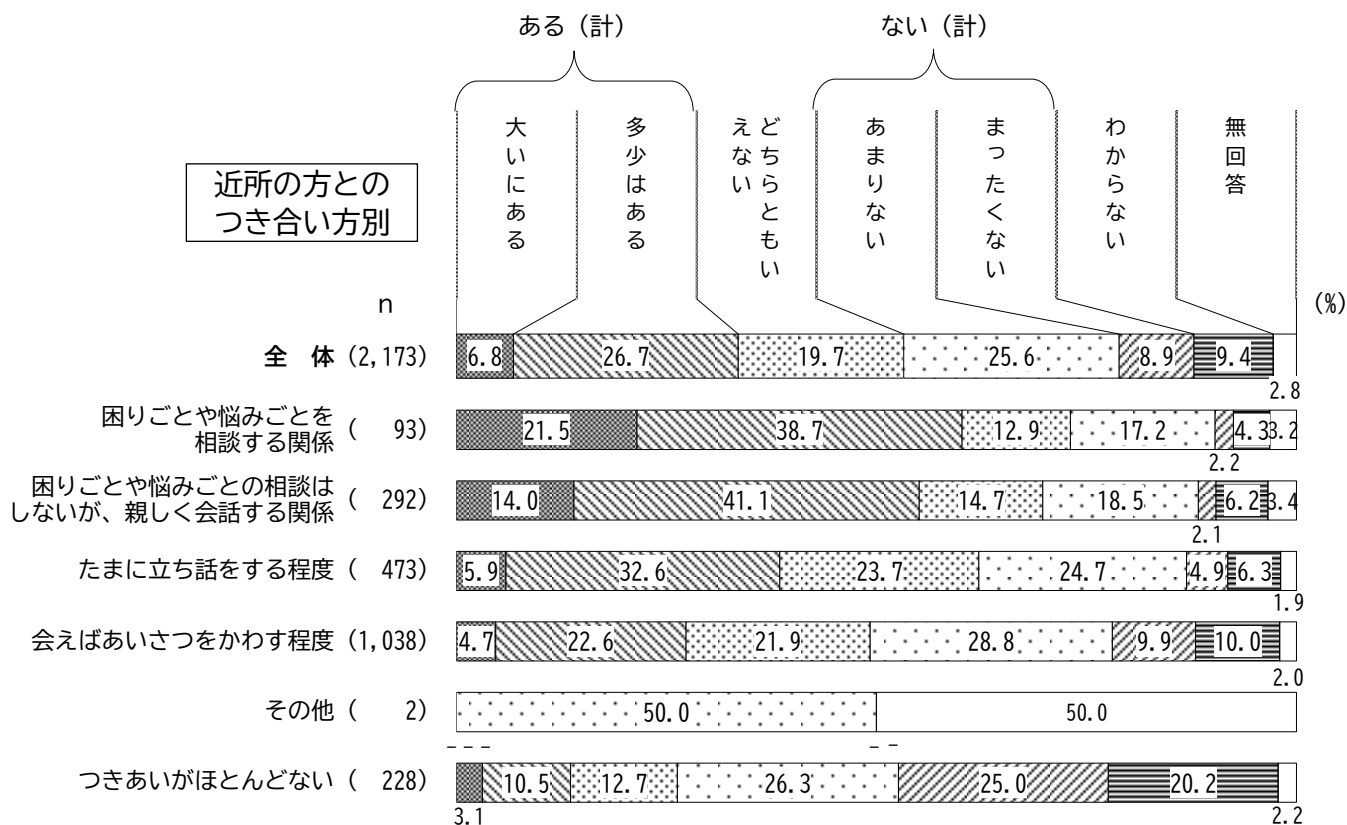
居住地区別でみると、【ある（計）】は湘南大庭、村岡、片瀬で4割前後と高くなっている。一方、【ない（計）】は遠藤で46.4%と最も高く、明治と六会で4割前後である。



第2章 調査結果の詳細

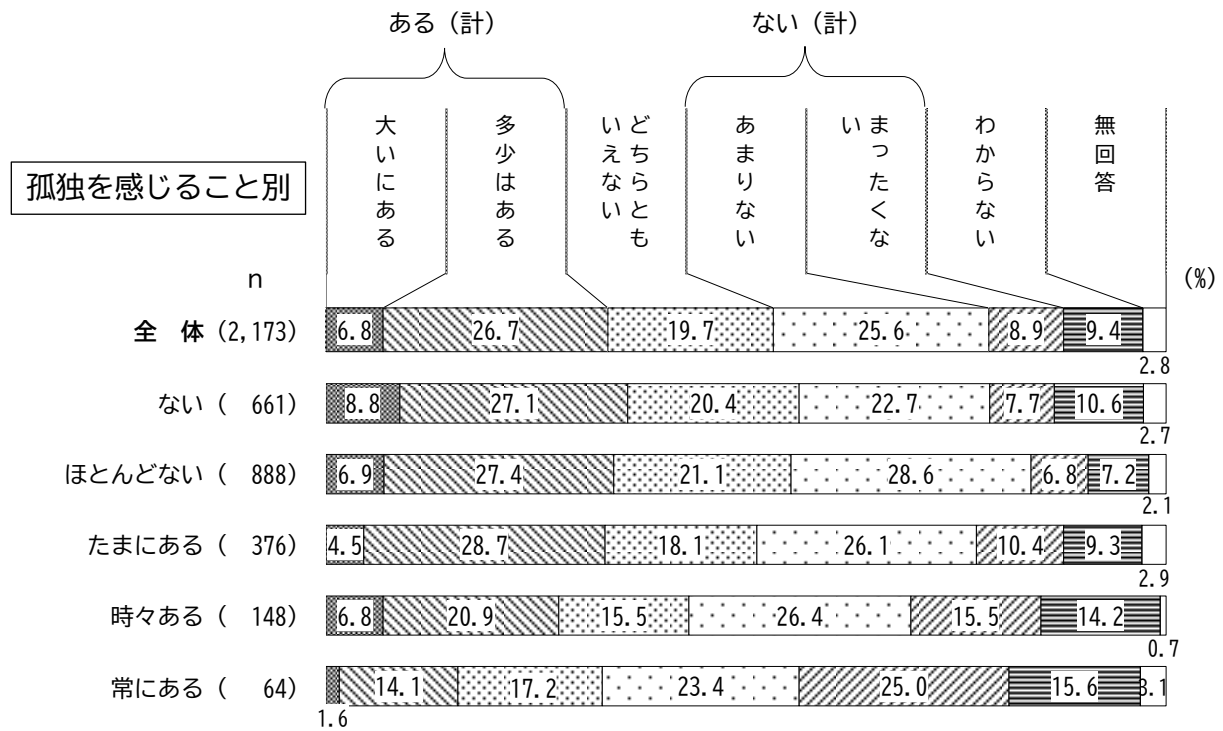
【近所の方とのつき合い方別】

近所の方とのつき合い方別でみると、【ある（計）】は、「困りごとや悩みごとを相談する関係」のつき合い方をしている人で60.2%、「困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係」のつき合い方をしている人で55.1%と高く、関係性が薄くなるほど低くなる。一方、【ない（計）】は関係性が薄くなるほど高くなり、「つきあいがほとんどない」人で51.3%となっている。



【孤独を感じること別】

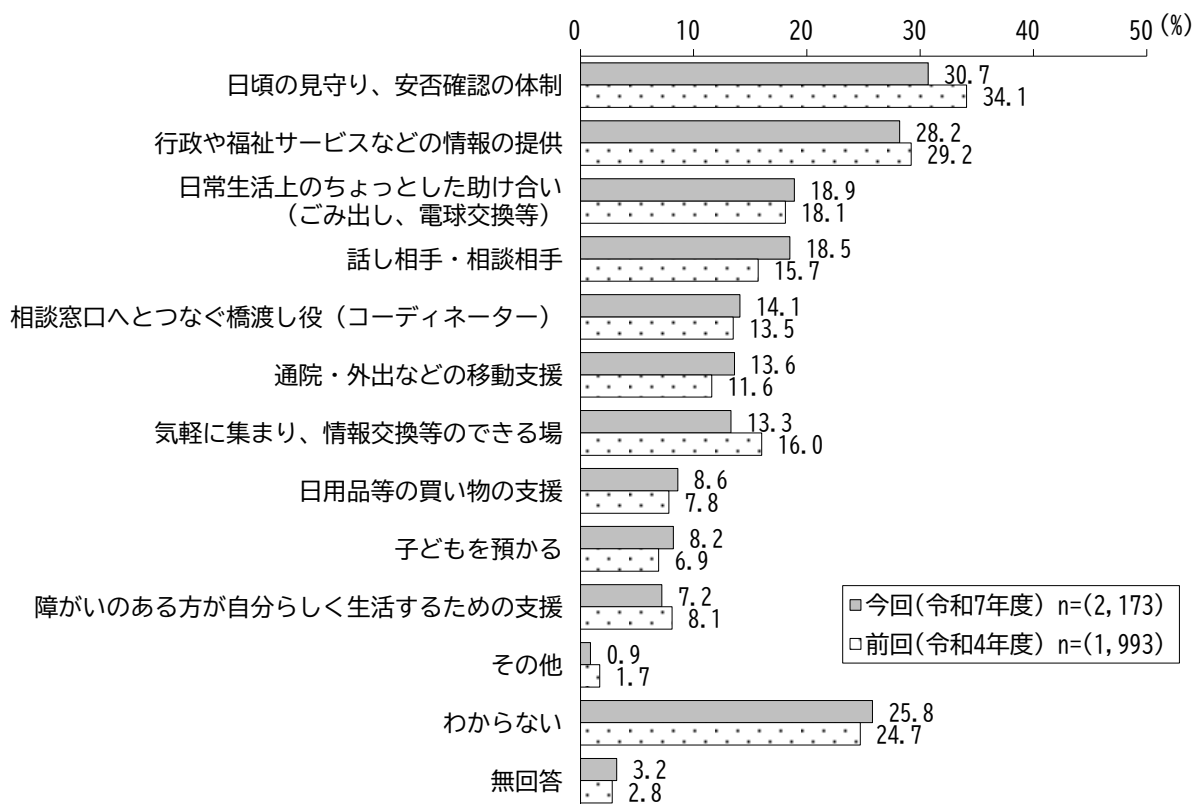
孤独を感じること別でみると、【ある(計)】は孤独を感じていない人ほど高くなっている。一方、【ない(計)】は孤独を感じている人ほど高く、孤独感が「常にある」人で48.4%となっている。



(3) 居住地域の支えあいとして必要だと思う支援

問38 あなたのお住まいの地域の支えあいとして、特にどのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで。わからない方は12に1つだけ〇)

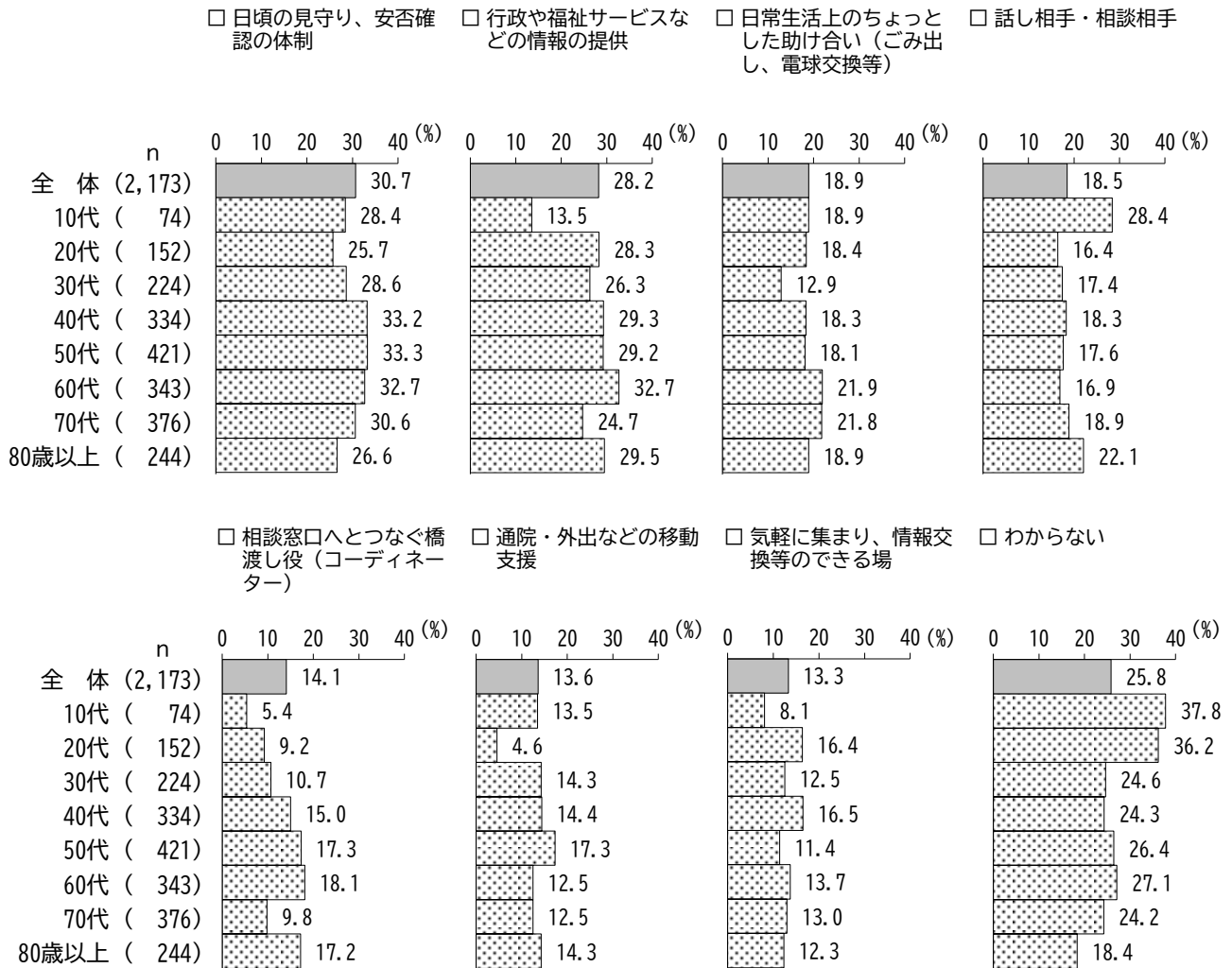
居住地域の支えあいに必要だと思う支援は、「日頃の見守り、安否確認の体制」が30.7%で最も高く、次いで「行政や福祉サービスなどの情報の提供」(28.2%)、「日常生活上のちょっとした助け合い(ごみ出し、電球交換等)」(18.9%)などとなっている。一方「わからない」が25.8%である。前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】（上位7項目+「わからない」）

年代別で上位7項目をみると、多くの年代で「日頃の見守り、安否確認の体制」と「行政や福祉サービスなどの情報の提供」が高くなっているが、10代では「話し相手・相談相手」が28.4%と高い。

また、「わからない」は10代で37.8%、20代で36.2%と高くなっている。

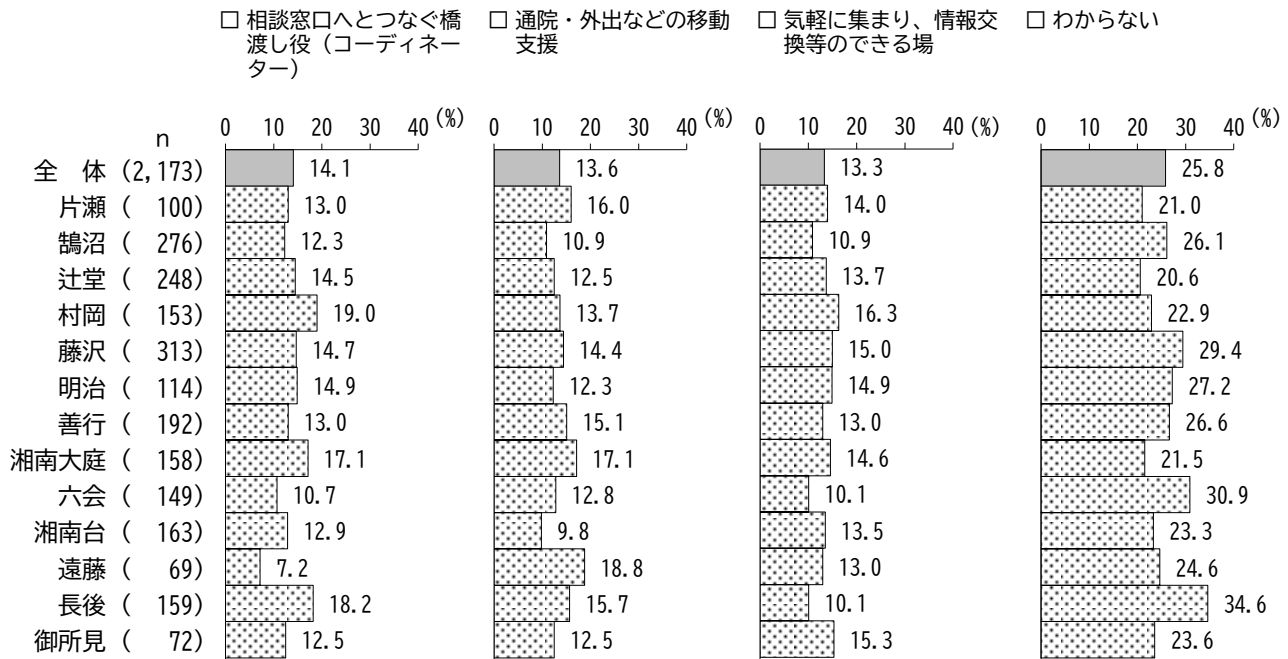
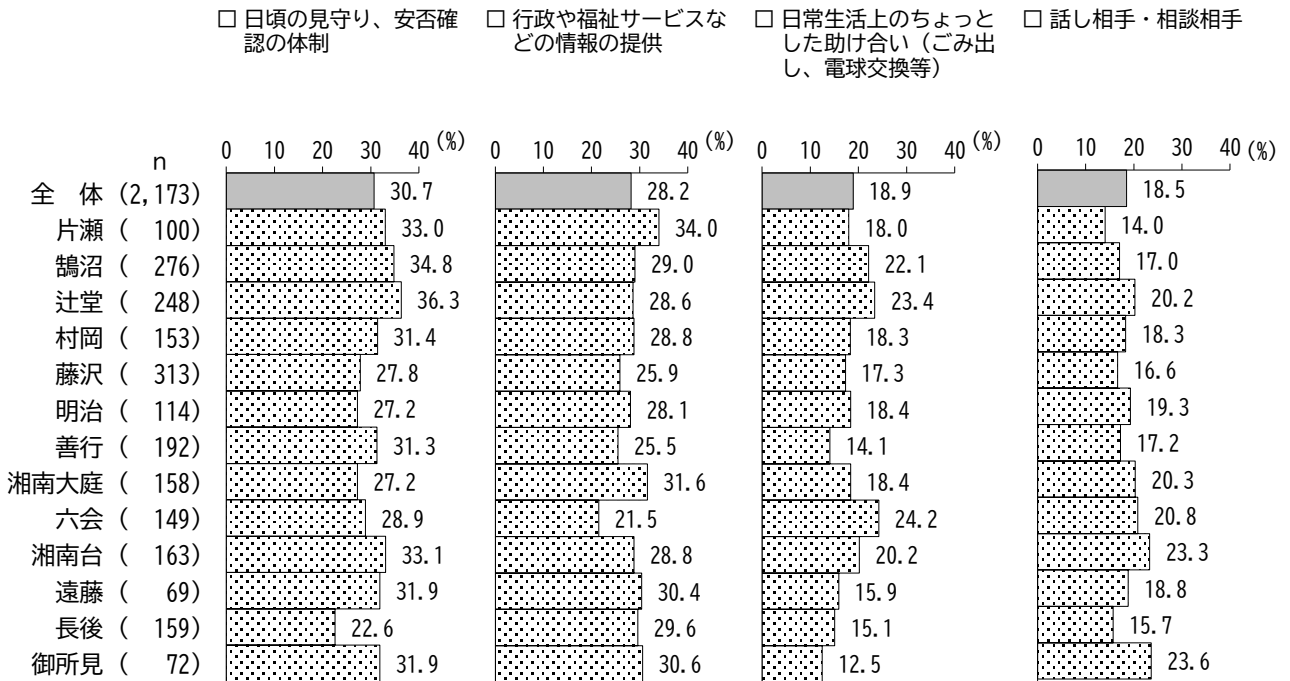


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「わからない」）

居住地区別で上位7項目をみると、多くの居住地区で「日頃の見守り、安否確認の体制」と「行政や福祉サービスなどの情報の提供」が高くなっている。

一方、「わからない」は長後で34.6%と最も高く、次いで六会と藤沢で3割前後である。

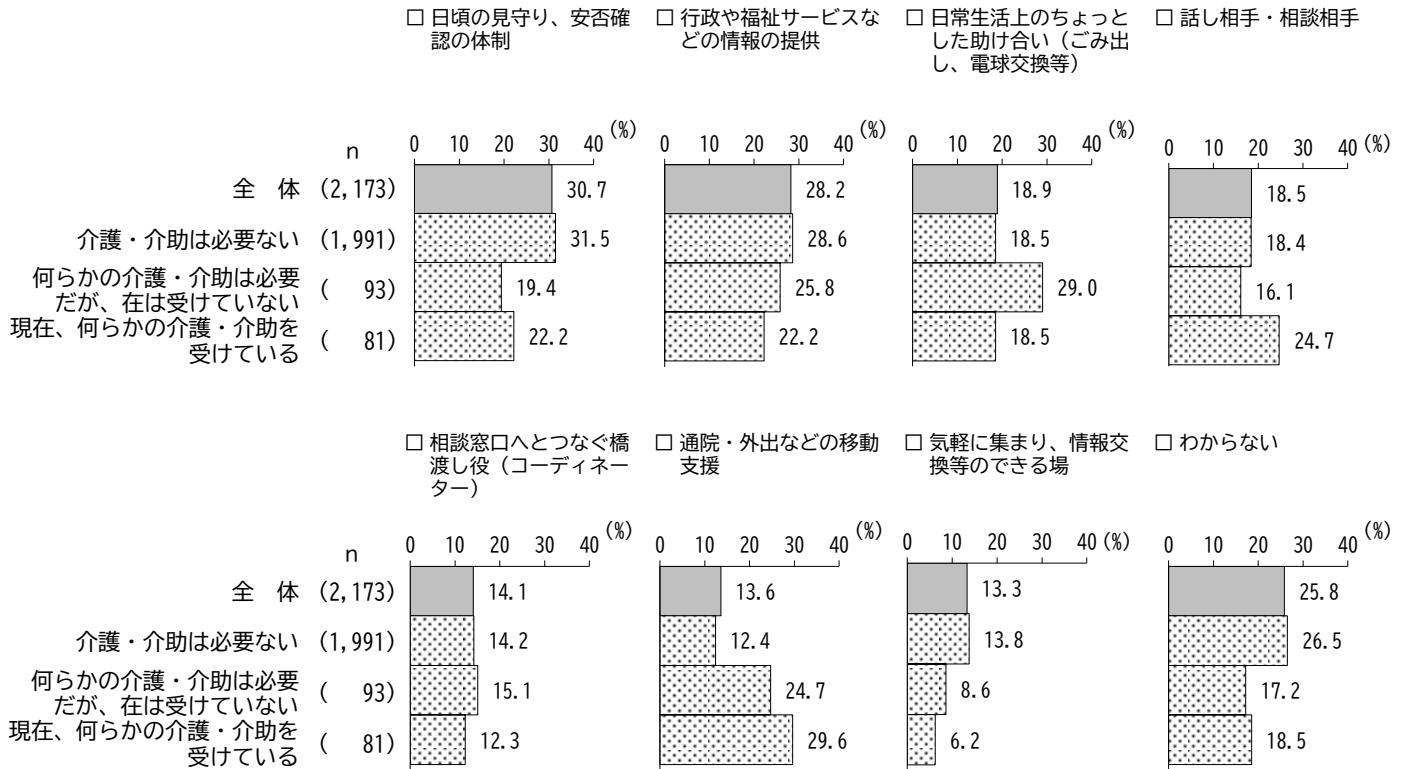


【介護・介助を受けている状況別】（上位7項目+「わからない」）

介護・介助を受けている状況で上位7項目をみると、「日頃の見守り、安否確認の体制」と「行政や福祉サービスなどの情報の提供」は、「介護・介助は必要ない」人で3割前後と高くなっている。

「日常生活上のちょっとした助け合い（ごみ出し、電球交換等）」は、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」人で29.0%、「通院・外出などの移動支援」は、「現在、何らかの介護・介助を受けている」人で29.6%と、それぞれ最も高くなっている。

一方、「わからない」は「介護・介助は必要ない」人で26.5%である。

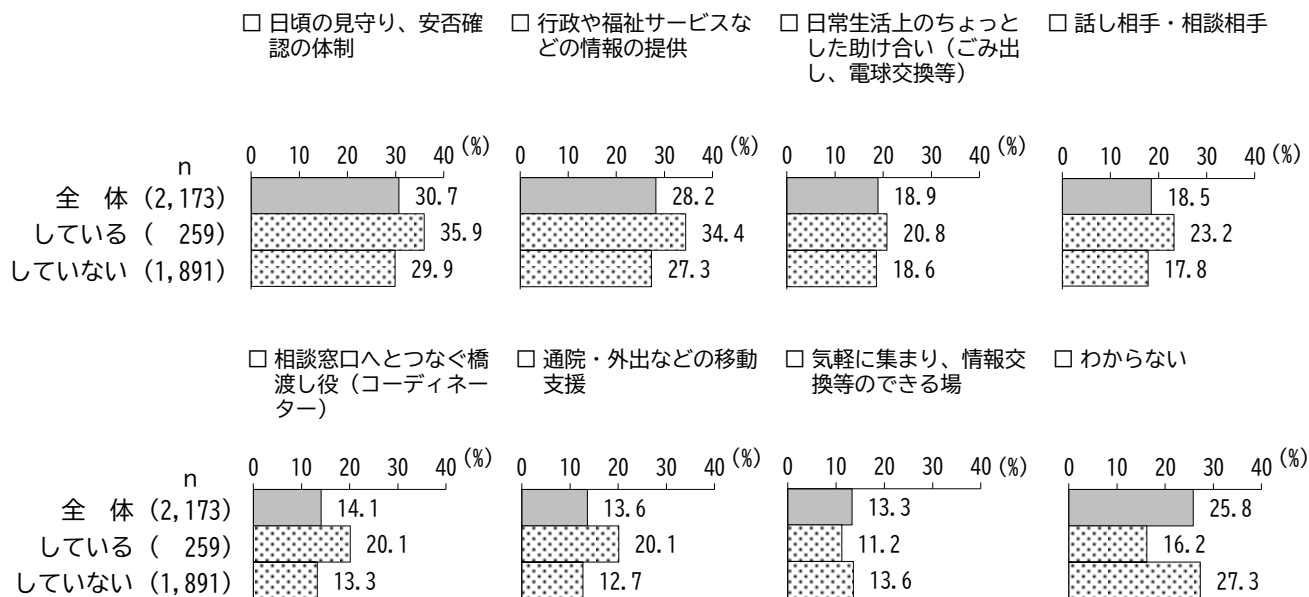


第2章 調査結果の詳細

【介護・介助をしている状況別】（上位7項目+「わからない」）

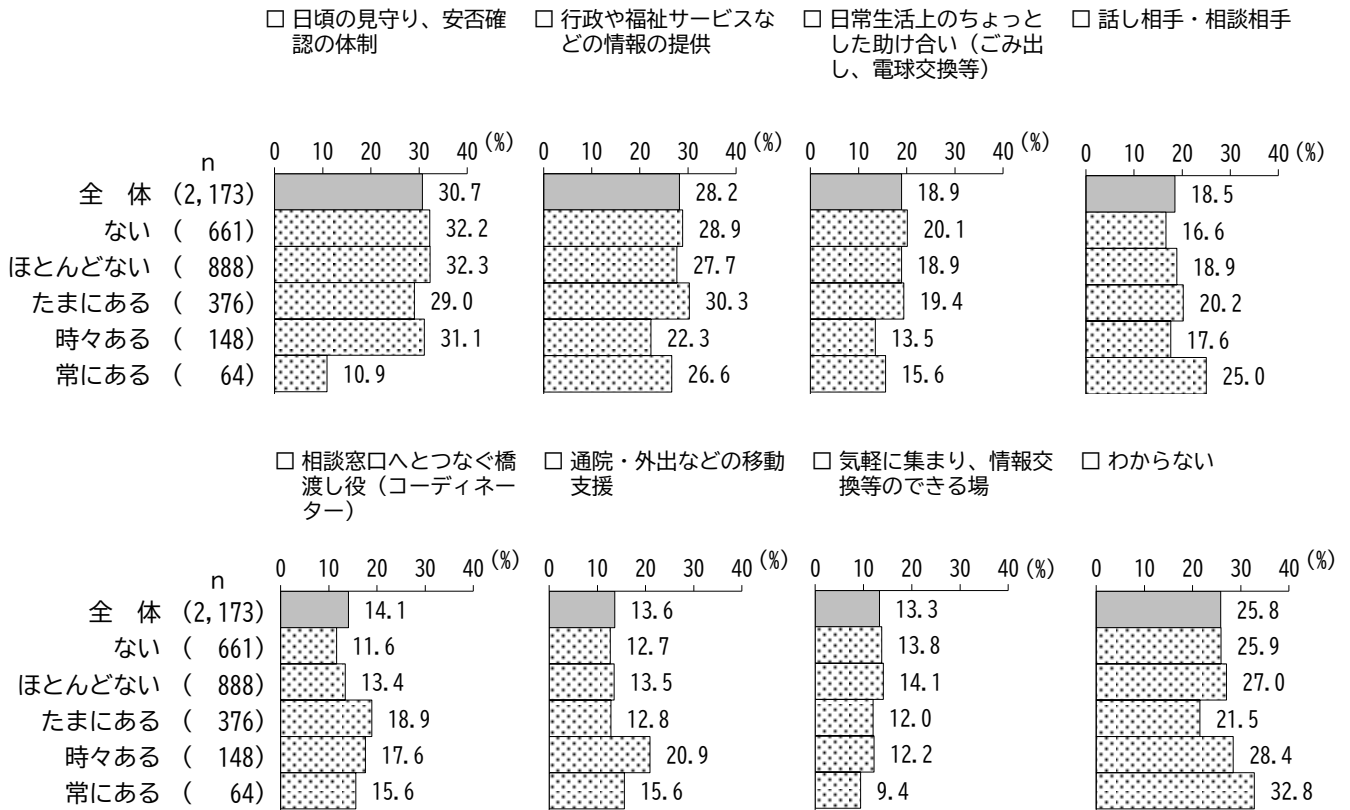
介護・介助をしている状況別で上位7項目をみると、多くの項目で、介護・介助を「している」人の方が、「していない」人よりも高く、特に、「日頃の見守り、安否確認の体制」と「行政や福祉サービスなどの情報の提供」は3割台半ばである。

一方、「わからない」は、「していない」人で27.3%となっている。



【孤独を感じること別】(上位7項目+「わからない」)

孤独を感じること別で上位7項目をみると、「話し相手・相談相手」は、孤独を感じるものが「常にある」人で25.0%と高くなっている。また、「わからない」でも、「常にある」人は32.8%と最も高い。

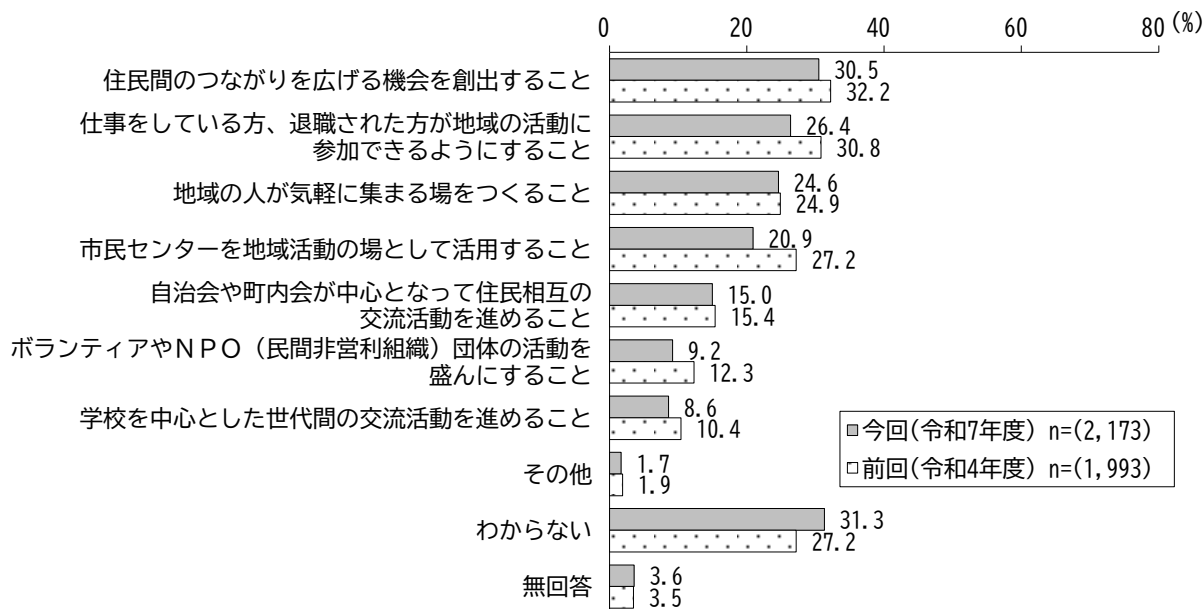


(4) 住民の自主的な参加・協力関係を築くため、地域主体で取り組むべきこと

問39 住民の自主的な参加・協力関係を築くために、地域が主体となって取り組むべきことは何だと思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

住民の自主的な参加・協力関係を築くために地域主体で取り組むべきことは、「住民間のつながりを広げる機会を創出すること」が30.5%で最も高く、次いで「仕事をしている方、退職された方が地域の活動に参加できるようにすること」(26.4%)、「地域の人が気軽に集まる場をつくること」(24.6%)、「市民センターを地域活動の場として活用すること」(20.9%) などとなっている。一方「わからない」が31.3%となっている。

前回の令和4年度調査と比較については、今回調査では「市民センターを地域活動の場として活用すること」を前回調査から一部文言変更しているものの、本問は複数回答の設問であることから、参考として前回調査との差をみたところ、「市民センターを地域活動の場として活用すること」が6.3ポイント減少している。

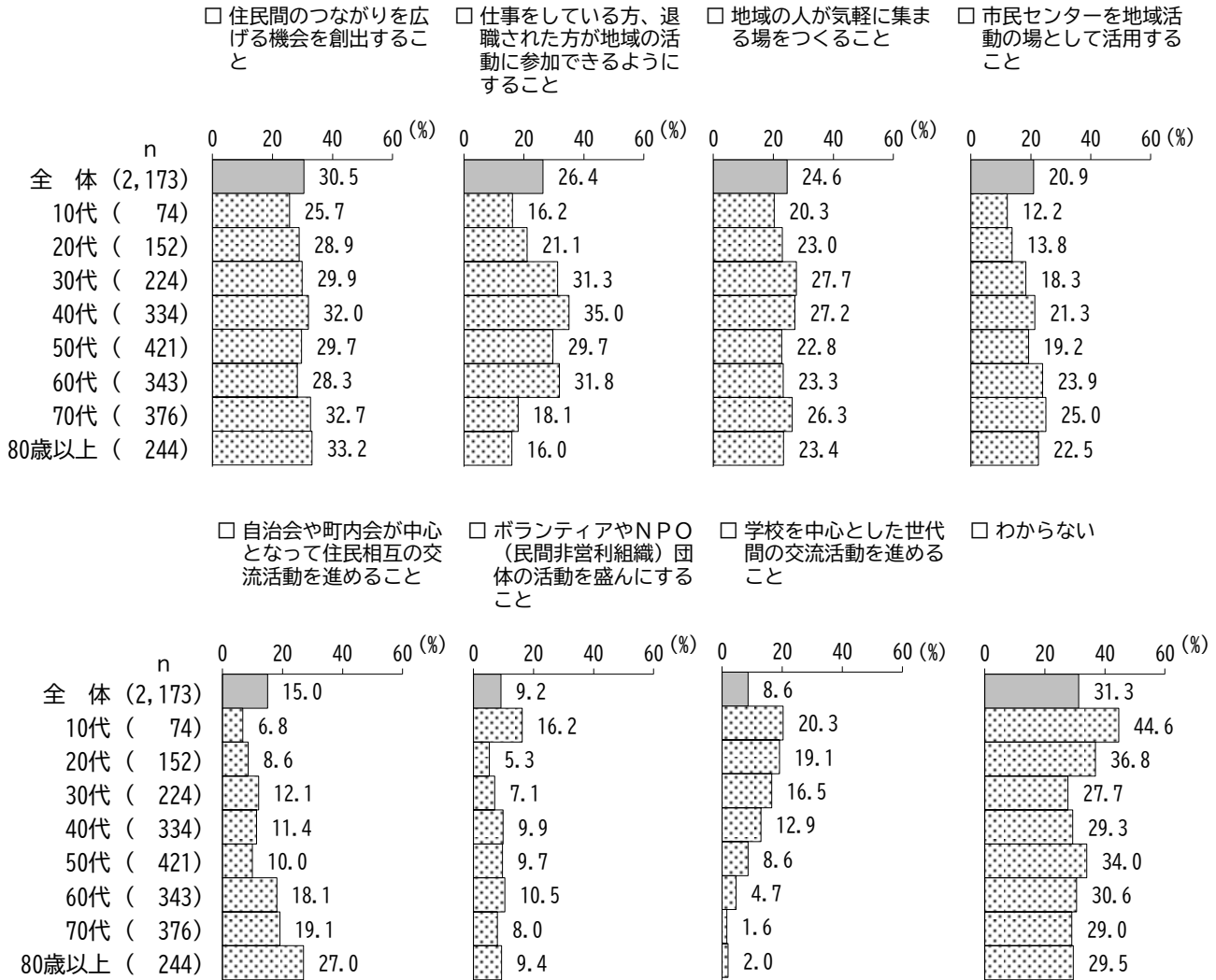


※「市民センターを地域活動の場として活用すること」は、前回調査(令和4年度)では「市民センターや公民館を地域活動の場として積極的に活用すること」

【年代別】（上位7項目+「わからない」）

年代別で上位7項目をみると、「住民間のつながりを広げる機会を創出すること」は、10代を除いて3割前後となっている。「仕事をしている方、退職された方が地域の活動に参加できるようにすること」は40代で35.0%と最も高く、30代と50～60代で3割前後である。

一方、「わからない」は10代で44.6%と最も高い。

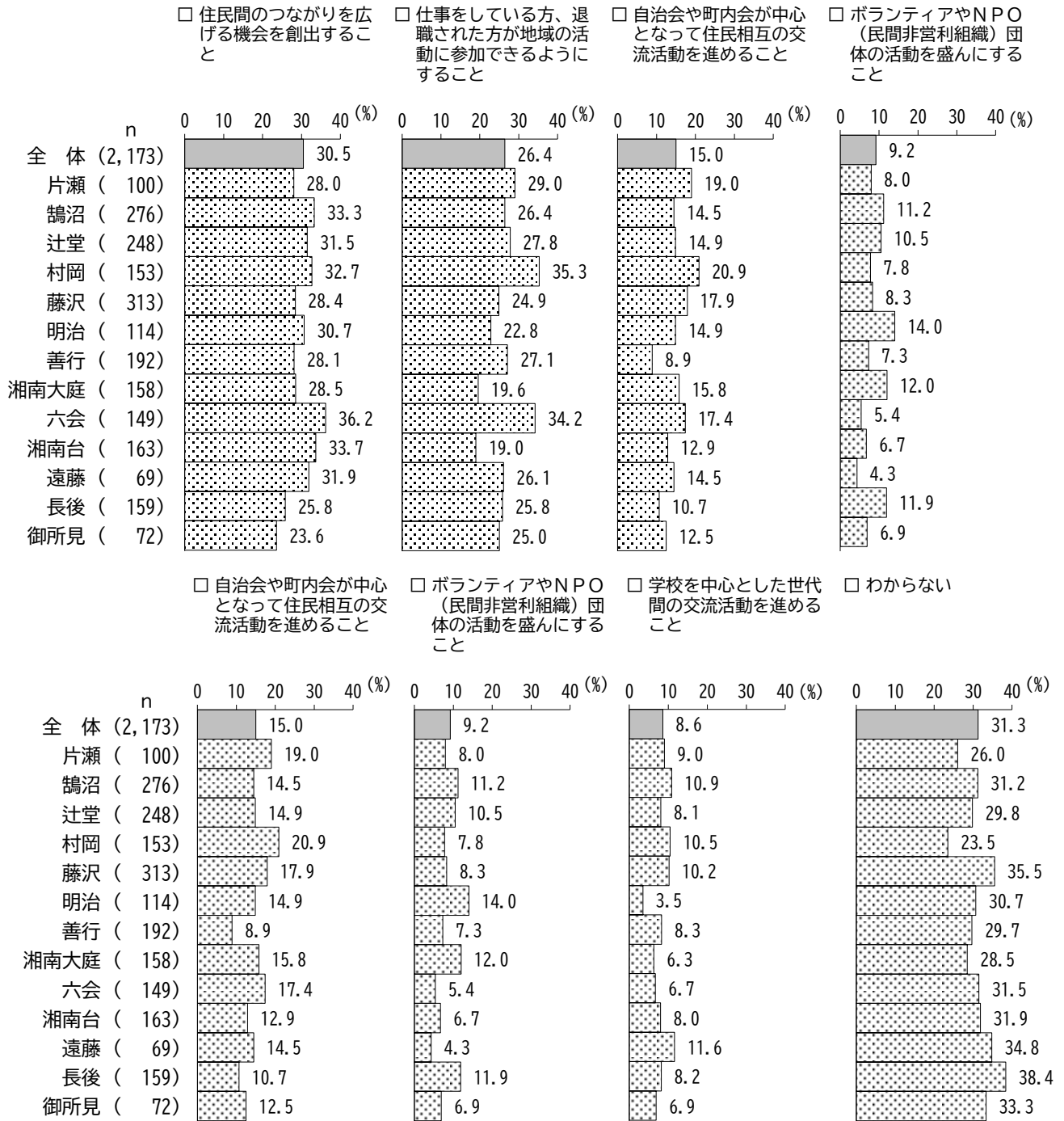


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「わからない」）

居住地区別で上位7項目をみると、多くの居住地区で「住民間のつながりを広げる機会を創出すること」と「仕事をしている方、退職された方が地域の活動に参加できるようにすること」が高く、六会はどこも3割台半ばである。

一方、「わからない」は長後で38.4%と最も高く、次いで藤沢、遠藤、御所見で3割台半ばである。

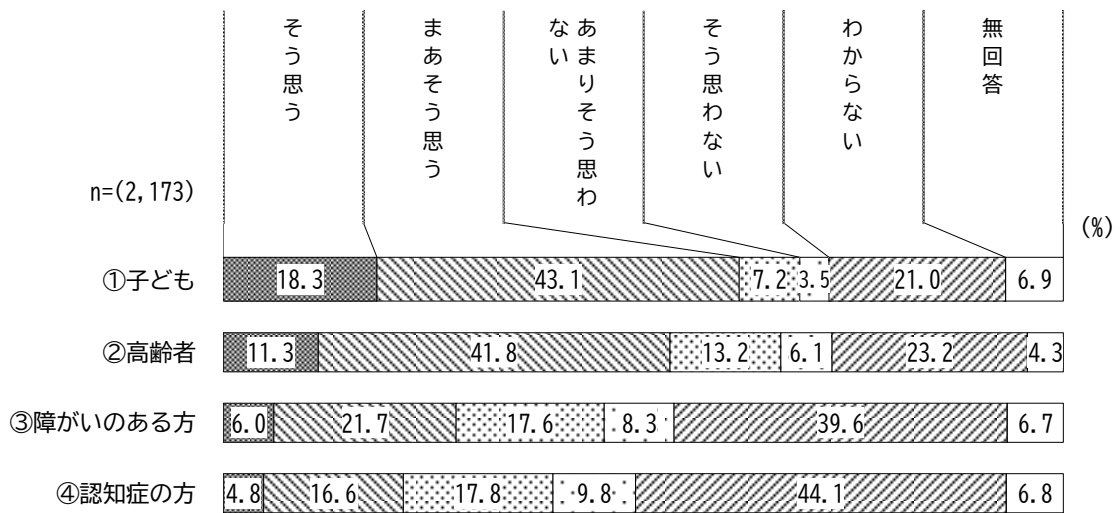


(5) 自分らしく暮らせる環境だと思うか

問40 あなたは、子ども、高齢者、障がいのある方、認知症の方が、住み慣れた地域で、周囲や地域の理解と協力の下、自分らしく暮らせるような環境だと思いますか。

(①～④の項目ごとに1つだけ○)

多様な主体の方が、自分らしく暮らせるような環境だと思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた【そう思う(計)】は、「①子ども」が61.4%で最も高く、次いで「②高齢者」が53.1%、「③障がいのある方」が27.7%、「④認知症の方」が21.4%となっている。

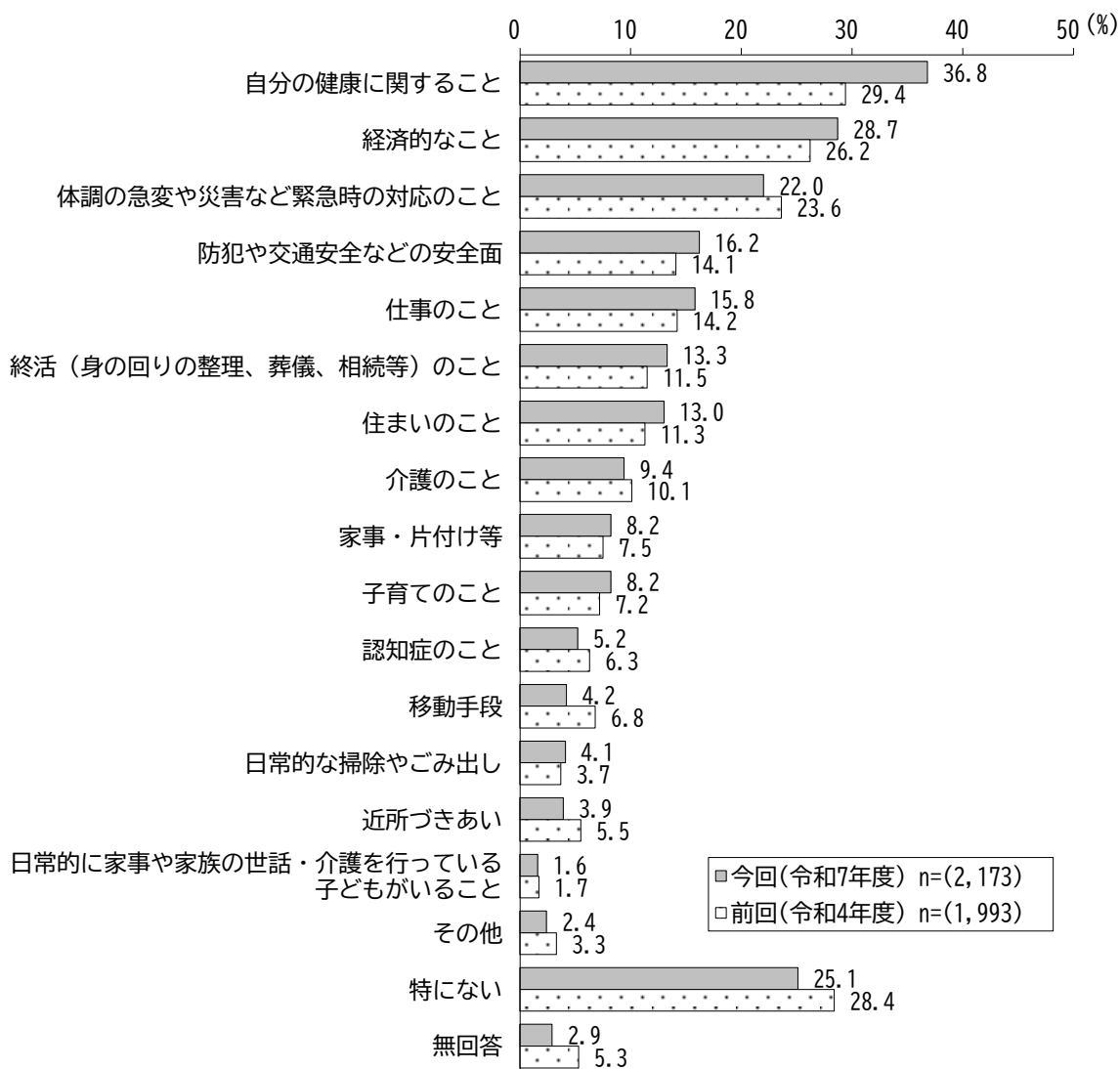


(6) 日々の生活で困っていることや悩み

問41 あなたが、日々の生活で困っていること、悩みは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

日々の生活で困っていることや悩みは、「自分の健康に関すること」が36.8%で最も高く、次いで「経済的なこと」(28.7%)、「体調の急変や災害など緊急時の対応のこと」(22.0%)などとなっている。一方「特にない」が25.1%である。

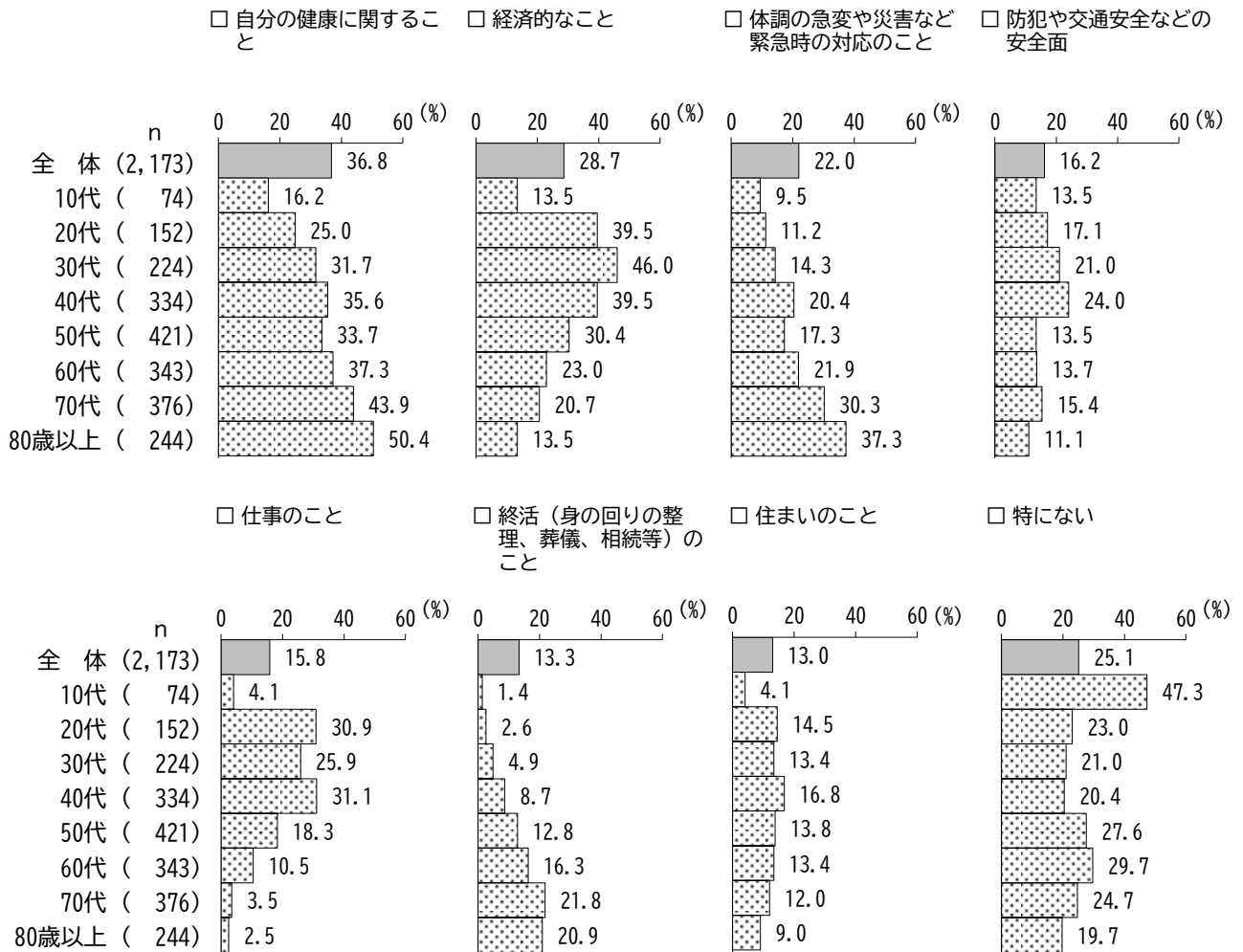
前回の令和4年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。



【年代別】（上位7項目+「特にない」）

年代別で上位7項目をみると、「自分の健康に関すること」、「体調の急変や災害など緊急時の対応のこと」、「終活（身の回りの整理、葬儀、相続等）のこと」は、おおむね年代が上がるほど高くなっている。「経済的なこと」は30代で46.0%最も高く、20代と40代で約4割である。この3つの年代は、「仕事のこと」でも高い。

一方、「特にない」は10代で47.3%と最も高い。

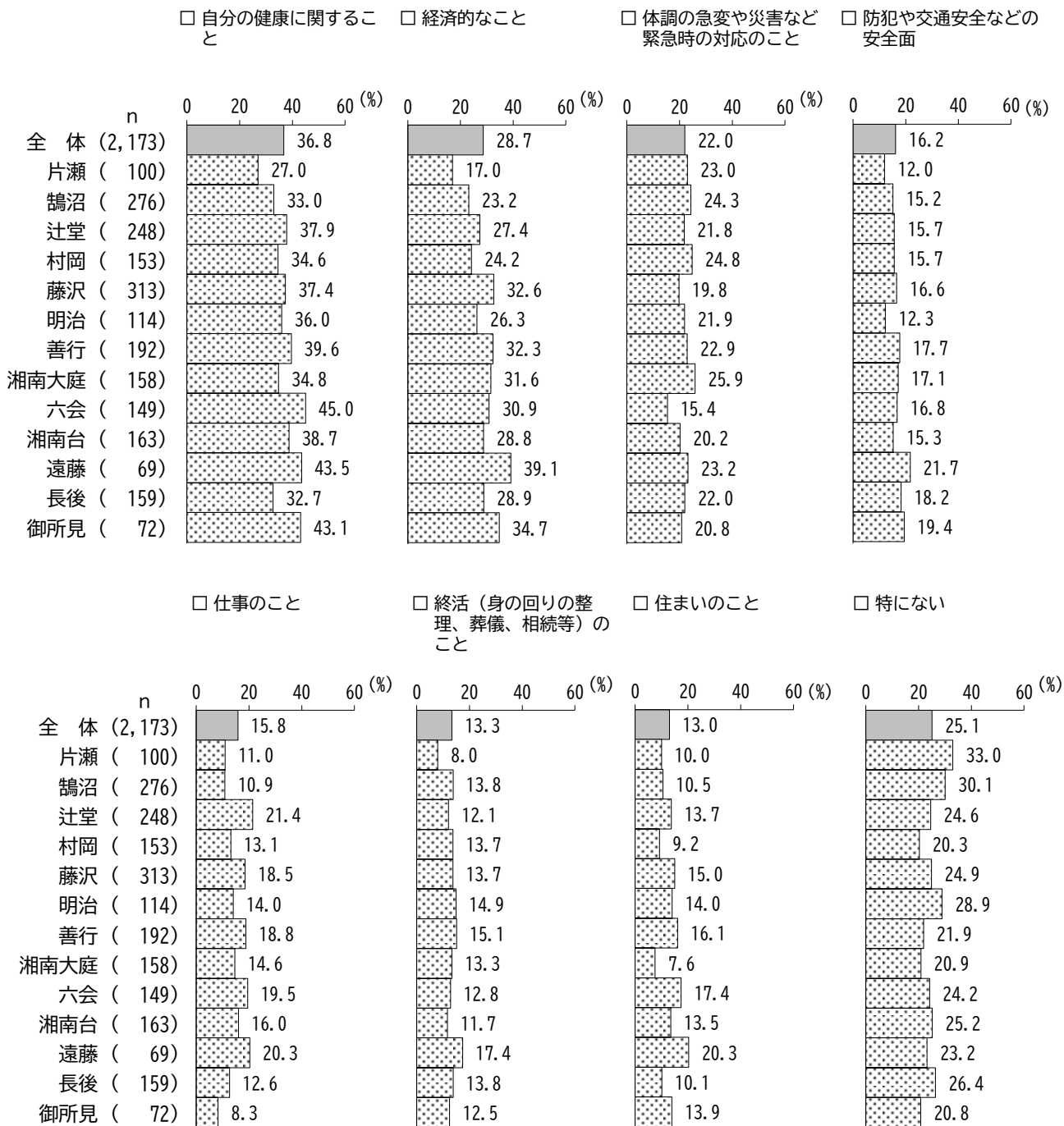


第2章 調査結果の詳細

【居住地区別】（上位7項目+「特にない」）

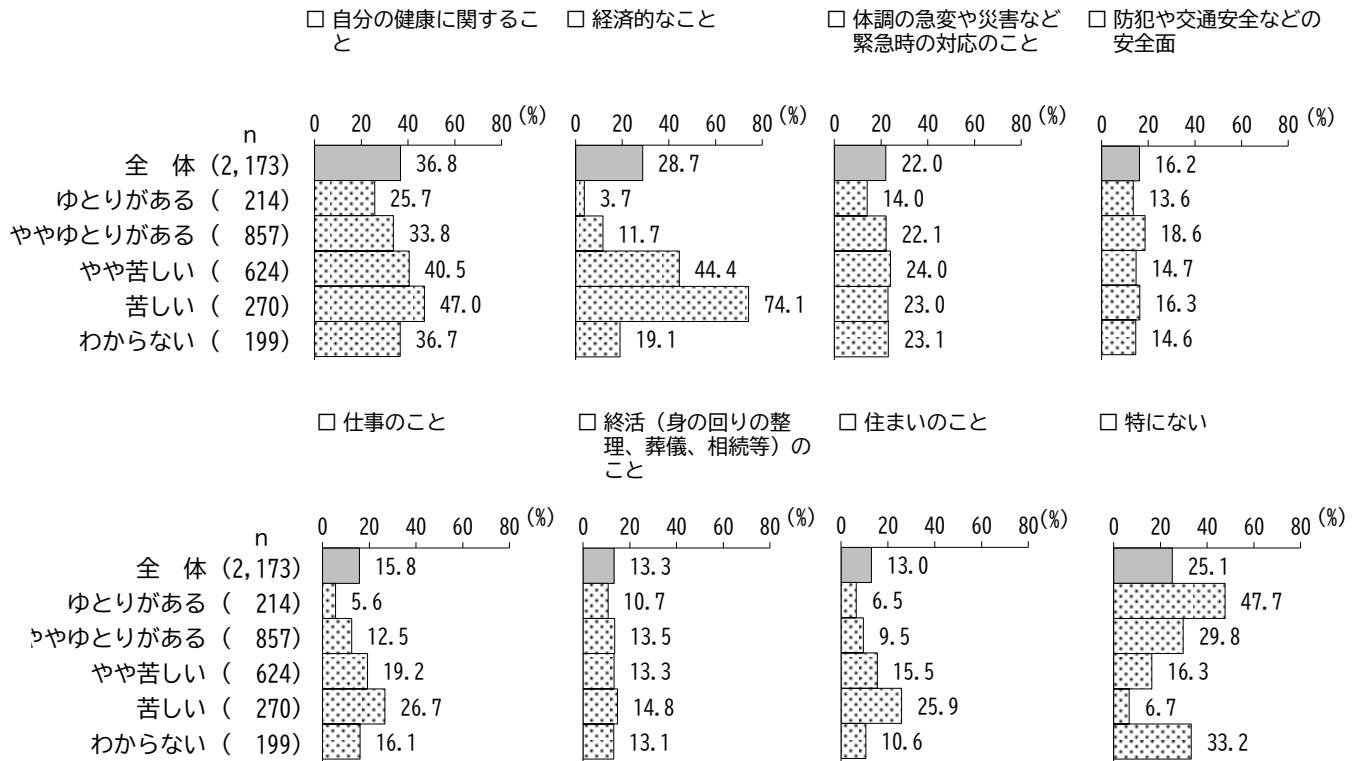
年代別で上位7項目をみると、「自分の健康に関すること」は、六会、遠藤、御所見で4割台半ばと高く、遠藤と御所見は「経済的なこと」でも高くなっている。

一方、「特にない」は片瀬で33.0%と最も高い。



【経済的状況別】（上位7項目+「特にない」）

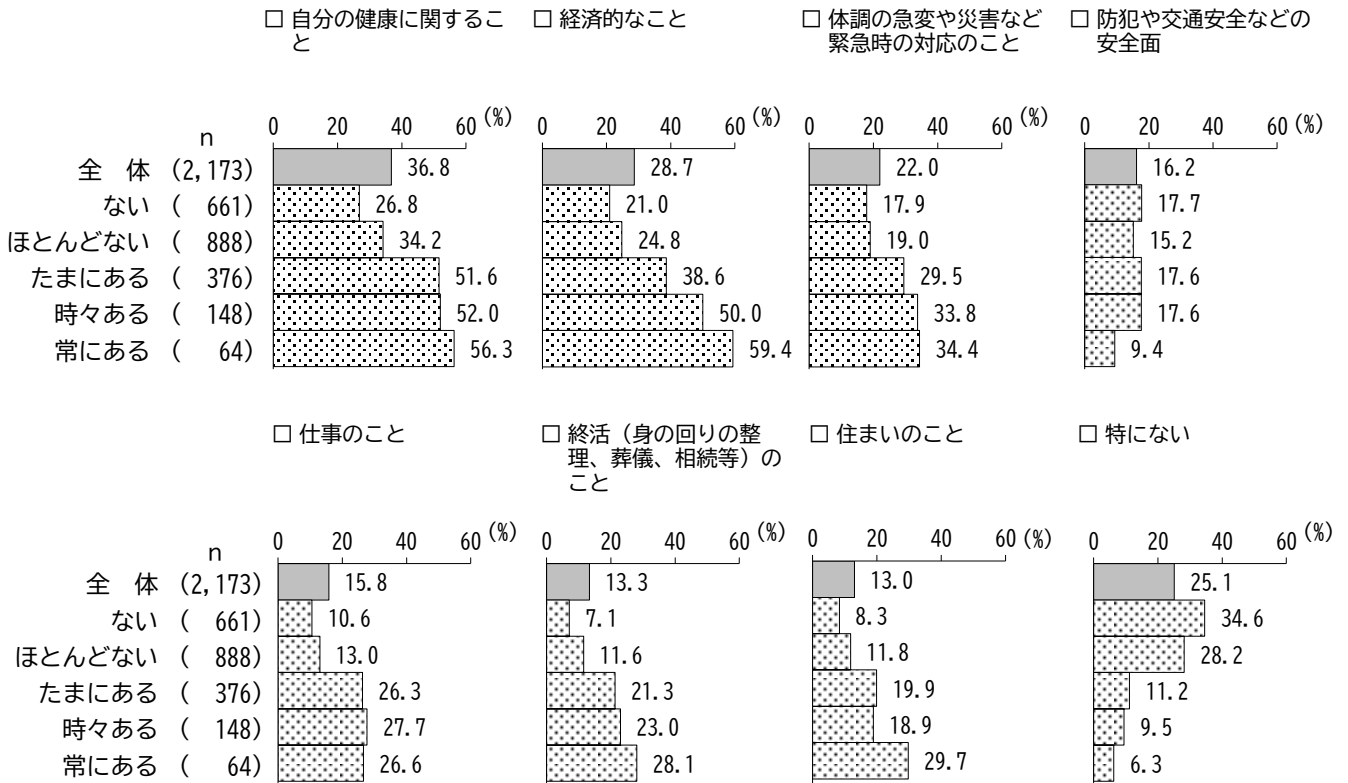
経済的状況別で上位7項目をみると、「自分の健康に関すること」と「経済的なこと」は、経済的にゆとりがないほど高く、特に、「経済的なこと」は「苦しい」人で74.1%となっている。



第2章 調査結果の詳細

【孤独を感じること別】(上位7項目+「特にない」)

孤独を感じること別で上位7項目をみると、「防犯や交通安全などの安全面」を除けば、おおむね孤独を感じている頻度が多い人ほど、高くなっている。「自分の健康に関すること」は、孤独感が「たまにある」人から5割以上、「経済的なこと」は、孤独感が「時々ある」人から5割以上である。

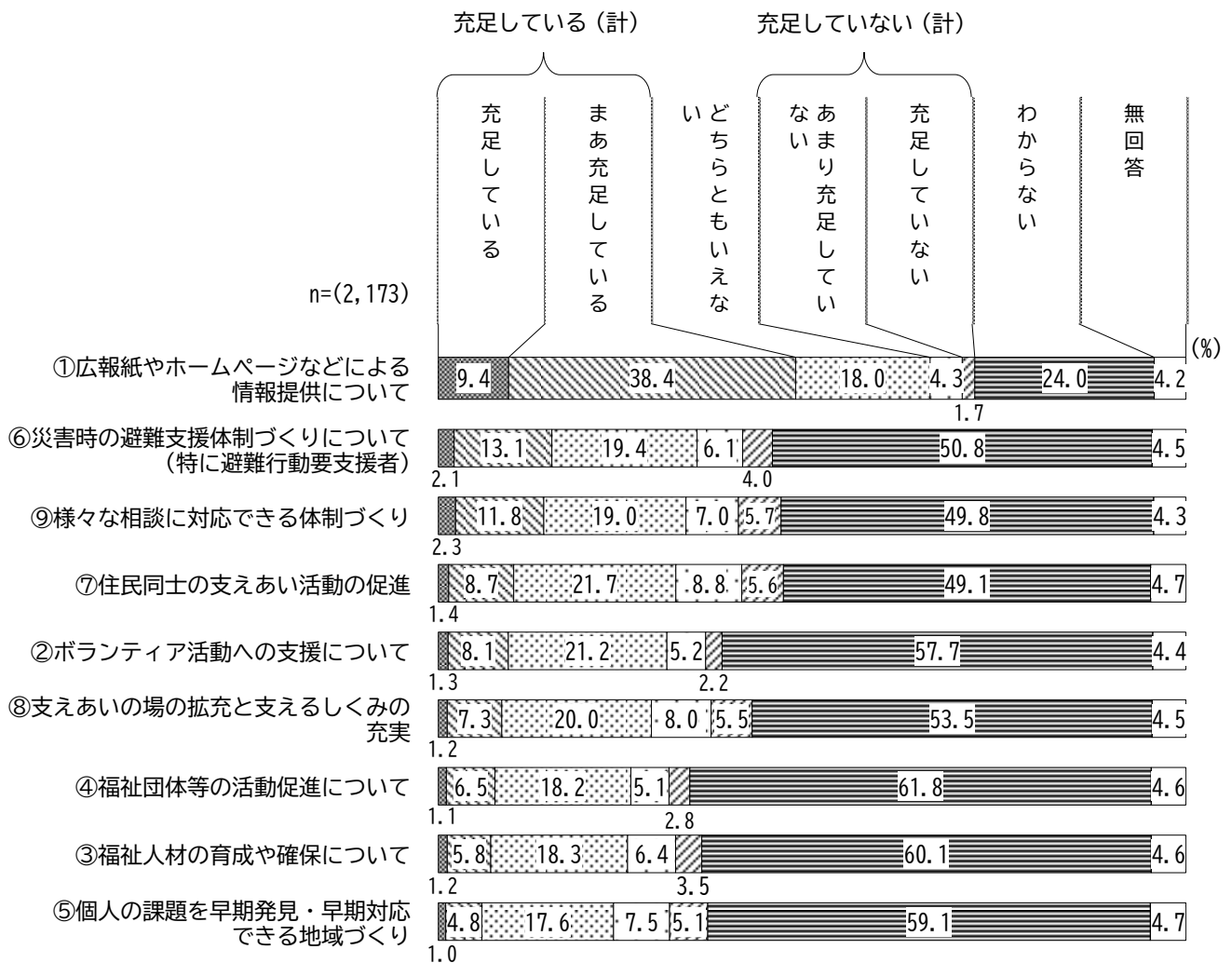


(7) 市の取組について

問42 地域福祉の推進に向け、本市で行っている取組について、どのように感じていますか。
(①～⑨の項目ごとに1つだけ○。)

地域福祉の推進に向けて行っている取組について、「充足している」と「まあ充足している」を合わせた【充足している(計)】は、「①広報紙やホームページなどによる情報提供について」が47.8%で最も高くなっている。一方、【充足していない(計)】は「⑦住民同士の支えあい活動の促進」が14.4%で最も高く、次いで「⑧支えあいの場の拡充と支えるしくみの充実」(13.5%)、「⑨様々な相談に対応できる体制づくり」(12.7%)、「⑤個人の課題を早期発見・早期対応できる地域づくり」(12.6%) などとなっている。

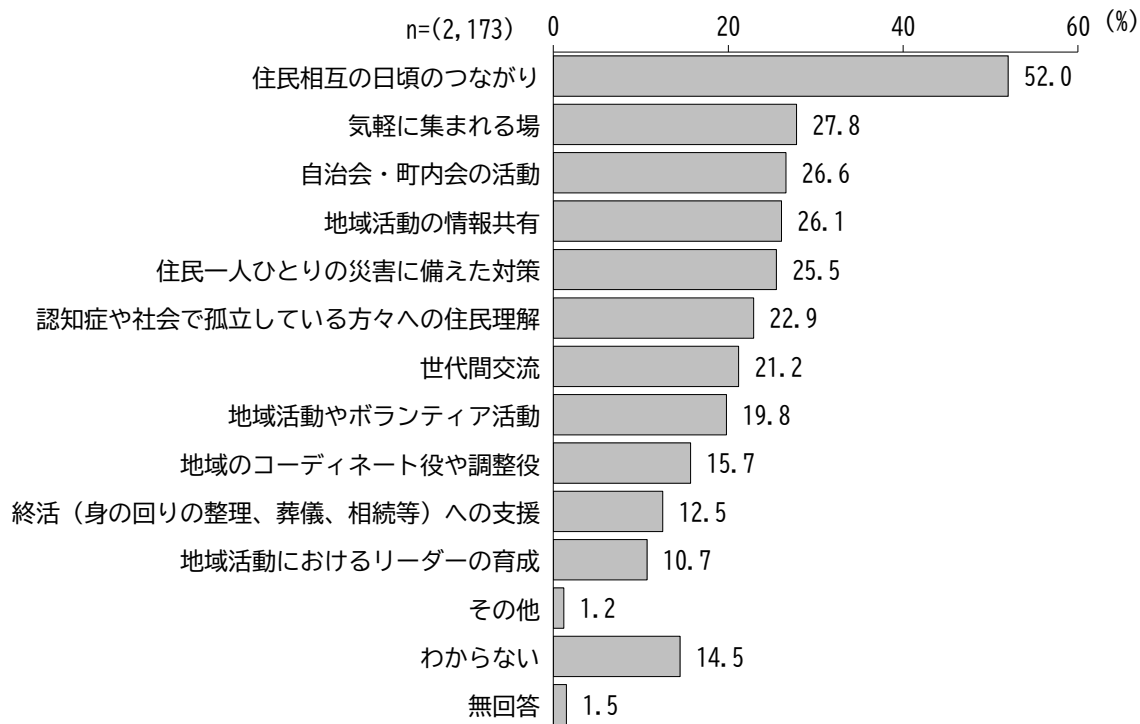
なお、「わからない」は、「広報紙やホームページなどによる情報提供について」を除き、5割前後から6割強を占めている。



(8) 地域住民同士が支えあう地域づくりに必要なこと

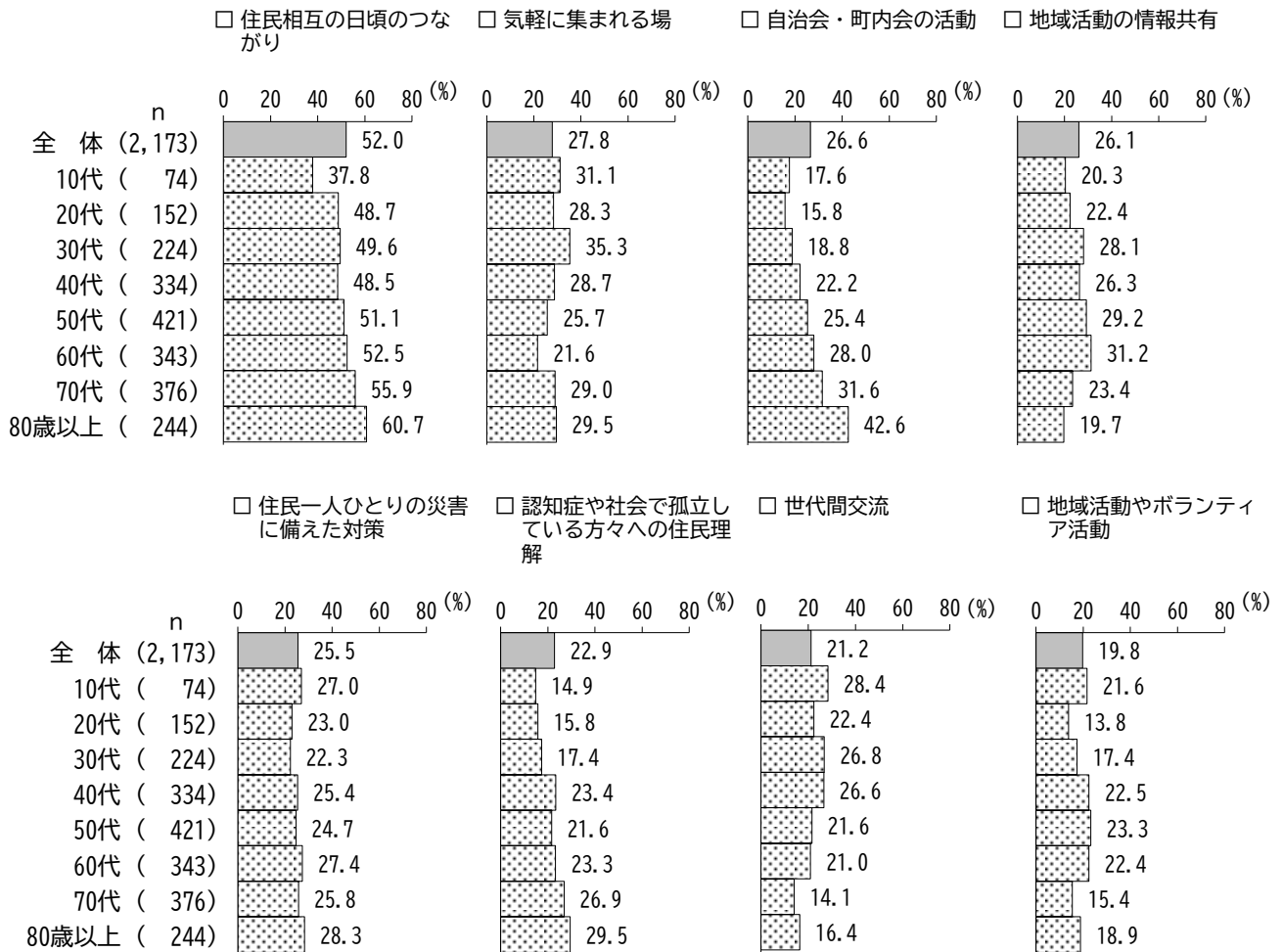
問43 地域住民同士が支えあう地域づくりに必要なことは何だと思えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

地域住民同士が支えあう地域づくりに必要なことは、「住民相互の日頃のつながり」が52.0%で最も高く、次いで「気軽に集まれる場」(27.8%)、「自治会・町内会の活動」(26.6%)、「地域活動の情報共有」(26.1%)などとなっている。



【年代別】(上位8項目)

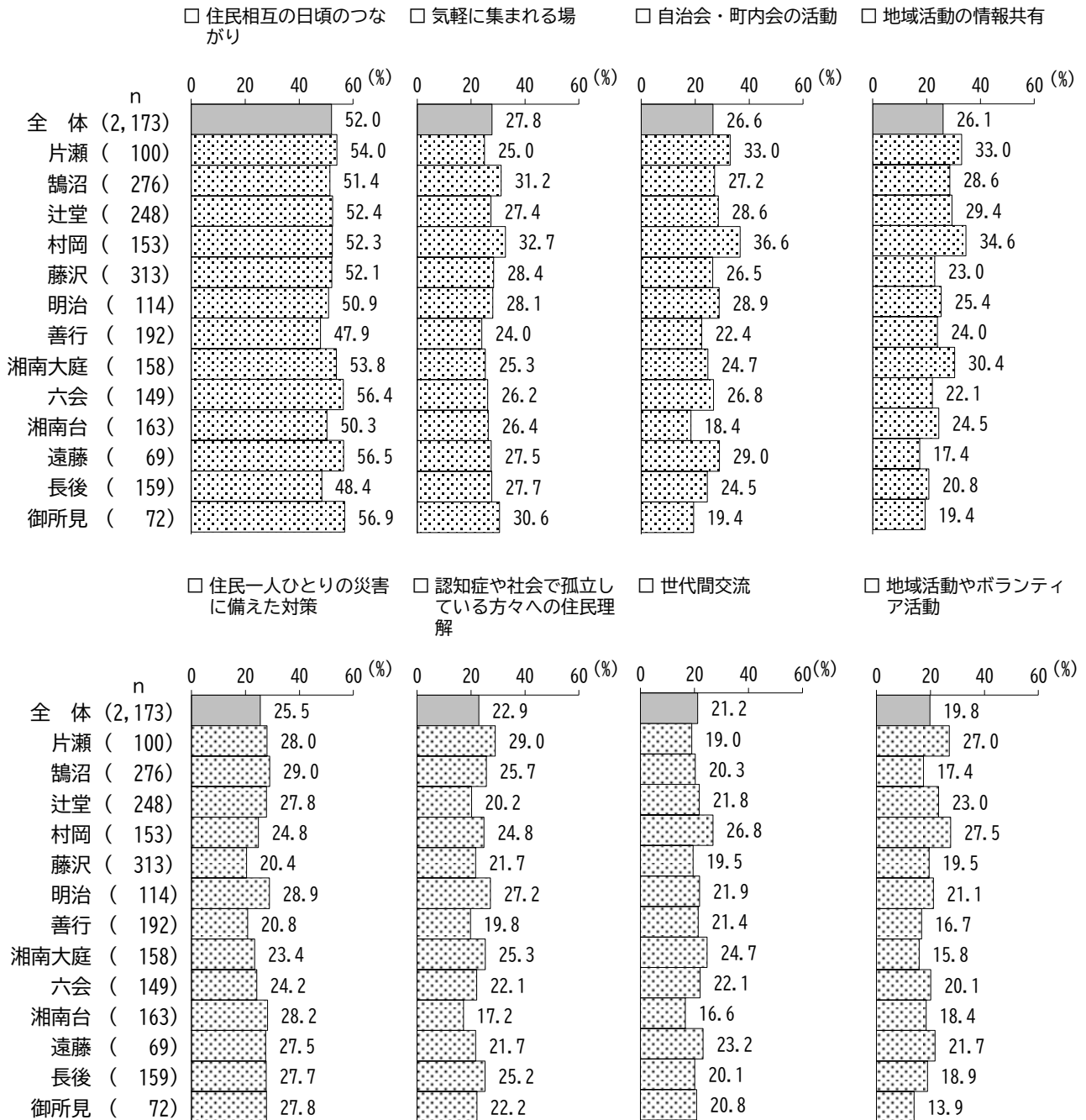
年代別で上位8項目をみると、どの年代でも「住民相互の日頃のつながり」が高く、おおむね年代が上がるほど高くなり、80歳以上で60.7%となっている。このほか、「自治会・町内会の活動」や「認知症や社会で孤立している方々への住民理解」でも、おおむね年代が上がるほど高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

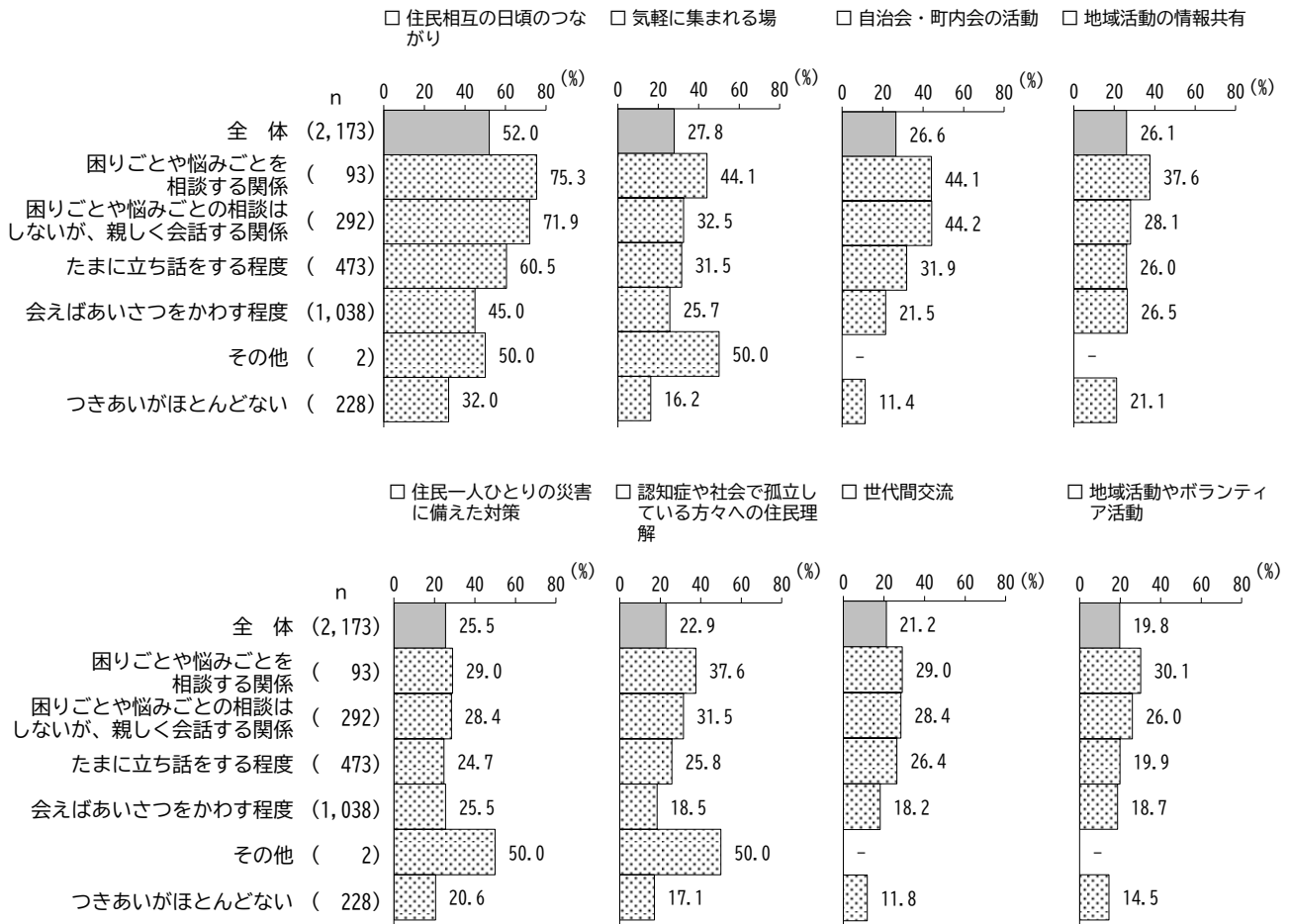
【居住地区別】（上位8項目）

居住地区別で上位8項目をみると、どの地区でも「住民相互の日頃のつながり」が高くなっており、特に、御所見、遠藤、六会は5割台後半となっている。このほか、「自治会・町内会の活動」と「地域活動の情報共有」では村岡と片瀬が、それぞれ3割台半ば前後と高くなっている。



【近所の方とのつき合い方別】

近所の方とのつき合い方別でみると、概して、近所の方との関係性が深いほど高くなっている。



9 自由意見

(1) 地域福祉の推進に向けたご意見

問44 みんなで「助けあい」「支えあう」まちづくりを進めるために、何かアイディア（もしくはご意見）があれば教えてください。あなたができること、まちで取り組むべきことなど、何でも結構です。

「助けあい」「支えあう」まちづくりを進めるためのアイデア、もしくはご意見を自由記述でうかがったところ、488人より延べ564件の回答をいただいた。その結果、「近所付き合い・地縁組織活動」(63件)、「交流の場・機会づくり」(62件)、「その他の地域活動」(28件)、「多世代交流」(19件)などの、『地域活動や地域交流』に関する内容を多くいただいた。

また、「情報提供・情報共有のあり方」(96件)、「行政サービス・制度全般」(67件)、「支えあい・見守り」(48件)に関するアイデアやご意見もいただいた。

	アイデアや意見	件数
1	情報提供・情報共有のあり方	96
2	行政サービス・制度全般	67
3	近所付き合い・地縁組織活動	63
4	交流の場・機会づくり	62
5	支えあい・見守り	48
6	防災・防犯・安全対策	33
7	その他の地域活動	28
8	交通手段・交通施設	28
9	多世代交流	19
10	アンケートについて	17
11	高齢者福祉	16
12	子ども・子育て・教育	16
13	障がい者福祉	13
14	相談体制	9
15	医療	5
16	感謝	5
17	生活困窮・経済的支援	4
18	その他	35
	合計	564

※ は、『地域活動や地域交流』に関する項目である。

以下に、上位5分類についての主な意見を紹介する。

なお、意見については、原文の趣旨を損なわないよう配慮しながら要約のうえ掲載している。

【情報提供・情報共有のあり方】

- 行政が行っていることを、人が集まる場所で周知してほしいと思う。例えばスーパーやドラッグストアなどにチラシを置いてもらえれば、多くの人の目に入るのではないかと思う。いろいろな取り組みがあるようだが、知らないために参加できていない人も多いと思う。短時間のボランティアであれば参加できる人もいるのではないかと思う。
- 悩み事や相談事の内容ごとに、対応してくれる窓口の一覧があれば助かると思う。すべてを一度に作るのは大変だと思うので、優先順位を決めながら少しずつ整備してもらえればありがたいと思う。
- アンケートに答える中で、自分は地域とのコミュニケーションがほとんどないことに気付いた。市外で仕事をしていることもあり、市内や地域の情報をほとんど知らないと感じている。自分からも積極的に情報を集めていく必要があると思うが、地域や市内の情報がもっと分かりやすく届く仕組みがあればよい。
- 住んでいる地区の民生委員や児童委員の名前を知らない。住民にもっと分かるように知らせる必要があるのではないかと思う。また、市民活動支援施設や地区のボランティアセンターなどについても、場所を知らない人が多いと思うので、もっと積極的に周知してほしいと思う。
- 若年層や子育て世代まで引き込むために、もっとSNSやアプリ等を活用し、様々な活動への認知や参加の機会となるよう工夫すべきだと思う。

【行政サービス・制度全般】

- 古民家を再生して、地域の人が安く借りられる場所があればよいと思う。カフェやヨガなどに使えたり、地域の人が自由に使えるスペースがあるとよいと思う。また、空き家が放置されてお化け屋敷のようになっている家もあり、夜に近くを歩くと怖く感じることもある。地域の人が安心して過ごせるようにしてほしいと思う。
- ボランティアだけではなく、副業として関われる人にプロジェクトとして参加してもらったり、継続できる仕組みづくりが必要である。お互いにメリットがある形で、可能性を広げる支援が大切だと思う。
- 活動を行っている団体に対する助成や補助を、もっと充実させてほしいと思う。特にお金に関する情報は分かりにくく、活動内容によって申請窓口も違うため、どこに相談すればよいのか分かりにくい。
- まずは一人ひとりが自立できるように、健康や生活、経済面を支えることが大切だと思う。「助け合い」や「支えあい」はその後に必要になるものだと思う。何でも先回りして支援するのではなく、自分で考えて行動できるようにすることが大事だと思う。また、元気なうち、若いうちから学ぶ機会が必要である。
- もう少しスーパーなど、日常の買い物ができる場所が増えてほしいと思う。現在はかなり遠くまで行かないと買い物ができず、不便に感じている。

【近所付き合い・地縁組織活動】

- 自治会単位で、一人ひとりが意識することが大切だと思う。また、定期的に交流会などを行い、名前と顔が一致するような関係をつくる必要があると思う。そうすることで、もしものときに助け合えるようになる。
- 最近では近隣との付き合いがとても希薄になっていると感じている。あいさつをしない人も増えており、近所に住んでいてもどこの誰か分からない人が多いと感じている。地域、特に近所付き合いは、災害のときなどには生死を左右することもあると思う。町内会も形式的なものだけではいけない。
- 自治会活動は大事で必要なことだと思っているが、役員の負担が大きいこともあり、自治会離れが進んでいるのが現状だと思う。自分たちの地域のこととはいえ、年齢を重ねて体がつらくなったり、日々忙しかったりする中で、ボランティアだけで続けていくのは難しいと感じている。役員に何らかの報酬のようなものがあるとよいのではないか。
- 住民同士であいさつをすることを心掛けることが大切だと思う。友人をつくることで会話も増え、日常生活も楽しくなるのではないかと思う。
- 集合住宅に住んでいる人も町内会に加入し、地域活動に気軽に参加できるようになった方がよい。

【交流の場・機会づくり】

- 悩みごとやテーマごとに集まれる会があるとよい。例えば、アルコール依存やシングルマザーの悩みなど、同じ悩みを持つ人が集まれる場があれば助かると思う。近所では参加しにくいこともあるので、市内のいくつかの場所で開催し、自宅から少し離れた場所でも参加できるようにしてほしいと思う。悩みを共有するだけでも気持ちが楽になる。
- 空き家の寄贈などを進めて、ポケットパーク（地域の憩いの場）や家庭菜園として活用し、地域住民が交流できる場所を少しずつ増やしていくことが大切だと思う。高齢者だけでなく、さまざまな世代に向けた施策が必要である。
- 地域住民が気軽に集まれる場所をつくることが大切だと思う。そうした場所があれば、お互いの健康状態なども自然に気にかけることができるようになるのではないかと思う。
- 個々の近所付き合いだけでは難しいこともあるが、複数の人が集まれる場があれば情報も入りやすく、助け合いにもつながると思う。会話ができる場所があることは、健康にもつながると感じている。
- 他人事として捉えないようなきっかけづくりや取り組みを充実させてほしいと思う。また、仕事などもあるため、日常生活にあまり負担にならない形で参加できる仕組みがあればよいと思う。

【支えあい・見守り】

- 災害時には、高齢者や障がいのある方など、避難が必要な人がいれば手助けしたいと思っている。ただ、近所にどのような人が住んでいるのか分からず、家族構成もほとんど知らないのが現状である。やはり近所同士のつながりは大切だと思うが、実際には難しいと感じている。

- 誰かの負担になることが当たり前になったり、やってもらうのが当然という考え方があると、「助け合い」「支えあい」という言葉だけになってしまう。そうならないような意識づくりが大切である。
- 小さなことでも、自分にできることはやっていきたいと思っている。困っている人がいれば、勇気を出して声をかけたいと思う。ただ、実際には迷ってしまうこともある。
- 一戸建てで高齢者が一人暮らしをしていると思われる家で、庭の草木が伸びているのをよく見かける。住んでいる方も困っているのではないかと思う。定期的に巡回し、家の周りだけでも手伝うことができれば、街全体の美化にもつながると思う。
- ここは人に頼りたい、ここは自分でやるという線引きが大切だと思う。助けてもらうのが当然にならないような意識づくりや、弱者であることを理由にすべてを任せるのではないという考え方も必要である。

第3章 調査票

地域福祉に関するアンケート調査

<ご協力のお願い>

日頃から、市政の推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

現在、本市では、すべての市民の方が地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めるため、重要な生活の基盤となる「地域福祉」に関する計画を策定しています。

この度、市民の皆様が日頃感じていることや考えていることをお聞かせいただき、福祉施策を検討する際の基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

アンケート調査は、市にお住まい（令和7年10月1日時点）の15歳以上の方から無作為に4,000名を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご本人様をご記入の上、同封の返信用封筒で11月26日（水）までに投かんいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

藤沢市長 鈴木 恒夫

※アンケートの回答をしやすいように、文字を大きくした調査票、ふりがなを入れた調査票、パソコンでの音声読み上げができる電子データの調査票などを用意しています。また、調査票の代読や代筆も行います。ご希望の方は、裏面の問い合わせ先までご連絡ください。

<送付資料>

・送付状（本資料）	・・・・・・・・・・・・・・・・	1部
・調査票	・・・・・・・・・・・・・・・・	1部
・用語集	・・・・・・・・・・・・・・・・	1部
・参考チラシ「ふじさわのふくし」	・・・・・・・・・・・・・・・・	1部
・返信用封筒（切手不要）	・・・・・・・・・・・・・・・・	1部

■ 調査の回答方法について ■

本調査は、インターネットによる回答と郵送による回答の2通りの回答ができます。

どちらかの方法により令和7年11月26日(水)までにご回答ください。

1 インターネットによる回答：パソコン・タブレット・スマートフォンで回答

アンケート用 URL 又は二次元コードからアンケートにご回答ください。

アンケート用 URL： <https://en.surece.co.jp/fujisawa-fukusi202510/>

ID： ●●●●●

パスワード： ●●●●●



URL は、アドレスバーに直接入力し、エンターキーを押してください。
キーワードを入力してサイトを探す「検索バー」ではありません。

<諸注意>

- オンライン回答は途中保存が可能です。中断される場合はそのまま画面を閉じてください。最後に「次へ」ボタンを押したページまでの回答が保存されています。再開する場合は回答用ページへ再度アクセスし、ログインしてください。
- 前の設問に戻るには各ページに設置されている「戻る」ボタンを押してください（※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください）。
- オンラインでの回答は1回限りです。回答を送信されるとその後の修正はできませんのでご注意ください。

2 郵送回答：アンケート調査票に直接記入し、同封の返信用封筒で返送

(切手は不要です。また、氏名や住所の記入も不要です)

この調査についてご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

ふじさわしやくしよ ふくしぶ ふくしそらむか
藤沢市役所 福祉部 福祉総務課

でんわ 電話：0466-50-8245 (直通) ちよくつう

ふあつくす FAX：0466-50-8441

地域福祉に関するアンケート調査

■ご回答にあたってのお願い■

- 1 ご回答は、あて名のご本人が直接お答えください。ご本人が事情により記入できない場合は、ほかの方がご本人のお答えを聞き取り、代筆してもかまいません。
- 2 ご回答・ご返送は、次のとおり行ってください。
 - ・ご回答は選択肢の中から選んで○印をつけてください。
 - ・ご回答の○の数は、(1つに○)、(あてはまるものすべてに○)などと表示していますので、それに合わせてください。
 - ・自分のお答えが選択肢の中に入らない場合は、「その他 ()」を選び、()内にその内容を記入してください。
 - ・設問によって回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印に従って回答してください。特にことわりのない場合は次の設問に進んでください。
 - ・ご記入いただきました調査票は、**11月26日(水)までに**同封の返信用封筒に入れてご投かんください(切手を貼らずにお出しください。お名前を記入する必要はありません)。

〔 右上の ID は、回答の重複を防ぐために付番しています。個人を特定することはありません。 〕

【まず、はじめに、あなた自身のことについて、おたずねします。】

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

問2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

※2025年(令和7年)10月1日時点

1 10代	4 40代	7 70代
2 20代	5 50代	8 80歳以上
3 30代	6 60代	

第3章 調査票

問3 あなたの職業は何ですか。(1つに○)

1 会社員	4 家事専業	7 無職
2 公務員	5 学生	8 その他 ()
3 自営業	6 パート・アルバイト	

問4 あなたと一緒に住んでいるのはどなたですか。(あてはまる方すべてに○)

1 一人暮らし(单身)	5 母親	9 親せき
2 配偶者・パートナー	6 兄弟姉妹	10 知人・友人
3 子ども	7 祖父母	11 その他 ()
4 父親	8 孫	

問5 あなたは、普段の生活で介護・介助を受けることを必要としていますか。(1つに○)

1 介護・介助は必要ない
2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3 現在、何らかの介護・介助を受けている

→問5で「3 現在、何らかの介護・介助を受けている」と回答した方へ

問5-1 あなたを介護・介助している方は、あなたからみてどなたにあたりますか。

(あてはまる方すべてに○)

1 配偶者・パートナー	5 母親	8 孫
2 子ども(未成年)	6 兄弟姉妹	9 親せき
3 子ども(成年)	7 祖父母	10 その他 ()
4 父親		

問6 あなたは、誰かの介護・介助をしていますか。(1つに○)

1 している	2 していない
--------	---------

→問6で「1 している」と回答した方へ

問6-1 それはどなたですか。(あてはまる方すべてに○)

1 配偶者・パートナー	5 母親	8 孫
2 子ども(未成年)	6 兄弟姉妹	9 親せき
3 子ども(成年)	7 祖父母	10 その他 ()
4 父親		

問11で「2 外出を諦めたことがある」と回答した方へ

問11-1 あなたが、外出を諦めたのはどのような理由ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 目的地までの移動手段がないから |
| 2 | 坂や階段などの段差が多く、移動が難しいから |
| 3 | ベンチや公園など、一休みできる場所が少ないから |
| 4 | 交通費や入場料等の費用が負担に感じるから |
| 5 | 自分にとって気軽に出かけることができる場所がないから |
| 6 | 出かける機会やきっかけが無いから |
| 7 | 一人では外出することができず、誰かの手助けが必要になるから |
| 8 | 介護・介助をしていて容易に外出できないから |
| 9 | 小さい子どもの世話をしている容易に外出できないから |
| 10 | その他 () |

【行政や福祉サービスなどについておたずねします。】

問12 あなたは、行政や福祉サービスなどの情報をどのように入手しますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|-------------------------------|----|----------------|
| 1 | 県や市の広報紙 | 9 | 藤沢市社会福祉協議会 |
| 2 | 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | 10 | 地域包括支援センター |
| 3 | インターネット(ホームページ・SNS・メールマガジンなど) | 11 | 子育て支援センター |
| 4 | タウン誌・フリーペーパー | 12 | 障がい者相談支援事業所 |
| 5 | 地区の市民センター | 13 | 家族・親族や友人・知人 |
| 6 | 市役所の本庁 | 14 | 地域の縁側 |
| 7 | 民生委員・児童委員 | 15 | 福祉施設・サービス提供事業者 |
| 8 | 自治会・町内会 | 16 | その他 () |
| | | 17 | 特に入手していない |

問13 行政や福祉サービスなどの情報は入手しやすいと思いますか。(1つに○)

- | | | | |
|---|----------|---|----------|
| 1 | 入手しやすい | 3 | やや入手しにくい |
| 2 | やや入手しやすい | 4 | 入手しにくい |

(続き)

④障がい者地域相談支援センター	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない
⑤地域の縁側	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない
⑥ふじさわボランティアセンター (藤沢市社会福祉協議会内)	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない
⑦地区ボランティアセンター	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない
⑧藤沢市市民活動推進センター 藤沢市市民活動プラザむつあい (藤沢市市民活動支援施設)	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない
⑨地域支援窓口 (バックアップふじさわ)	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない
⑩ふじさわあんしんセンター (藤沢市社会福祉協議会内)	1 知っており、利用したことがある 2 知っているが、利用したことはない 3 知らない

問17 成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分ではない方が不利益を被らないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を選任してもらう制度です。あなたは「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

1 知っている
2 聞いたことはあるが、内容はわからない
3 聞いたことがなく、内容も知らない

問18 あなたは、自立した生活が難しくなった場合の備えとして、どのようなことに、最も不安を感じますか。(1つに○)

1 急な入院や施設への入所のこと	5 遺言作成・終活に関すること
2 預貯金や生活費の管理のこと	6 その他 ()
3 面倒を見てくれる人がいないこと	7 特にない
4 家族など身近な人の世話をする人が自分以外にはいなくなること	

問19 あなたは、自身が亡くなった後のことで最も不安に感じることは何ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1 公共料金等の解約のこと | 5 葬儀やお墓に関すること |
| 2 所有財産のこと | 6 遺品整理に関すること |
| 3 相続のこと | 7 その他 () |
| 4 家族など身近な人の世話をする人が自分以外にはいなくなること | 8 特にない |

問20 あなたは、成年後見制度について、どのような取組が最も必要だと思いますか。

(1つに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1 身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート |
| 2 遺族や遺言等、終活についての相談窓口 |
| 3 成年後見制度の普及・啓発に関すること |
| 4 後見人として活動している方や団体への支援の充実 |
| 5 その他 () |
| 6 特にない |

【地域やご近所との関わりについておたずねします。】

問21 あなたは、日頃、ご近所の方とどのようなつきあい方をしていますか。(1つに○)

- | |
|-------------------------------|
| 1 困りごとや悩みごとを相談する関係 |
| 2 困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係 |
| 3 たまに立ち話をする程度 |
| 4 会えばあいさつをかわす程度 |
| 5 その他 () |
| 6 つきあいがほとんどない |

→ 問21で「6 つきあいがほとんどない」と回答した方へ

問21-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1 時間的余裕がない | 5 近所トラブルがある |
| 2 人に干渉されたくない、そっとしておいてほしい | 6 近所づきあいにメリットを感じない |
| 3 生活の時間帯が合わない | 7 きっかけがない |
| 4 世代間のギャップがある | 8 その他 () |

第3章 調査票

問22 あなたにとって望ましい近所づきあいは、どの程度ですか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1 困りごとや悩みごとを相談する関係 | |
| 2 困りごとや悩みごとの相談はしないが、親しく会話する関係 | |
| 3 たまに立ち話をする程度 | |
| 4 会えばあいさつをかわす程度 | |
| 5 その他 () | |
| 6 つきあいがほとんどない | |

問23 あなたのお住まいの地域での暮らしについてどう思われますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|----------|
| 1 暮らしやすい | 4 暮らしにくい |
| 2 どちらかといえば暮らしやすい | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば暮らしにくい | |

問24 お住まいの地域で気になっていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1 地域行事が活発でない | |
| 2 高齢者の集まる場がない | |
| 3 障がい者の集まる場がない | |
| 4 子どもの集まる場がない | |
| 5 地域活動や自治会等の役員の担い手がない | |
| 6 日常的に家事や家族の世話・介護を行っている子どもがいる | |
| 7 孤立している世帯がある | |
| 8 ひきこもりの状態にある人がいる | |
| 9 ごみなどが屋内・屋外に積まれている家がある | |
| 10 生活に苦しんでいる世帯がある | |
| 11 その他 () | |
| 12 特にない | |
| 13 わからない | |

【人と人とのつながりについておたずねします。】

問25 あなたには、日ごろ気軽に会話できる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 配偶者・パートナー | 5 近所の人 |
| 2 親 | 6 友人・知人 |
| 3 子ども | 7 その他 () |
| 4 兄弟姉妹・祖父母・孫・親せき | 8 そのような人はいない |

問26 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

1 ない	3 たまにある	5 常にある
2 ほとんどない	4 時々ある	

問26で「3」～「5」と回答した方へ

問26-1 現在の孤独感(問26で回答した状況)に強く影響を与えたと思われる出来事はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1 一人暮らし
2 転居
3 転校・転職・離職・退職(失業を除く)
4 失業・休職・退学・休学(中退・不登校を含む)
5 妊娠・出産・子育て
6 介護・介助
7 子どもの独り立ち
8 家族の病気・障がい
9 家族との離別・死別
10 家族以外の親しい知人等との死別
11 ペットとの死別
12 家族間の重大なトラブル(家庭内別居・DV・虐待を含む)
13 心身の重大なトラブル(病気・怪我等)
14 人間関係による重大なトラブル(いじめ・ハラスメント等を含む)
15 金銭による重大なトラブル
16 生活困窮・貧困
17 その他の出来事()

問27 あなたにとって、家族・親族以外で、人と人とのつながりを感じるのは、どのような関係の方ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 趣味や習いごとなどの仲間	8 取引先など勤務先外の仕事関係の人
2 近所や地域の人	9 民生委員・児童委員
3 友人	10 ヘルパーなどの福祉従事者
4 インターネットやSNSで知り合った人	11 医療関係者
5 1～4以外の知人	12 その他()
6 学校の先生	13 特につながりを感じる人はいない
7 職場の人	

【地域活動、ボランティア活動についておたずねします。】

問28 あなたは現在、自治会・町内会に加入していますか。(1つに○)

1 加入している

2 加入していない

問28で「1 加入している」と回答した方へ

問28-1 自治会・町内会に加入して特によかったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 住民との交流が持てる | 5 情報を収集しやすい |
| 2 困ったときに頼れる隣近所との関係が築ける | 6 地域の課題や要望を行政機関等に伝えやすい |
| 3 災害時に住民同士で連携しやすい | 7 その他 () |
| 4 地域のイベントに参加しやすい | 8 特にない |

問28で「2 加入していない」と回答した方へ

問28-2 加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 時間がない | 8 自治会・町内会の活動に魅力や必要性を感じられない |
| 2 きっかけがない | 9 自治会・町内会の活動内容がわからない |
| 3 役員等の負担が大きい | 10 加入のメリットがない |
| 4 人との距離感を保ちたい | 11 健康・体力に自信がない |
| 5 加入費がかかる | 12 その他 () |
| 6 時間が合わない | 13 特にない |
| 7 自治会・町内会活動の内容が慣例化・マンネリ化している | |

問29 あなたは地域を支えるボランティア活動に参加したいと思いませんか。(1つに○)

1 既に参加しており、これからも続けたい

2 参加したことがあり、今後も機会があれば参加したい

3 参加したことはあるが、今後参加するつもりはない

4 参加したことはないが、今後参加してみたい

5 参加したことはなく、今後も参加するつもりはない

次ページの間29-1へ

次ページの間29-2へ

問29で「1 既に参加しており、これからも続けたい」と回答した方へ

問29-1 ボランティア活動に参加する際の動機はどのようなことがありましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 地域や社会をよくしたい | 7 何か新しく感動できる体験をしたい |
| 2 困っている人を助けてあげたい | 8 視野を広げたい |
| 3 自分のやりたいことを発見したい | 9 自分の健康を維持したい |
| 4 就職や進学などで有利になるようにしたい | 10 知人・友人からの誘い |
| 5 自分の技術、能力、経験を活かしたい | 11 面白そう・興味があつた |
| 6 新しい人と出会いたい | 12 その他 () |

問29で「2」～「5」と回答した方へ

問29-2 ボランティア活動に参加する上で支障となることや問題点として感じているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 どのような活動が行われているか知らない | 7 気軽に参加できる内容が少ない |
| 2 参加方法がわからない | 8 同好の友人・仲間がいない |
| 3 参加する経済的余裕がない | 9 健康・体力に自信がない |
| 4 参加する時間的余裕がない | 10 活動に必要な技術、経験がない |
| 5 近くに参加できるボランティア活動がない | 11 興味がない |
| 6 参加したいボランティア活動がない | 12 その他 () |
| | 13 特になし |

問30 ボランティア活動の参加意欲を高めるものとして、あなたが求めるものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 交通費等、実費程度の金銭 | 6 新しい知識・経験を身に付ける機会 |
| 2 謝礼としての金銭 | 7 新たな人との交流の機会 |
| 3 活動に応じたポイントや地域通貨の付与 | 8 その他 () |
| 4 グッズなどの記念品 | 9 特になし |
| 5 表彰や感謝状 | |

【防災についておたずねします。】

問31 あなたは、災害に備えて、どのような対策をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している
- 2 揺れを感知して電気を止める感震ブレーカーを設置している
- 3 停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している
- 4 消火器を準備している
- 5 近くの学校や市民センターなどの避難場所・避難経路を決めている
- 6 家族の安否確認の方法などを決めている
- 7 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している
- 8 食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している
- 9 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している
- 10 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している
- 11 自家用車の燃料を十分に補給するようにしている
- 12 防災訓練に積極的に参加している
- 13 防災アプリを入れている
- 14 防災ラジオを持っている
- 15 ハザードマップを確認している
- 16 その他 ()
- 17 特に対策はとっていない

問32 あなたはお住まいの地域の防災訓練※に参加したことはありますか。(1つに○)

- 1 毎年参加している
- 2 今年は参加したが、毎年は参加していない
- 3 過去に参加したことはあるが、今年は参加していない
- 4 参加したことはない

※地域の防災訓練には、地区総合訓練、自治会・町内会の防災訓練、避難施設開設訓練、防災リーダー講習会があります。

問33 災害時、あなたは自力での避難が難しく、どなたかの支援を必要としますか。(1つに○)

- 1 必要とする
- 2 必要としない

問34 災害時に、近隣にお住まいの避難行動要支援者※に協力が必要な場合、あなたは何ができるとお思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 安否確認 |
| 2 | 災害状況や避難、救護等に対する情報提供 |
| 3 | 避難所などへの誘導、移動支援 |
| 4 | その他() |
| 5 | できることはない |

※避難行動要支援者とは、高齢者や障がいのある人など、災害が発生した場合にひとりで避難することが困難であり、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために、特に支援を要する人をいいます。

問35 災害時に備えるなどの理由で、地域にお住まいの方の情報を必要に応じて自治会・町内会などで共有することについてどう感じますか。(1つに○)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 災害時だけでなく、日頃から地域の見守り活動のためにも情報共有が必要 |
| 2 | 災害時に限定して、安否確認や物資等の支援活動のために情報共有が必要 |
| 3 | 個人情報なので、災害時や緊急の場合でも情報を共有しない方がよい |
| 4 | その他() |
| 5 | わからない |

【支えあいの地域づくりについておたずねします。】

問36 あなたは福祉や健康に関することで困ったとき、誰に(どこに)相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|----------------|----|------------------|
| 1 | 家族・親族 | 10 | 学校 |
| 2 | 友人・知人 | 11 | 藤沢市社会福祉協議会 |
| 3 | 近所や地域の人 | | (CSW〈コミュニティソーシャル |
| 4 | 自治会・町内会 | | ワーカー〉など) |
| 5 | 民生委員・児童委員 | 12 | 行政の窓口 |
| 6 | 福祉施設・サービス提供事業者 | | (バックアップふじさわなど) |
| 7 | 地域包括支援センター | 13 | その他() |
| 8 | 障がい者相談支援事業所 | 14 | 相談しない |
| 9 | 子育て支援センター | | |

問37 あなたは普段、地域に支えられていると感じることはありますか。(1つに○)

- | | | | |
|---|-----------|---|--------|
| 1 | 大いにある | 4 | あまりない |
| 2 | 多少はある | 5 | まったくない |
| 3 | どちらともいえない | 6 | わからない |

第3章 調査票

問38 あなたのお住まいの地域の支えあいとして、特にどのような支援が必要だと思いませんか。
 (○は3つまで。わからない方は12に1つだけ○)

1 話し相手・相談相手	7 日用品等の買い物の支援
2 日頃の見守り、安否確認の体制	8 通院・外出などの移動支援
3 行政や福祉サービスなどの情報の提供	9 子どもを預かる
4 気軽に集まり、情報交換等のできる場	10 障がいのある方が自分らしく生活するための支援
5 日常生活上のちょっとした助け合い (ごみ出し、電球交換等)	11 その他 ()
6 相談窓口へとつなぐ橋渡し役 (コーディネーター)	12 わからない

問39 住民の自主的な参加・協力関係を築くために、地域が主体となって取り組むべきことは何だと思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

1 住民間のつながりを広げる機会を創出すること
2 仕事をしている方、退職された方が地域の活動に参加できるようにすること
3 自治会や町内会が中心となって住民相互の交流活動を進めること
4 ボランティアやNPO (民間非営利組織) 団体の活動を盛んにすること
5 地域の人々が気軽に集まる場をつくること
6 学校を中心とした世代間の交流活動を進めること
7 市民センターを地域活動の場として活用すること
8 その他 ()
9 わからない

問40 あなたは、子ども、高齢者、障がいのある方、認知症の方が、住み慣れた地域で、周囲や地域の理解と協力の下、自分らしく暮らせるような環境だと思いませんか。
 (①~④の項目ごとに1つだけ○)

分野	そう思う	まあそう思う	あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い
①子ども	1	2	3	4	5
②高齢者	1	2	3	4	5
③障がいのある方	1	2	3	4	5
④認知症の方	1	2	3	4	5

問41 あなたが、日々の生活で困っていること、悩みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 自分の健康に関すること	10 子育てのこと
2 住まいのこと	11 日常的に家事や家族の世話・介護を行っている子どもがいること
3 仕事のこと	12 介護のこと
4 経済的なこと	13 終活(身の回りの整理、葬儀、相続等)のこと
5 近所づきあい	14 認知症のこと
6 防犯や交通安全などの安全面	15 移動手段がないこと
7 体調の急変や災害など緊急時の対応のこと	16 その他()
8 日常的な掃除やごみ出し	17 特になし
9 家事・片付け等	

問42 地域福祉の推進に向け、本市で行っている取組について、どのように感じていますか。

(①～⑨の項目ごとに1つだけ○。)

取組項目	充足している	まあ充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	充足していない	わからない
①広報紙やホームページなどによる情報提供について	1	2	3	4	5	6
②ボランティア活動への支援について	1	2	3	4	5	6
③福祉人材の育成や確保について	1	2	3	4	5	6
④福祉団体等の活動促進について	1	2	3	4	5	6
⑤個人の課題を早期発見・早期対応できる地域づくり	1	2	3	4	5	6
⑥災害時の避難支援体制づくりについて(特に避難行動要支援者)	1	2	3	4	5	6
⑦住民同士の支えあい活動の促進	1	2	3	4	5	6
⑧支えあいの場の拡充と支えるしくみの充実	1	2	3	4	5	6
⑨様々な相談に対応できる体制づくり	1	2	3	4	5	6

第3章 調査票

問43 地域住民同士が支えあう地域づくりに必要なことは何だと思いませんか。

(あてはまるものすべてに○)

1 住民相互の日頃のつながり	9 認知症や社会で孤立している方々への住民理解
2 自治会・町内会の活動	10 終活（身の回りの整理、葬儀、相続等）への支援
3 地域活動やボランティア活動	11 住民一人ひとりの災害に備えた対策
4 気軽に集まれる場	12 その他（ ）
5 世代間交流	13 わからない
6 地域活動の情報共有	
7 地域活動におけるリーダーの育成	
8 地域のコーディネーター役や調整役	

問44 みんなで「助けあい」「支えあう」まちづくりを進めるために、何かアイデア（もしくはご意見）があれば教えてください。あなたができること、まちで取り組むべきことなど、何でも結構です。

ご協力ありがとうございました。ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、返信用封筒（切手不要）に入れ、11月26日（水）までにご投かんください。

※インターネットで回答された方は、このアンケート用紙は返送しないでください。



地域福祉に関するアンケート調査

【報告書】

2026年（令和8年）3月

発行：藤沢市 福祉部 福祉総務課

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地1

TEL：0466-50-8245 FAX：0466-50-8441